

男女共同参画に関する県民意識調査

令和2年度

石川 県

はじめに

本格的な人口減少社会を迎え、生産年齢人口の減少や雇用環境の変化、そして新型コロナウイルス感染症の世界的な流行など、社会情勢は大きく変化しています。そのような中でも、豊かで活力ある社会を維持していくためには、男性も女性もすべての個人が互いに人権を尊重しつつ責任も分かち合い、その個性や能力を十分に発揮できる男女共同参画社会を実現することが重要です。

本県においては「石川県男女共同参画推進条例」（平成13年10月制定）及び「いしかわ男女共同参画プラン2011」（平成23年3月策定、平成28年3月改定）に基づき、男女共同参画推進の基盤強化を図るとともに、各種施策の取組を進めているところです。

本年度は、「いしかわ男女共同参画プラン2011」の計画期間が終了することから、この間の社会情勢の変化等を踏まえ、新たに「いしかわ男女共同参画プラン2021」を策定することとしております。

本調査は、男女共同参画に関する県民意識の現状を把握し、今回の同プランの策定に反映させるとともに、今後の男女共同参画施策推進の基礎資料とするために実施したものです。

本調査結果が、今後の男女共同参画施策の推進の一助として、県民の皆様をはじめ、各方面に幅広くご活用いただければ幸いです。

おわりに、本調査を実施するにあたり、ご協力いただきました皆様に厚くお礼申し上げます。

令和2年11月

石川県県民文化スポーツ部長 清水 克弥

目 次

§ 1 調査の概要

1	調査の目的.....	3
2	調査の項目.....	3
3	調査の設計.....	3
4	標本構成.....	3
5	回収結果.....	4
6	有効回答者の属性.....	5
7	本調査における注意点.....	8

§ 2 調査結果の概要

I	男女の地位の平等.....	9
II	家庭生活等.....	9
III	職業.....	12
IV	女性の社会参画.....	13
V	ドメスティック・バイオレンス(DV)等.....	14
VI	男女共同参画社会の実現に向けて.....	18

§ 3 調査結果の詳細

I	男女の地位の平等.....	20
1	男女平等についての現在の状況.....	20
II	家庭生活等.....	40
1	家庭における役割.....	40
2	「男は仕事、女は家庭」という考え方.....	66
3	「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由.....	72
4	「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由.....	73
5	男性が家事・育児を行うことのイメージ.....	74
6	男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて..	79
7	男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと..	83
8	子どもの教育方針.....	87
9	親の介護における役割分担.....	92
10	介護するときに困ること.....	100

III	職業	104
1	職場での男女平等について	104
2	女性が管理職に昇進することについて	108
3	管理職に昇進することについてのイメージ	111
4	女性のリーダーを増やす上での障害	115
5	女性が働き続ける上での障害	118
6	女性の再就職に必要なこと	120
7	男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと	123
IV	女性の社会参画	126
1	女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか	126
2	女性が方針決定の場に参画するために必要なこと	129
V	ドメスティック・バイオレンス(DV)等	133
1	配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為	133
2	配偶者からのこれまでの被害経験の有無	156
3	配偶者からのこの1年間の被害経験の有無	163
4	配偶者からの暴力についての相談経験の有無	170
5	配偶者からの暴力について相談しなかった理由	175
6	交際相手からの被害経験の有無	178
7	同居の際の交際相手からの被害経験の有無	187
8	交際相手からの暴力についての相談経験の有無	195
9	交際相手からの暴力について相談しなかった理由	197
10	性暴力被害に関するイメージ	200
11	相談機関・関係者の周知状況	209
12	DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと	213
VI	男女共同参画社会の実現に向けて	218
1	用語の周知度	218
2	男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと	250

§ 4 調査票及び単純集計結果

§ 1 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、男女共同参画についての県民の意識を把握し、今後の男女共同参画行政を推進するための基礎資料とすることを目的とする。なお、一部の設問において昭和55年、60年、平成2年、7年、12年、17年、22年、27年及び令和2年に実施した「男女共同参画に関する県民意識調査」の調査結果との経年比較を行った。

2 調査の項目

- | | |
|--------------|-------------------------|
| (1) 男女の地位の平等 | (4) 女性の社会参画 |
| (2) 家庭生活等 | (5) ドメスティック・バイオレンス(DV)等 |
| (3) 職業 | (6) 男女共同参画社会の実現に向けて |

3 調査の設計

- (1) 調査地域 : 石川県全域
- (2) 調査対象 : 石川県に居住する満18歳以上の男女
- (3) 標本数 : 2,500人
- (4) 抽出方法 : 層化二段無作為抽出法
- (5) 調査方法 : 郵送法
- (6) 抽出台帳 : 住民基本台帳
- (7) 調査時期 : 令和2年5月22日～6月3日

4 標本構成

(1) 層化区分

○地域

各地域の市町は、首都圏など大都市圏と異なり、人口的に大きな差がないため、市郡規模での層化は行わず、市町を第一層、各市町内の町を第二層として層化抽出を行った。

(2) 抽出の方法

- a) 第1次抽出単位となる調査地点として、現行市町を使用した。
- b) 調査地点の抽出数については、1調査地点あたりの標本数が6程度になるように、標本数より算出し、決定した。
- c) 調査地点の抽出は、層内での抽出地点数が2地点以上割り当てられた層については、等間隔(層内の該当調査区の人口数合計を調査地点数で除すことにより算出)抽出法によって行った。
- d) 各調査地点における対象者の抽出は、調査地点の範囲内(町・丁目・街区・番地等を指定)より、住民基本台帳から等間隔抽出法によって抽出した。

(3) 標本数の配分

各地域、市町規模の層における指定母集団数（令和元年10月1日現在の満18歳以上の人口数）より、2,500の標本を比例配分した。

地域区分	市町名	抽出地点数	対象者数
能登北部	輪島市	10	58
	珠洲市	5	31
	穴水町	3	19
	能登町	6	37
能登中部	七尾市	20	118
	羽咋市	8	47
	志賀町	7	43
	宝達志水町	5	28
	中能登町	6	37
石川中央	金沢市	170	1,016
	かほく市	13	76
	白山市	40	240
	野々市市	19	116
	津幡町	13	80
	内灘町	10	59
南加賀	小松市	38	229
	加賀市	24	146
	能美市	18	107
	川北町	2	13
計		417	2,500

5 回収結果

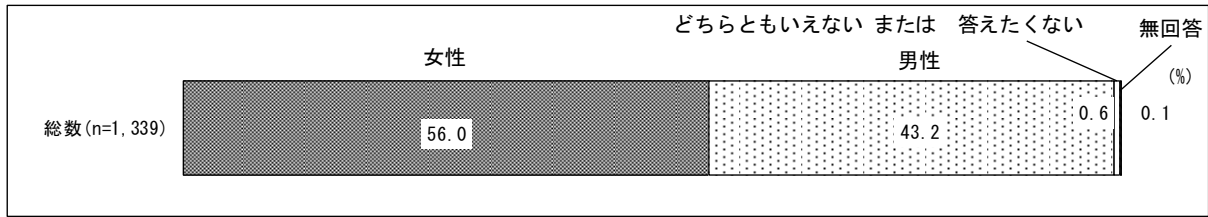
有効回収数は1,339（53.6%）であった。各地域別の回収数（率）は次の通り。

地域	対象数	有効回収数（率）
能登北部	145	78（53.8%）
能登中部	273	146（53.5%）
石川中央	1,587	850（53.6%）
南加賀	495	263（53.1%）
地域不明	0	2（-%）
合計	2,500	1,339（53.6%）

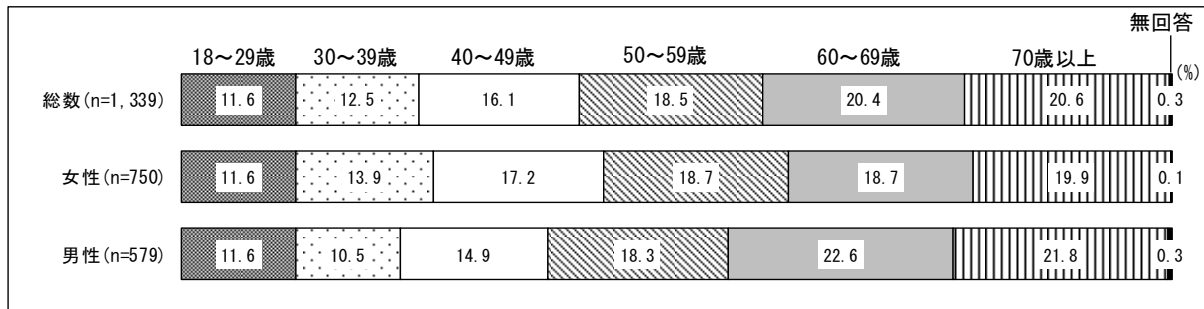
§ 2 調査結果の概要

6 有効回答者の属性

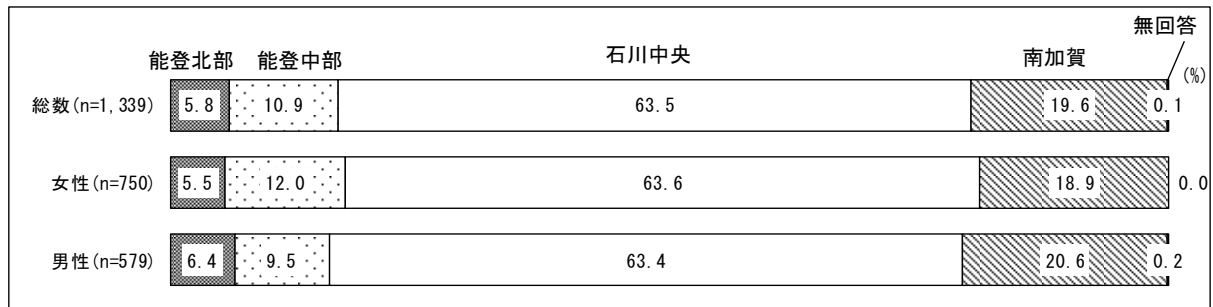
(1) 性別 [A]



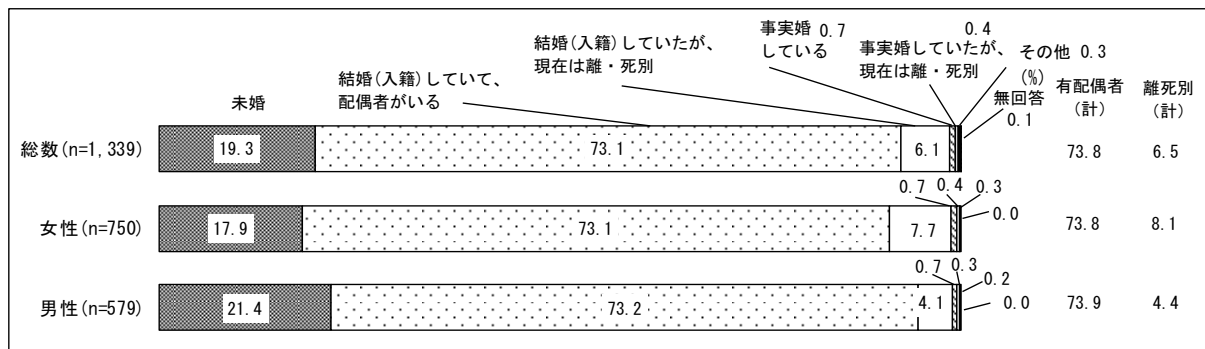
(2) 年齢 (年代) [B]



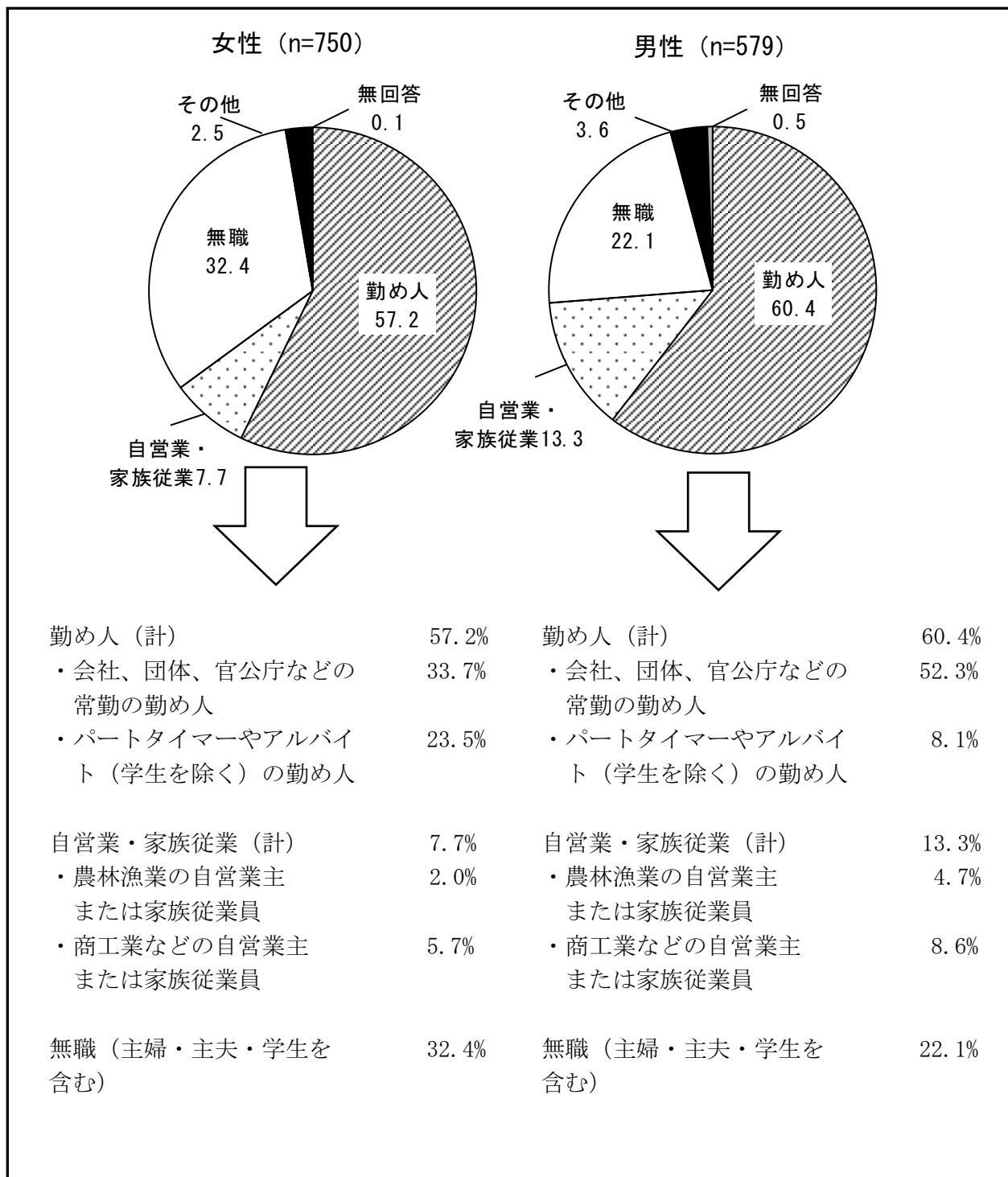
(3) 地域 [C]



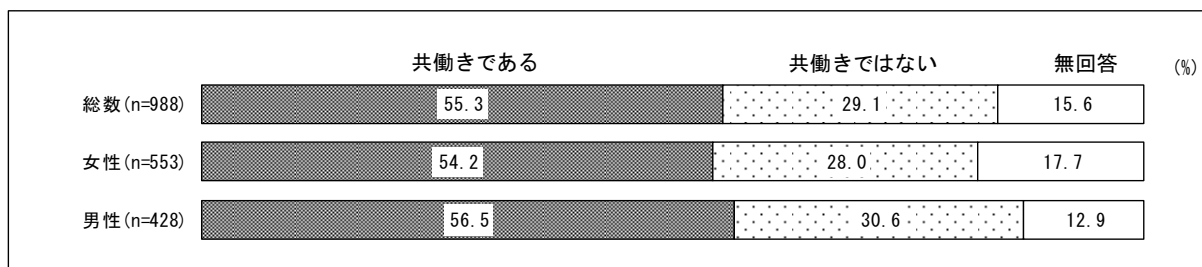
(4) 未既婚 [D]



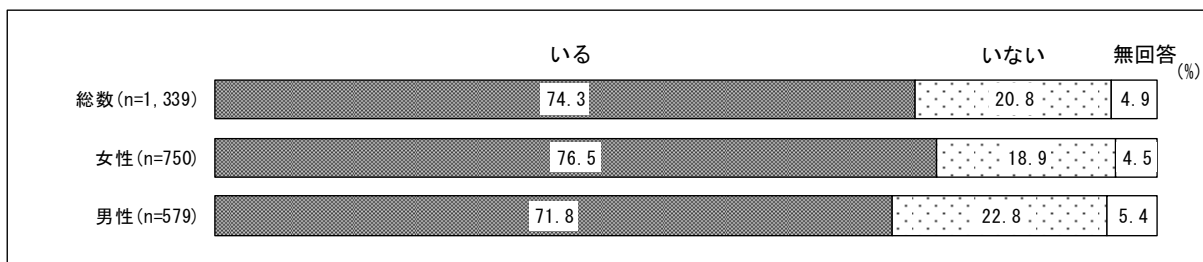
(5) 本人の職業 [E]



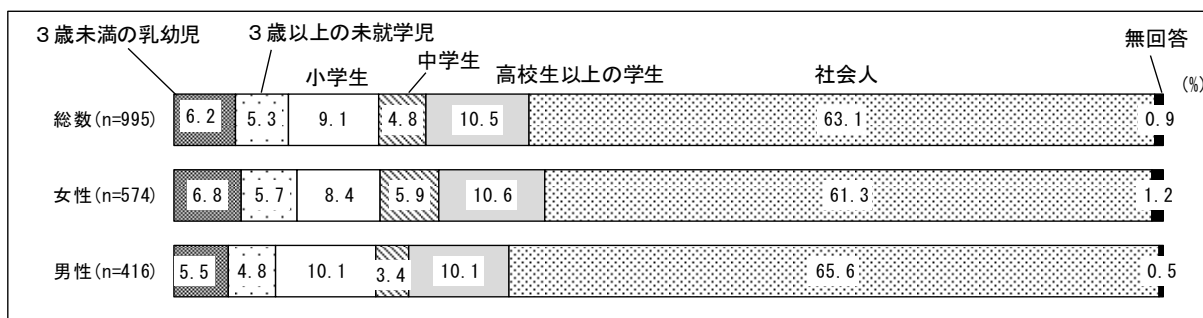
(6) 共働きの有無 [F]



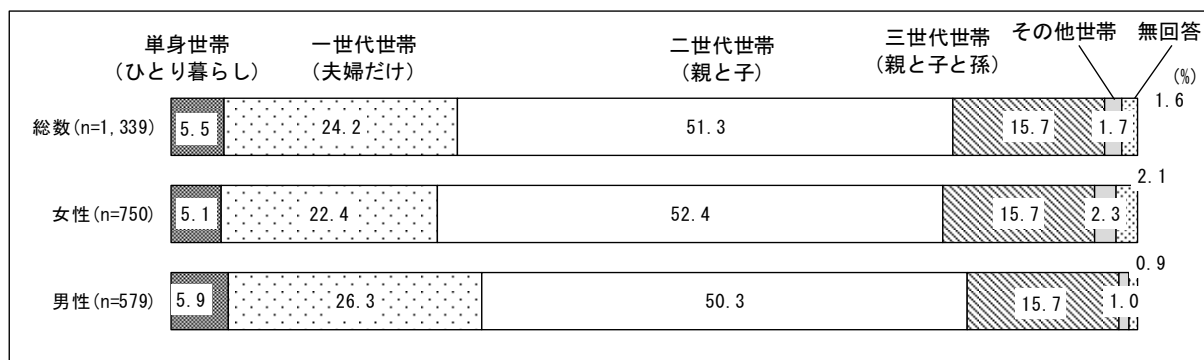
(7) 子どもの有無 [G]



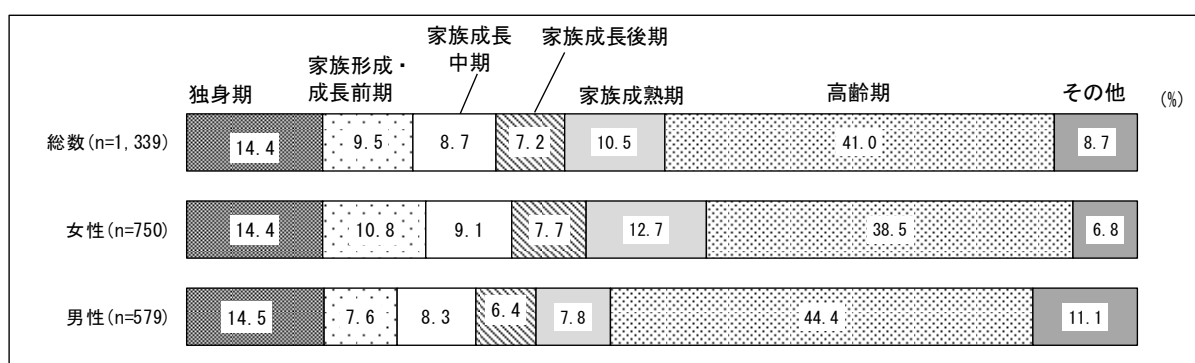
(8) 末子の成長段階 [H]



(9) 家族構成〔I〕



(10) ライフステージ



注) ライフステージは下記のように分類

- 独身期・・・40歳未満の独身者
- 家族形成・成長前期・・・40歳未満の夫婦だけの世帯及び末子が未就学児の世帯
- 家族成長中期・・・60歳未満で末子が小・中学生の世帯
- 家族成長後期・・・60歳未満で末子が高校生以上の学生の世帯
- 家族成熟期・・・60歳未満で末子が学校教育終了している世帯
- 高齢期・・・60歳以上
- その他・・・上記以外の人

7 本調査における注意点

- ・比率は全て百分率で表し、小数点第2位を四捨五入しているため、百分率の合計が100%にならない場合がある。
- ・複数回答の質問の比率は、回答数の合計をサンプル数(n)で割った比率となっており、比率の合計は通常100%を超える場合がある。
- ・性別の区分について「どちらともいえない または 答えたくない」を選択した回答者が8人、無回答者が2人いたため、「全体の総数」と「女性・男性の性別の合計」は合致しない。
- ・当該調査は、新型コロナウイルス感染拡大に係る石川県緊急事態宣言期間中(4月16日～5月31日)※を含む期間に実施されたものである。
- ※…石川県全域を対象に、不要不急の外出自粛、都道府県をまたぐ往来の自粛、イベントの開催自粛等を要請

§ 3 調査結果の詳細

I 男女の地位の平等

1 男女平等についての現在の状況（問1 20ページ）

男女の地位が「平等である」分野は、男女とも「学校教育の場」と考える人が最も多い

全体では「平等である」が、“(d) 学校教育の場では” (45.8%)、“(a) 家庭の中では” (32.7%)、“(c) 地域活動の中では” (29.4%)、“(f) 法律や制度の上では” (27.8%) の順に多くなっている。「平等である」が最も少ないのは“(e) 政治の場では” (9.3%) である。

女性では、“(g) 社会全体では” (7.5%)、“(e) 政治の場では” (5.3%) で、「平等である」が1割未満になっており、また、すべての項目で男性よりも「平等である」が少なくなっている。

男性では、“(g) 社会全体では” (16.8%)、“(e) 政治の場では” (14.3%) では1割台となっているが、すべての項目で女性よりも、「平等である」が多くなっている。特に差が大きいのは“(f) 法律や制度の上では” (38.9%) で、男性が女性を19.4ポイント上回っている。

II 家庭生活等

1 家庭における役割（問2 40ページ）

家庭の中で「妻の役割」である仕事は、男女とも「食事の支度」と考える人が最多

家庭の仕事は誰の役割だと思うかについて、『妻の役割』と回答した割合が多いのは、“(b) 食事の支度は” (女性72.3%、男性75.1%)、次いで“(d) 洗濯は” (女性67.6%、男性66.8%)、“(g) 日常の買い物は” (女性66.0%、男性54.4%) の順となった。

「夫婦同じ程度の役割」の割合が高いのは、“(h) 高額商品の購入の決定は” (女性47.2%、男性47.8%)、“(j) 育児・しつけは” (女性42.8%、男性42.1%)、“(k) PTAや地域活動への参加は” (女性38.9%、男性38.0%) の順となっている。

2 「男は仕事、女は家庭」という考え方（問3 66ページ）

全体では、反対派が上回る。女性では男性よりも反対派が上回る

全体では、「賛成」 (3.0%)、「やや賛成」 (15.5%) を合わせて『賛成である (計)』は18.5%となっている。一方、「あまり賛成しない」 (26.8%)、「賛成しない」 (19.4%) を合わせた『賛成しない (計)』は46.2%となり『賛成しない (計)』が『賛成である (計)』を27.7ポイント上回っている。「どちらともいえない」は33.5%となっている。

女性では、『賛成である (計)』は15.2%、『賛成しない (計)』は50.5%となり、『賛成しない (計)』が『賛成である (計)』を35.3ポイント上回った。

男性では、『賛成である (計)』は23.2%、『賛成しない (計)』は40.6%となり、『賛成しない (計)』が『賛成である (計)』を17.4ポイント上回っている。

3 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由（問3-1 72ページ）

「自分の両親も役割分担をしていたから」で男女に差

多くの項目で目立った差は見られないが、「自分の両親も役割分担をしていたから」では女性 (12.3%) より男性 (23.9%) の方が11.6ポイント多くなっている。

女性では、「家事・育児・介護と両立しながら、女性 (妻) が働き続けることは大変だから」が30代 (66.7%) と40代 (68.4%) で6割を超え、他の年代より多くなっている一方で、男性では、18～29歳 (68.4%) が唯一6割を超え、他の年代より多くなっている。

4 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由（問3-2 73ページ）

「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最多

「固定的な男性（夫）と女性（妻）の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が女性（69.9%）、男性（59.6%）ともに最も多く、女性の方が10.3ポイント多くなっている。また、男女の差が最も大きいのは、「女性（妻）が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いから」で、男性の方が12.0ポイント多くなっている。

5 男性が家事・育児を行うことのイメージ（問4 74ページ）

男女の差が大きいものとして、「子どもにいい影響を与える」は女性が21.5ポイント上回る

全体では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」（58.5%）が最も多く、次いで「子どもにいい影響を与える」（55.2%）が続いている。他は半数を下回っている。

女性では「子どもにいい影響を与える」が最も多く（女性64.7%、男性43.2%）、男性では「男性も家事・育児を行うことは、当然である」（女性62.4%、男性53.9%）が最も多くなっている。

男女の差が大きいものとしては、「子どもにいい影響を与える」（21.5ポイント差）が女性のポイントが高い一方で、「家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている」（18.0ポイント差）は男性のポイントが高くなっている。

6 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて（問5 79ページ）

女性は「育児・介護休暇の取得」、男性は「リフレッシュ休暇の取得」が最多

全体では、「リフレッシュのための休暇を取得する」（58.3%）が最も多く、次いで「育児・介護のための休暇を取得する」（56.5%）、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」（42.3%）、「仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう」（31.8%）が続いている。

女性では「育児・介護のための休暇を取得する」が最も多く（女性62.8%、男性48.7%）、男性では「リフレッシュのための休暇を取得する」（女性58.4%、男性58.4%）が最も多くなっている。

男女の差が大きいものとしては、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」（16.7ポイント差）、「育児・介護のための休暇を取得する」（14.1ポイント差）で、女性のポイントが高くなっている。

7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと（問6 83ページ）

全体では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」が最多

全体では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」（59.1%）が最も多く、次いで「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」（58.2%）、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」（56.8%）が続いている。

男女の差は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が最も大きく、女性の方が19.9ポイント多くなっている。

また、女性では、「男性が家事などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」で、共働きである人（67.3%）が最も多く、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」で、共働きでない人（65.8%）が最も多くなっている。

男性では、共働きの有無を問わず「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」が最も多くなっている。

8 子どもの教育方針（問7 87ページ）

女の子には「思いやり」と「気配り」、男の子には「思いやり」と「責任感」を望む

“(a)女の子の場合”は、男女ともに「思いやりがある子」が最も多く、7割を超えている。次いで「気配りができる子」が5割以上となっており、続いて「誰にでも好かれる子」となっている。

“(b)男の子の場合”は、男女とも“(a)女の子の場合”と同様に「思いやりがある子」が最も多いが、続いて「責任感の強い子」、「活発で行動力がある子」が多くなっている。

9 親の介護における役割分担

「(a)自分の親の介護」（問8(a) 92ページ）

女性は「自分の方が配偶者より多く分担」、男性は「配偶者と半分ずつ分担」が最多

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（50.3%）が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」（女性65.2%、男性31.3%）が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」（女性19.5%、男性42.3%）が男性で最も多い。

「(b)配偶者の親の介護」（問8(a) 96ページ）

女性は「配偶者と半分ずつ分担」、男性は「配偶者の方が自分より多く分担」が最多

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」（42.0%）が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」（女性47.1%、男性35.4%）が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」（女性25.3%、男性38.5%）が男性で最も多い。

10 介護するときに困ること（問9 100ページ）

男女とも「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」が最多

全体では「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」（76.4%）が最も多い。また、男女とも「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」（女性83.7%、男性66.8%）が最も多く、次いで「介護に要する経済的な負担が大きいこと」（女性57.1%、男性56.3%）が続く。

男女の差が大きいものとしては「自分の育児や家事への影響が生じること」（18.4ポイント差）、「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」（16.9ポイント差）で女性のポイントが高くなっている。

また、「適切な介護の仕方がわからないなど、必要な知識がないこと」（9.0ポイント差）については、男性のポイントが女性を上回っている。

Ⅲ 職業

1 職場での男女平等について（問10 104ページ）

男女ともに「平等である」は「教育や研修制度」で最も多く、「昇進・昇格」で最も少ない

男女ともに「平等である」と回答した人が最も多いのは、“(d) 教育や研修制度は”（女性53.6%、男性61.8%）となっている。

一方、最も少ないのは、“(b) 昇進・昇格は”（女性31.4%、男性31.9%）で、次いで“(c) 人事配置は”（女性32.6%、男性36.6%）となっている。

『男性が優遇されている』については、男女とも“(b) 昇進・昇格は”（女性36.2%、男性42.6%）が最も多い。

『女性が優遇されている』については、男性は“(f) 仕事の内容は”（15.6%）が最も多く、女性では“(a) 募集や採用の条件では”（8.9%）が、最も多い。

2 女性が管理職に昇進することについて（問11 108ページ）

男女ともに賛成派が半数を超え、女性では8割

男女とも『賛成である（計）』（女性80.4%、男性69.7%）が『賛成しない（計）』（女性2.2%、男性6.7%）を上回っている。

『賛成である（計）』は女性の方が男性より10.7ポイント多く、『賛成しない（計）』は男性の方が女性より4.5ポイント多くなっている。

3 管理職に昇進することのイメージ

「(a) 女性が昇進することについての一般的なイメージ」（問12(a) 111ページ）

男女とも「能力が認められた結果である」が最多

男女ともに「能力が認められた結果である」（女性74.1%、男性66.7%）、「責任が重くなる」（女性65.0%、男性53.1%）、「賃金が上がる」（女性52.2%、男性37.1%）の順となっている。

男女の差が大きいものとして、「やりがいのある仕事ができる」（17.3ポイント差）で女性が男性のポイントを大きく上回っている。

「(b) あなた自身が昇進することについてのイメージ」（問12(b) 111ページ）

「仕事と家庭の両立が困難になる」は女性が男性を25.6ポイント上回る

男女ともに「責任が重くなる」（女性74.9%、男性70.5%）、「能力が認められた結果である」（女性58.3%、男性57.6%）、「賃金が上がる」（女性54.0%、男性52.5%）の順となっている。

男女の差が大きいものとしては、「仕事と家庭の両立が困難になる」（25.6ポイント差）で女性のポイントが、「自分自身で決められる事柄が多くなる」（10.1ポイント差）で男性のポイントが高くなっている。

4 女性のリーダーを増やす上での障害（問13 115ページ）

女性では「家事・育児などの相互協力」が、男性では「長時間労働の改善」が最多

女性では「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（女性58.3%、男性37.7%）が最も多く、男性では「長時間労働の改善が十分ではないこと」（女性42.1%、男性42.4%）が最も多くなっている。

男女差では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（20.6ポイント差）で女性が男性のポイントを大きく上回っており、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」（8.8ポイント差）で男性のポイントが女性のポイントを上回っている。

5 女性が働き続ける上での障害（問14 118ページ）

男女とも「家事・育児などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」が最多

男女とも、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（女性70.7%、男性57.7%）が過半数で最も高く、次いで「結婚や出産の際退職しなければならない慣行が今でも残っていること」（女性36.5%、男性41.8%）の順となっている。

男女の差が大きいものとして、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」（13.0ポイント差）で女性が男性のポイントを大きく上回っており、「女性の能力が正当に評価されないこと」（6.7ポイント差）で男性のポイントが高くなっている。

6 女性の再就職に必要なこと（問15 120ページ）

男女とも「家事・育児などにおける家庭内の相互の協力」が最多

男女ともに「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」（女性70.4%、男性62.7%）が最も多くなっている。「保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）」（女性63.6%、男性61.7%）が続いている。

「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」は、女性の方が7.7ポイント多く、「退職者の再雇用制度の普及」（女性35.9%、男性45.4%）は、男性の方が9.5ポイント多くなっている。

7 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと（問16 123ページ）

男女とも「育児・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」が最多

男女とも、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」（女性62.9%、男性58.5%）が最も高くなっている。次いで「労働時間の短縮や休暇制度の充実」（女性45.3%、男性49.6%）、「保育・介護サービスの充実」（女性36.5%、男性33.3%）となっている。

男女の比較では、女性は「女性が働くことについての家族や周囲の理解と協力」（女性25.3%、男性19.2%）などの周囲の協力や理解を求める項目で、男性は、「在宅勤務やフレックスタイム制度の導入」（女性23.3%、男性29.9%）などの制度の導入や充実などの項目で上回っている。

IV 女性の社会参画

1 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか（問17 126ページ）

男女とも「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が最多

全体では、男女ともに、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」（女性71.2%、男性68.7%）が最も多く、次いで、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」（女性60.0%、男性59.8%）、「女性が持つ意見や発想が反映される」（女性59.6%、男性57.5%）の順となった。

男女の差が大きいものとして、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」では女性（42.9%）が男性（31.1%）を11.8ポイント上回っている。

2 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと（問18 129ページ）

女性では「時間帯の工夫」、男性では「役割分担意識を改めること」が最多

女性では、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」（55.5%）が最も多く、次いで「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」（35.7%）となっている。

男性では「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」（51.8%）が最も多く、次いで「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」（45.3%）となっている。

V ドメスティック・バイオレンス（DV）等

1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為（問19 133ページ）

「刃物などを突きつけて、おどす」「なぐったり、けったり、物を投げつけたりする」等で9割

「暴力にあたる」と思うと答えた人を多い順に見ていくと、“(b) 刃物などを突きつけて、おどす”（女性94.8%、男性94.8%、全体94.7%）が最も多く、次いで“(c) なぐったり、けったり、物を投げつけたりする”（女性93.6%、男性95.3%、全体94.2%）、“(a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる”（女性93.3%、男性94.3%、全体93.6%）が9割以上となっており、続いて“(n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する”（女性88.4%、男性86.5%、全体87.5%）、“(d) 壁にものを投げたり、なぐるふりをしておどす”（女性78.5%、男性75.8%、全体77.3%）、“(m) 家計に必要な生活費を渡さない”（女性80.7%、男性73.2%、全体77.3%）、“(l) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う”（女性78.9%、男性73.9%、全体76.7%）、“(j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”（女性78.4%、男性72.7%、全体75.7%）、“(o) 避妊に協力しない”（女性76.3%、男性70.6%、全体73.7%）の順となった。

“(g) 他の異性や親しい人との会話を許さない”、“(e) 大声でどなる”、“(f) 馬鹿にしたり、見下したような言動をする”は、「暴力にあたる」と思う人の割合は少なくなっている。

男女を比較すると、大半の項目で、女性の方が「暴力にあたる」と思う人の割合が多い。

2 配偶者からのこれまでの被害経験の有無（問20 156ページ）

男女とも「身体的暴行」で最も比率が高い

“(a) 身体的暴行”では、「何度もあった」（女性4.7%、男性3.1%）、「1、2度あった」（女性18.9%、男性12.3%）となり、その合計では女性が男性を8.2ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”では、「何度もあった」は女性（9.0%）が男性（4.0%）を5.0ポイント上回り、「1、2度あった」（女性12.5%、男性13.4%）では、大きな差は見られない。

“(c) 経済的圧迫”では、「何度もあった」（女性5.7%、男性1.5%）、「1、2度あった」（女性5.2%、男性3.5%）となり、その合計では女性が男性を5.9ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、「何度もあった」（女性4.6%、男性0.9%）、「1、2度あった」（女性9.6%、男性2.0%）で、その合計では女性が男性を11.3ポイント上回った。

3 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無（問20 163ページ）

男女とも「心理的攻撃」で最も比率が高い

“(a) 身体的暴行”では、「何度もあった」（女性2.1%、男性2.9%）、「1、2度あった」（女性17.2%、男性11.4%）となり、その合計では女性が男性を5.0ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”は、総数・男女ともに最も多く、「何度もあった」（女性12.1%、男性7.6%）、「1、2度あった」（女性31.1%、男性25.3%）となり、その合計では女性が男性を10.3ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、「何度もあった」（女性10.4%、男性17.4%）、「1、2度あった」（女性13.4%、男性8.7%）となり、その合計では男性が女性を2.3ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、「何度もあった」（女性5.7%、男性7.7%）、「1、2度あった」（女性8.0%、男性7.7%）で、その合計では男性が女性を1.7ポイント上回った。

4 配偶者からの暴力についての相談経験の有無（問20-1 170ページ）

「どこ（だれ）にも相談しなかった」は、女性41.8%、男性58.0%

配偶者から被害を受けたことが「これまでにあった」と答えた人に、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したことがあるかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は37.5%、「相談しなかった」は47.1%で、「相談しなかった」の方が9.6ポイント多かった。

相談した人のうち、どこ（だれ）に相談したかを見ると、女性では「家族や親戚」（25.9%）、次いで「知人、友人」（24.5%）の順で、その他は3%未満となっている。

男性では「家族や親戚」（9.8%）、次いで「知人、友人」（8.9%）の順で、その他は2%未満となっている。

男女を比較すると、男性の方が「どこ（だれ）にも相談しなかった」（58.0%）が5割を超え、女性（41.8%）より16.2ポイント多くなっている。

5 配偶者からの暴力について相談しなかった理由（問20-2 175ページ）

男女ともに「相談するほどのことではないと思ったから」が最多

配偶者から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女ともに最も多かったのが「相談するほどのことではないと思ったから」（女性54.3%、男性52.3%）であった。

次いで、女性では「相談してもむだだと思ったから」（34.8%）、「自分にも悪いところがあると思ったから」（32.6%）、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」（29.3%）と続く。

男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」（36.9%）、「相談してもむだだと思ったから」（24.6%）と続く。

男女の違いで特徴的なのは、「相談してもむだだと思ったから」では女性の方が10.2ポイント多くなっている。「どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから」では男性の方が12.7ポイント多くなっている。

6 交際相手からの被害経験の有無（問21 178ページ）

男女とも「心理的攻撃」で最も比率が高い

“(a) 身体的暴行”では、『10～20歳代にあった』（女性8.4%、男性3.4%）、「30歳代以上にあった」（女性1.7%、男性1.1%）となり、その合計では女性が男性を5.6ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”では、『10～20歳代にあった』（女性10.0%、男性4.8%）、「30歳代以上にあった」（女性2.8%、男性1.4%）で、その合計では女性が男性を6.6ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、『10～20歳代にあった』（女性5.0%、男性1.7%）、「30歳代以上にあった」（女性1.5%、男性1.1%）となり、その合計では女性が男性を3.7ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、『10～20歳代にあった』（女性6.7%、男性1.4%）、「30歳代以上にあった」（女性1.5%、男性0.3%）で、その合計では女性が男性を6.5ポイント上回った。

全ての項目で、『10～20歳代にあった』と「30歳代以上にあった」のいずれにおいても、女性の方が男性より多くなっている。

7 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (問21 187ページ)

女性では「身体的暴行」で、男性では「心理的攻撃」で最も比率が高い

“(a) 身体的暴行”では、『10～20歳代にあった』(女性20.7%、男性6.5%)、「30歳代以上にあった」(女性6.9%、男性4.3%)となり、その合計では女性が男性を16.8ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”では、『10～20歳代にあった』は(女性17.2%、男性14.6%)、「30歳代以上にあった」(女性5.2%、男性6.3%)で、合計では女性が男性を1.5ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、『10～20歳代にあった』(女性12.3%、男性6.4%)、「30歳代以上にあった」(女性3.5%、男性6.4%)となり、合計では女性が男性を3.0ポイント上回っている。

“(d) 性的強要”では、『10～20歳代にあった』(女性10.5%、男性4.3%)、「30歳代以上にあった」(女性1.8%、男性4.3%)となり、合計では女性が男性を3.7ポイント上回っている。

8 交際相手からの暴力についての相談経験の有無 (問21-1 195ページ)

「どこ(だれ)にも相談しなかった」は、女性36.6%、男性57.6%

「どこ(だれ)に相談しなかった」人は43.3%(女性36.6%、男性57.6%)で男性が上回っている。

相談先では、男女とも「知人、友人」(女性49.3%、男性27.3%)が最も多く、次いで「家族や親戚」(女性21.1%、男性15.2%)と続く。

他の項目は1割を下回っている。

9 交際相手からの暴力について相談しなかった理由 (問21-2 197ページ)

女性は「相談するほどのことではない」、男性は「自分にも悪いところがある」が最多

交際相手から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、女性で最も多かったのは「相談するほどのことではないと思ったから」(38.5%)であった。男性で最も多かったのは「自分にも悪いところがあると思ったから」(42.1%)であった。

女性では、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(30.8%)、「相談してもむだだと思ったから」(26.9%)が続く。

男性では、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(36.8%)、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「別れるつもりがなかったから」がともに21.1%で並んだ。

女性の方が男性より多くなったのは、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」、「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」などがある。

男性の方が女性より多くなったのは、「別れるつもりがなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」などであった。

10 性暴力被害に関するイメージ（問22 200ページ）

男女ともに「被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気のない場所である」が最多

男女とも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が最も多かったのは「(c)被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気のない場所である」(女性42.1%、男性44.8%)であった。次いで、「(a)性暴力にあうのは、若い女性である」(女性37.2%、男性44.6%)、「(b)挑発的な服装や行動が被害をまねている」(女性27.8%、男性37.6%)となっている。

男女とも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が最も多かったのは「(d)本気で抵抗すれば被害は防げる」(女性55.1%、男性52.7%)であった。

男女の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の差が大きいものとしては「(b)挑発的な服装や行動が被害をまねている」(9.8ポイント差)と「(g)性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている」(9.7ポイント差)であり、ともに男性が上回っている。

11 相談機関・関係者の周知状況（問23 209ページ）

男女とも最も多かったのは「警察」

男女とも最も多かったのは「警察」(女性81.2%、男性84.3%)であった。

次いで、男女ともに「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」(女性24.8%、男性18.8%)、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」(女性19.5%、男性17.4%)、「石川県女性センター」(女性16.4%、男性16.6%)の順となっている。

12 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと（問24 213ページ）

男女とも、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最多

全体では、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」(女性71.1%、男性66.0%、全体68.7%)が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」(女性58.9%、男性58.0%、全体58.6%)、「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(女性57.1%、男性49.4%、全体53.6%)の順となった。

男女の差が大きいものとしては、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(8.6ポイント差)と「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(7.7ポイント差)で女性のポイントが多くなっている。

VI 男女共同参画社会の実現に向けて

1 用語の周知度（問25 218ページ）

男女とも「DV」で9割超、「男女雇用機会均等法」「マタニティ・ハラスメント」で8割を超える

全体では、“(k)DV（配偶者や交際相手からの暴力）”が最も周知度が高く（女性92.9%、男性92.4%、全体92.3%）、次いで“（h）男女雇用機会均等法”（女性86.5%、男性87.8%、全体86.7%）、“（m）マタニティ・ハラスメント”（女性88.2%、男性83.6%、全体86.1%）となっており、8割を超えている。続いて、“（a）男女共同参画社会”（女性69.0%、男性72.7%、全体70.4%）、“（n）性的少数者（LGBTなど）”（女性68.1%、男性69.8%、全体68.7%）、“（f）ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）”（女性65.7%、男性60.2%、全体63.1%）、“（j）仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）”（女性60.9%、男性61.5%、全体61.0%）で6割を超えている。

2 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと（問26 250ページ）

全体で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最多

全体では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（44.7%）が最も多く、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」（39.5%）が続いている。

女性で最も多かったのは「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（48.0%）、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」（38.5%）となっている。

男性では「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」（41.1%）が最も多く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」（40.8%）となっている。

男女の差があるものについては、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」は女性が7.2ポイント、「政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する」は男性が7.2ポイント多くなっている。

§ 4 調査票及び単純集計結果

I 男女の地位の平等

1 男女平等についての現在の状況

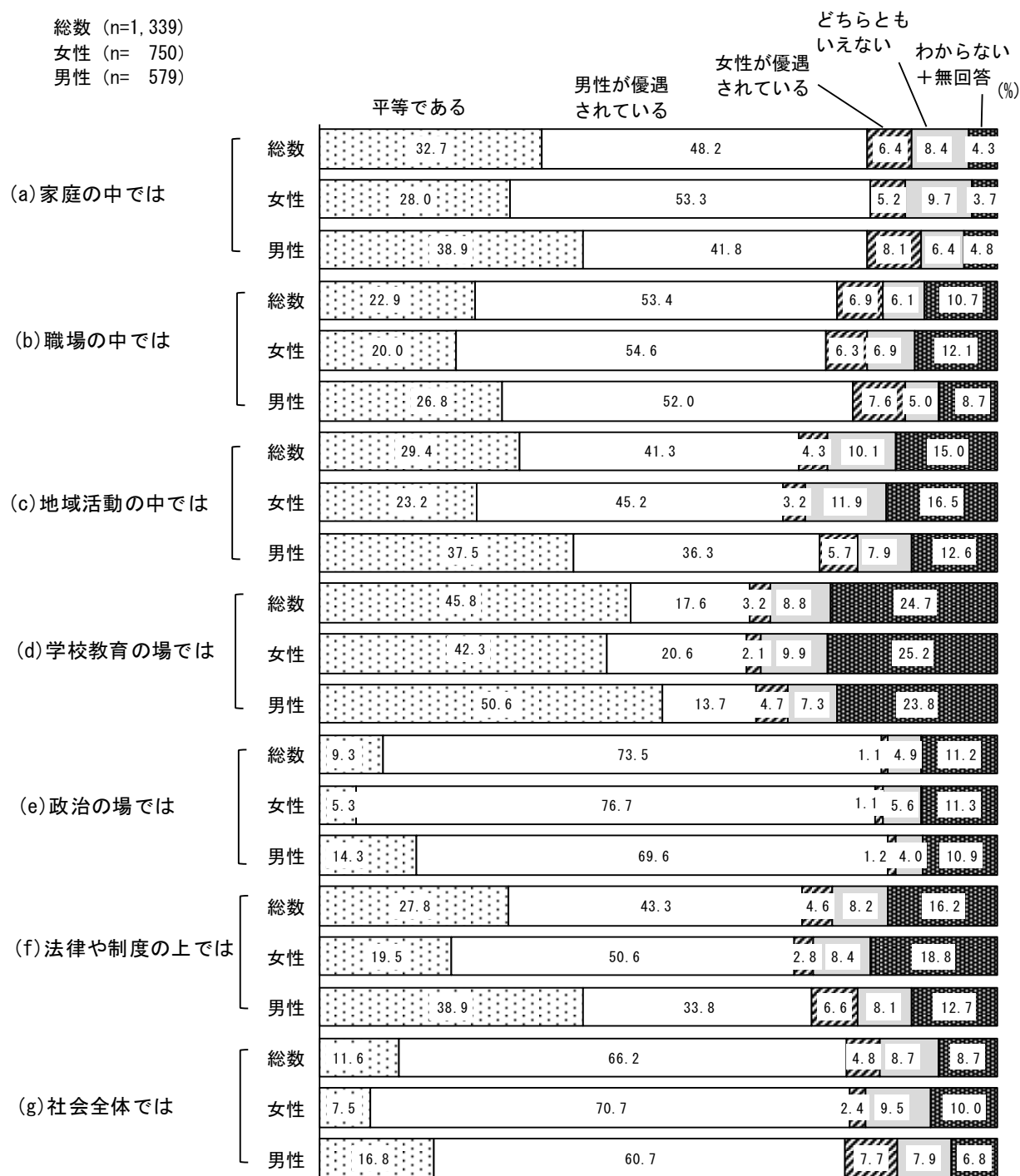
問1 現在の日本の社会において、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。(a)～(g)の各分野について、あなたの考えに近いものの番号に1つ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

全体では「平等である」が、“(d)学校教育の場では”(45.8%)、“(a)家庭の中では”(32.7%)、“(c)地域活動の中では”(29.4%)、“(f)法律や制度の上では”(27.8%)の順に多くなっている。「平等である」が最も少ないのは“(e)政治の場では”(9.3%)である。

女性では、“(g)社会全体では”(7.5%)、“(e)政治の場では”(5.3%)で、「平等である」が1割未満になっており、また、すべての項目で男性よりも「平等である」が少なくなっている。

男性では、“(g)社会全体では”(16.8%)、“(e)政治の場では”(14.3%)では1割台となっているが、すべての項目で女性よりも、「平等である」が多くなっている。特に差が大きいのは“(f)法律や制度の上では”(38.9%)で、男性が女性を19.4ポイント上回っている。

図1-1 男女平等についての現在の状況 項目別一覧（性別）



※『男性が優遇されている』は、調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえば男性が優遇されている」を合計したもの。

『女性が優遇されている』は、調査票選択肢の「女性が優遇されている」と「どちらかといえば女性が優遇されている」を合計したもの。以降の頁も同様。

男女平等についての現在の状況

(a) 家庭の中では

【年代別】

女性では、「平等である」が30代（41.3%）で最も多くなったが、60代は20.7%、70歳以上では20.8%にとどまり、年代が高くなるにつれ少なくなる傾向がある。また『男性が優遇されている』は18～29歳（35.6%）で最も少なく、60代（62.9%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」が18～29歳（61.2%）で最も多くなった。『男性が優遇されている』は60代（51.9%）、70歳以上（54.8%）で半数を超えている。

【地域別】

女性では、「平等である」が南加賀（30.3%）で最も多く、能登北部（19.5%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は、能登北部（61.0%）、石川中央（54.3%）、南加賀（51.4%）で、半数を超えている。

男性では、「平等である」が、南加賀（41.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』も南加賀（39.5%）で最も少なくなっている。反対に、『男性が優遇されている』が最も多いのは能登北部（67.6%）となっている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が未婚（33.6%）で最も多く、『男性が優遇されている』は有配偶者（58.0%）で最も多い。

男性では、「平等である」が未婚（48.4%）で最も多く、『男性が優遇されている』は離死別（57.7%）で最も多くなっている。

【職業別】

「平等である」は、女性では勤め人（30.3%）、男性では自営業等（44.2%）で最も多い。

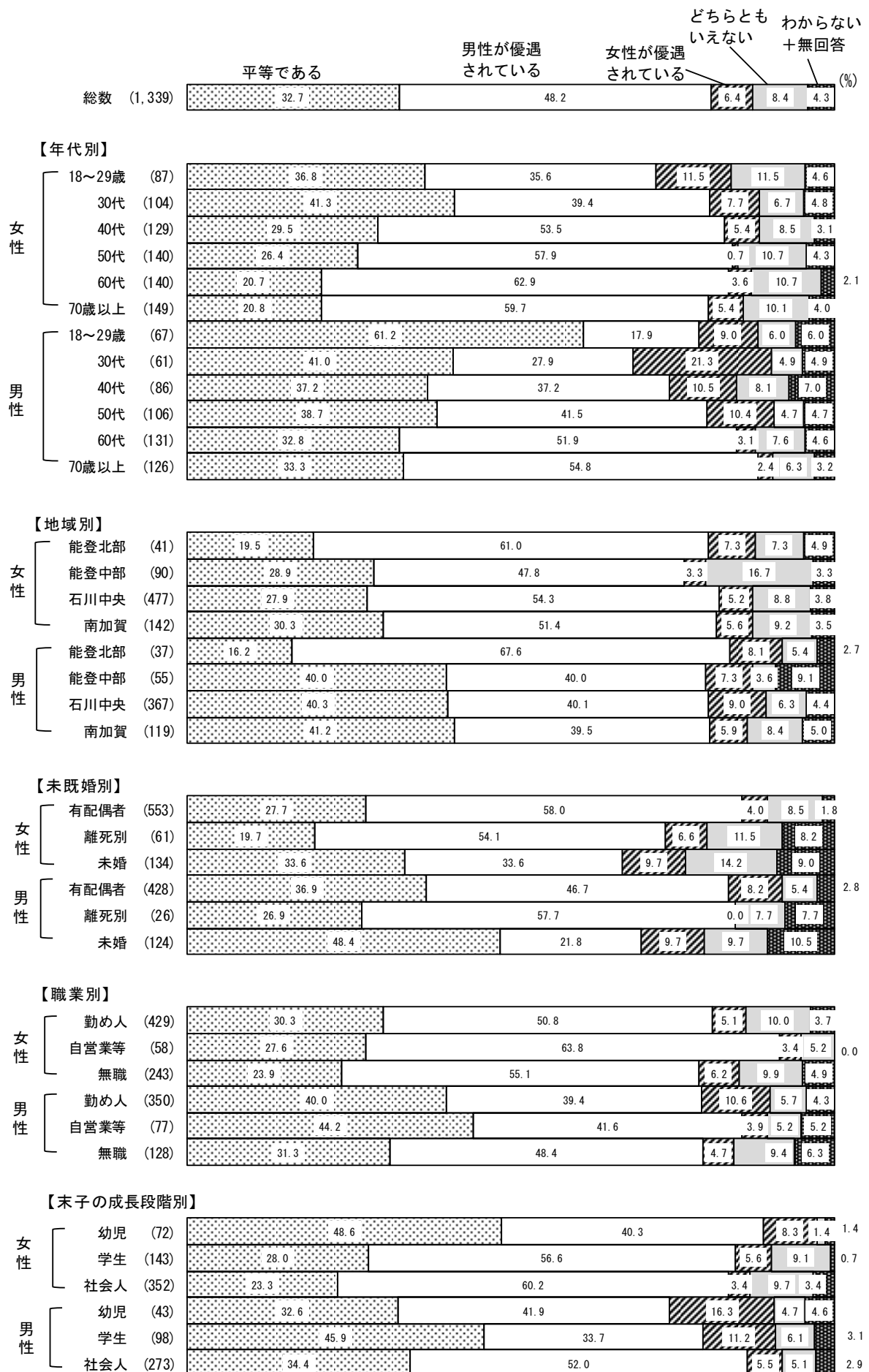
また『男性が優遇されている』は、女性では自営業等（63.8%）、男性では無職（48.4%）で最も多い。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児がいる人（48.6%）で4割を超えた。『男性が優遇されている』は社会人の子がいる人（60.2%）で最も多くなっている。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人（45.9%）で4割を超えた。『男性が優遇されている』は社会人の子がいる人（52.0%）で半数を超えている。

図1-2 男女平等についての現在の状況 (a) 家庭の中では
(年代別、地域別、未既婚別、職業別、末子の成長段階別)



男女平等についての現在の状況

(b) 職場の中では

【年代別】

女性では、「平等である」が30代（29.8%）で最も多く、70歳以上では8.7%と最も少ない。『男性が優遇されている』は、50代と60代（ともに59.3%）で最も多くなっている。

男性では、「平等である」が18～29歳と30代（ともに32.8%）で最も多く、『男性が優遇されている』は60代（60.3%）で最も多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」が、能登中部（21.1%）で最も多く、能登北部（14.6%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は、能登北部（65.9%）、南加賀（55.6%）、石川中央（54.1%）、能登中部（51.1%）すべての地域において半数を超えている。

男性では、「平等である」が、能登中部（29.1%）で最も多く、『男性が優遇されている』は能登北部（64.9%）、南加賀（54.6%）、石川中央（52.3%）で半数を超えている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が未婚（23.1%）で最も多く、『男性が優遇されている』は離死別（62.3%）、有配偶者（56.1%）で半数を超えている。

男性では、「平等である」が未婚（29.0%）で最も多く、『男性が優遇されている』は有配偶者（54.0%）、離死別（53.8%）で半数を超えている。

【職業別】

女性では、「平等である」が勤め人（27.5%）で最も多く、『男性が優遇されている』は無職（58.0%）が最も多くなった。

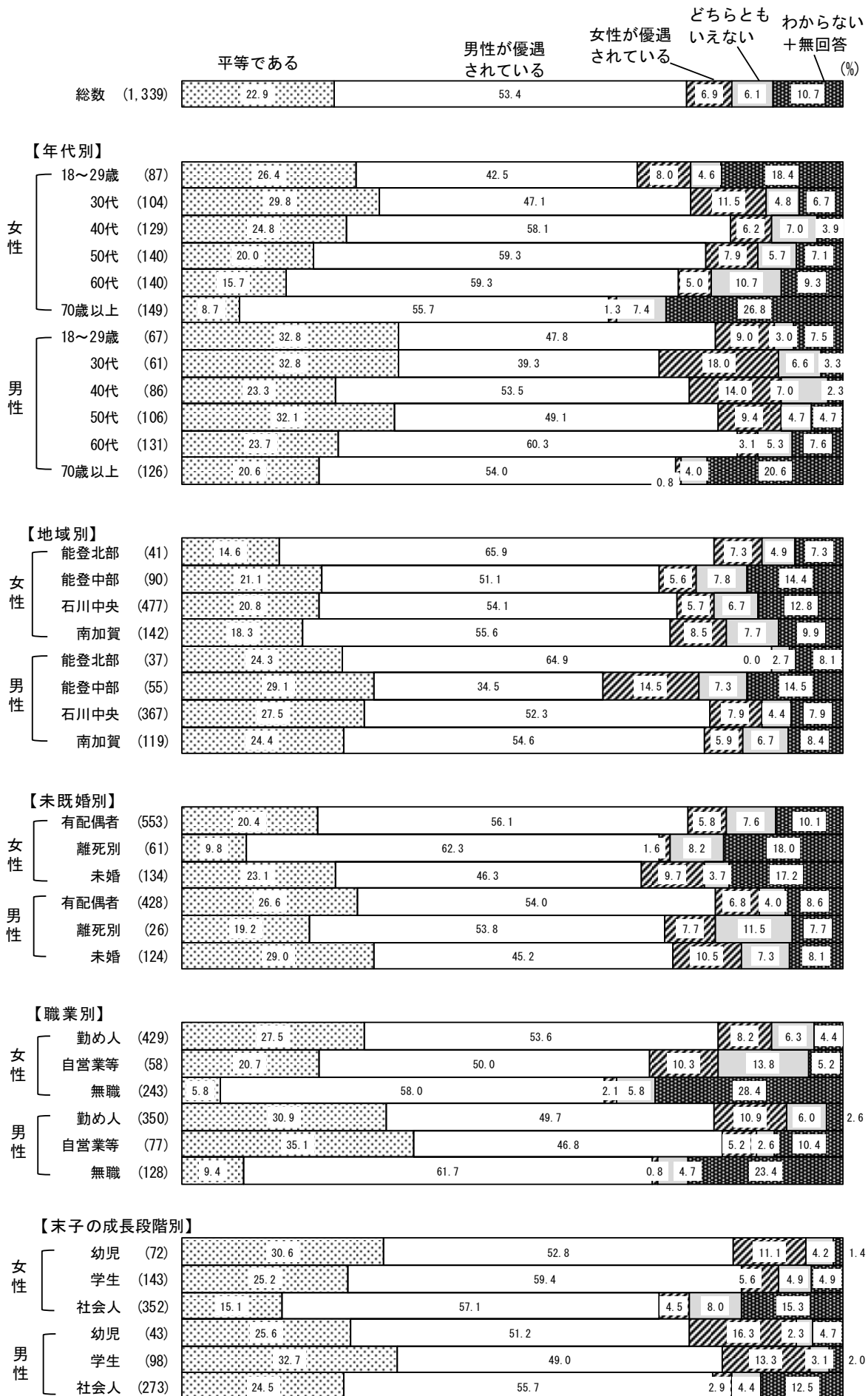
男性では、「平等である」が最も多いのは自営業等（35.1%）で、『男性が優遇されている』が最も多いのは、無職（61.7%）となっている。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児がいる人（30.6%）で最も多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（59.4%）で最も多くなった。

男性でも、「平等である」は学生の子がいる人（32.7%）で最も多く、『男性が優遇されている』は社会人の子がいる人（55.7%）で最も多くなった。

図1-3 男女平等についての現在の状況 (b) 職場の中では
(年代別、地域別、未既婚別、職業別、末子の成長段階別)



男女平等についての現在の状況

(c) 地域活動の中では

【年代別】

女性では、「平等である」が30代（31.7%）で最も多く、60代（17.9%）が最も少なく、年代が高くなるにつれて減少する傾向にある。『男性が優遇されている』は60代（52.9%）で最も多く半数を超えている。

男性では、「平等である」が18～29歳（59.7%）で半数を超えている。『男性が優遇されている』は70歳以上（46.8%）、60代（46.6%）で約半数となっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は能登北部（29.3%）で最も多く、『男性が優遇されている』は、南加賀（50.0%）が最も多く、半数となっている。

男性では、「平等である」が、石川中央（42.5%）が最も多く、『男性が優遇されている』は能登北部（56.8%）が最も多くなっている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」が有配偶者（24.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は離死別（52.5%）が最も多くなった。

男性では、「平等である」が未婚（44.4%）で最も多く、『男性が優遇されている』は有配偶者（41.1%）が最も多くなった。

【職業別】

女性では、「平等である」が自営業等（31.0%）で最も多く、『男性が優遇されている』は勤め人（46.2%）が最も多くなった。

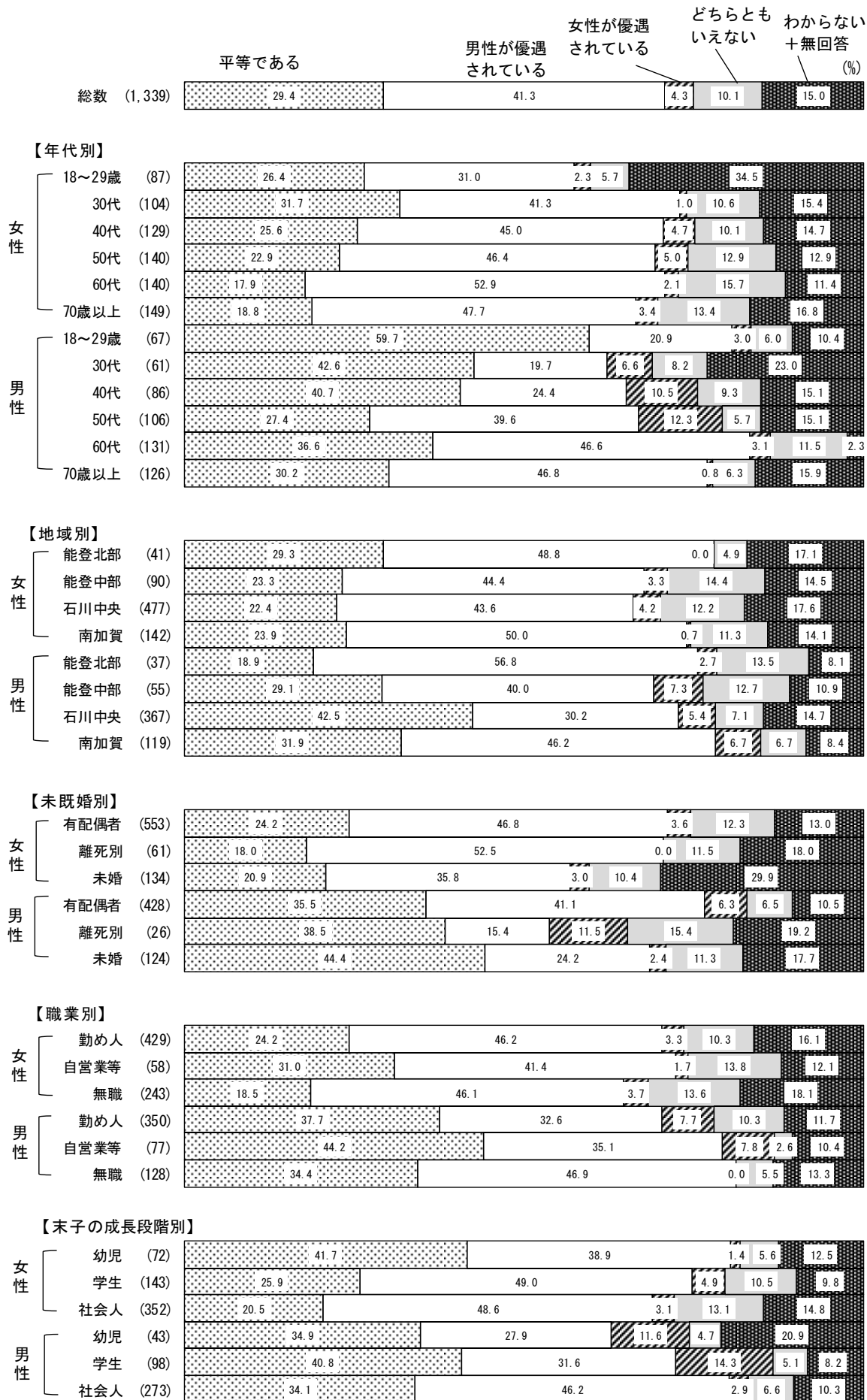
男性では、「平等である」が自営業等（44.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は無職（46.9%）が最も多くなった。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」が幼児がいる人（41.7%）で最も多く、『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（49.0%）で最も多くなっている。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人（40.8%）で最も多く、『男性が優遇されている』は社会人の子がいる人（46.2%）で最も多くなっている。

図1-4 男女平等についての現在の状況 (c) 地域活動の中では
(年代別、地域別、未既婚別、職業別、末子の成長段階別)



男女平等についての現在の状況

(d) 学校教育の場では

【年代別】

女性では、「平等である」が18～29歳（50.6%）で最も多く、70歳以上（26.2%）で最も少なくなっている。『男性が優遇されている』は70歳以上（24.8%）で最も多い。

男性では、「平等である」が18～29歳（62.7%）で6割を超え最も多い。『男性が優遇されている』は、70歳以上（19.8%）で最も多くなっている。

【地域別】

女性では、「平等である」は南加賀（46.5%）で最も多く、能登北部（36.6%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は、能登北部（36.6%）で最も多くなっている。

男性では、「平等である」が、能登北部（59.5%）で最も多く、能登中部（36.4%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は能登北部（10.8%）が最も少なくなっている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」は有配偶者（43.6%）で最も多くなっており、『男性が優遇されている』は離死別（26.2%）で最も多くなっている。

男性でも、「平等である」は有配偶者（52.1%）で最も多く半数を超えている。『男性が優遇されている』も有配偶者（14.7%）で最も多くなっている。

【職業別】

女性では、「平等である」が自営業等（43.1%）で最も多く、『男性が優遇されている』は勤め人（21.9%）で最も多くなった。

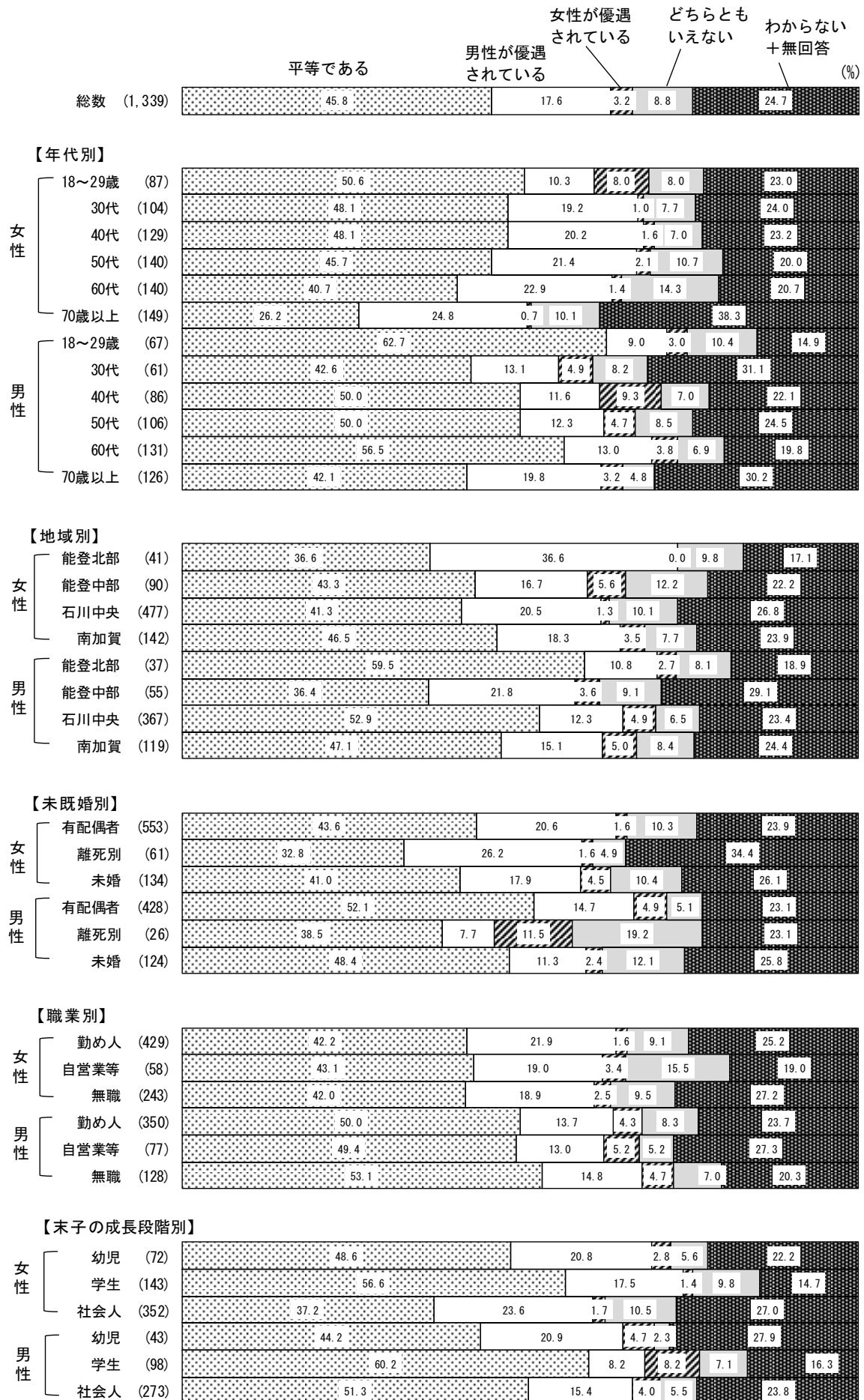
男性では、「平等である」は無職（53.1%）で半数を超え、最も多い。『男性が優遇されている』も、無職（14.8%）で最も多くなった。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」は学生の子がいる人（56.6%）で最も多い。『男性が優遇されている』は、社会人の子がいる人（23.6%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人（60.2%）で最も多くなった。『男性が優遇されている』は、幼児がいる人（20.9%）で最も多くなった。

図1-5 男女平等についての現在の状況 (d) 学校教育の場では
(年代別、地域別、未既婚別、職業別、末子の成長段階別)



男女平等についての現在の状況

(e) 政治の場では

【年代別】

女性では、「平等である」がいずれの年代でも1割以下となっている。『男性が優遇されている』は50代（81.4%）で8割を超えている。

男性では、「平等である」が70歳以上（7.1%）で最も少なく、18～29歳（20.9%）で最も多くなった。『男性が優遇されている』は30代（60.7%）で最も少ない。

【地域別】

女性では、「平等である」が能登中部（7.8%）で最も多く、『男性が優遇されている』が能登北部（85.4%）で8割を超え、他の全ての地域においても7割を超えている。

男性では、「平等である」が、能登中部（20.0%）で最も多く、『男性が優遇されている』は能登中部（60.0%）で最も少ない。能登北部（81.1%）では最も多く、8割を超えている。

【未既婚別】

女性では、「平等である」はいずれの層でも1割未満となっている。『男性が優遇されている』は有配偶者（77.2%）で最も多く、他の層もすべて7割を超えている。

男性では、「平等である」は離死別（19.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は、有配偶者（73.1%）で最も多くなっている。

【職業別】

女性では、「平等である」はいずれの層でも1割未満となっている。『男性が優遇されている』は勤め人（79.3%）で最も多く、他の層でもすべて7割を超えている。

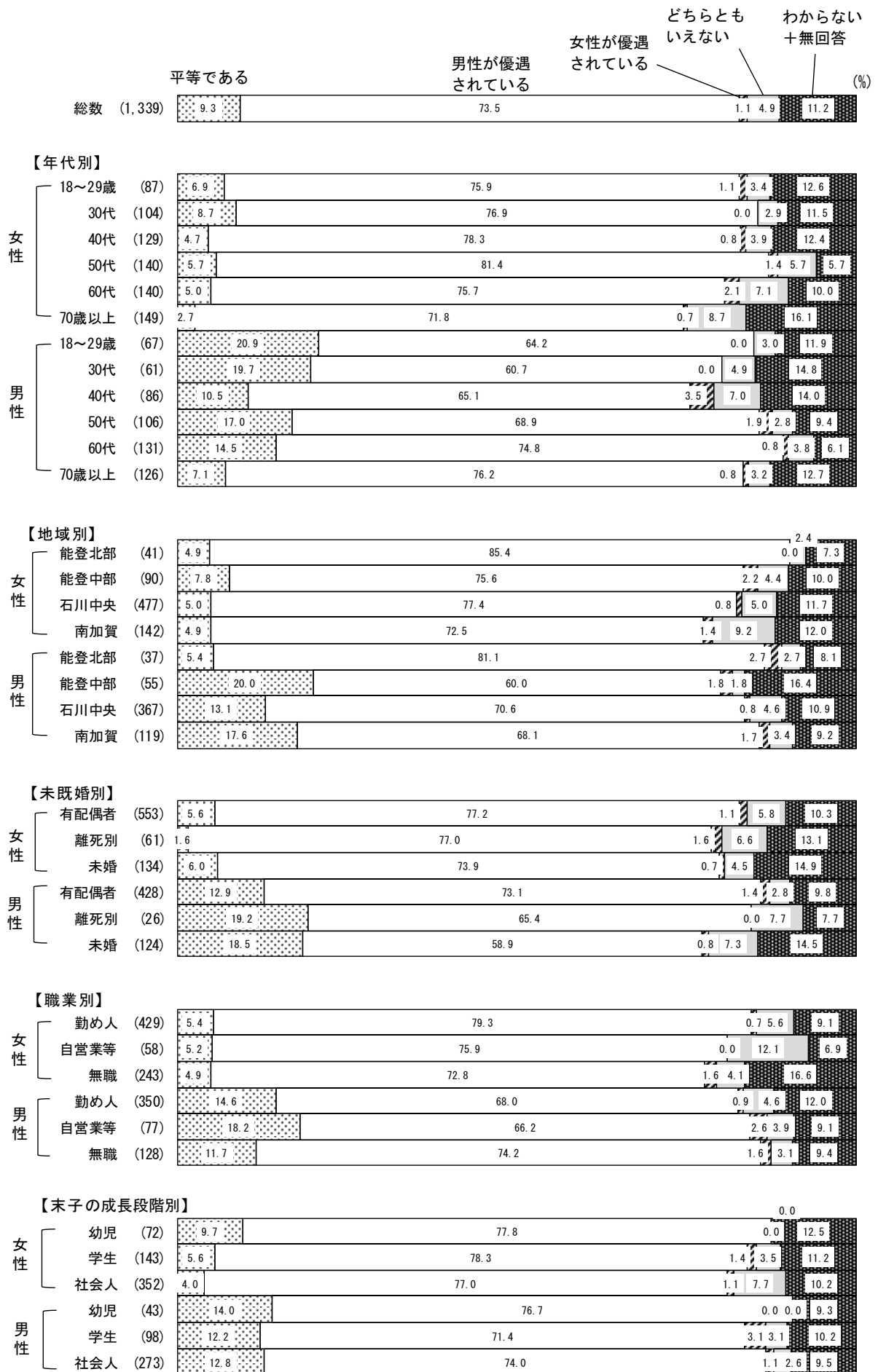
男性では、「平等である」は自営業等（18.2%）で最も多く、『男性が優遇されている』は無職（74.2%）で最も多くなった。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」はいずれの層でも1割未満となっている。『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（78.3%）で最も多く、他の層でも7割を超えている。

男性では、「平等である」は幼児がいる人（14.0%）で最も多く、『男性が優遇されている』も幼児がいる人（76.7%）で最も多く、他の層でも7割を超えている。

図1-6 男女平等についての現在の状況 (e) 政治の場では
(年代別、地域別、未既婚別、職業別、末子の成長段階別)



男女平等についての現在の状況

(f) 法律や制度の上では

【年代別】

女性では、「平等である」が30代（26.9%）で最も多く、40代（15.5%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は50代、60代（ともに55.7%）で最も多く、18～29歳（39.1%）で最も少なくなった。

男性では、「平等である」が18～29歳（46.3%）で最も多くなった。『男性が優遇されている』は70歳以上（38.9%）で最も多く、18～29歳（20.9%）で最も少ない。

【地域別】

女性では、「平等である」は能登北部（24.4%）で最も多く、『男性が優遇されている』が石川中央（54.1%）で最も多い。

男性では、「平等である」が、石川中央（39.8%）で最も多く、能登中部（32.7%）で最も少ない。『男性が優遇されている』は能登中部（36.4%）で最も多くなった。

【未既婚別】

女性では、「平等である」は未婚（20.9%）で最も多い。『男性が優遇されている』は離別（52.5%）と有配偶者（52.1%）が多く、半数を超えている。

男性では、「平等である」は有配偶者（40.7%）で最も多い。『男性が優遇されている』も有配偶者（36.7%）で最も多い。

【職業別】

女性では、「平等である」は勤め人（20.3%）で最も多い。『男性が優遇されている』は自営業等（55.2%）で最も多くなった。

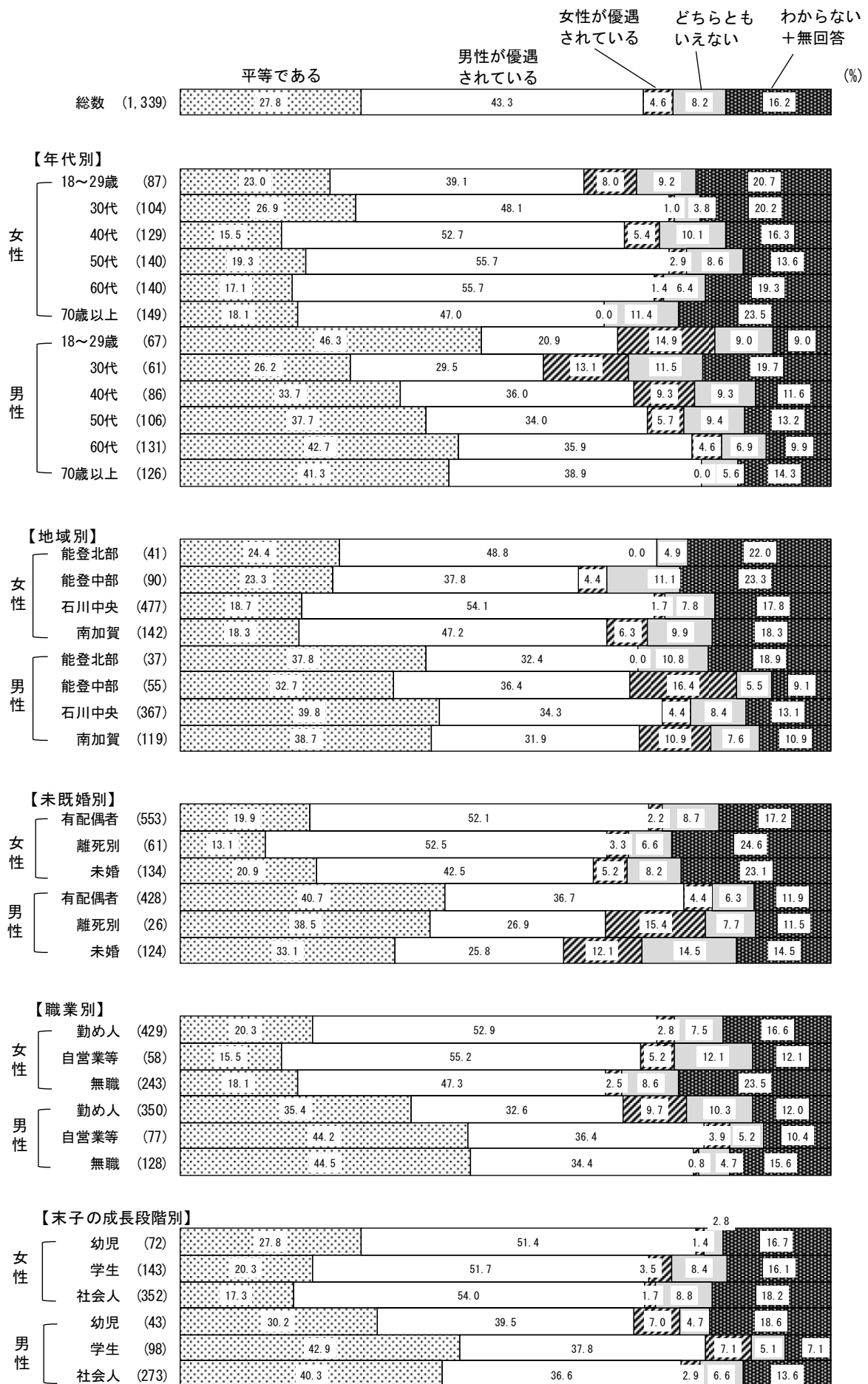
男性では、「平等である」は勤め人（35.4%）で最も少ない。『男性が優遇されている』はいずれの層においても3割台の数値となった。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」は幼児がいる人（27.8%）で最も多く、『男性が優遇されている』はいずれの層でも半数を超え、社会人の子がいる人（54.0%）が最も多い。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人（42.9%）で最も多く、『男性が優遇されている』はいずれの層においても3割台の数値となった。

図1-7 男女平等についての現在の状況 (f) 法律や制度の上では
(年代別、地域別、未既婚別、職業別、末子の成長段階別)



男女平等についての現在の状況

(g) 社会全体では

【年代別】

女性では、「平等である」が18～29歳（13.8%）で最も多い。『男性が優遇されている』は50代（76.4%）で最も多くなった。

男性では、「平等である」が18～29歳（20.9%）で最も多い。『男性が優遇されている』は70歳以上（69.8%）が最も多くなった。

【地域別】

女性では、「平等である」は能登中部（14.4%）で最も多く、『男性が優遇されている』は石川中央（73.6%）、能登北部（73.2%）で7割を超えた。

男性では、「平等である」が南加賀（17.6%）で最も多く、『男性が優遇されている』は能登北部（73.0%）で最も多くなった。

【未既婚別】

女性では、「平等である」は未婚（10.4%）で最も多い。『男性が優遇されている』は有配偶者（73.2%）と離死別（72.1%）で7割を超えている。

男性では、「平等である」は離死別（23.1%）で最も多い。『男性が優遇されている』は有配偶者（66.1%）で最も多くなった。

【職業別】

女性では、「平等である」は勤め人（7.9%）で最も多い。『男性が優遇されている』は勤め人（71.8%）、無職（70.8%）が7割を超えた。

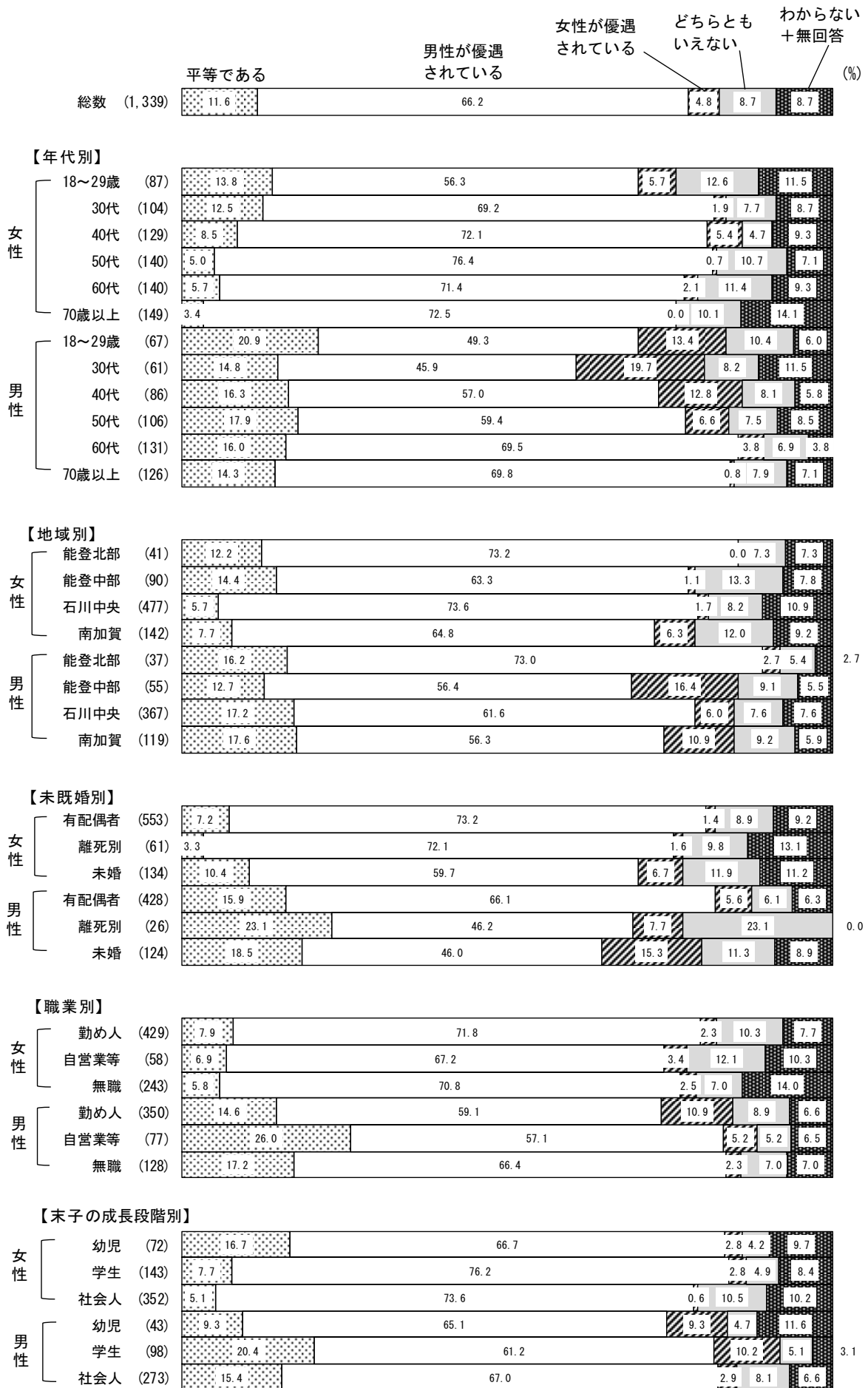
男性では、「平等である」は自営業等（26.0%）で最も多い。『男性が優遇されている』は無職（66.4%）が最も多かった。

【末子の成長段階別】

女性では、「平等である」は幼児がいる人（16.7%）で最も多くなっている。『男性が優遇されている』は学生の子がいる人（76.2%）、社会人の子がいる人（73.6%）で7割を超えた。

男性では、「平等である」は学生の子がいる人（20.4%）で最も多く、『男性が優遇されている』は社会人の子がいる人（67.0%）で最も多くなった。

図1-8 男女平等についての現在の状況 (g) 社会全体では
(年代別、地域別、未既婚別、職業別、末子の成長段階別)

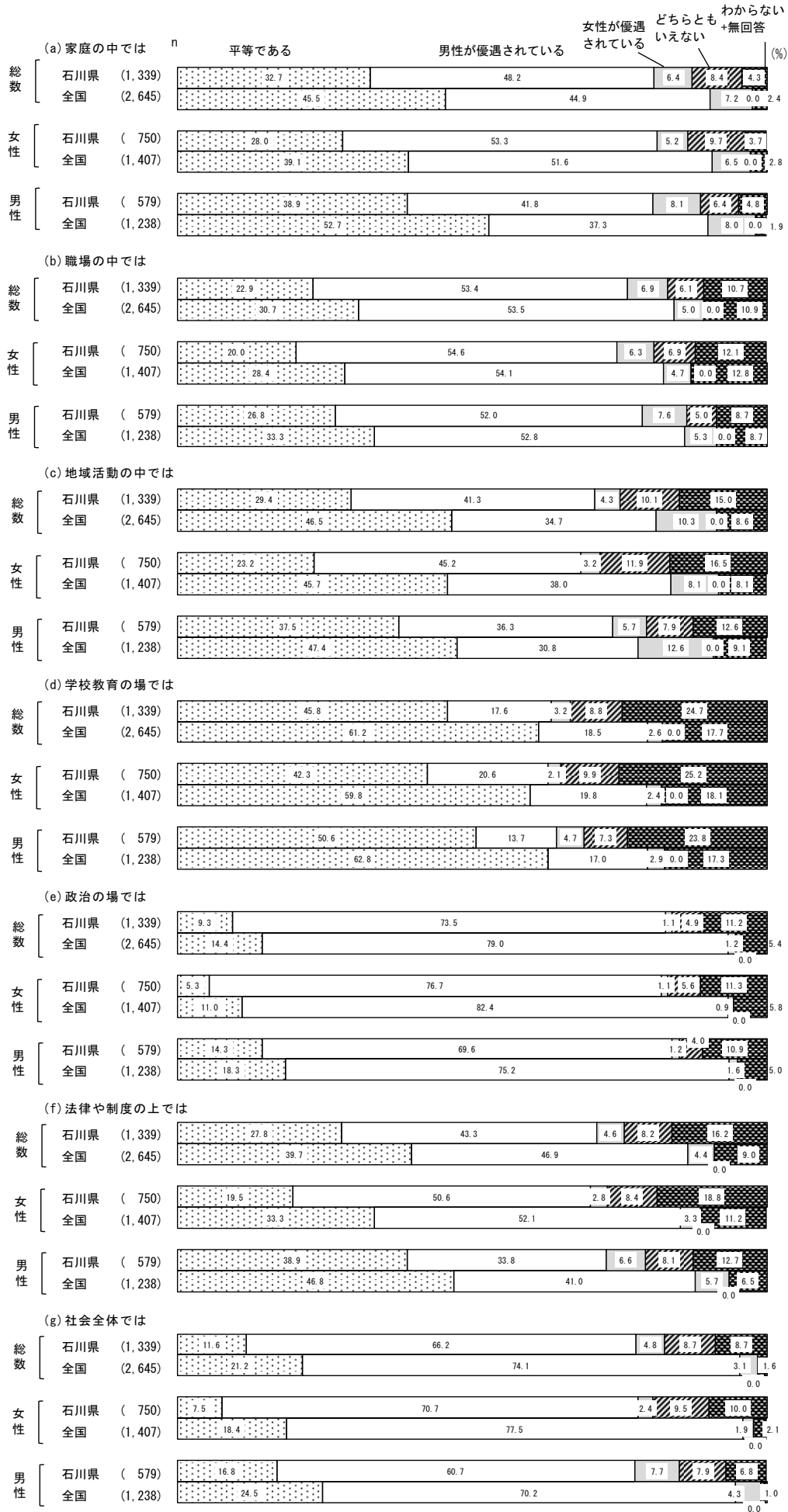


【令和元年度内閣府調査との比較】

内閣府が令和元年9月に実施した「男女共同参画社会に関する世論調査」の結果と傾向を比較する。(但し、内閣府調査は「調査員による個別面接聴取法」で実施していることや、質問文が異なること、設問項目で一致しないものがあること、回答選択肢が「男性の方が非常に優遇されている」「どちらかといえば男性の方が優遇されている」「平等」「わからない」「どちらかといえば女性の方が優遇されている」「女性の方が非常に優遇されている」の6つであること等から厳密な比較はできない。)

全ての項目で「平等である」が総数、女性、男性ともに全国の方が比率が高い傾向にある。

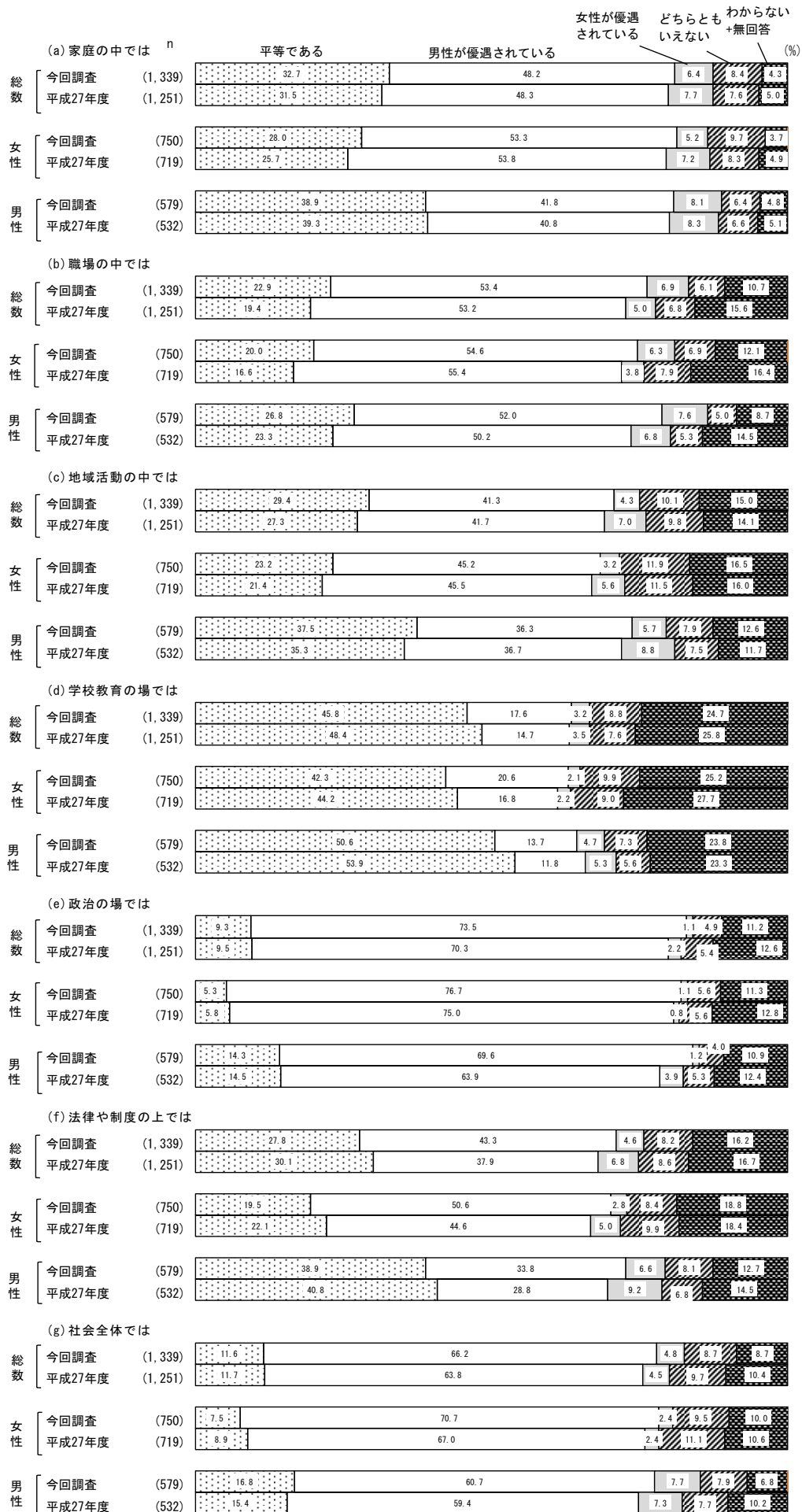
図1-9 男女の地位の平等（令和元年度内閣府調査との比較）



【平成27年度調査との比較】

全体で、“(a) 家庭の中では”、“(b) 職場の中では”、“(c) 地域活動の中では”の3項目で前回調査より「平等である」が増加している。他の項目では減少している。特に“(g) 社会全体では”では、前回調査に引き続き、「平等である」と感じている割合は男性の方が多く、今回の調査でも1.4ポイント増加した。一方で、「平等である」と感じる女性の割合は今回調査では1.4ポイント減少した。

図1-10 男女の地位の平等（平成27年度調査との比較）



Ⅱ 家庭生活等

1 家庭における役割

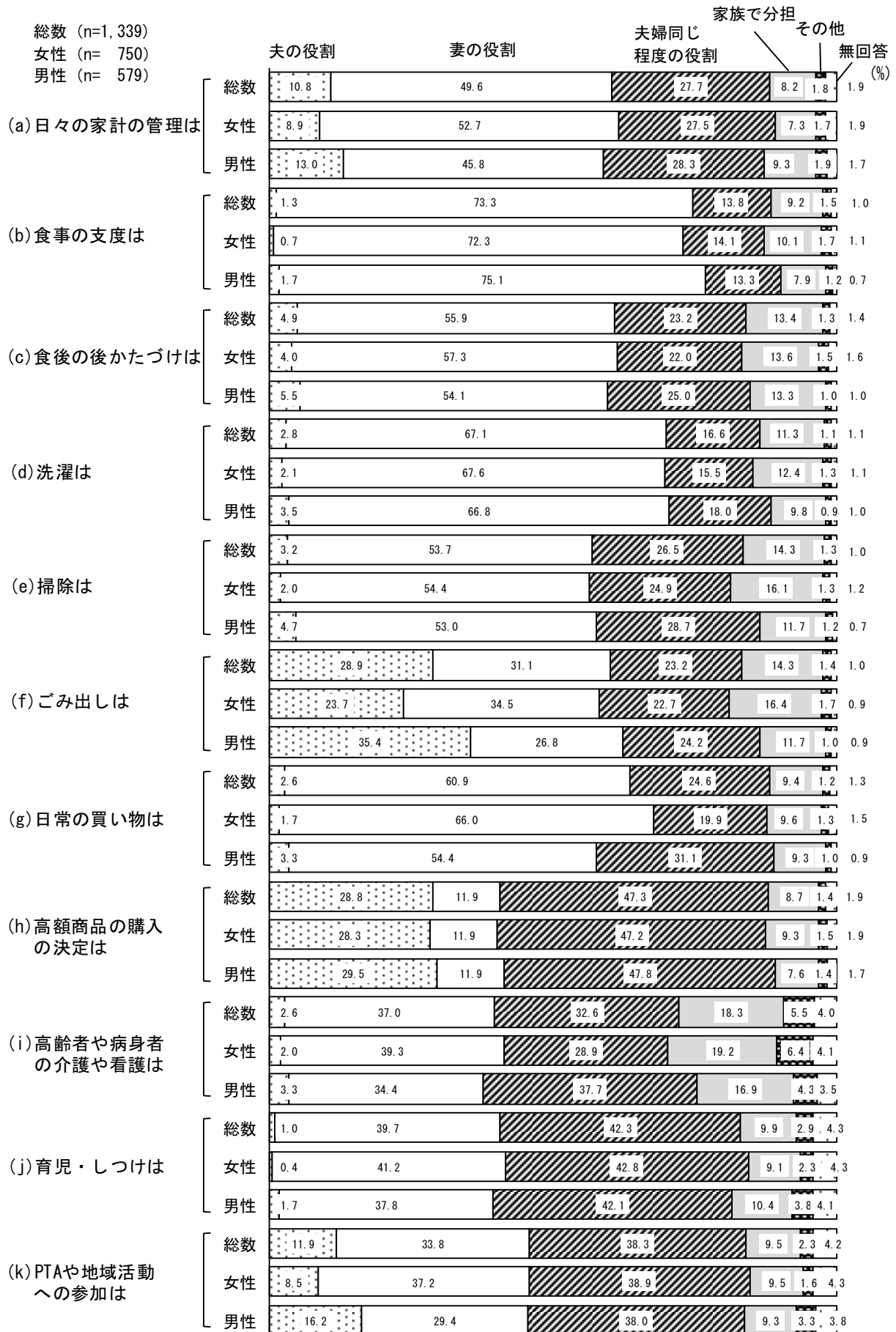
問2 次にあげる(a)～(k)の家庭の仕事は誰の役割だと思いますか。あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。配偶者のいない方もお答えください。(○はそれぞれ1つ)

家庭の仕事は誰の役割だと思うかについて、『妻の役割』と回答した割合が多いのは、“(b) 食事の支度は” (女性72.3%、男性75.1%)、次いで“(d)洗濯は” (女性67.6%、男性66.8%)、“(g) 日常の買い物は” (女性66.0%、男性54.4%) の順となった。

「夫婦同じ程度の役割」の割合が高いのは、“(h) 高額商品の購入の決定は” (女性47.2%、男性47.8%)、“(j) 育児・しつけは” (女性42.8%、男性42.1%)、“(k) PTAや地域活動への参加は” (女性38.9%、男性38.0%) の順となっている。

※『夫の役割』は、調査票選択肢の「主として夫の役割」と「どちらかといえば夫の役割」を合計したもの。『妻の役割』は、調査票選択肢の「主として妻の役割」と「どちらかといえば妻の役割」を合計したもの。以降の頁も同様。

図2-1 家庭における役割 項目別一覧（性別）



家庭における役割

(a) 日々の家計の管理は

【年代別】

女性では、『夫の役割』は18～29歳（5.7%）、30代（6.7%）、40代（5.4%）、60代（9.3%）と1割未満となった年代が多い。「夫婦同じ程度の役割」は40代（32.6%）で最も多くなった。

男性では、『夫の役割』は70歳以上（18.3%）で最も多い。「夫婦同じ程度の役割」は、18～29歳（38.8%）で最も多く、若い年代ほど割合が多くなっている。

【地域別】

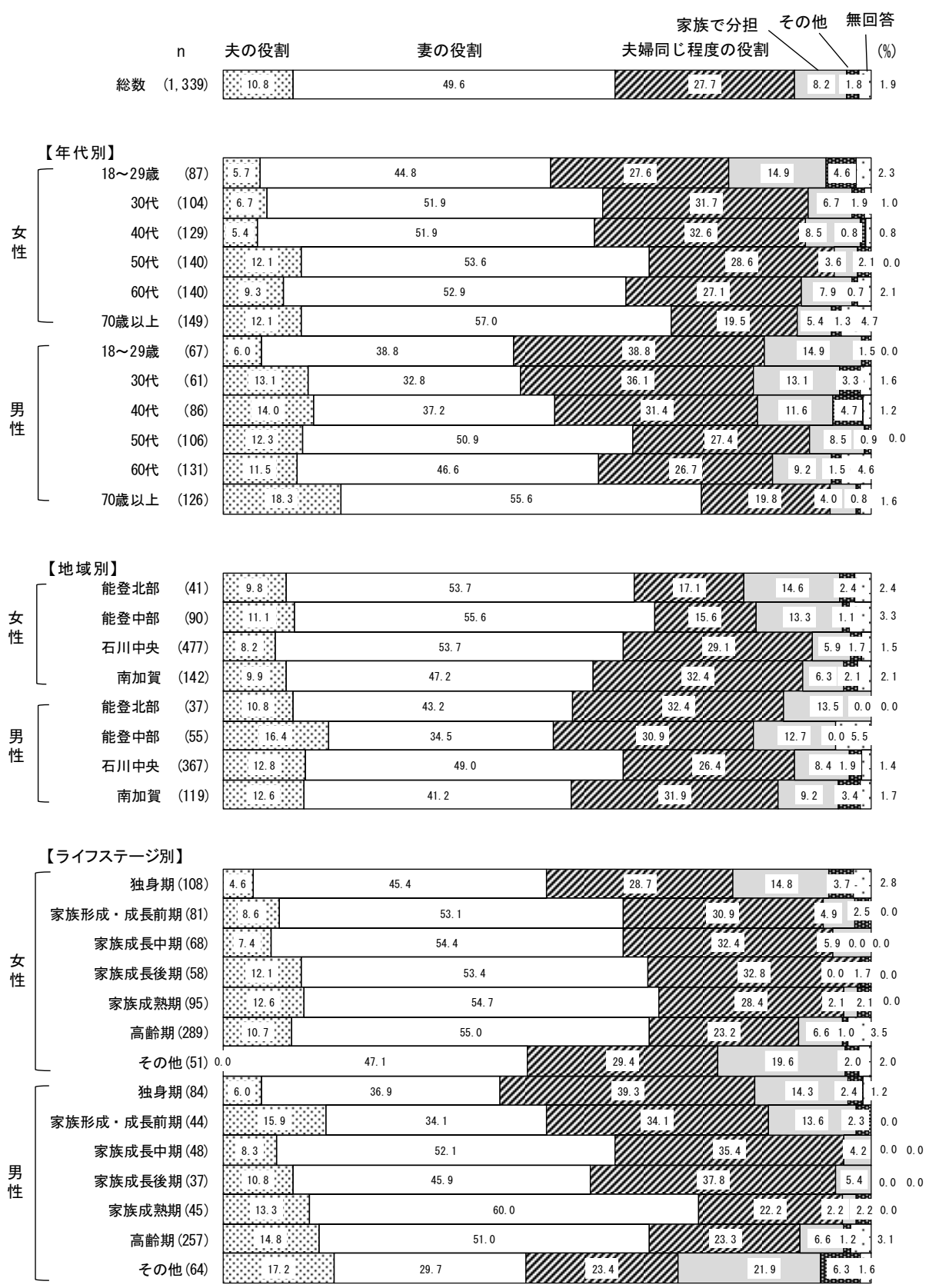
女性では、『夫の役割』や『妻の役割』は大差ないが、「夫婦同じ程度の役割」は能登北部（17.1%）、能登中部（15.6%）で2割未満と、石川中央（29.1%）、南加賀（32.4%）で3割前後となっている一方、「家族で分担」は、能登北部（14.6%）、能登中部（13.3%）と石川中央（5.9%）、南加賀（6.3%）より多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は、独身期（45.4%）とその他（47.1%）を除いて、5割台となっている。「夫婦同じ程度の役割」は高齢期（23.2%）を除いて、3割前後となっている。

男性では、独身期や家族形成・成長前期で、『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」が同じか多くなっている。

図2-2 家庭における役割 (a) 日々の家計の管理は
(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(b) 食事の支度は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は70歳以上(84.6%)で最も多く、最も少ない18~29歳(42.5%)まで年代とともに、少なくなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は18~29歳(28.7%)で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は70歳以上(88.9%)、60代(84.7%)で多く8割を超えており、「夫婦同じ程度の役割」は30代(29.5%)で最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は南加賀(66.9%)を除いて、7割を超えている。「夫婦同じ程度の役割」は南加賀(19.0%)で最も多くなっている。

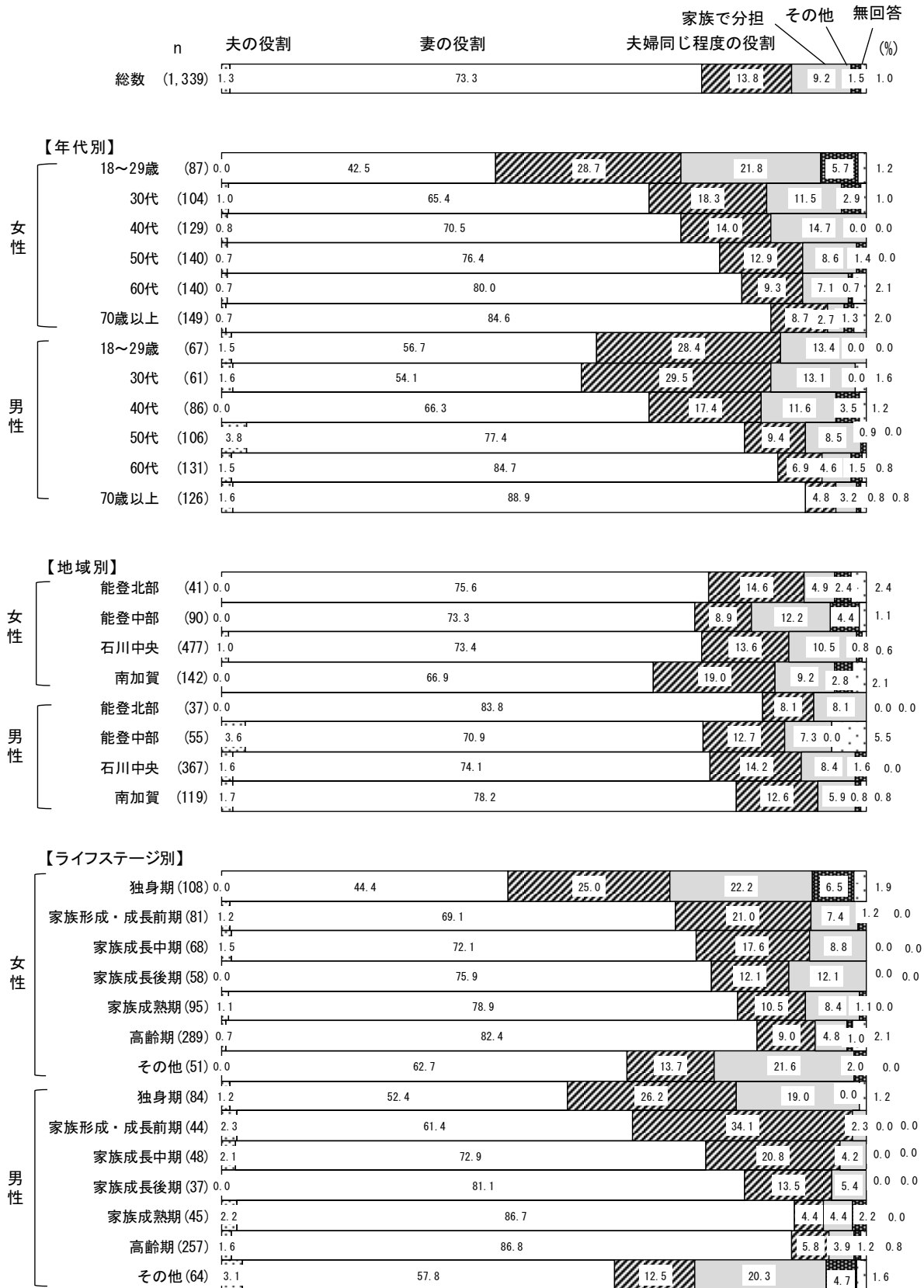
男性では、『妻の役割』は能登北部(83.8%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央(14.2%)で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、独身期で『妻の役割』(44.4%)が「夫婦同じ程度の役割」(25.0%)、「家族で分担」(22.2%)の合計47.2%を下回っており、他期と異なっている。

男性では、『妻の役割』は高齢期(86.8%)、家族成熟期(86.7%)、家族成長後期(81.1%)で8割を超えており、独身期(52.4%)で最も少ない。

図2-3 家庭における役割 (b) 食事の支度は(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(c) 食後の後かたづけは

【年代別】

女性では、『妻の役割』は70歳以上（71.8%）で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（36.8%）で最も多く、年代とともに少なくなる傾向にある。

男性では、『妻の役割』は70歳以上（67.5%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代（47.5%）で最も多くなった。また、18～29歳と30代は「夫婦同じ程度の役割」が『妻の役割』より多い。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は能登北部と南加賀（ともに4.9%）が最も多く、『妻の役割』は能登中部（66.7%）で最も多い。「夫婦同じ程度の役割」は南加賀（26.1%）が最も多くなっている。

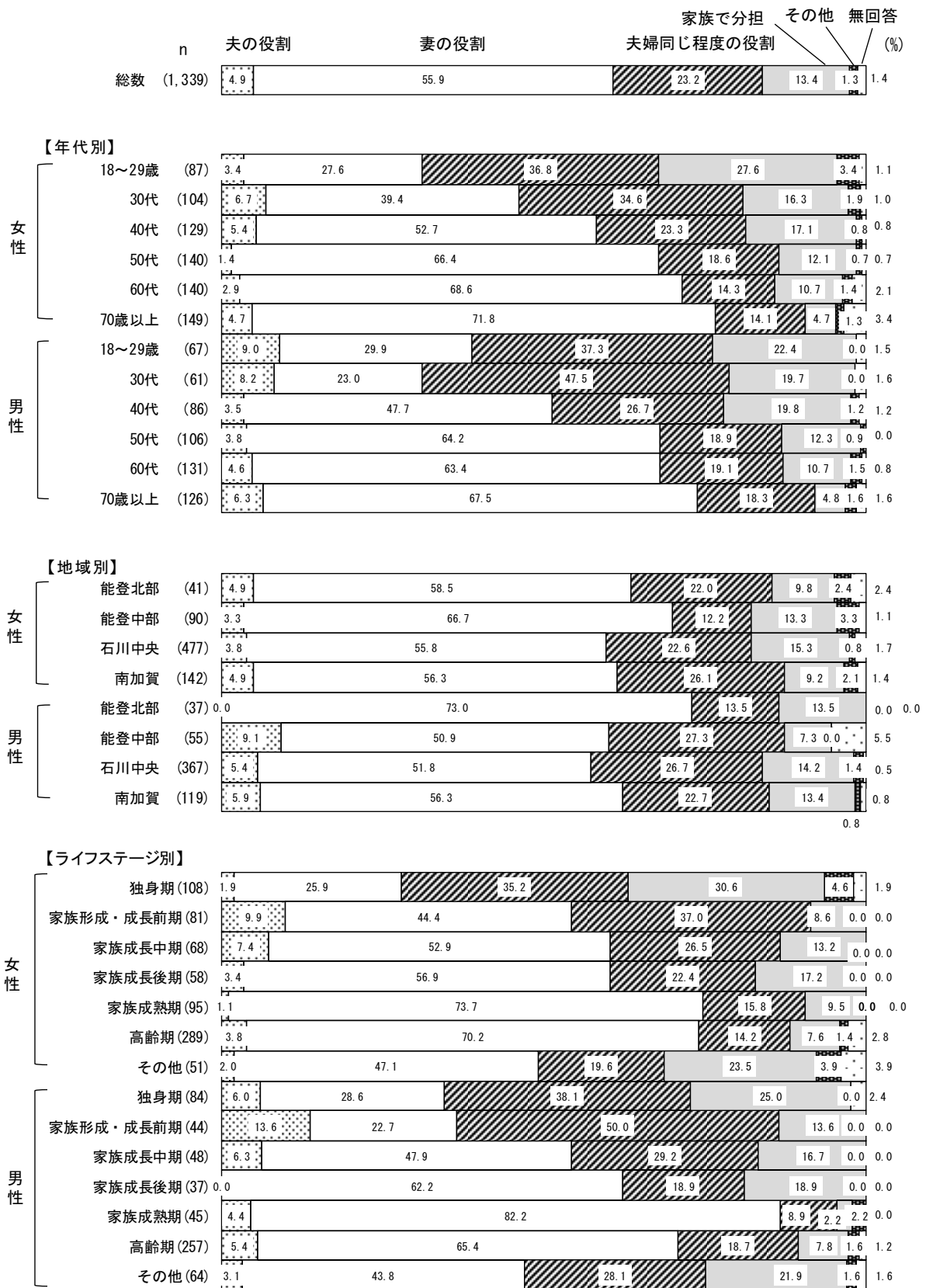
男性では、『妻の役割』は能登北部（73.0%）で最も多く、他地域は5割台となっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成熟期（73.7%）で最も多く、独身期（25.9%）で最も少ない。独身期は、『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」（35.2%）、「家族で分担」（30.6%）の方が多くなっている一方、独身期以外は『妻の役割』が最も多い。

男性では、『妻の役割』は家族形成・成長前期（22.7%）に続いて、独身期（28.6%）の順に少なく、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（50.0%）に続いて、独身期（38.1%）の順で多くなっている。

図2-4 家庭における役割 (c) 食後の後かたづけは(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(d) 洗濯は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は70歳以上（83.2%）で最も多く、年代とともに多くなる傾向にある。「夫婦同じ程度の役割」は30代（26.9%）で最も多い。

男性では、『妻の役割』は70歳以上（87.3%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代（37.7%）で最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は能登北部（73.2%）で最も多い。

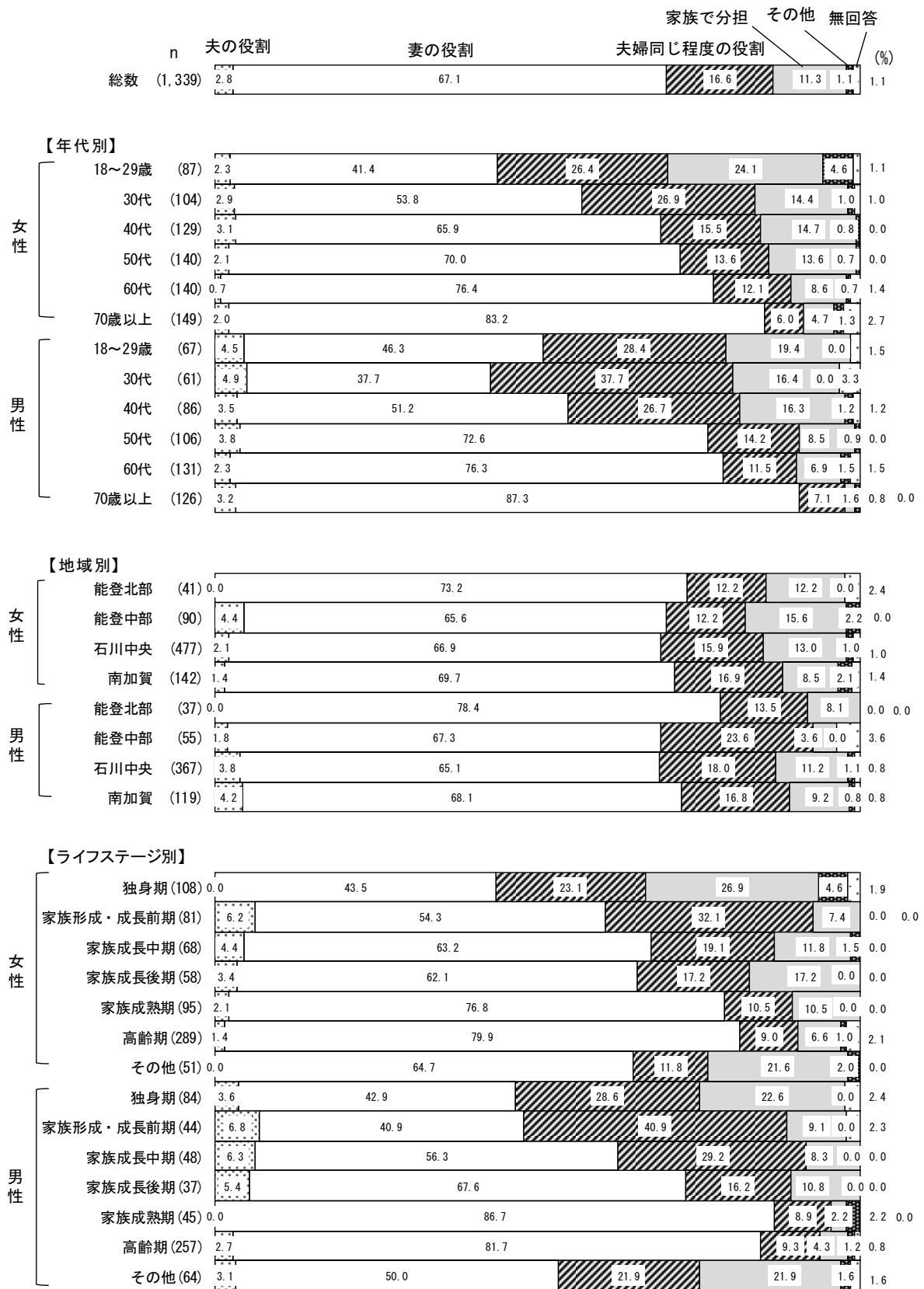
男性でも、『妻の役割』は能登北部（78.4%）で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は高齢期（79.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（32.1%）で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は独身期（42.9%）、家族形成・成長前期（40.9%）と5割未満となる一方、家族成長後期（86.7%）、高齢期（81.7%）と8割を超えている。

図2-5 家庭における役割 (d) 洗濯は(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(e) 掃除は

【年代別】

男女ともに、40代以上では『妻の役割』が最も多く、18～29歳は『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」が多くなっている。また、30代では、女性は『妻の役割』（41.3%）が最も多い一方で、男性は「夫婦同じ程度の役割」（50.8%）が最も多く約半数となっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』が能登北部（61.0%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」が石川中央（26.2%）で最も多くなっている。

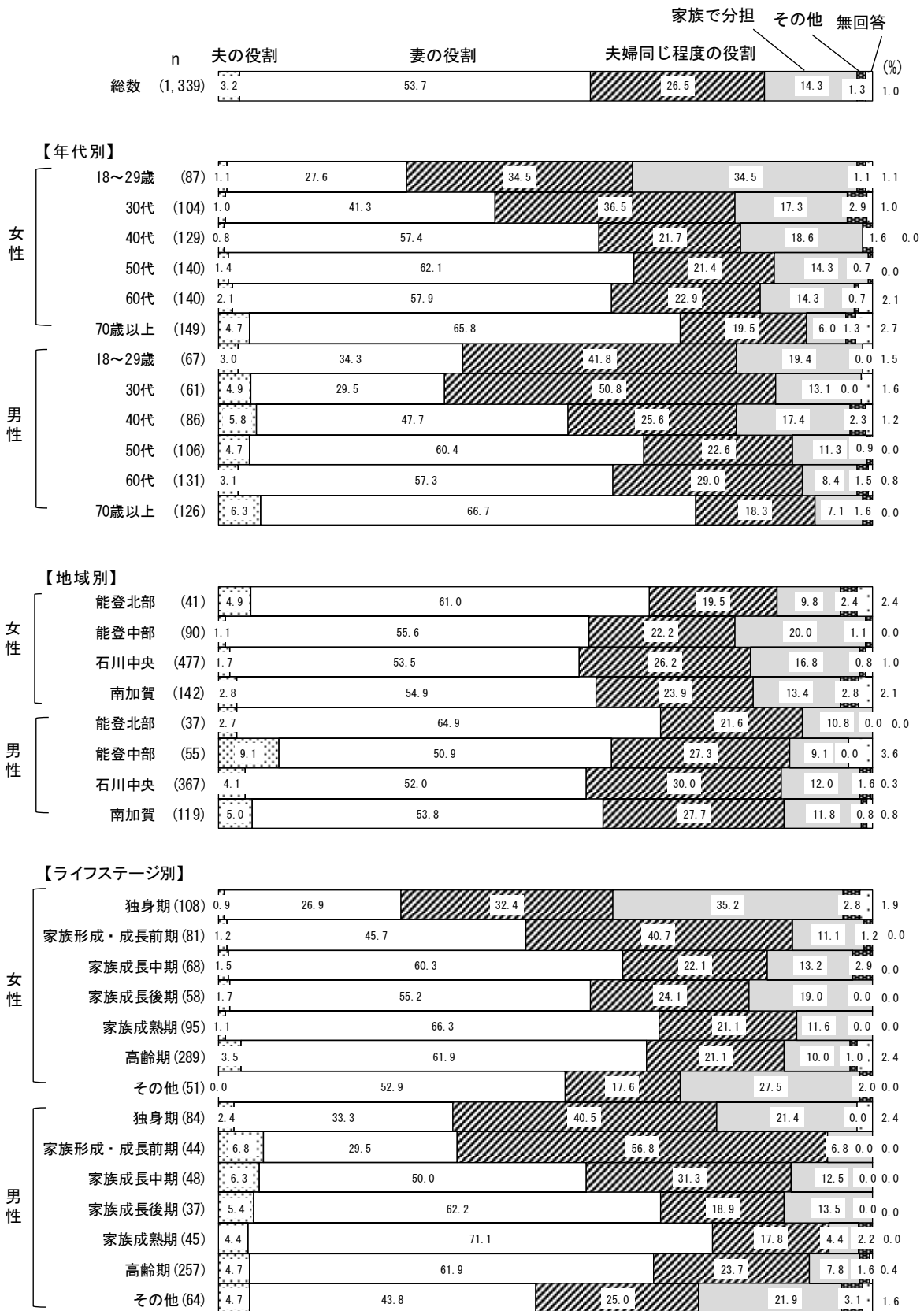
男性においても、『妻の役割』は能登北部（64.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は石川中央（30.0%）で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』が家族成熟期（66.3%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（40.7%）で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』が家族成熟期（71.1%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（56.8%）で最も多くなっている。また、男女ともに独身期と男性の家族形成・成長前期では『妻の役割』よりも「夫婦同じ程度の役割」が多くなっている。

図2-6 家庭における役割 (e) 掃除は(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(f) ごみ出しは

【年代別】

女性では、『夫の役割』は30代(32.7%)で最も多くなっている。『妻の役割』は50代(52.1%)が最も多く、18～29歳(12.6%)で最も少ない。「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳(29.9%)で『夫の役割』(20.7%)、『妻の役割』(12.6%)よりも多くなっている。

男性では、『夫の役割』は70歳以上(48.4%)で最も多く、『妻の役割』は50代(32.1%)で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳(38.8%)で、『夫の役割』(25.4%)、『妻の役割』(17.9%)よりも多くなっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は南加賀(26.1%)で最も多く、『妻の役割』は能登北部(41.5%)で最も多くなっている。

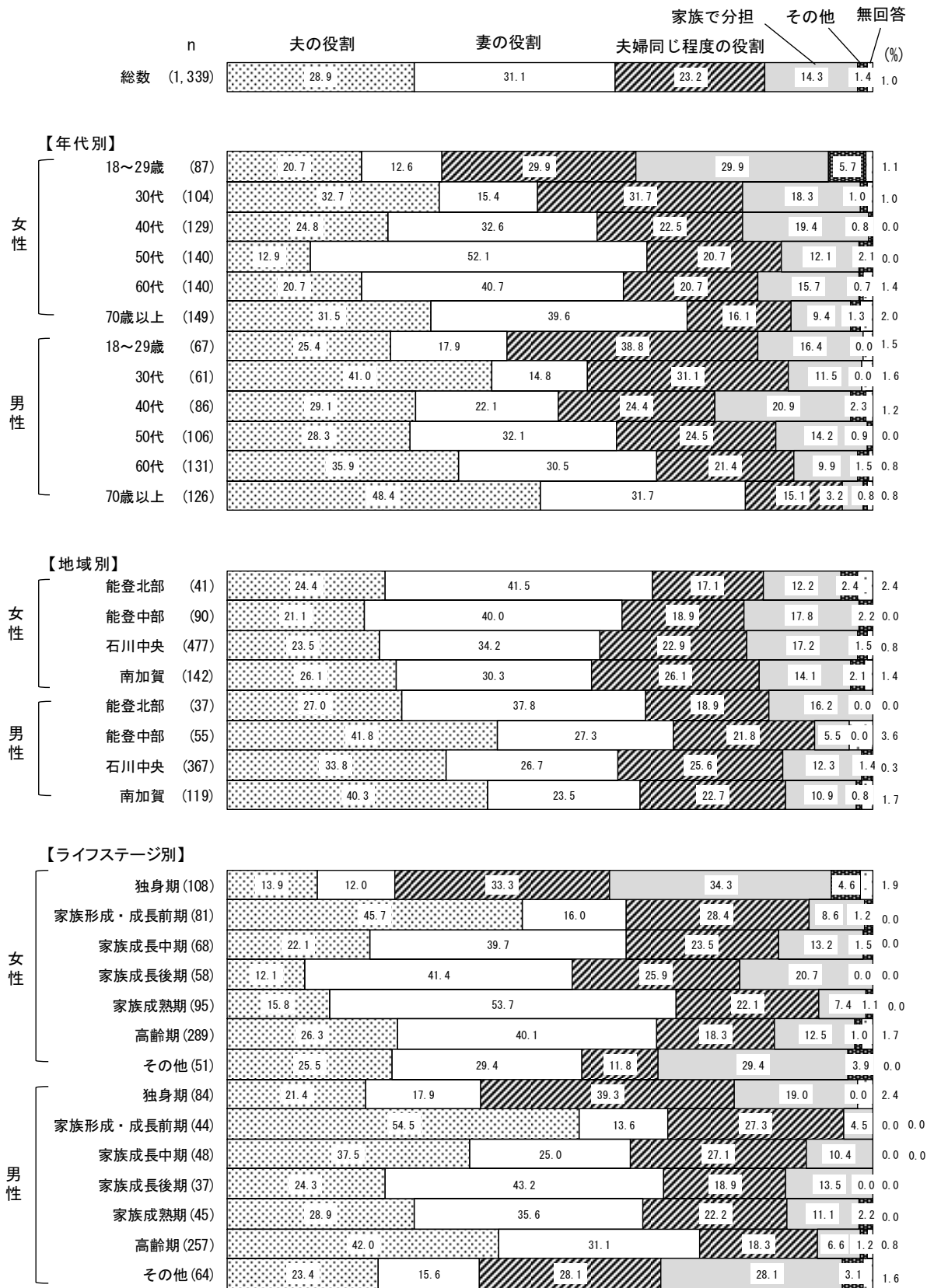
男性では、『夫の役割』は能登中部(41.8%)で最も多く、『妻の役割』は能登北部(37.8%)で最も多くなっている。「夫婦同程度の役割」は石川中央(25.6%)が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『夫の役割』は家族形成・成長前期(45.7%)で最も多く、『妻の役割』は家族成熟期(53.7%)で最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は家族形成・成長前期(54.5%)で最も多く、『妻の役割』は家族成長後期(43.2%)で最も多くなっている。また、男女ともに「夫婦同じ程度の役割」は独身期で最も多く、それぞれの『夫の役割』、『妻の役割』よりも多くなっている。

図2-7 家庭における役割 (f) ごみ出しは(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(g) 日常の買い物は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は18～29歳（47.1%）を除いて6割以上となっている。

男性では、18～29歳と30歳で『妻の役割』が4割前後とそれ以外の年代より少ない一方で、「夫婦同じ程度の役割」と「家族で分担」の合計は、他の年代より多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は能登中部（73.3%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は南加賀（24.6%）で最も多くなっている。

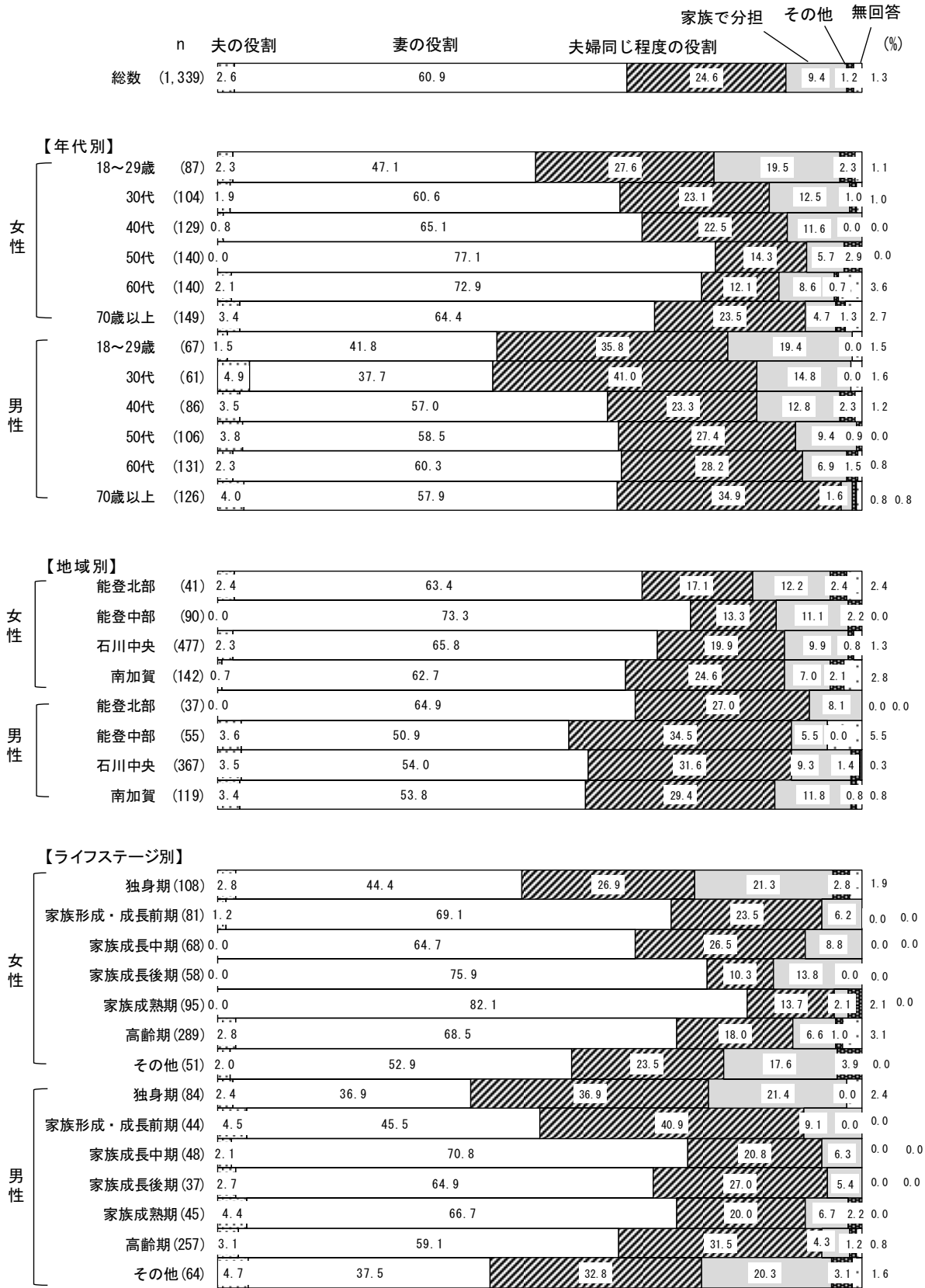
男性では、『妻の役割』は能登北部（64.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は能登中部（34.5%）が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成熟期（82.1%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は独身期（26.9%）で最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は家族成長中期（70.8%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期（40.9%）が最も多くなっている。

図2-8 家庭における役割 (g) 日常の買い物は(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(h) 高額商品の購入の決定は

【年代別】

女性では、『夫の役割』は70歳以上（37.6%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（52.9%）、30代（52.9%）、50代（50.0%）で5割以上となっている。

男性では、『夫の役割』は60代（36.6%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は40代（53.5%）で最も多く、40代以下ではすべての年代で5割以上となっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は能登北部（34.1%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」は南加賀（48.6%）で最も多くなっている。

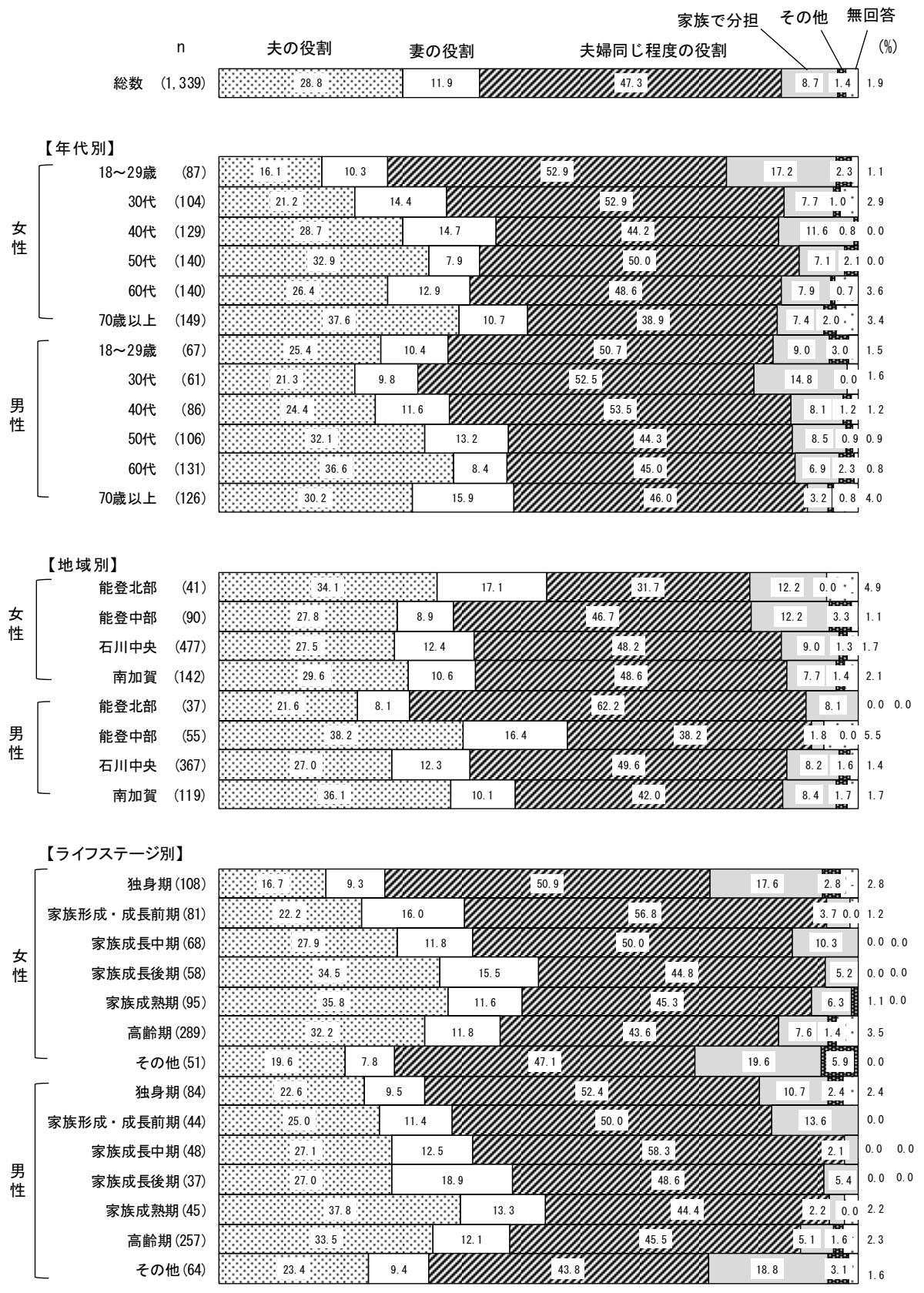
男性では、『夫の役割』は能登中部（38.2%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では能登北部（62.2%）で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『夫の役割』は家族成熟期（35.8%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は、家族形成・成長前期（56.8%）で最も多くなっている。

男性では、『夫の役割』は家族成熟期（37.8%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は、家族成長中期（58.3%）が最も多くなっている。

図2-9 家庭における役割 (h) 高額商品の購入の決定は (年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(i) 高齢者や病身者の介護や看護は

【年代別】

女性では、『妻の役割』は60代(49.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代(47.1%)が最も多くなっている。

男性においても、『妻の役割』は60代(44.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は30代(55.7%)が最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は能登北部(51.2%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は能登中部(30.0%)で最も多くなっている。

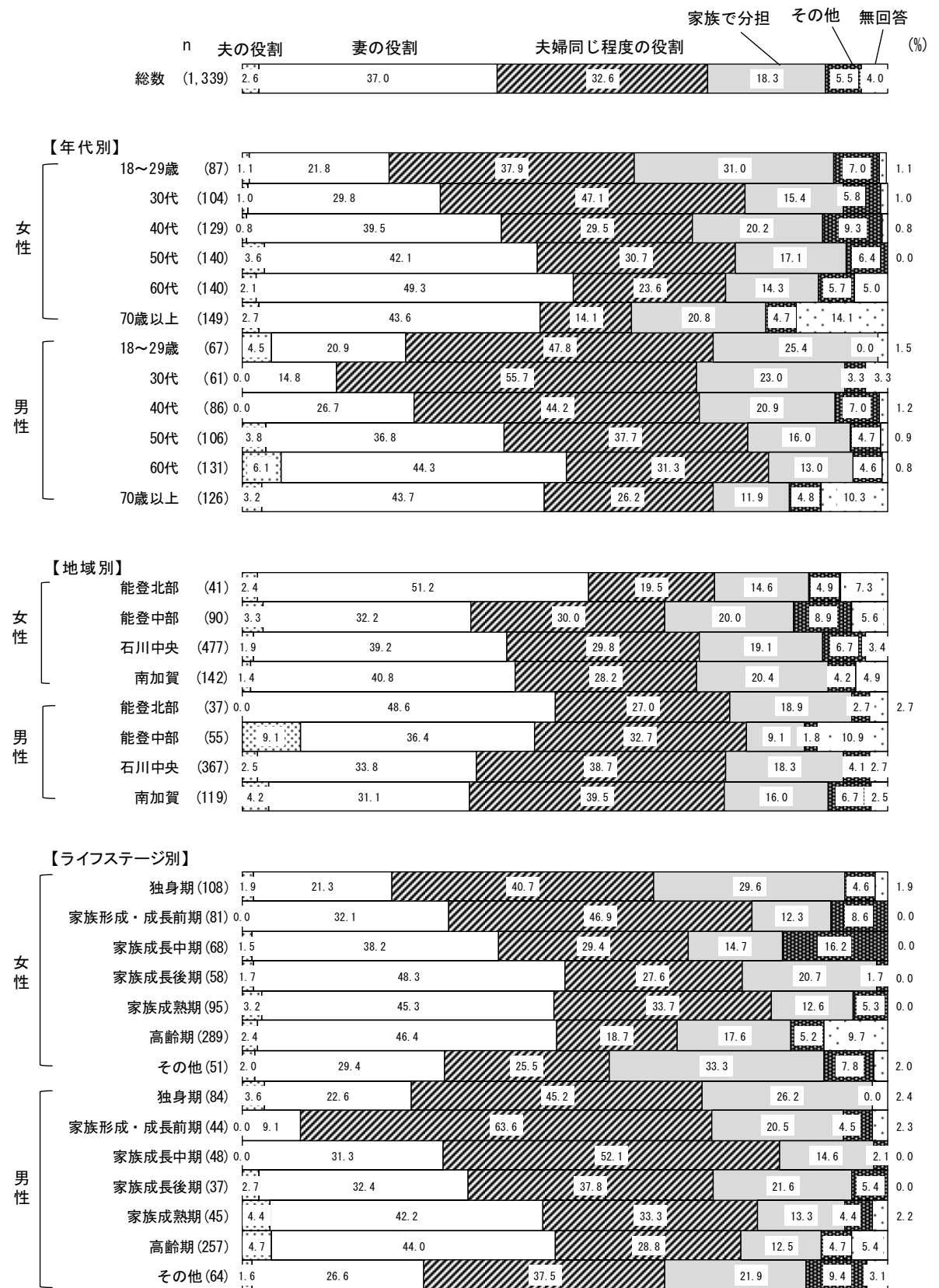
男性では、『妻の役割』は能登北部(48.6%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は南加賀(39.5%)で最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成長後期(48.3%)で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長期(46.9%)が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は高齢期(44.0%)で最も多い一方で、家族形成・成長前期(9.1%)で最も少ない。「夫婦同じ程度の役割」は家族形成・成長前期(63.6%)が最も多くなっている。

図2-10 家庭における役割 (i) 高齢者や病身者の介護や看護は (年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(j) 育児・しつけは

【年代別】

女性では、『妻の役割』は50代（48.6%）を中心に年代が上がっても下がっても少なくなる傾向にある。『夫の役割』は40代以外のすべての年代で0.0%となっている。

男性では、『妻の役割』は70歳以上（44.4%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（55.2%）で最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『妻の役割』は石川中央（42.8%）が最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では南加賀（46.5%）が最も多くなっている。

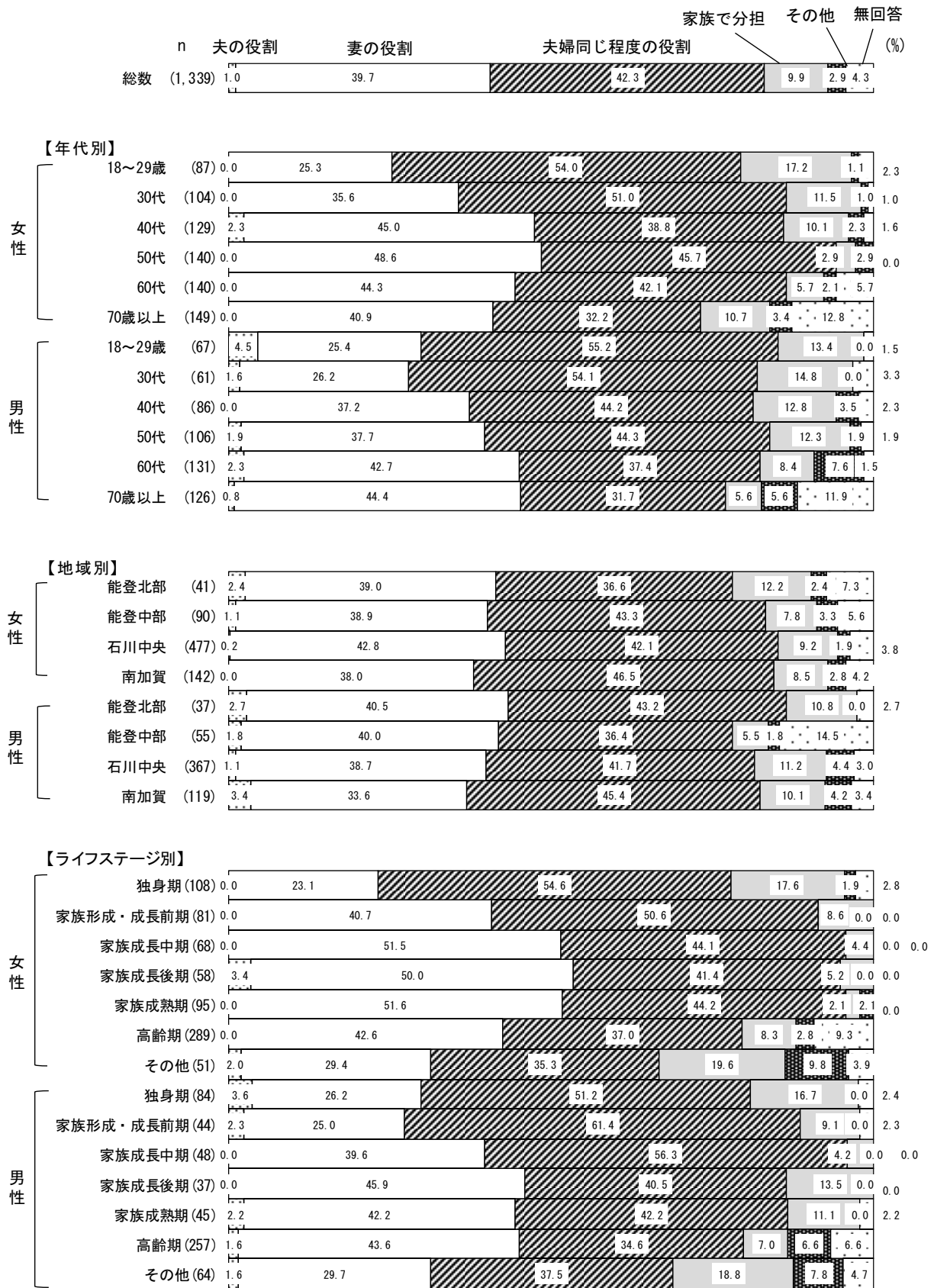
男性では、『妻の役割』は能登北部（40.5%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では南加賀（45.4%）が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、独身期と家族形成・成長前期で『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」が多くなっている。

男性では、独身期、家族形成・成長前期、家族成長中期で『妻の役割』より「夫婦同じ程度の役割」が多くなっており、特に未就学児がいる家族形成・成長前期では2倍以上となっている。

図2-11 家庭における役割 (j) 育児・しつけは(年代別、地域別、ライフステージ別)



家庭における役割

(k) P T Aや地域活動への参加は

【年代別】

女性では、「夫婦同じ程度の役割」は18～29歳（54.0%）が最も多く、『妻の役割』は18～29歳（18.4%）で最も低くなっている。

男性では、『夫の役割』は60代（21.4%）で最も多く、『妻の役割』は40代（39.5%）で、「夫婦同じ程度の役割」は30代（52.5%）が最も多くなっている。

【地域別】

女性では、『夫の役割』は能登中部（13.3%）で最も多く、『妻の役割』は石川中央（41.5%）で最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」では能登北部（48.8%）が最も多い。

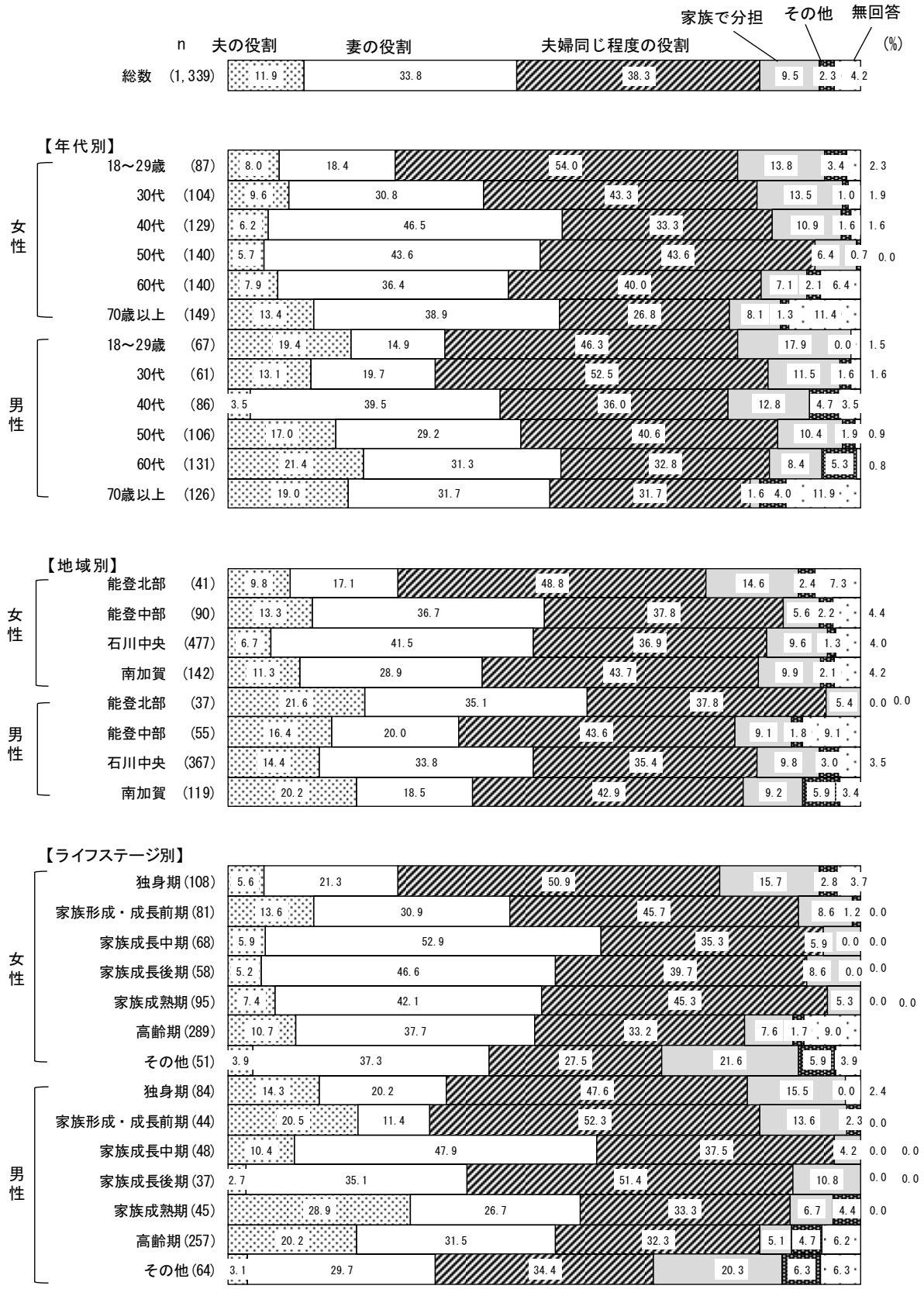
男性では、『夫の役割』は能登北部（21.6%）で最も多く、『妻の役割』も能登北部（35.1%）が最も多くなっている。「夫婦同じ程度の役割」能登中部（43.6%）が最も多くなっている。

【ライフステージ別】

女性では、『妻の役割』は家族成長中期（52.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」は独身期（50.9%）が最も多くなっている。

男性では、『妻の役割』は女性と同じく家族成長中期（47.9%）で最も多く、「夫婦同じ程度の役割」では、家族形成・成長前期（52.3%）が最も多くなっている。

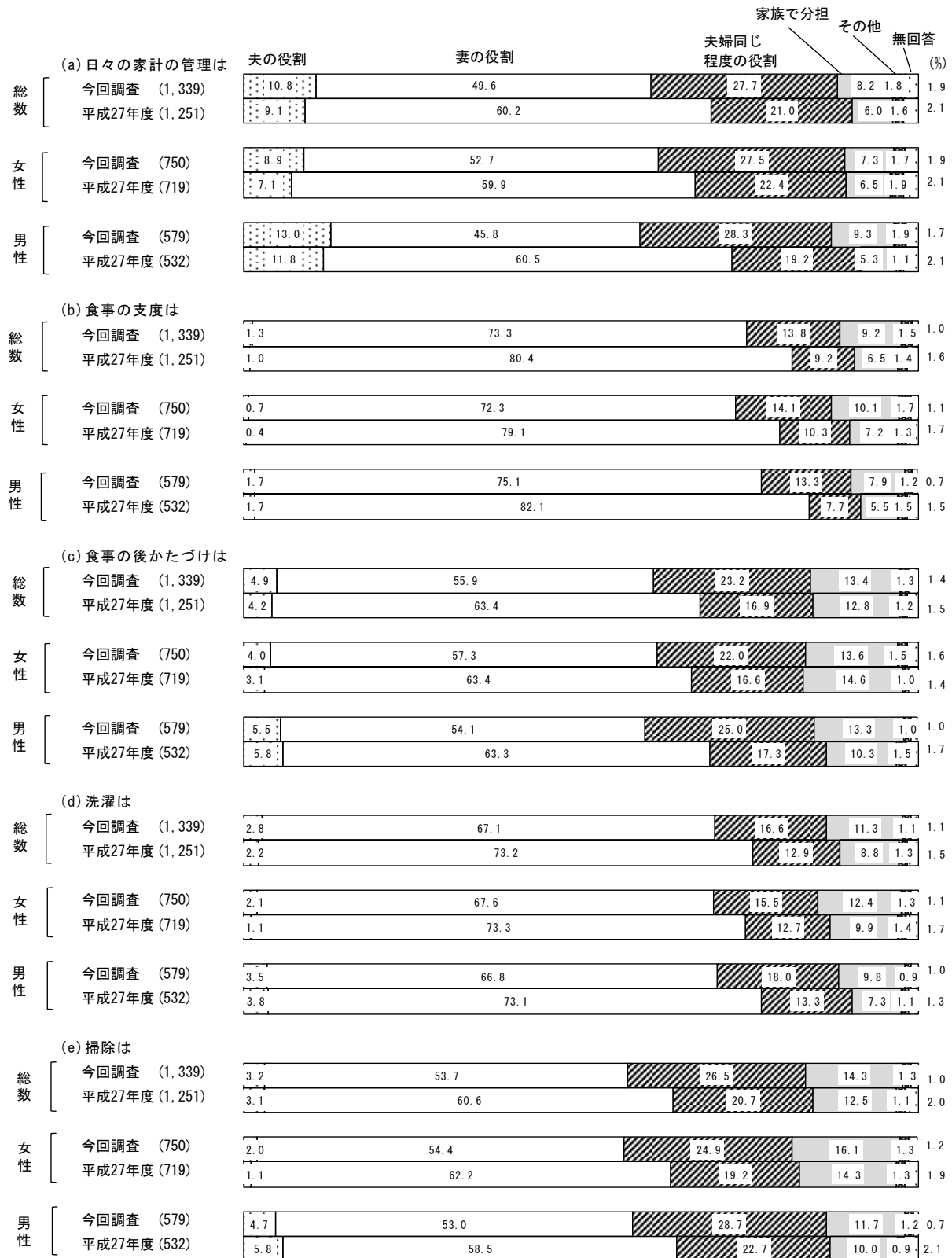
図2-12 家庭における役割 (k) P T Aや地域活動への参加は (年代別、地域別、ライフステージ別)

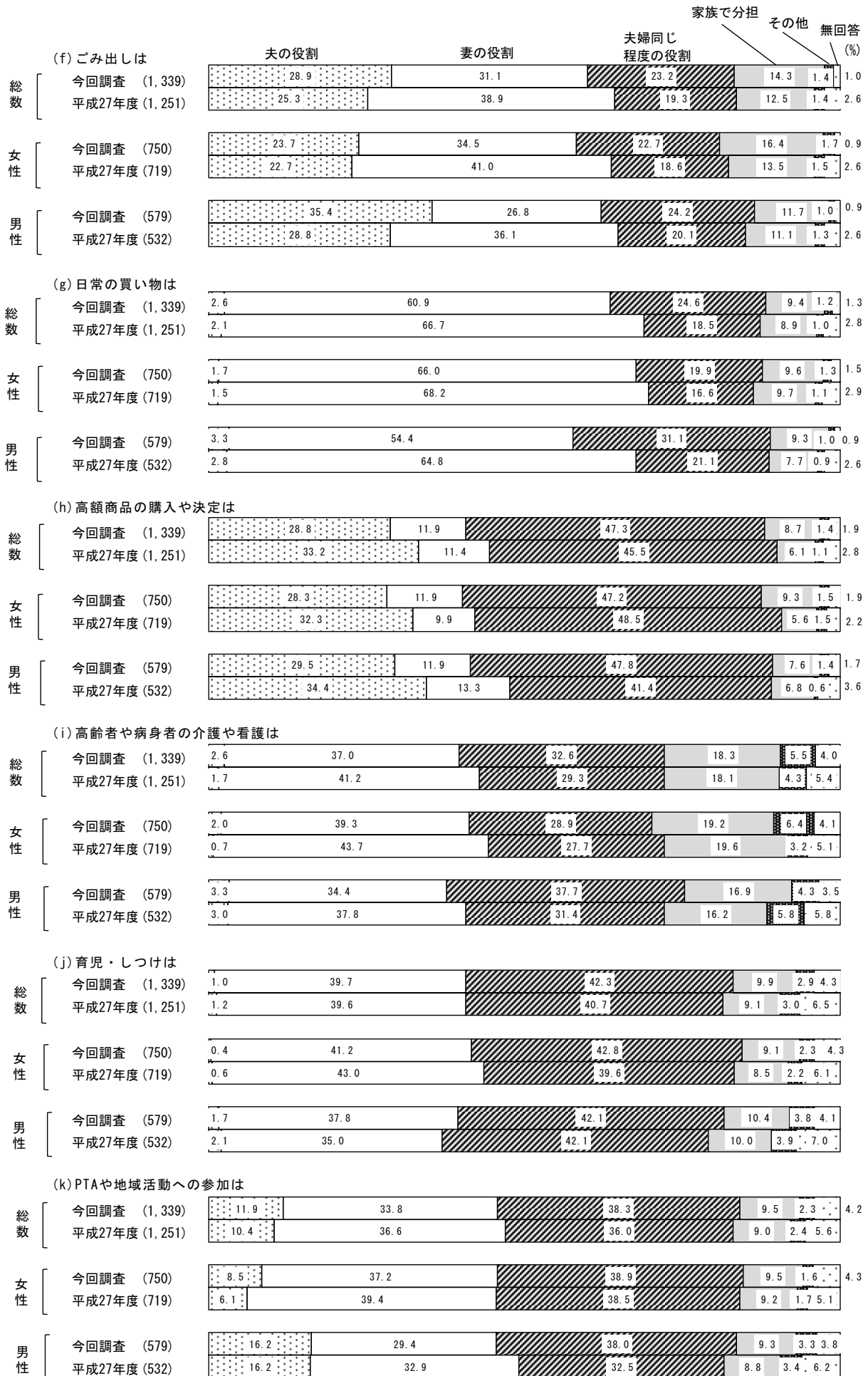


【平成27年度調査との比較】

“ (h) 高額商品の購入の決定は”、“(j) 育児・しつけは”を除く全ての項目で『妻の役割』が前回調査から減少し、「夫婦同じ程度の役割」が全ての項目で増加している。

図2-13 家庭における役割（平成27年度調査との比較）





2 「男は仕事、女は家庭」という考え方

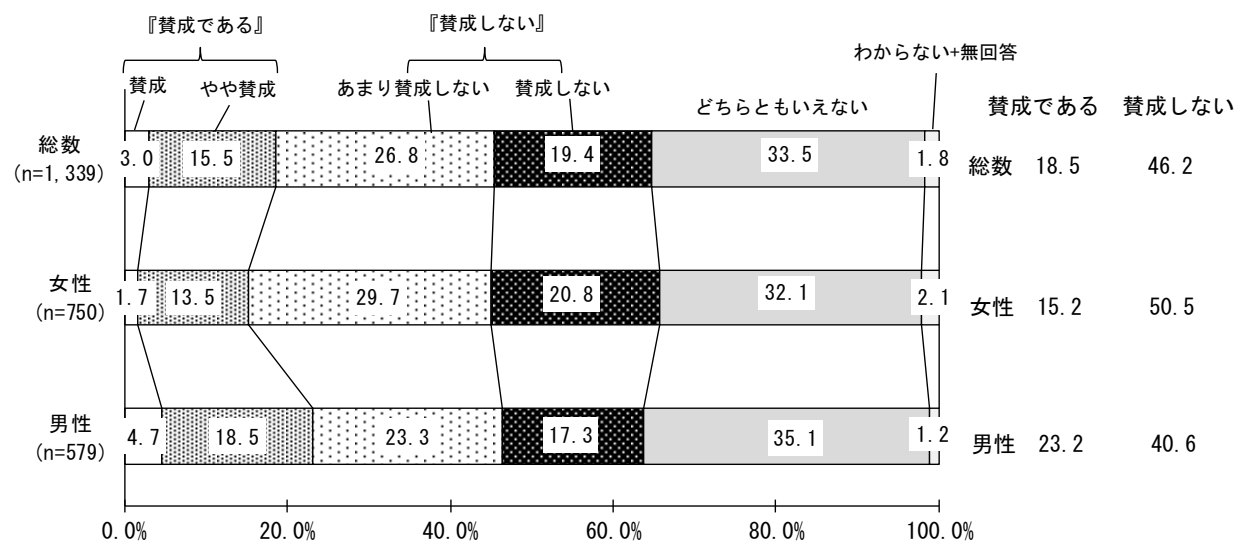
問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思いますか。(○は1つだけ)

全体では、「賛成」(3.0%)、「やや賛成」(15.5%)を合わせて『賛成である(計)』は18.5%となっている。一方、「あまり賛成しない」(26.8%)、「賛成しない」(19.4%)を合わせた『賛成しない(計)』は46.2%となり『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を27.7ポイント上回っている。「どちらともいえない」は33.5%となっている。

女性では、『賛成である(計)』は15.2%、『賛成しない(計)』は50.5%となり、『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を35.3ポイント上回った。

男性では、『賛成である(計)』は23.2%、『賛成しない(計)』は40.6%となり、『賛成しない(計)』が『賛成である(計)』を17.4ポイント上回っている。

図3-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方 (性別)



※『賛成である (計)』は調査票選択肢の「賛成」と「やや賛成」を合計したもの。
 『賛成しない (計)』は調査票選択肢の「賛成しない」と「あまり賛成しない」を合計したもの。以降の頁も同様。

「男は仕事、女は家庭」という考え方

【年代別】

女性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。18～29歳で『賛成しない（計）』（75.9%）が『賛成である（計）』（4.6%）を71.3ポイント上回っている。『賛成しない（計）』は70歳以上（37.6%）が最も少なくなっている。

男性では、70歳以上が唯一『賛成である（計）』（34.1%）が『賛成しない（計）』（28.5%）を上回っている。30代で最も『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を大きく上回っており、42.6ポイント差となっている。

【地域別】

女性では、能登北部で『賛成しない（計）』（51.2%）が『賛成である（計）』（12.2%）を39.0ポイント上回り、最も差が大きい。他の地域でも差は30ポイント台となっている。

男性では、どの地域でも『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っており、その差は10ポイント台となっている。

【未既婚別】

女性では、全ての層で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。『賛成である（計）』は未婚（6.0%）で最も少なくなっている。

男性では、離死別以外で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。離死別では『賛成しない（計）』と『賛成である（計）』が同率（30.8%）となっている。

【職業別】

女性では、全ての層で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。『賛成である（計）』は勤め人（11.7%）で最も少なくなっている。

男性では、全ての層で『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回っている。『賛成である（計）』は勤め人（21.4%）で最も少なくなっている。

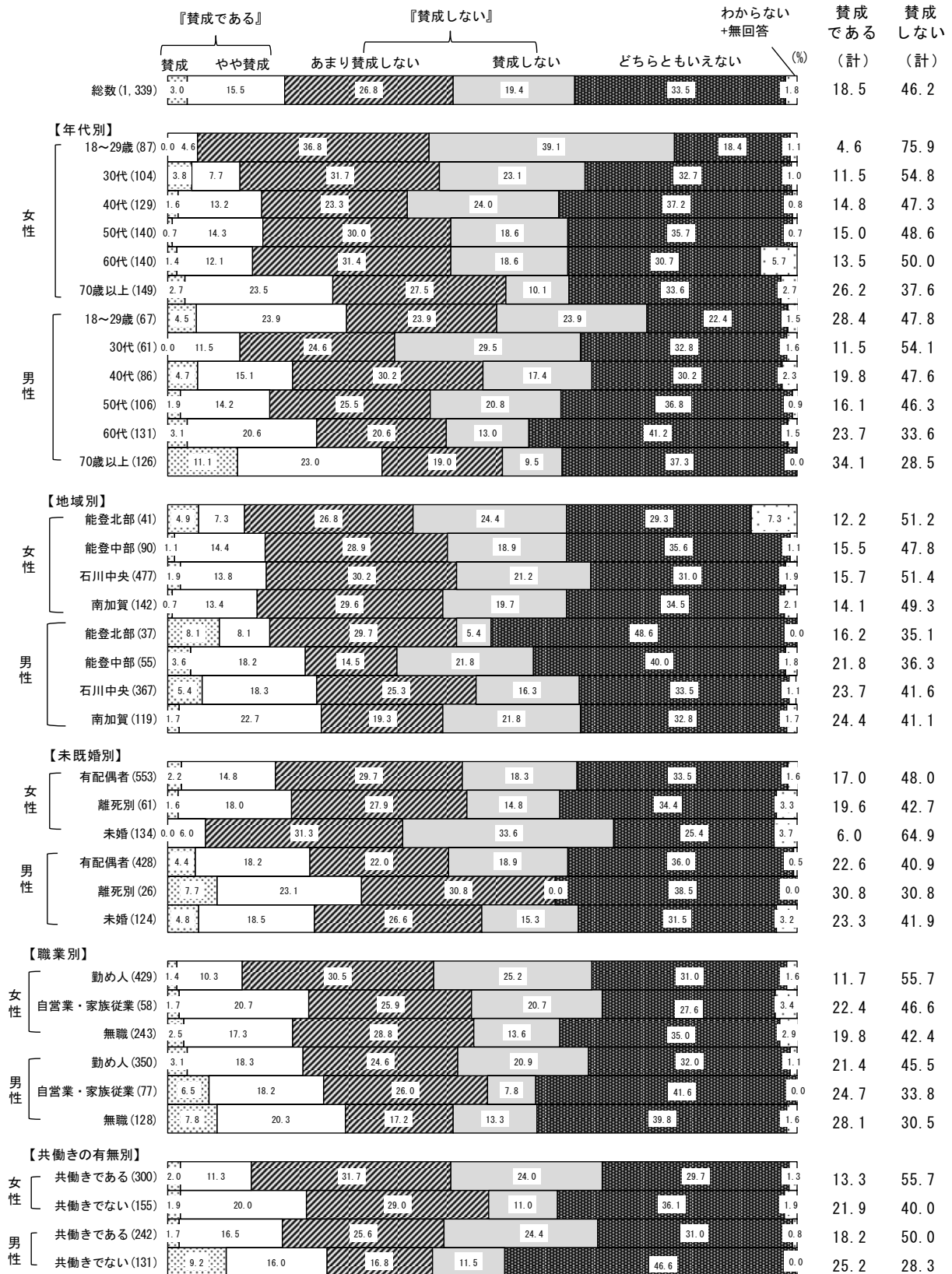
【共働きの有無別】

女性では、共働きの場合は、『賛成しない（計）』（55.7%）が『賛成である（計）』（13.3%）を42.4ポイント上回り、共働きでない場合は、18.1ポイント上回っている。

男性では、共働きの場合は、『賛成しない（計）』（50.0%）が『賛成である（計）』（18.2%）を31.8ポイント上回り、共働きでない場合は、3.1ポイント上回っている。

図3-2 「男は仕事、女は家庭」という考え方

(年代別、地域別、未既婚別、職業別、共働きの有無別)

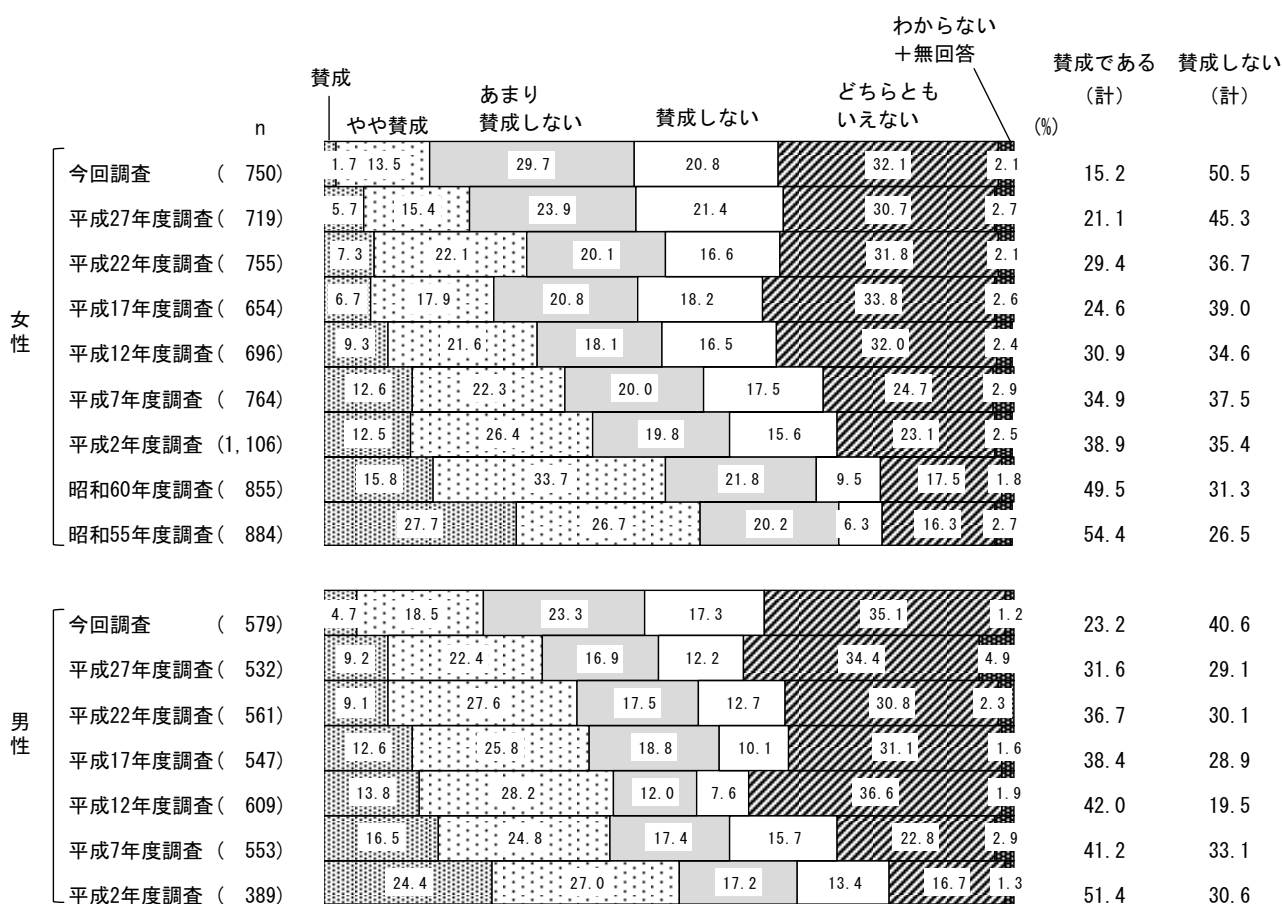


【経年比較】

過去の調査結果と比較すると、女性では、『賛成である（計）』は昭和55年度から減少傾向にあり、今回調査でも引き続き減少している。平成2年度までは、『賛成である（計）』が『賛成しない（計）』を上回っていたが、平成7年度以降は『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、その差は今回調査で35.3ポイントと最も大きくなった。

男性では、『賛成である（計）』は平成12年度以降減少を続け、今回調査では23.2%と最も小さくなった。今回調査で、初めて『賛成しない（計）』が『賛成である（計）』を上回り、その差は今回調査で17.4ポイントとなった。

図3-3 「男は仕事、女は家庭」という考え方 経年比較

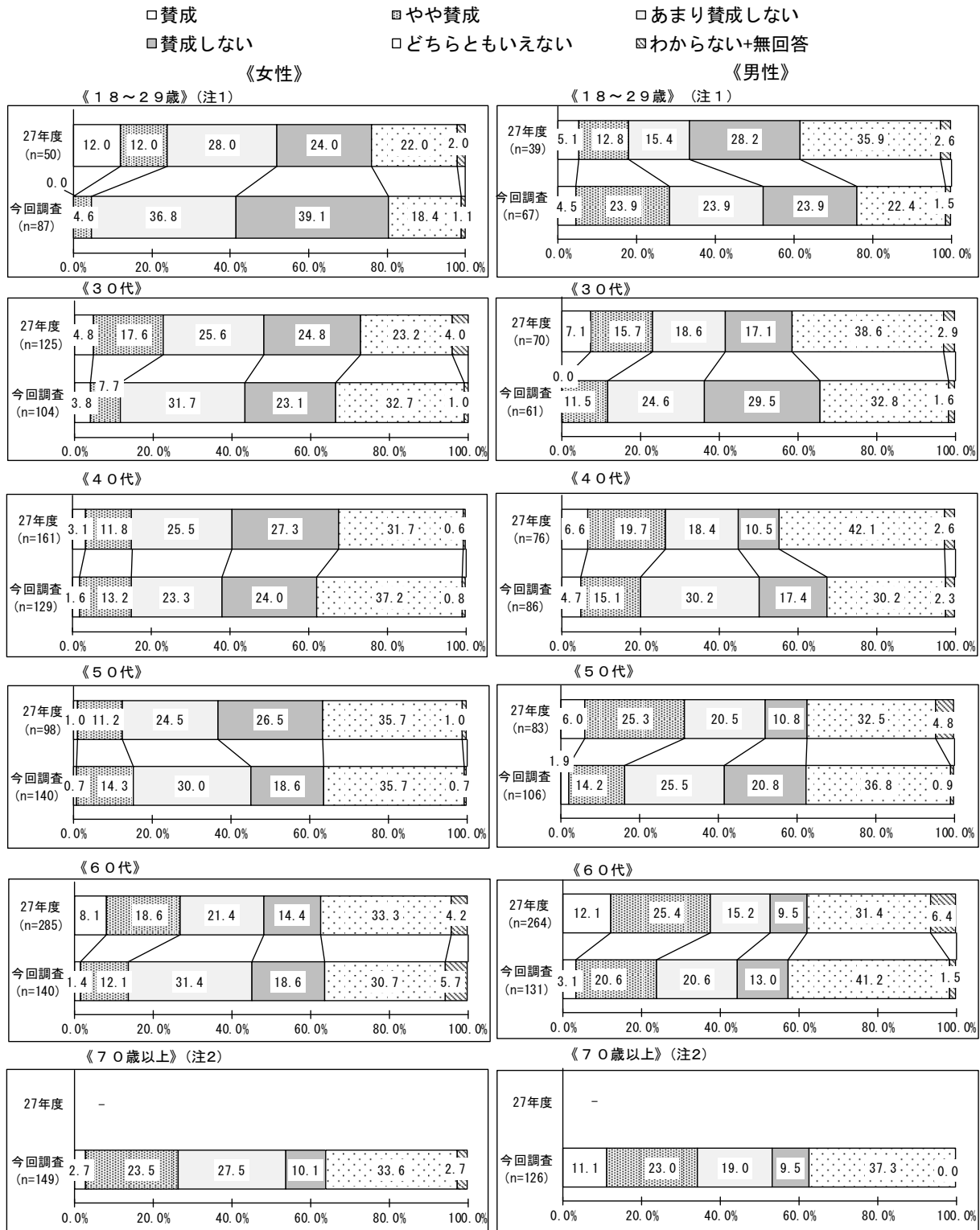


【平成27年度調査との年代別比較】

年代別に比較すると、女性では、18～29歳で『賛成しない（計）』が大幅に増加した（23.9ポイント）。40代、50代は『賛成しない（計）』が減少した。

男性では、全ての年代で『賛成しない（計）』が増加し、『賛成である（計）』は18～29歳が10.5ポイント増加している。

図3-4 「男は仕事、女は家庭」という考え方（平成27年度調査との年代別比較）



(注1) これまでの調査では対象年齢を「満20歳以上」としていたが、今回調査より「満18歳以上」としたため、平成27年度調査の結果に「18～19歳」は含まれない。

(注2) 今回の調査より、これまで「60歳以上」としていた年齢層の区分を「60歳代」「70歳以上」と分けたため、「70歳以上」の比較はできない。

3 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由

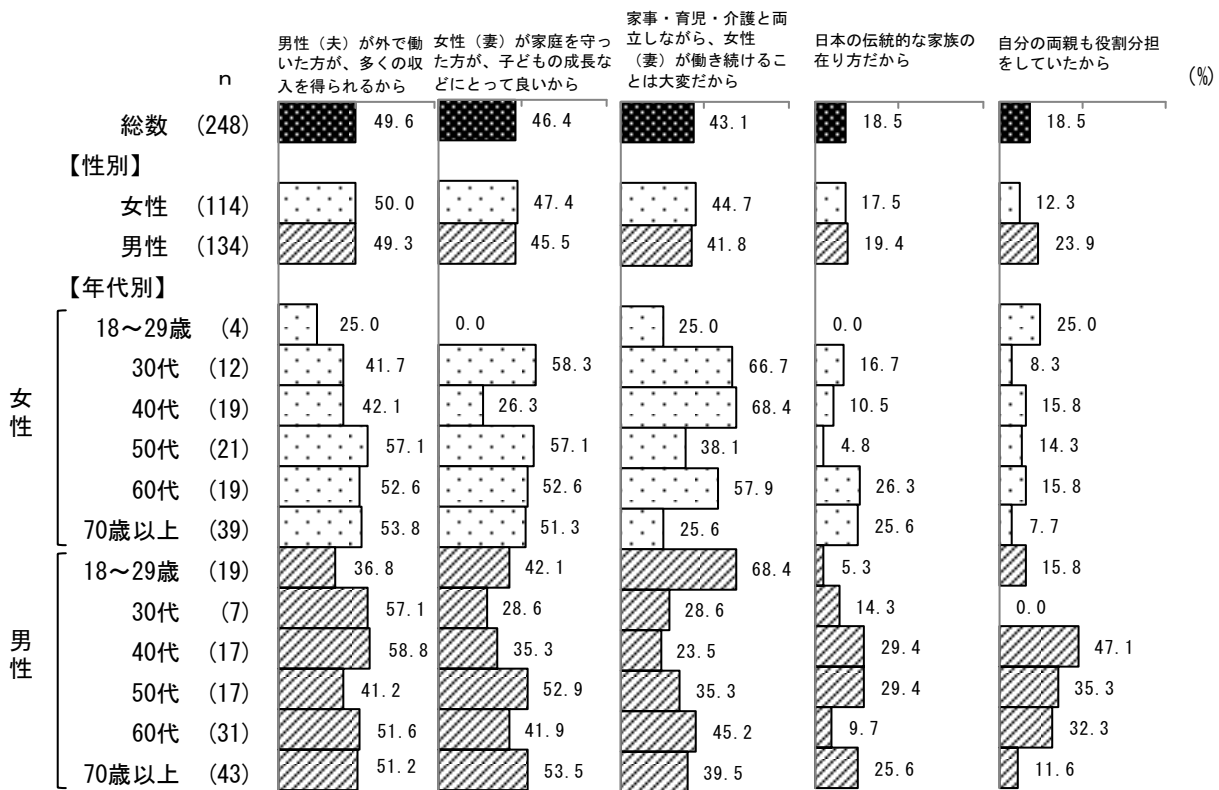
(問3で1または2に○をつけた方にお聞きします。)

問3-1 そう思うのはなぜですか。(○はいくつでも) [今年度新規調査項目]

【性別】
 多くの項目で目立った差は見られないが、「自分の両親も役割分担をしていたから」では女性(12.3%)より男性(23.9%)の方が11.6ポイント多くなっている。

【年代別】
 女性では、「家事・育児・介護と両立しながら、女性(妻)が働き続けることは大変だから」が30代(66.7%)と40代(68.4%)で6割を超え、他の年代より多くなっている一方で、男性では、18~29歳(68.4%)が唯一6割を超え、他の年代より多くなっている。

図 3-1-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に賛成する理由 (年代別)



4 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由

(問3で4または5に○をつけた方にお聞きします。)

問3-2 そう思うのはなぜですか。(○はいくつでも) [今年度新規調査項目]

【性別】

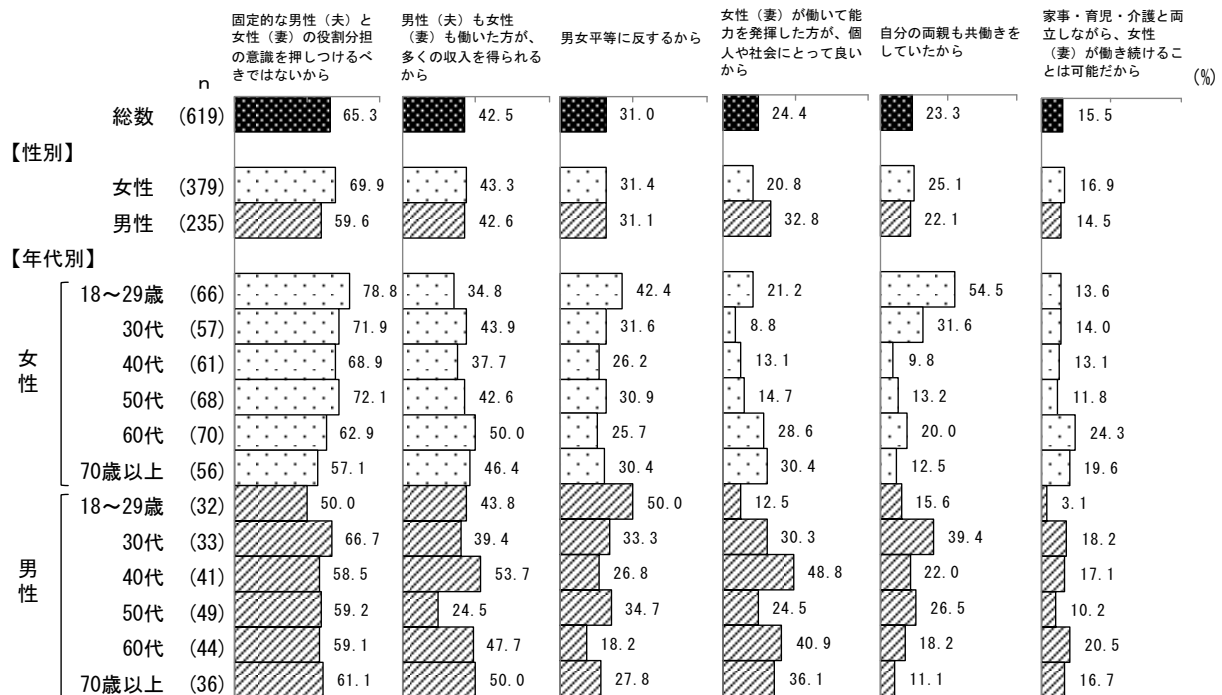
「固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が女性(69.9%)、男性(59.6%)ともに最も多く、女性の方が10.3ポイント多くなっている。また、男女の差が最も大きいのは、「女性(妻)が働いて能力を發揮した方が、個人や社会にとって良いから」で、男性の方が12.0ポイント多くなっている。

【年代別】

女性では、全ての年代で「固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。18~29歳で「自分の両親も共働きをしていたから」(54.5%)が5割を超え、他の年代より多くなっている。

男性においても、全ての年代で「固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから」が最も多かった。18~29歳で「男女平等に反するから」(50.0%)が5割と、他の年代より多くなっている。

図3-2-1 「男は仕事、女は家庭」という考え方に反対する理由(年代別)



5 男性が家事・育児を行うことのイメージ

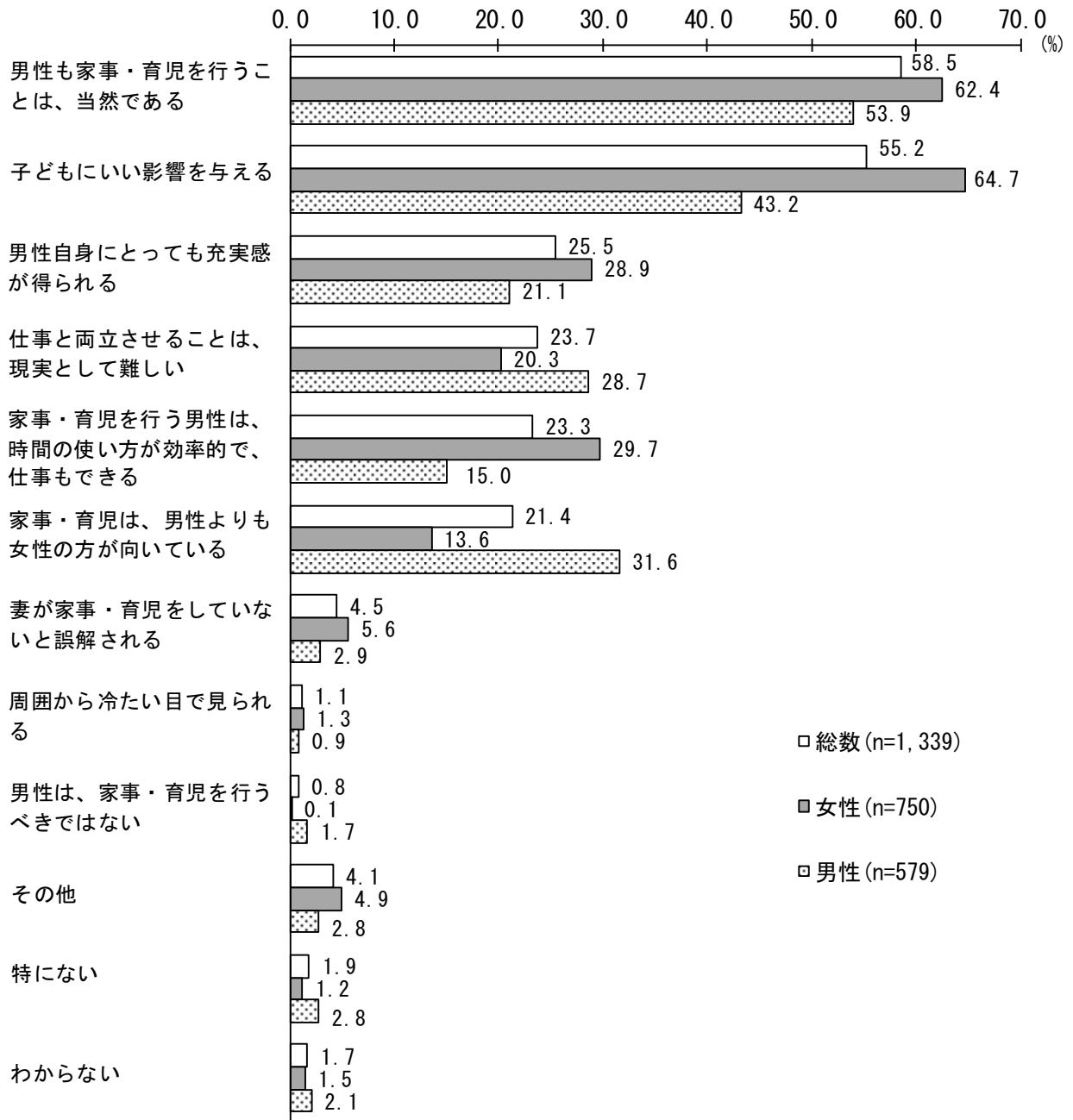
問4 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。
(〇はいくつでも) [今年度新規調査項目]

全体では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(58.5%)が最も多く、次いで「子どもにいい影響を与える」(55.2%)が続いている。他は半数を下回っている。

女性では「子どもにいい影響を与える」が最も多く(女性64.7%、男性43.2%)、男性では「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(女性62.4%、男性53.9%)が最も多くなっている。

男女の差が大きいものとしては、「子どもにいい影響を与える」(21.5ポイント差)が女性のポイントが高い一方で、「家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている」(18.0ポイント差)は男性のポイントが高くなっている。

図4-1 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧（性別）



男性が家事・育児を行うことのイメージ

【年代別】

女性では、「子どもにいい影響を与える」で30代(76.9%)、50代(62.9%)、70歳以上(49.7%)がそれぞれで最も多い。

男性では、「男性も家事・育児を行うことは、当然である」で70歳以上を除き、いずれの年代でも最も多く、「家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている」で70歳以上(50.8%)が最も多くなっている。

【未既婚別】

女性では、「子どもにいい影響を与える」で有配偶者(64.4%)、未婚(67.9%)がそれぞれ最も多くなっている。離死別では「男性も家事・育児を行うことは、当然である」(63.9%)が最も多くなっている。

男性では、「子どもにいい影響を与える」で離死別(65.4%)が最も多くなっている。「男性も家事・育児を行うことは、当然である」で有配偶者(52.1%)、未婚(59.7%)がそれぞれ最も多くなっている。

【共働きの有無別】

女性では、共働きの有無にかかわらず「子どもにいい影響を与える」が最も多くなっている。

男性では、共働きの有無にかかわらず「男性も家事・育児を行うことは、当然である」が最も多くなっている。

図4-2 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧

(年代別、未既婚別、共働きの有無別)

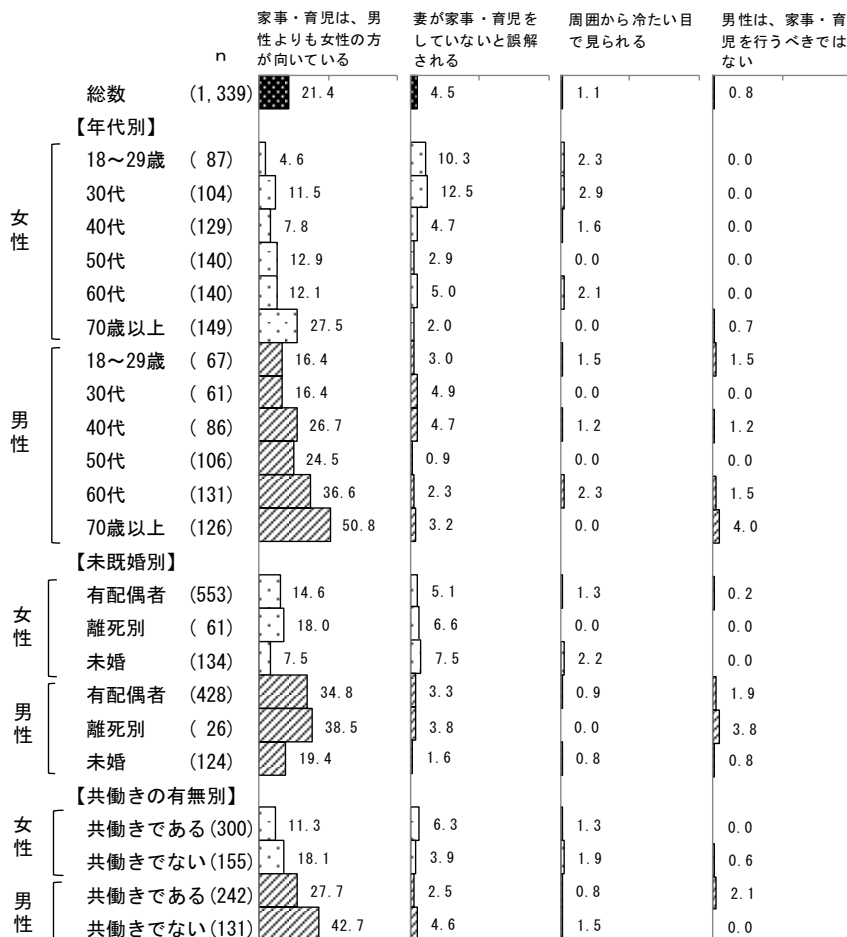
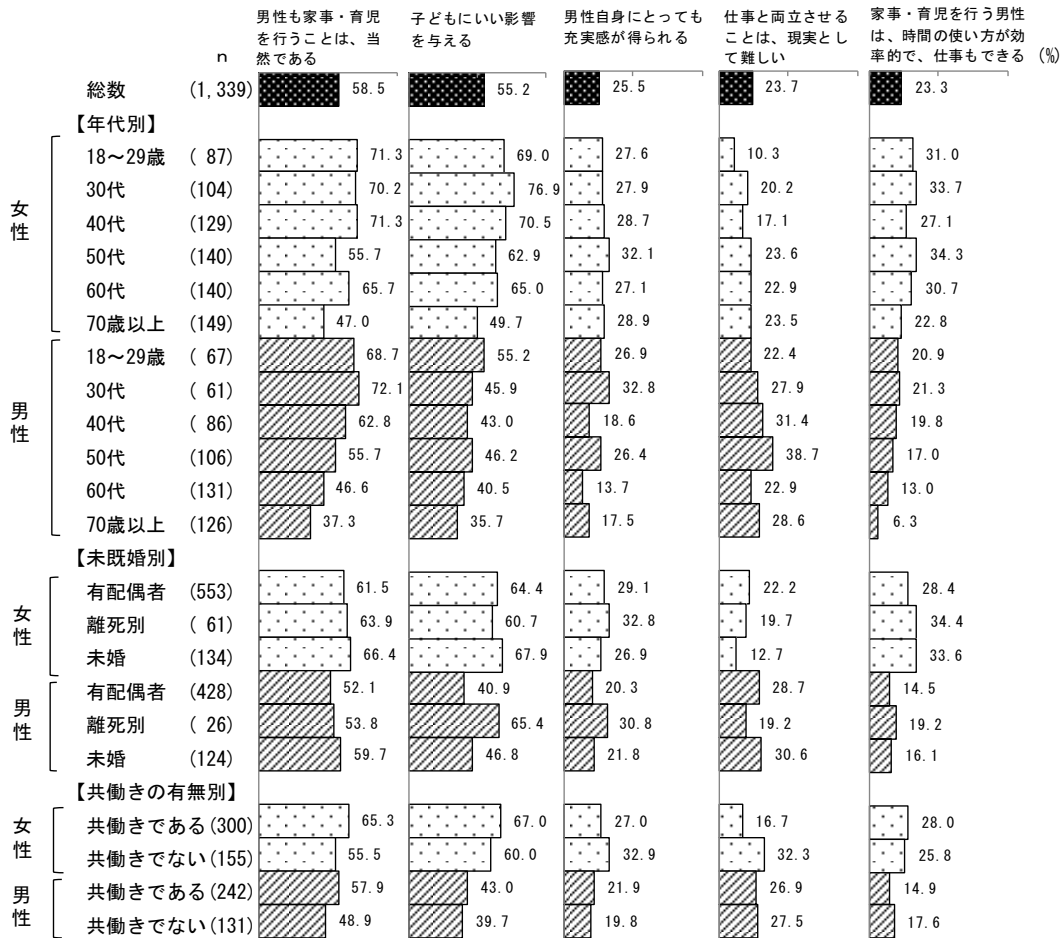


図4-3 男性が家事・育児を行うことのイメージ 項目別一覧（性・地域別）

(単位：%)

		サンプル数	男性も家事・育児を行うことは、当然である	子どもにいい影響を与える	男性自身にも充実感が得られる	仕事と両立させることは、現実として難しい	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる	家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている	妻が家事・育児をしている	周囲から冷たい目で見られる	男性は、家事・育児を行うべきではない	その他	特にな	わからない	
全体		1,339	58.5	55.2	25.5	23.7	23.3	21.4	4.5	1.1	0.8	4.1	1.9	1.7	
性×地域別	女性	能登北部	41	65.9	58.5	22.0	19.5	29.3	7.3	7.3	0.0	0.0	7.3	2.4	4.9
		能登中部	90	55.6	58.9	30.0	17.8	25.6	18.9	3.3	2.2	0.0	7.8	1.1	1.1
		石川中央	477	62.5	64.8	27.9	20.8	28.7	15.3	5.9	1.3	0.2	4.2	0.6	0.8
		南加賀	142	65.5	69.7	33.8	20.4	35.9	6.3	5.6	1.4	0.0	4.9	2.8	2.8
	男性	能登北部	37	56.8	27.0	18.9	18.9	8.1	40.5	0.0	0.0	8.1	0.0	2.7	0.0
		能登中部	55	60.0	40.0	16.4	27.3	14.5	25.5	5.5	1.8	0.0	0.0	1.8	3.6
		石川中央	367	55.0	45.8	23.4	29.4	17.2	30.2	2.5	1.1	1.4	3.0	2.7	1.9
		南加賀	119	46.2	41.2	16.8	30.3	10.9	35.3	3.4	0.0	1.7	4.2	3.4	2.5

※グレーのセルは属性中トップの項目

6 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて

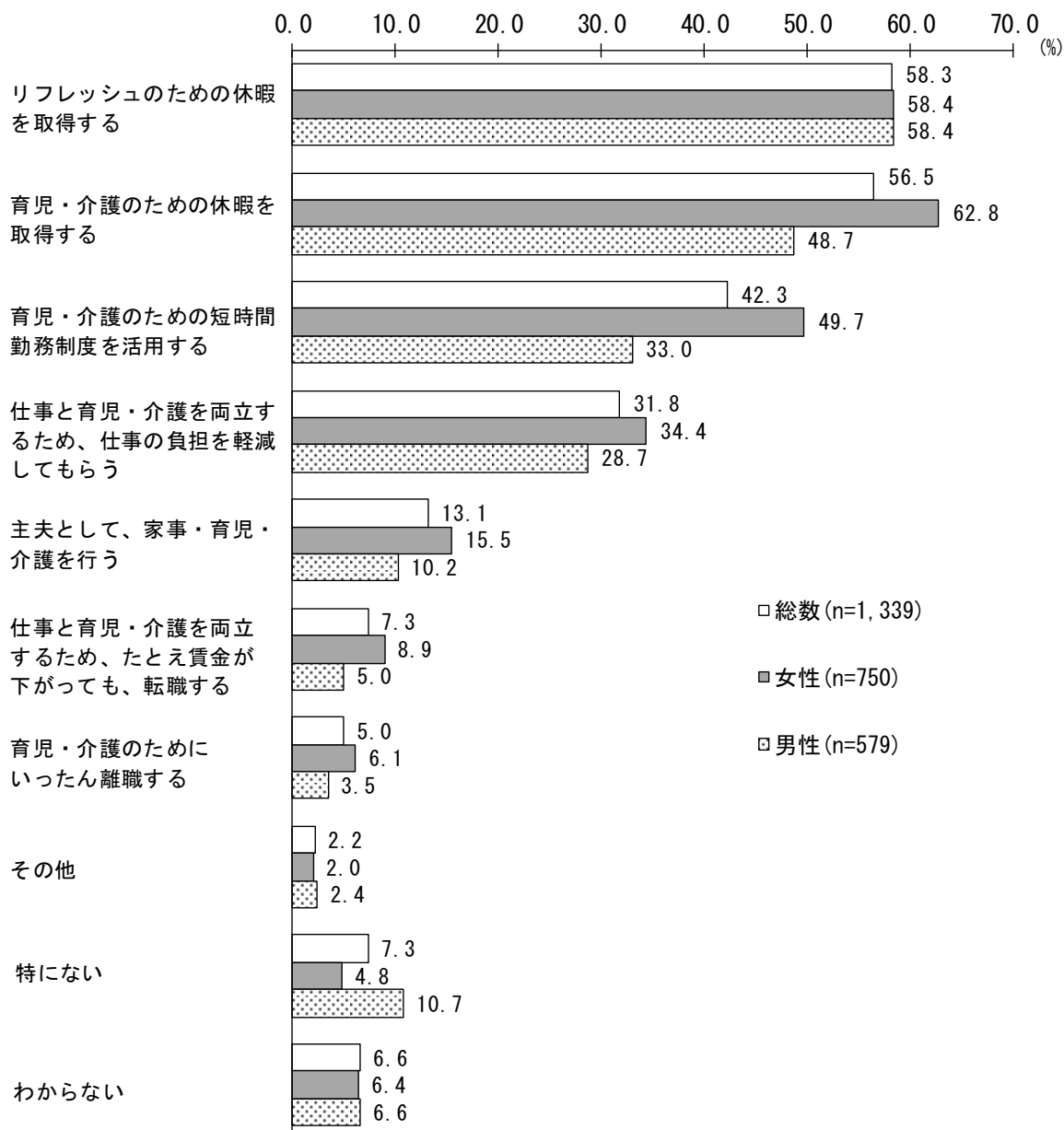
問5 男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。(〇はいくつでも) [今年度新規調査項目]

全体では、「リフレッシュのための休暇を取得する」(58.3%)が最も多く、次いで「育児・介護のための休暇を取得する」(56.5%)、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」(42.3%)、「仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう」(31.8%)が続いている。

女性では「育児・介護のための休暇を取得する」が最も多く(女性62.8%、男性48.7%)、男性では「リフレッシュのための休暇を取得する」(女性58.4%、男性58.4%)が最も多くなっている。

男女の差が大きいものとしては、「育児・介護のための短時間勤務制度を活用する」(16.7ポイント差)、「育児・介護のための休暇を取得する」(14.1ポイント差)で、女性のポイントが高くなっている。

図5-1 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて 項目別一覧(性別)



男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて

【年代別】

女性では、「リフレッシュのための休暇を取得する」で60代(45.0%)、70歳以上(38.3%)が他の年代よりも少なくなっており、他の項目も同様の傾向にある。「育児・介護のための休暇を取得する」が50代(70.7%)を除く全ての年代で最も多い。

男性では、「リフレッシュのための休暇を取得する」で60代(51.9%)、70歳以上(42.1%)で他の年代よりも少なくなっており、他の項目も同様の傾向にある。「育児・介護のための休暇を取得する」が18～29歳(73.1%)で最も多い。

【未既婚別】

女性では、未既婚等を問わず「育児・介護のための休暇を取得する」が最も多い。

男性では、「リフレッシュのための休暇を取得する」で離死別(69.2%)、有配偶者(57.2%)がそれぞれ最も多くなっている。未婚では「育児・介護のための休暇を取得する」(62.9%)が最も多くなっている。

【共働きの有無別】

女性では、「育児・介護のための休暇を取得する」で共働きである人(68.0%)が最も多くなっている。「リフレッシュのための休暇を取得する」で共働きでない人(58.1%)が最も多くなっている。

男性では、共働きの有無を問わず「リフレッシュのための休暇を取得する」が最も多い。

図5-2 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて 項目別一覧
(年代別、共働きの有無別)

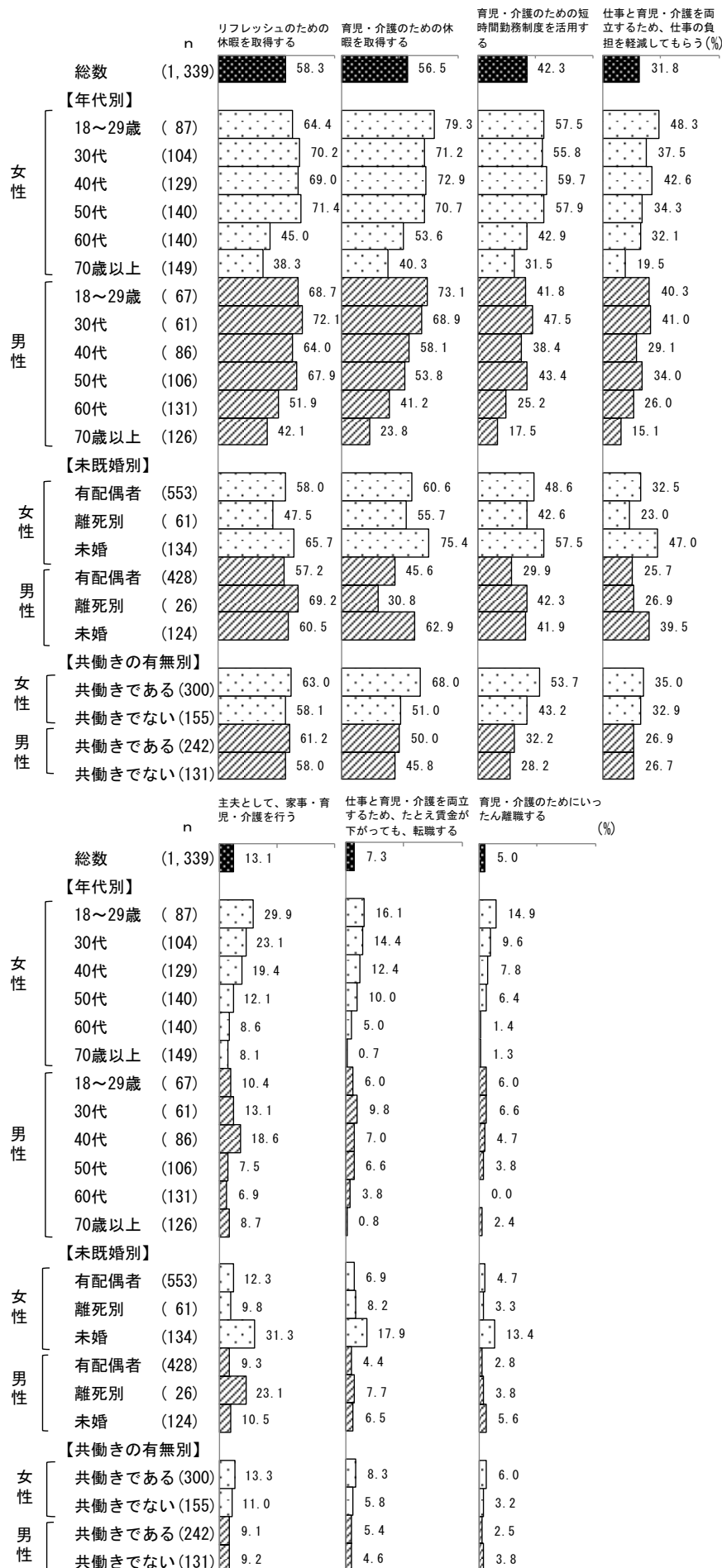


図5-3 男性が仕事以外の生活を重視した働き方を選択することについて 項目別一覧
(性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	リフレッシュのための休暇を取得する	育児・介護のための休暇を取得する	育児・介護のための短時間勤務制度を活用する	仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう	主夫として、家事・育児・介護を行う	仕事と育児・介護を両立するため、たとえば賃金が下がっても、転職する	育児・介護のためにいったん離職する	その他	特になし	わからない	
全体		1,339	58.3	56.5	42.3	31.8	13.1	7.3	5.0	2.2	7.3	6.6	
性×地域別	女性	能登北部	41	53.7	61.0	43.9	34.1	14.6	9.8	4.9	2.4	0.0	7.3
		能登中部	90	43.3	60.0	37.8	24.4	2.2	1.1	1.1	1.1	8.9	6.7
		石川中央	477	60.4	65.4	53.0	36.3	18.9	10.5	6.9	1.5	4.4	6.1
		南加賀	142	62.7	56.3	47.9	34.5	12.7	8.5	7.0	4.2	4.9	7.0
	男性	能登北部	37	54.1	48.6	29.7	21.6	8.1	0.0	2.7	5.4	16.2	5.4
		能登中部	55	61.8	43.6	25.5	21.8	12.7	3.6	0.0	0.0	7.3	5.5
		石川中央	367	58.6	50.4	34.6	28.3	11.2	5.2	4.1	1.9	10.4	6.8
		南加賀	119	58.0	45.4	31.9	34.5	6.7	6.7	3.4	4.2	11.8	6.7

※グレーのセルは属性中トップの項目

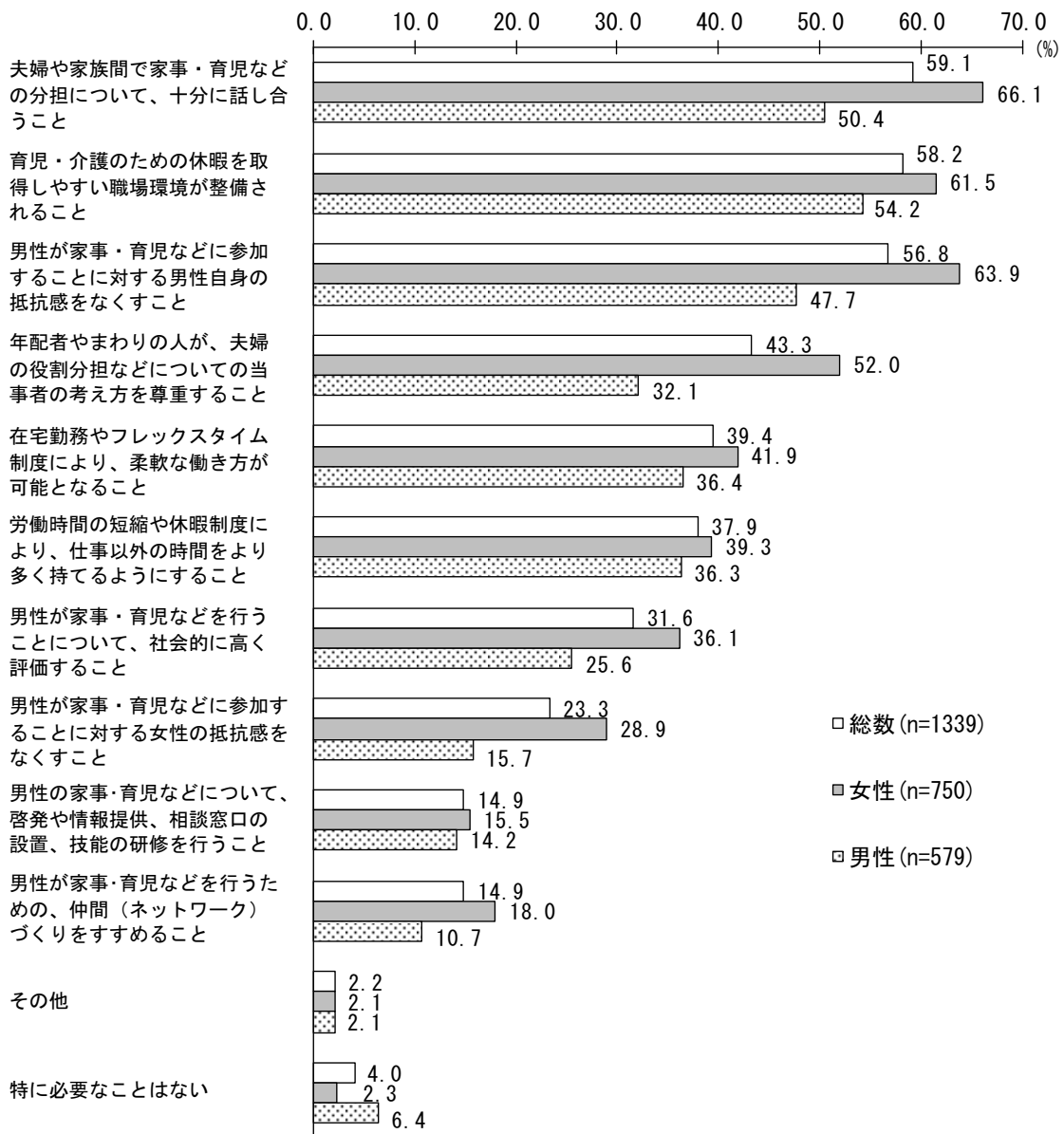
7 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

全体では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」(59.1%)が最も多く、次いで「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」(58.2%)、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」(56.8%)が続いている。

男女の差は「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」が最も大きく、女性の方が19.9ポイント多くなっている。

図6-1 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと 項目別一覧(性別)



男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと

【年代別】

女性では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」は30代 (77.9%)、18~29歳 (77.0%)、60代 (69.3%)、70歳以上 (57.7%) で最も多く、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」は50代 (66.4%) で最も多い。

男性では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」は60代 (55.7%) で最も多く、「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」は30代 (68.9%)、50代 (64.2%)、40代 (58.1%) で最も多い。「労働時間の短縮や休暇制度により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」は30代で唯一6割を超えている。

図6-2 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと 項目別一覧

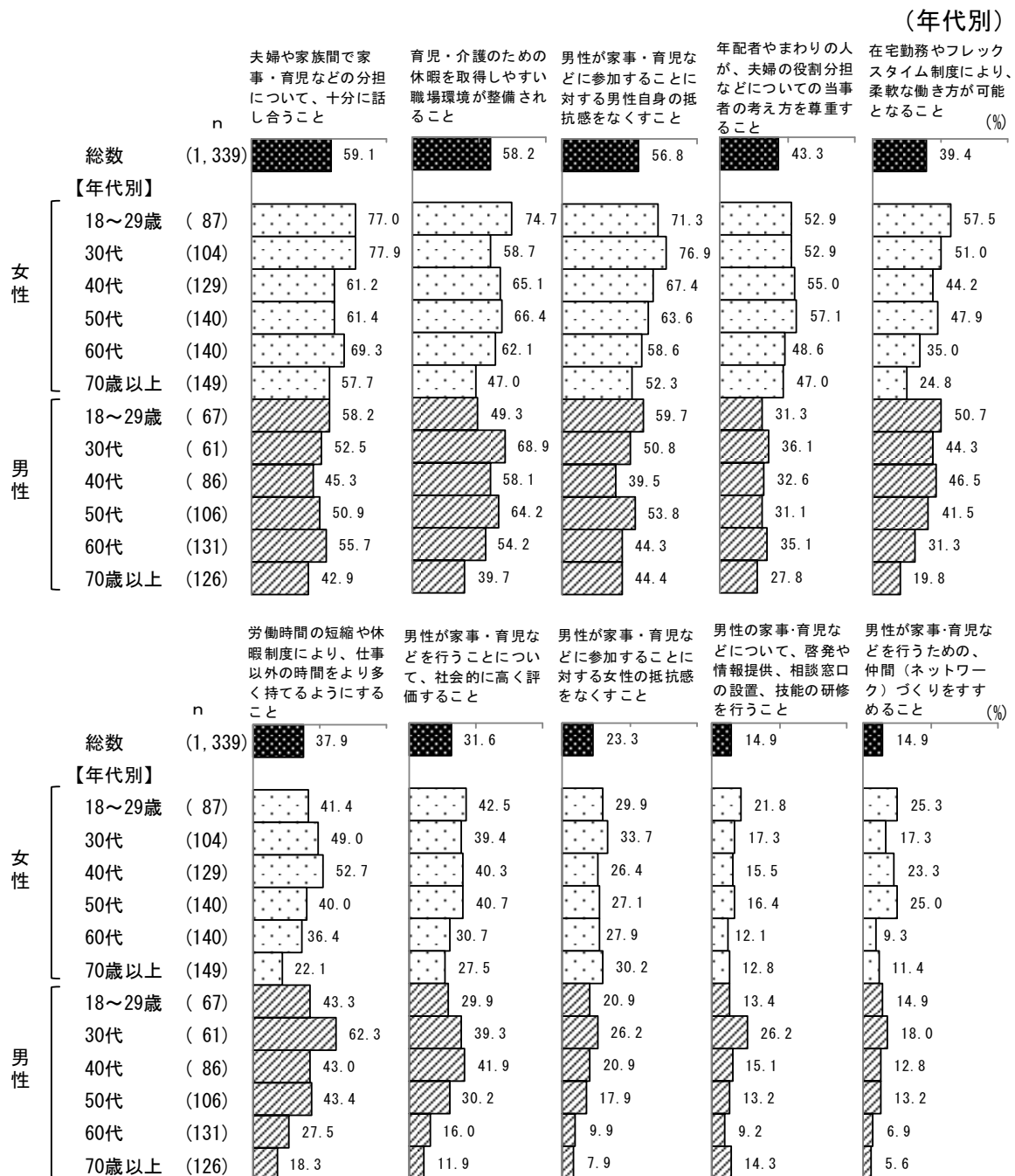


図6-3 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと 項目別一覧
(性・地域別、性・職業別、性・共働きの有無別)

		(単位：%)													
		サンプル数	夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと	育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整うこと	男性が家事・育児などに参加する男性自身への抵抗感をなくすこと	年配者やまわりの人が、夫婦の役割などについて当事者の考え方を尊重すること	在宅勤務やフレックスタイム制度により、柔軟な働き方が可能となること	労働時間の短縮や休暇制度により、仕事以外の時間をより多く持つことができること	男性が家事・育児などを行うことについて、社会的に高く評価すること	男性が家事・育児などに参加する女性への抵抗感をなくすこと	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと	男性が家事・育児などを行うための、仲間(ネットワーク)づくりをすすめること	その他	特に必要なことはない	
全体		1,339	59.1	58.2	56.8	43.3	39.4	37.9	31.6	23.3	14.9	14.9	2.2	4.0	
性×地域別	女性	能登北部	41	58.5	61.0	70.7	48.8	43.9	29.3	17.1	36.6	12.2	14.6	4.9	4.9
		能登中部	90	60.0	53.3	52.2	43.3	32.2	28.9	34.4	24.4	13.3	17.8	1.1	3.3
		石川中央	477	66.0	64.2	66.2	53.2	43.8	42.3	35.8	28.9	17.0	19.5	2.3	1.7
		南加賀	142	72.5	57.7	61.3	54.2	40.8	38.7	43.7	29.6	12.7	14.1	1.4	2.8
	男性	能登北部	37	51.4	51.4	45.9	29.7	37.8	10.8	27.0	13.5	10.8	13.5	2.7	10.8
		能登中部	55	49.1	52.7	50.9	40.0	30.9	30.9	21.8	16.4	16.4	7.3	0.0	3.6
		石川中央	367	51.2	55.9	49.3	31.1	40.1	40.6	26.4	16.3	14.4	9.8	2.5	6.8
		南加賀	119	47.9	50.4	42.0	31.9	27.7	32.8	23.5	13.4	13.4	14.3	1.7	5.0
性×職業別	女性	勤め人	429	65.7	61.5	68.8	52.9	45.2	43.1	38.7	28.9	14.2	18.9	2.1	1.9
		自営業・家族従業	58	67.2	56.9	56.9	51.7	39.7	36.2	29.3	34.5	13.8	22.4	5.2	3.4
		無職	243	66.7	62.1	57.6	51.0	36.2	32.5	33.7	26.3	17.7	15.2	1.6	2.9
	男性	勤め人	350	50.9	60.0	48.6	32.3	39.7	42.3	29.4	16.6	16.0	12.0	1.7	5.1
		自営業・家族従業	77	44.2	33.8	42.9	27.3	35.1	22.1	16.9	15.6	9.1	5.2	1.3	10.4
		無職	128	51.6	56.3	50.8	36.7	32.8	32.8	21.9	15.6	14.8	11.7	3.1	6.3
性×共働きの有無別	女性	共働きである	300	62.7	63.3	67.3	53.3	43.7	46.0	39.0	29.0	15.3	19.0	2.3	2.7
		共働きでない	155	65.8	58.7	54.8	55.5	33.5	35.5	32.9	29.7	14.8	14.2	2.6	1.9
	男性	共働きである	242	51.7	56.6	45.0	31.8	40.1	38.0	28.1	14.5	11.2	9.1	2.5	3.7
		共働きでない	131	48.1	50.4	48.1	32.8	29.8	27.5	20.6	11.5	16.8	8.4	3.1	6.9

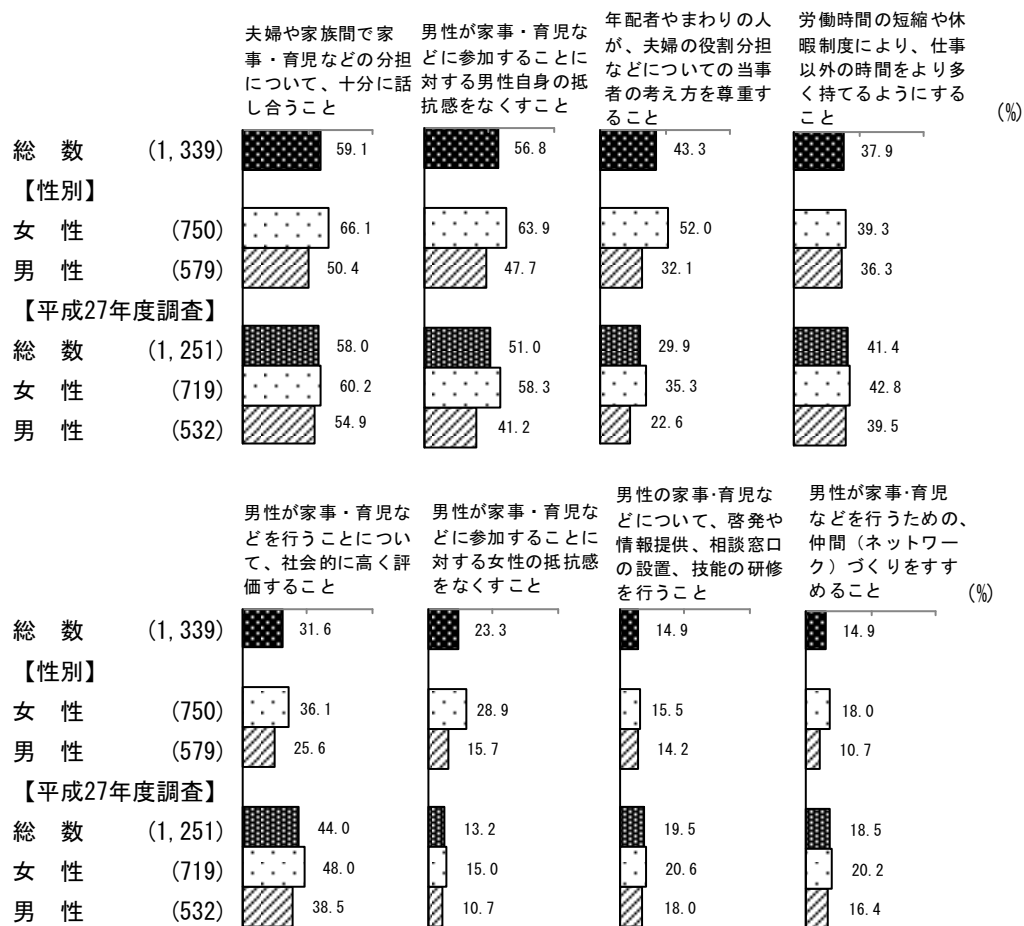
※グレーのセルは属性中トップの項目

【平成27年度調査との比較】

女性では、「夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと」、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」、「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」の4項目で前回調査より増加している。

男性では、「男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと」、「年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること」、「男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと」の3項目で前回調査より増加している。

図6-4 男性が家事、子育て、介護、地域活動に参加するため必要なこと 項目別一覧
(平成27年度調査との比較)



※「育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること」と「在宅勤務やフレックスタイム制度により、柔軟な働き方が可能となること」は前回調査では項目になかったため、表記していない。

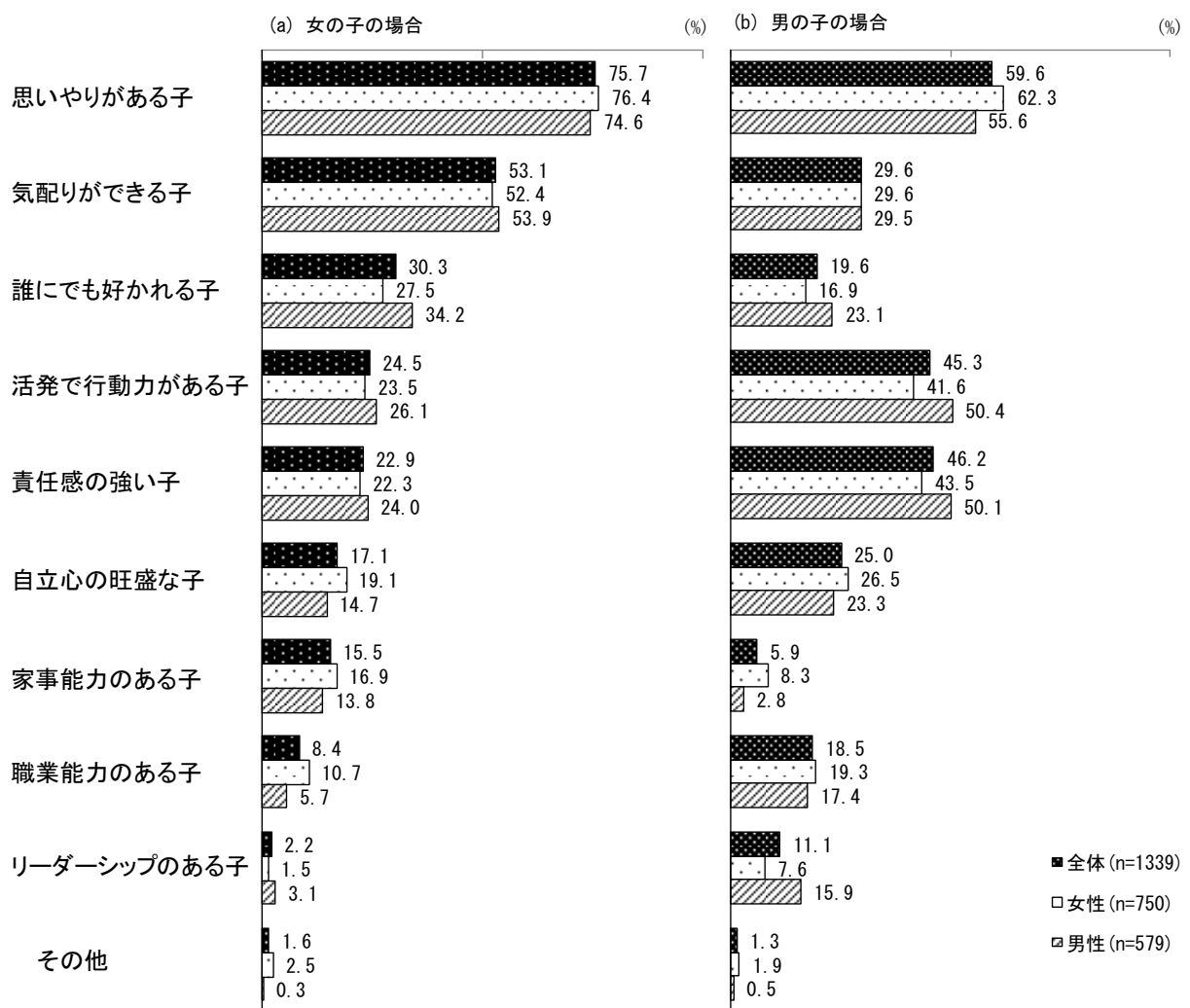
8 子どもの教育方針

問7 お子さんをどのように育てたい（育ててほしかった）と思いますか。お子さんのいない方もいたと仮定して、それぞれ○を3つまで選んでください。

“(a) 女の子の場合” は、男女ともに「思いやりがある子」が最も多く、7割を超えている。次いで「気配りができる子」が5割以上となっており、続いて「誰にでも好かれる子」となっている。

“(b) 男の子の場合” は、男女とも“(a) 女の子の場合”と同様に「思いやりがある子」が最も多いが、続いて「責任感の強い子」、「活発で行動力がある子」が多くなっている。

図7-1 子どもの教育方針 項目別一覧 (性別)

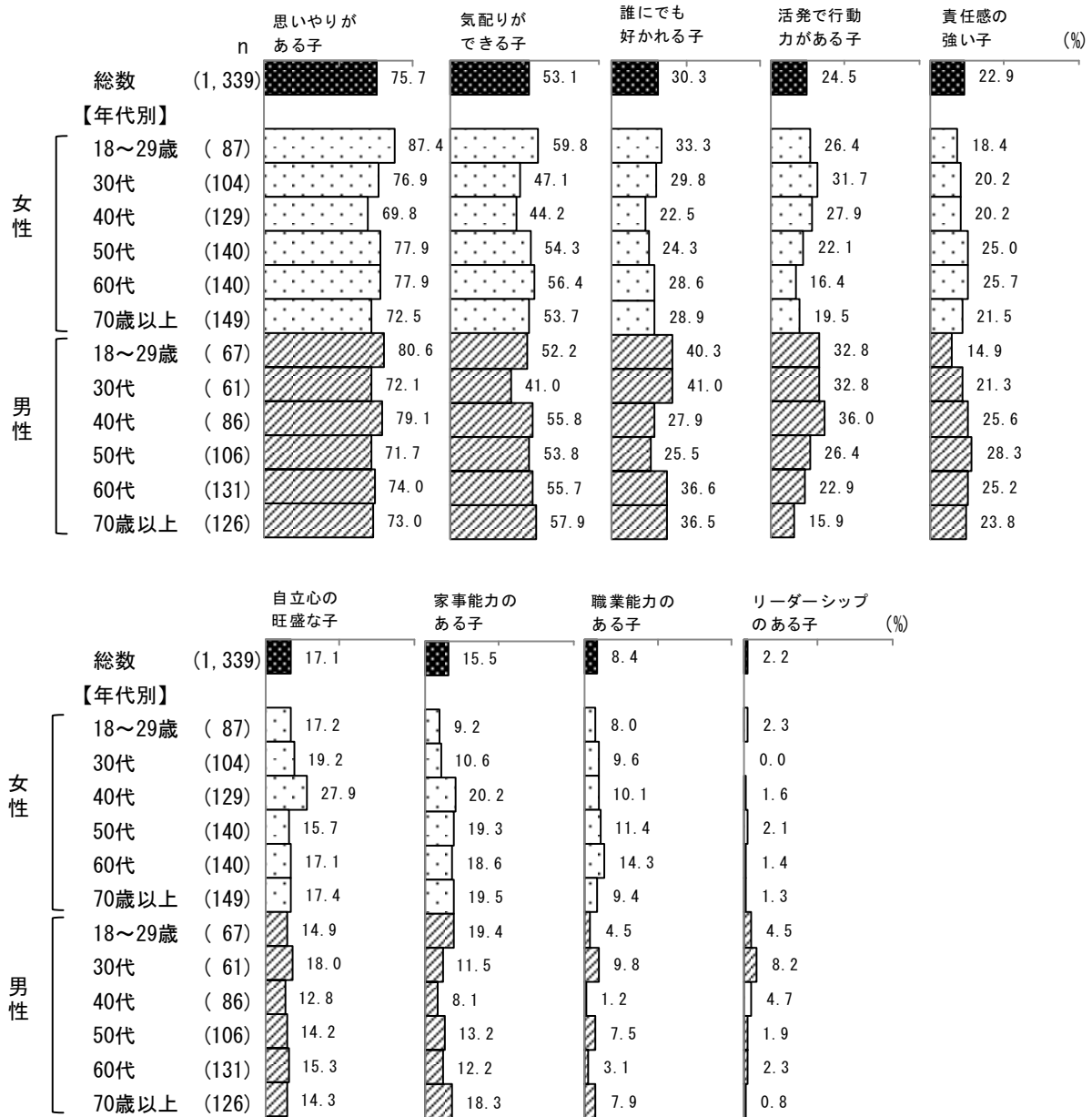


子どもの教育方針（a）女の子の場合

【年代別】

女性では、「思いやりがある子」は40代を除いた全ての年代で7割を超えている。
 男性では、「思いやりがある子」は全ての年代で7割を超えている。

図7-2 子どもの教育方針（a）女の子の場合（年代別）



子どもの教育方針（b）男の子の場合

【年代別】
 男女とも「思いやりがある子」は70歳以上を除いた年代で最も多くなっており、また、「責任感の強い子」は70歳以上の年代で最も多くなっている。

図7-3 子どもの教育方針（b）男の子の場合（年代別）

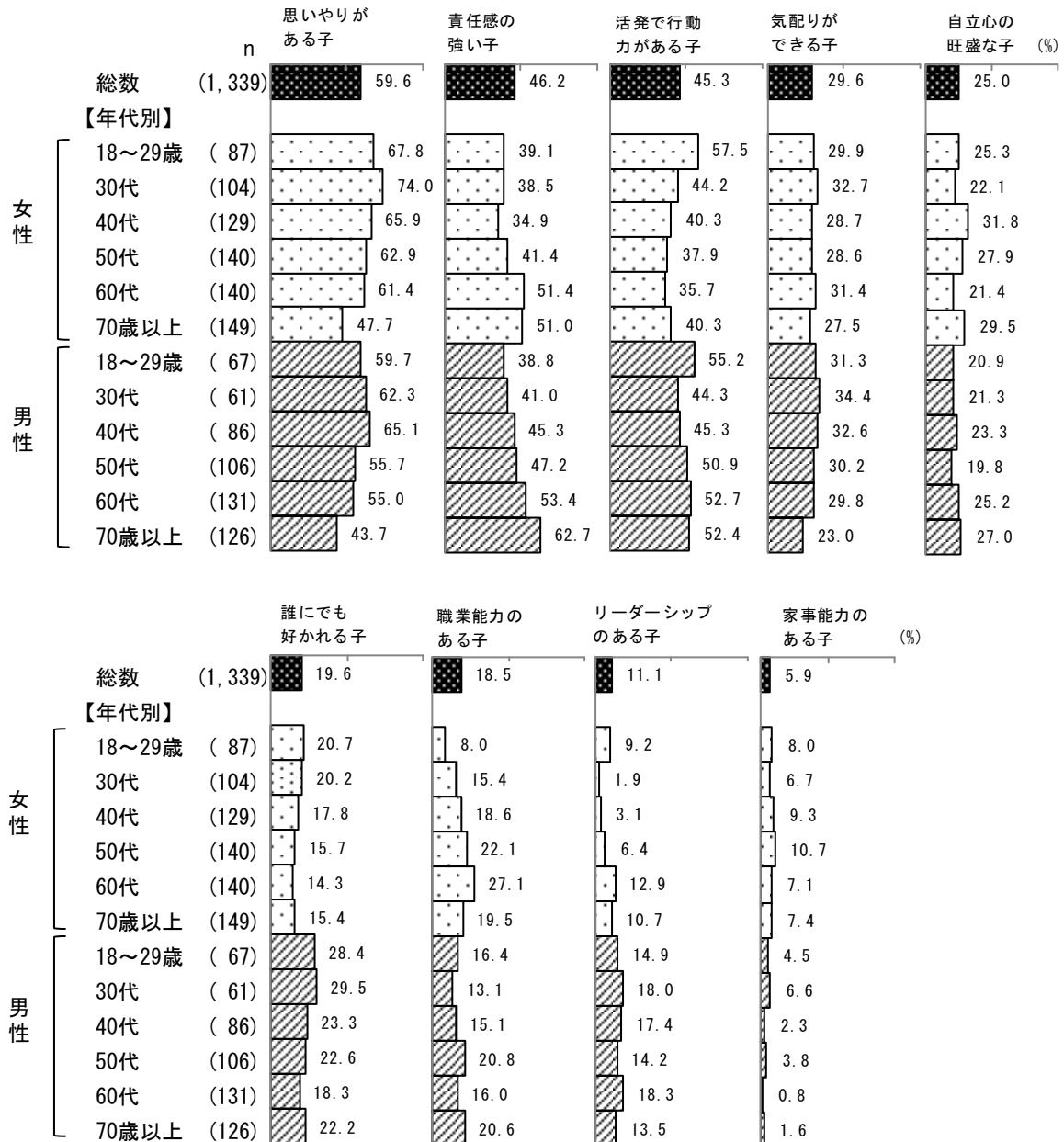


図 7-4 子どもの教育方針 (a) 女の子の場合 (性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	思いやりがある子	気配りができる子	誰にでも好かれる子	活発で行動力がある子	責任感の強い子	自立心の旺盛な子	家事能力のある子	職業能力のある子	リーダーシップのある子	その他	
全体		1,339	75.7	53.1	30.3	24.5	22.9	17.1	15.5	8.4	2.2	1.6	
性×地域別	女性	能登北部	41	75.6	61.0	26.8	14.6	29.3	22.0	12.2	12.2	0.0	2.4
		能登中部	90	75.6	55.6	34.4	17.8	22.2	23.3	16.7	12.2	2.2	2.2
		石川中央	477	77.1	50.7	27.9	24.5	21.8	18.4	17.6	10.7	1.3	2.7
		南加賀	142	74.6	53.5	21.8	26.1	21.8	17.6	16.2	9.2	2.1	2.1
	男性	能登北部	37	75.7	48.6	37.8	13.5	16.2	10.8	8.1	10.8	2.7	0.0
		能登中部	55	69.1	58.2	21.8	21.8	25.5	21.8	16.4	3.6	5.5	0.0
		石川中央	367	75.7	53.7	35.7	27.8	24.3	15.3	14.7	6.0	3.0	0.0
		南加賀	119	73.1	53.8	33.6	26.9	25.2	10.9	11.8	4.2	2.5	1.7

※グレーのセルは属性中トップの項目

図 7-5 子どもの教育方針 (b) 男の子の場合 (性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	思いやりがある子	責任感の強い子	活発で行動力がある子	気配りができる子	自立心の旺盛な子	誰にでも好かれる子	職業能力のある子	リーダーシップのある子	家事能力のある子	その他	
全体		1,339	59.6	46.2	45.3	29.6	25.0	19.6	18.5	11.1	5.9	1.3	
性×地域別	女性	能登北部	41	51.2	36.6	46.3	31.7	31.7	22.0	19.5	2.4	7.3	0.0
		能登中部	90	61.1	42.2	35.6	26.7	27.8	16.7	23.3	13.3	10.0	2.2
		石川中央	477	62.7	46.1	42.1	28.9	26.4	17.0	19.1	6.5	8.8	2.1
		南加賀	142	64.8	37.3	42.3	33.1	24.6	15.5	17.6	9.2	5.6	1.4
	男性	能登北部	37	51.4	45.9	54.1	27.0	18.9	32.4	21.6	0.0	2.7	0.0
		能登中部	55	61.8	47.3	47.3	32.7	29.1	18.2	16.4	12.7	0.0	0.0
		石川中央	367	56.4	50.7	50.7	30.2	23.4	22.6	18.3	17.7	2.5	0.3
		南加賀	119	52.1	50.4	49.6	26.9	21.8	23.5	14.3	16.8	5.0	1.7

※グレーのセルは属性中トップの項目

子どもの教育方針（平成27年度調査との比較）

“（a）女の子の場合”では、前回同様、「思いやりがある子」が最も多く、「気配りができる子」、「誰にでも好かれる子」の順となった。
 “（b）男の子の場合”では、は、前回調査は「責任感の強い子」が最も多かったが、今回調査は「思いやりがある子」が最も多くなった。

図7-6 子どもの教育方針（a）女の子の場合

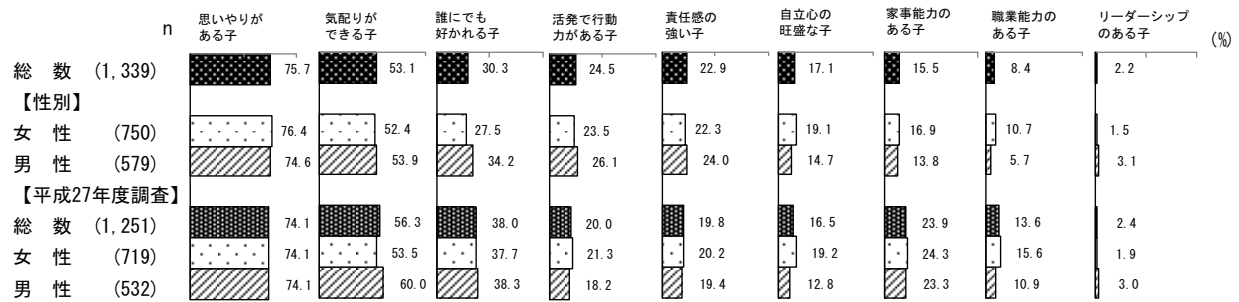
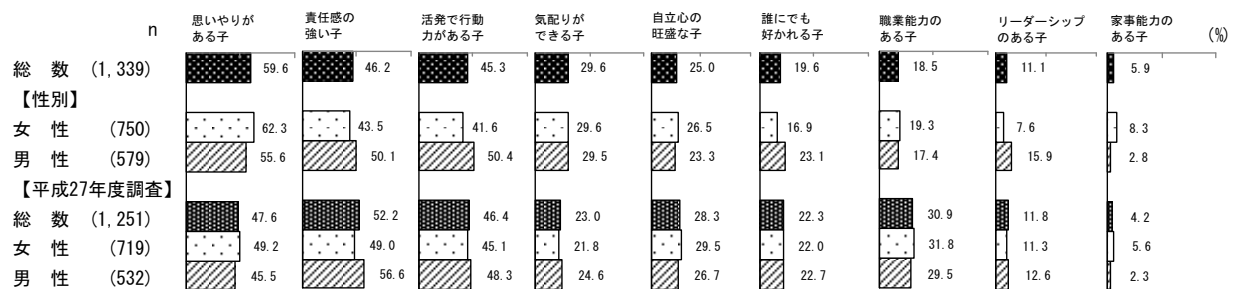


図7-7 子どもの教育方針（b）男の子の場合



9 親の介護における役割分担

問8 あなたは、もし親が介護を要する状態となった場合、あなたと配偶者でどのように分担したい（したかった）と思いますか。訪問介護など外部サービスの利用も含め、自分の親の介護、配偶者の親の介護、それぞれについて、あなたの考えに最も近いものの番号に1つずつ○をつけてください。なお、配偶者のいない方も、配偶者がいることを想定してお答えください。[今年度新規調査項目]

(a) 自分の親の介護

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」(50.3%)が最も多くなっている。

また、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」(女性 65.2%、男性 31.3%) が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(女性 19.5%、男性 42.3%) が男性で最も多い。

図 8-1 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 項目別一覧 (性別)

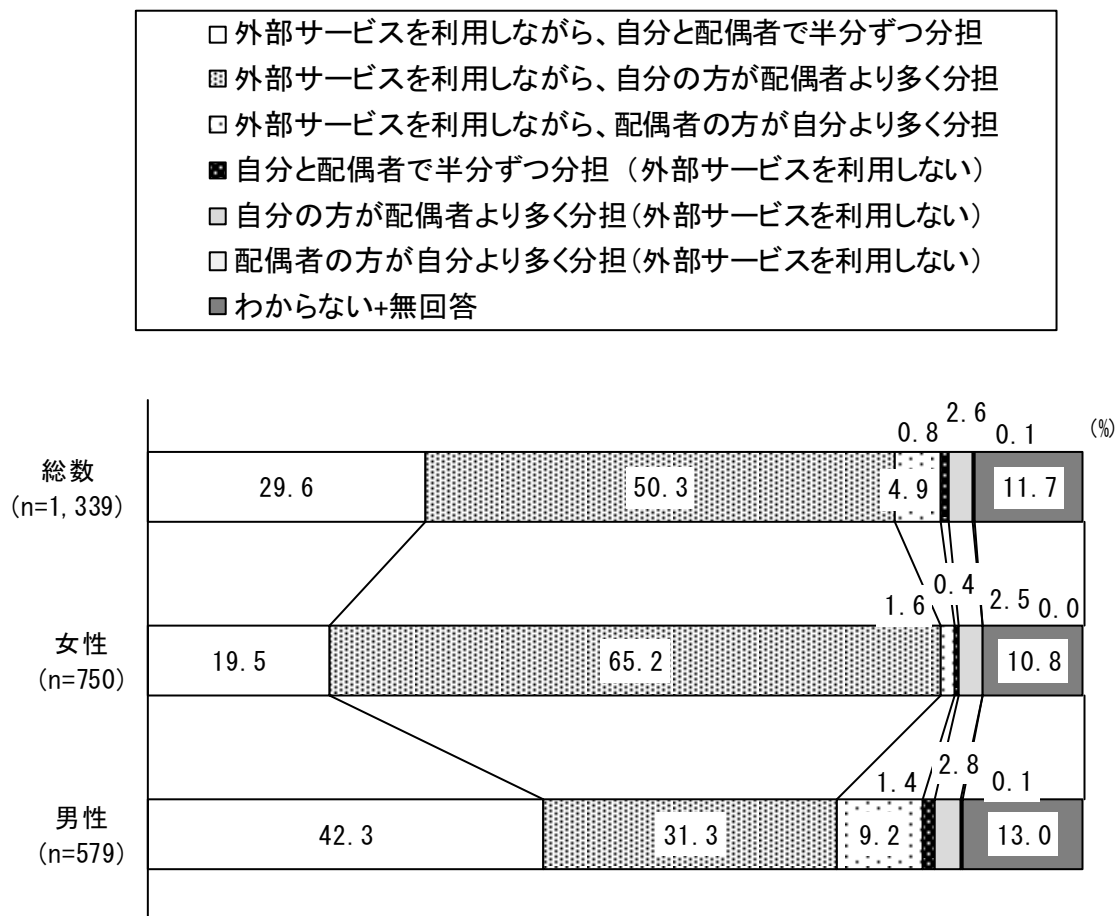


図 8-2 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 項目別一覧 (年代別)

【年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」は全ての年代で最も多くなっており、40代 (76.7%)、50代 (73.6%) では7割を超えている。

男性では、全ての年代で「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」が最も多い。

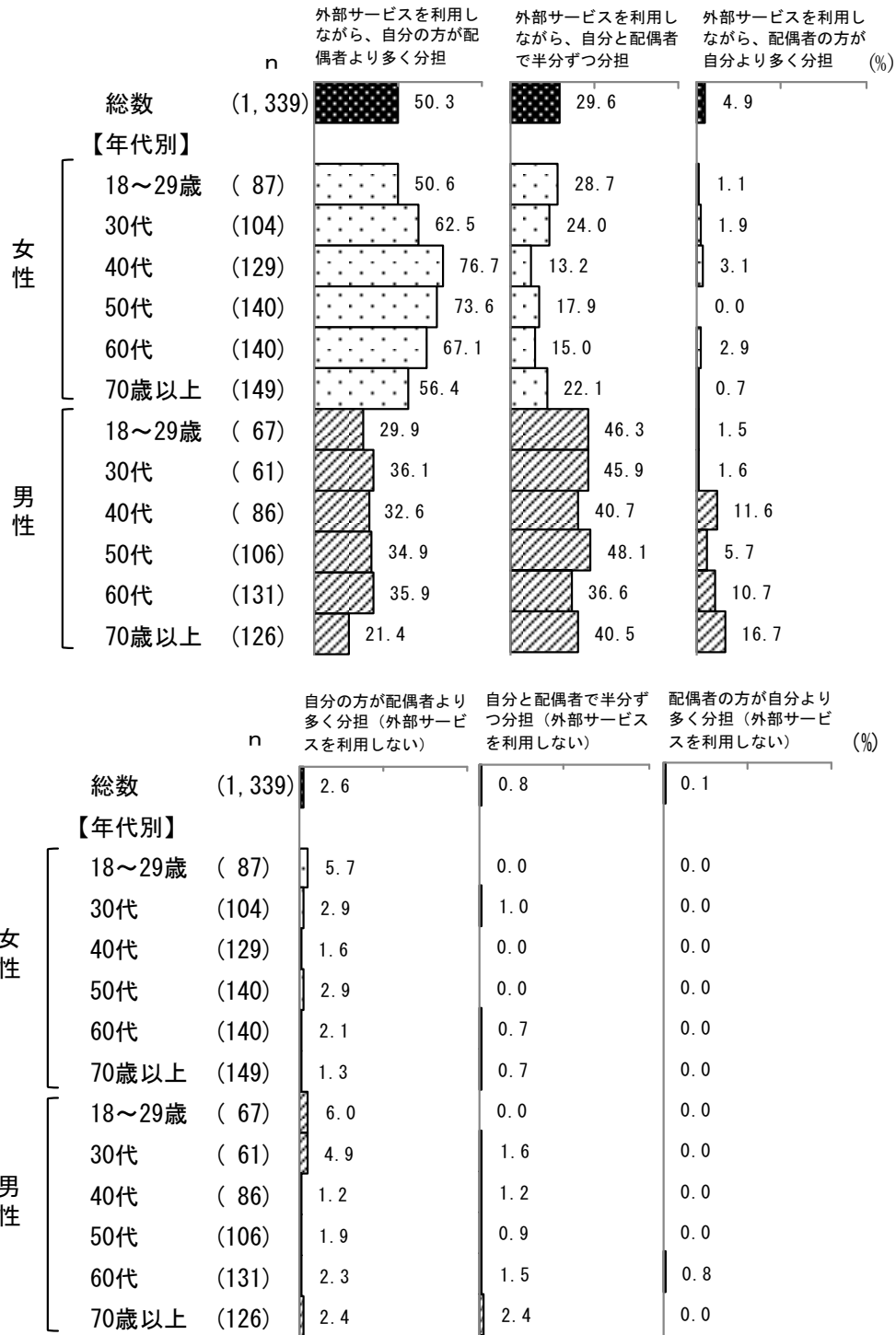


図 8-3 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 項目別一覧

(未既婚別、共働きの有無別)

【未既婚別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担」は未婚(54.5%)と有配偶者(68.4%)で若干の差があった。

男性では、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は未婚(1.6%)と有配偶者(11.4%)で9.8ポイントの差があった。

【共働きの有無別】

女性では、大きな差はなかった。

男性では、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は「共働きでない」(19.1%)が「共働きである」(5.8%)の3倍以上となった。

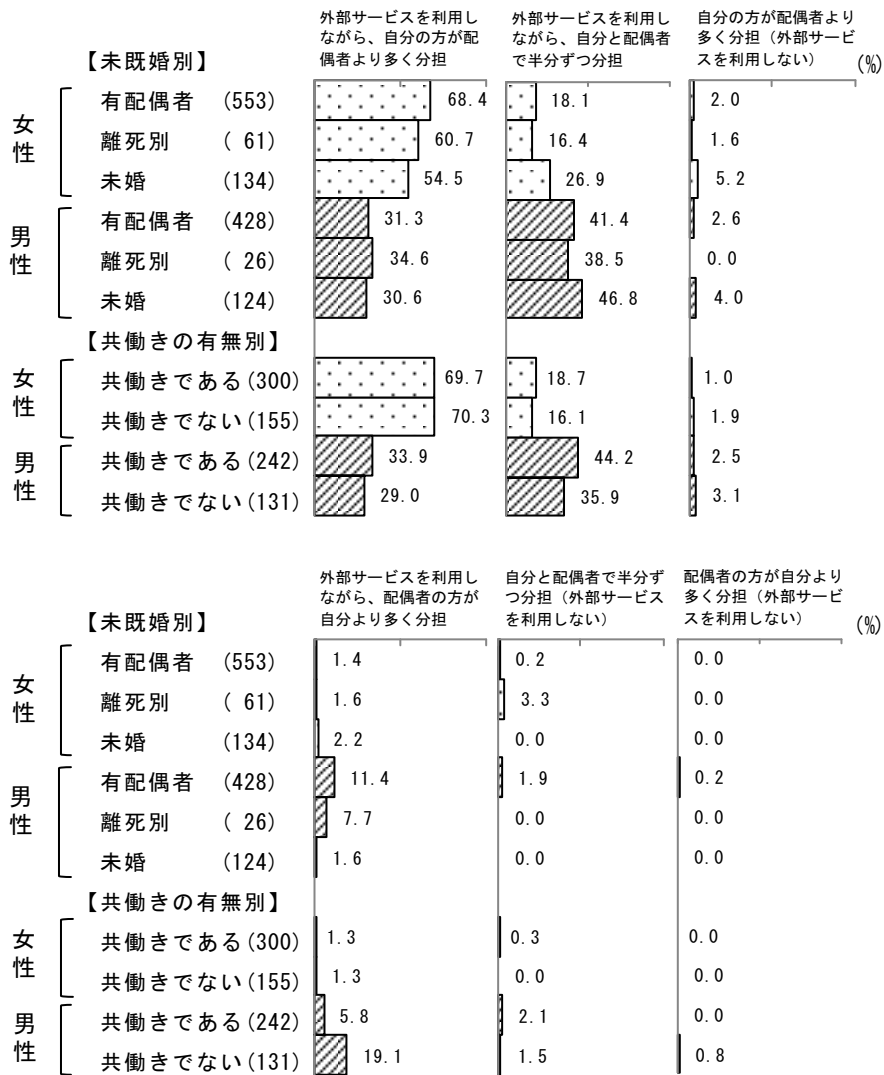


図8-4 親の介護における役割分担 (a) 自分の親の介護 (性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担	外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担	外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担	自分と配偶者で半分ずつ分担 (外部サービスを利用しない)	自分の方が配偶者より多く分担 (外部サービスを利用しない)	配偶者の方が自分より多く分担 (外部サービスを利用しない)	わからない	無回答	
全体		1,339	50.3	29.6	4.9	0.8	2.6	0.1	7.4	4.3	
性×地域別	女性	能登北部	41	56.1	26.8	0.0	0.0	9.8	0.0	2.4	4.9
		能登中部	90	62.2	21.1	2.2	1.1	0.0	0.0	7.8	5.6
		石川中央	477	67.7	17.8	1.5	0.0	2.5	0.0	5.5	5.0
		南加賀	142	61.3	21.8	2.1	1.4	2.1	0.0	7.0	4.2
	男性	能登北部	37	21.6	62.2	8.1	2.7	2.7	0.0	0.0	2.7
		能登中部	55	34.5	40.0	12.7	1.8	1.8	0.0	3.6	5.5
		石川中央	367	33.5	39.5	9.5	1.4	2.7	0.3	10.6	2.5
		南加賀	119	25.2	46.2	6.7	0.8	3.4	0.0	11.8	5.9

※グレーのセルは属性中トップの項目

親の介護における役割分担

(b) 配偶者の親の介護

全体では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(42.0%)が最も多くなっている。

「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」(女性47.1%、男性35.4%)が女性で最も多く、「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」(女性25.3%、男性38.5%)が男性で最も多い。

図8-5 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 項目別一覧 (性別)

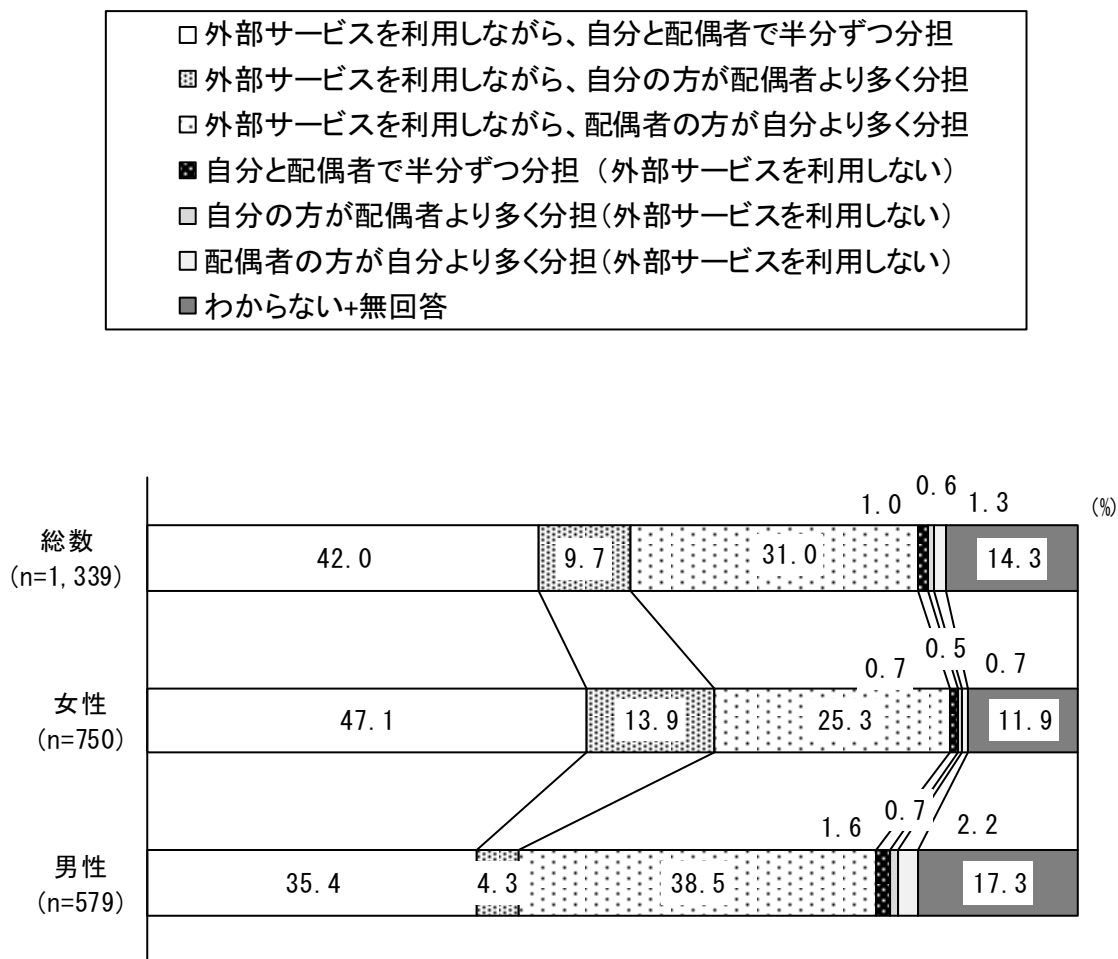


図 8-6 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 項目別一覧 (年代別)

【年代別】

女性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は40代(36.4%)を除く、全ての年代でも最も多くなっている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は60代(24.4%)、70歳以上(26.2%)を除く、全ての年代でも最も多くなっている。

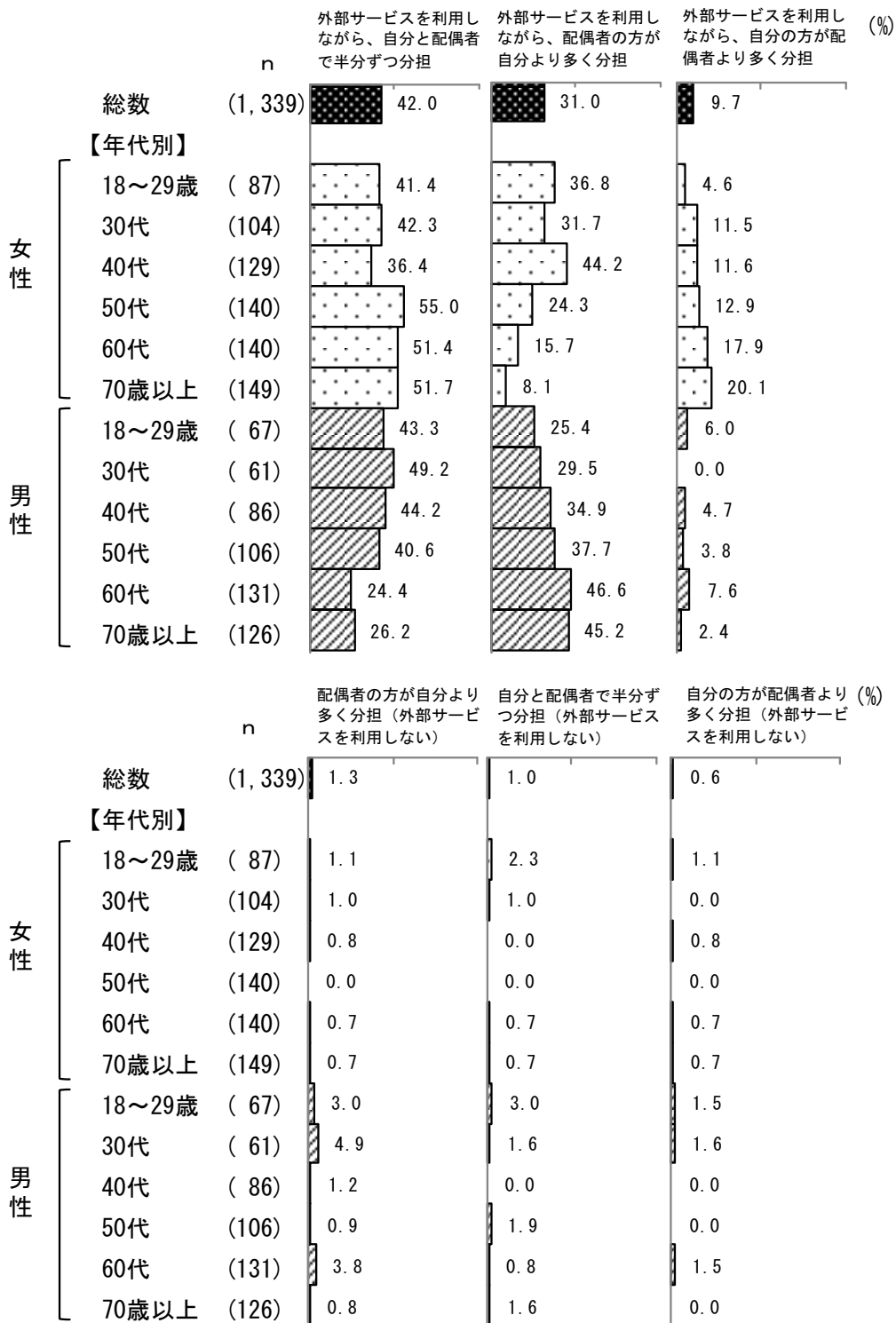


図 8-7 親の介護における役割分担 (b) 配偶者の親の介護 項目別一覧
(未既婚別、共働きの有無別)

【未既婚別】

女性では、未既婚を問わず「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」が最も多いが、未婚では「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」(36.6%) も多くなっている。

男性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は未婚(44.4%)、
「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は有配偶者(41.8%)、
離死別(42.3%)で最も多くなっている。

【共働きの有無別】

女性では、共働きの有無を問わず「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」が最も多い。

男性では、「外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担」は共働きである(38.0%)で最も多い。「外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担」は共働きでない(49.6%)で最も多い。

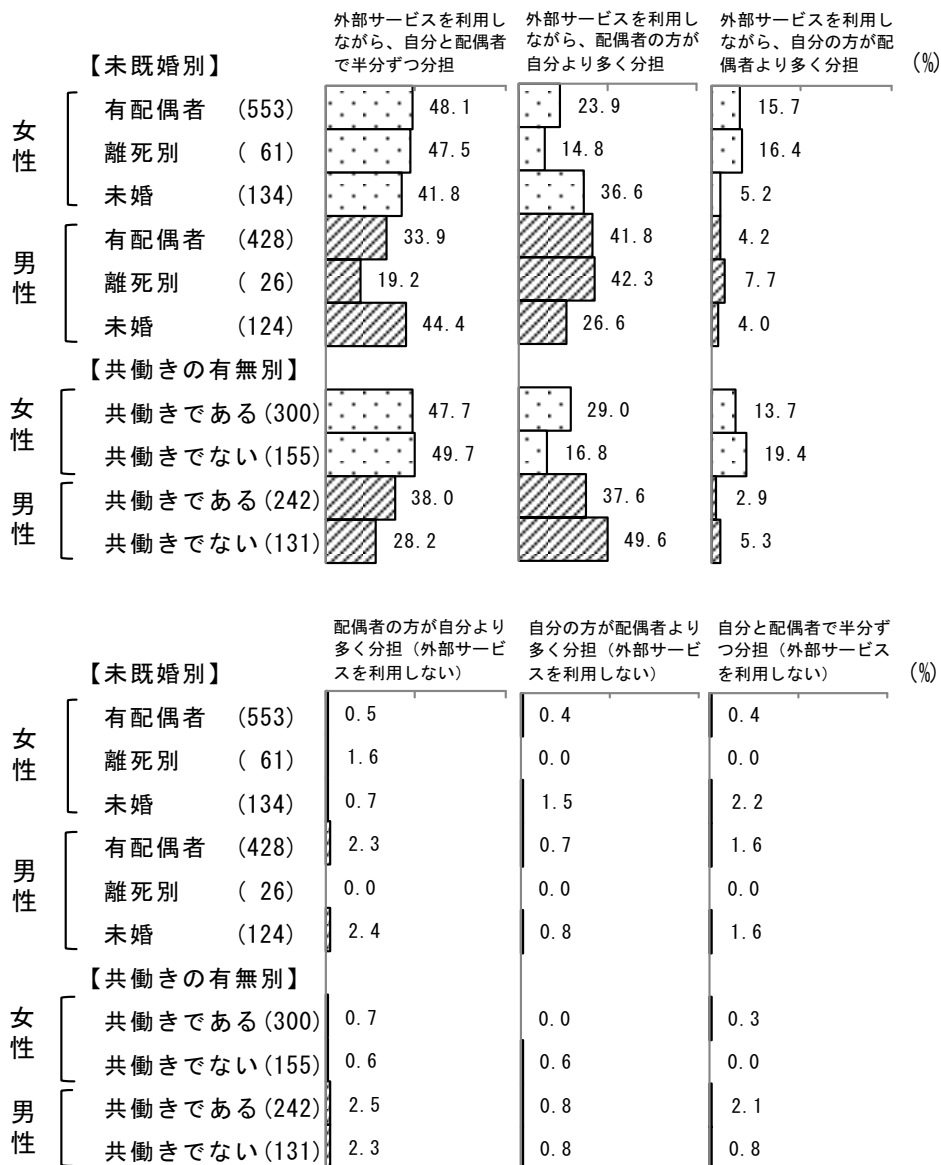


図8-8 親の介護における役割分担 (b)配偶者の親の介護 (性・地域別)

(単位：%)

		サンプル数	外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担	外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担	外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担	自分と配偶者で半分ずつ分担 (外部サービスを利用しない)	自分の方が配偶者より多く分担 (外部サービスを利用しない)	配偶者の方が自分より多く分担 (外部サービスを利用しない)	わからない	無回答	
全体		1,339	42.0	31.0	9.7	1.0	0.6	1.3	8.8	5.5	
性×地域別	女性	能登北部	41	51.2	17.1	19.5	2.4	0.0	0.0	9.8	0.0
		能登中部	90	50.0	24.4	11.1	0.0	0.0	0.0	5.6	8.9
		石川中央	477	45.9	26.6	13.2	0.4	0.6	1.0	7.1	5.0
		南加賀	142	47.9	23.9	16.2	1.4	0.7	0.0	5.6	4.2
	男性	能登北部	37	56.8	27.0	2.7	5.4	2.7	2.7	0.0	2.7
		能登中部	55	25.5	36.4	10.9	0.0	0.0	0.0	10.9	16.4
		石川中央	367	33.2	42.8	3.0	1.9	0.5	2.7	12.0	3.8
		南加賀	119	40.3	29.4	5.9	0.0	0.8	1.7	13.4	8.4

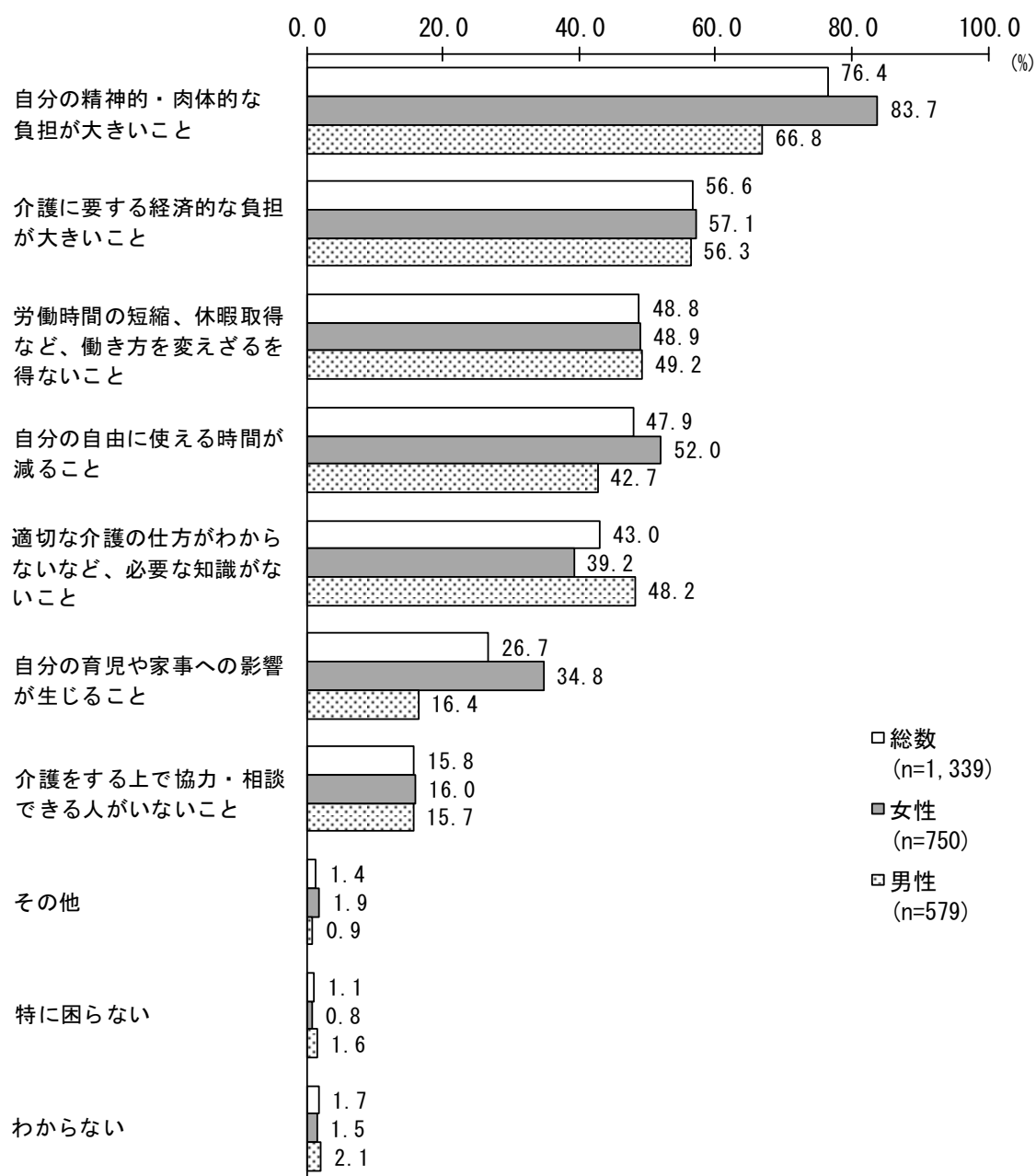
※グレーのセルは属性中トップの項目

10 介護するときに困ること

問9 もし介護をする役割を担う場合、どのようなことに困ると思いますか。(〇はいくつでも)
[今年度新規調査項目]

全体では「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」(76.4%)が最も多い。また、男女とも「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」(女性83.7%、男性66.8%)が最も多く、次いで「介護に要する経済的な負担が大きいこと」(女性57.1%、男性56.3%)が続く。男女の差が大きいものとしては「自分の育児や家事への影響が生じること」(18.4ポイント差)、「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」(16.9ポイント差)で女性のポイントが高くなっている。また、「適切な介護の仕方がわからないなど、必要な知識がないこと」(9.0ポイント差)については、男性のポイントが女性を上回っている。

図9-1 介護するときに困ること 項目別一覧(性別)



介護するときに困ること

【年代別】

女性では、いずれの年代でも「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」が最も多くなっている。

男性では、40代（60.5%）を除いた、いずれの年代でも「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」が最も多くなっている。

【未既婚別】

女性・男性ともに、未既婚等を問わず「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」が最も多くなっている。

【共働きの有無別】

女性・男性ともに、共働きの有無を問わず「自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと」が最も多くなっている。

図9-2 介護するときに困ること 項目別一覧（年代別、未既婚別、共働きの有無別）

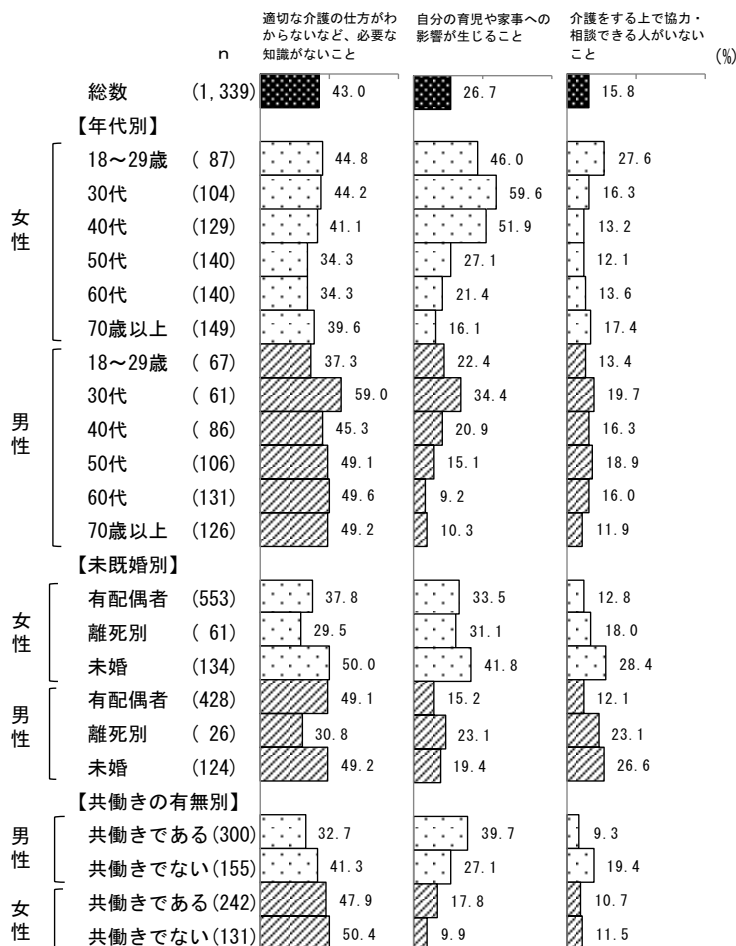
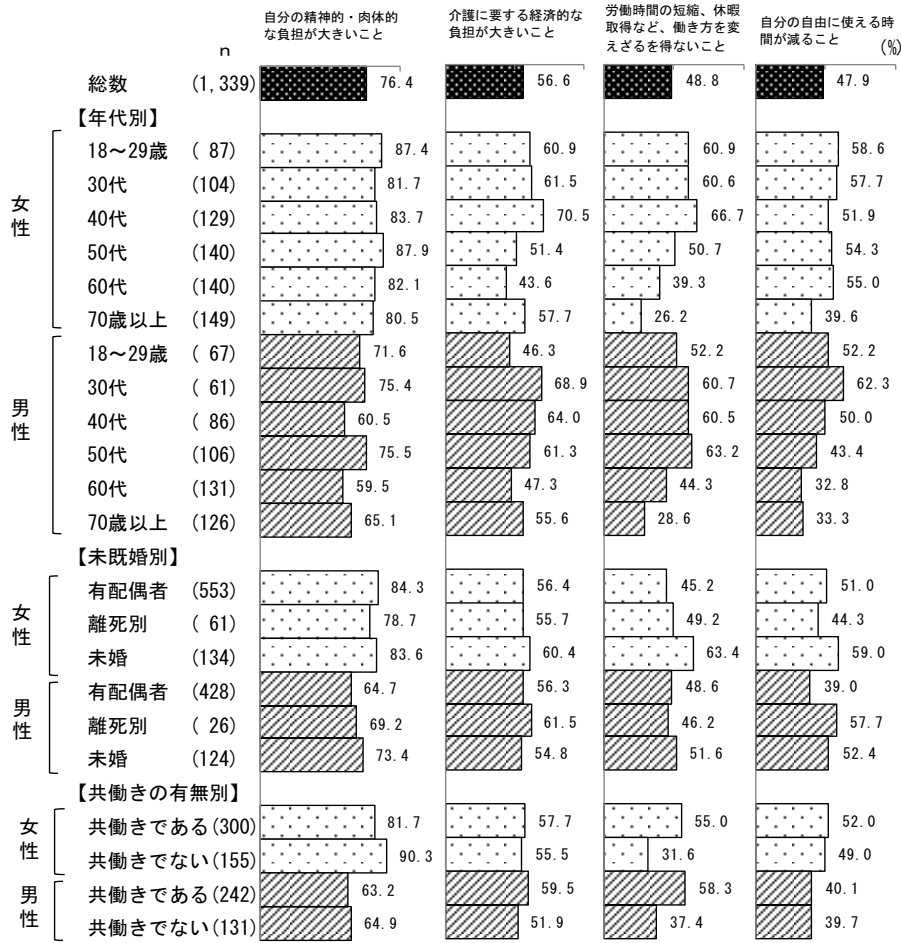


図9-3 介護するときに困ること 項目別一覧（性・地域別）

(単位：%)

		サンプル数	自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと	介護に要する経済的な負担が大きいこと	労働時間の短縮、休暇取得など、働き方をえざるを得ないこと	自分の自由に使える時間が減ること	適切な介護の仕方がわからないなど、必要な知識がないこと	自分の育児や家事への影響が生じること	介護をする上で協力・相談できる人がいないこと	その他	特に困らない	わからない	
全体		1,339	76.4	56.6	48.8	47.9	43.0	26.7	15.8	1.4	1.1	1.7	
性×地域別	女性	能登北部	41	85.4	53.7	51.2	43.9	36.6	17.1	12.2	2.4	0.0	0.0
		能登中部	90	71.1	55.6	41.1	45.6	36.7	26.7	14.4	1.1	2.2	1.1
		石川中央	477	86.2	56.8	49.5	55.3	41.9	37.5	18.7	2.1	0.6	0.8
		南加賀	142	83.1	59.9	51.4	47.2	32.4	35.9	9.2	1.4	0.7	4.2
	男性	能登北部	37	62.2	51.4	45.9	37.8	29.7	13.5	5.4	2.7	0.0	2.7
		能登中部	55	67.3	52.7	49.1	32.7	45.5	14.5	14.5	0.0	1.8	0.0
		石川中央	367	66.2	56.4	49.3	44.4	49.3	16.3	16.1	0.8	1.1	2.5
		南加賀	119	69.7	58.8	49.6	42.9	51.3	17.6	17.6	0.8	3.4	1.7

※グレーのセルは属性中トップの項目

Ⅲ 職 業

1 職場での男女平等について

(現在、仕事【収入を得る仕事】をしている方にお聞きします。)

問10 あなたの職場では、次にあげる(a)～(g)それぞれの面で男女平等になっていると思いますか。(○はそれぞれ1つ)

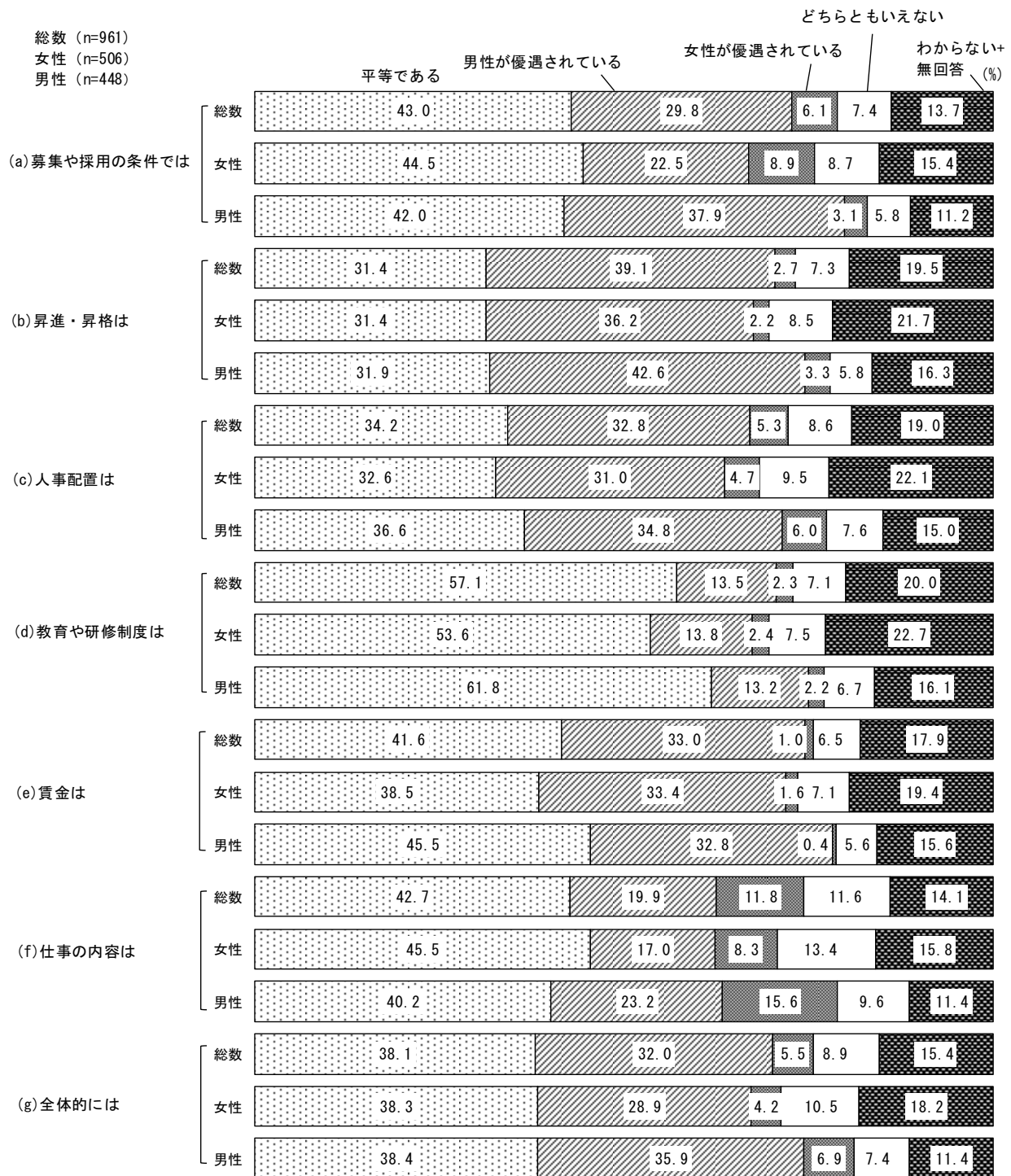
男女とも「平等である」と回答した人が最も多いのは、“(d) 教育や研修制度は” (女性53.6%、男性61.8%) となっている。

一方、最も少ないのは、“(b) 昇進・昇格は” (女性31.4%、男性31.9%) で、次いで“(c) 人事配置は” (女性32.6%、男性36.6%) となっている。

『男性が優遇されている』については、男女とも“(b) 昇進・昇格は” (女性36.2%、男性42.6%) が最も多い。

『女性が優遇されている』については、女性は“(a) 募集や採用の条件では” (8.9%) が最も多く、男性では“(f) 仕事の内容は” (15.6%) が最も多い。

図10-1 職場での男女平等について 項目別一覧（性別）



※『男性が優遇されている』は調査票選択肢の「男性が優遇されている」と「どちらかといえ
ば男性が優遇されている」を合計したもの。

『女性が優遇されている』は調査票選択肢の「女性が優遇されている」と「どちらかといえ
ば女性が優遇されている」を合計したもの。以降の頁も同様。

職場での男女平等について

【平成27年度調査との比較】

平成27年度の調査結果と比較すると、『男性が優遇されている』は、男性の“(a) 募集や採用の条件では”を除き、全ての項目が減少した。「平等である」は“(d) 教育や研修制度は”を除き、増加傾向にある。

図10-2 職場での男女平等について (a) 募集や採用の条件では

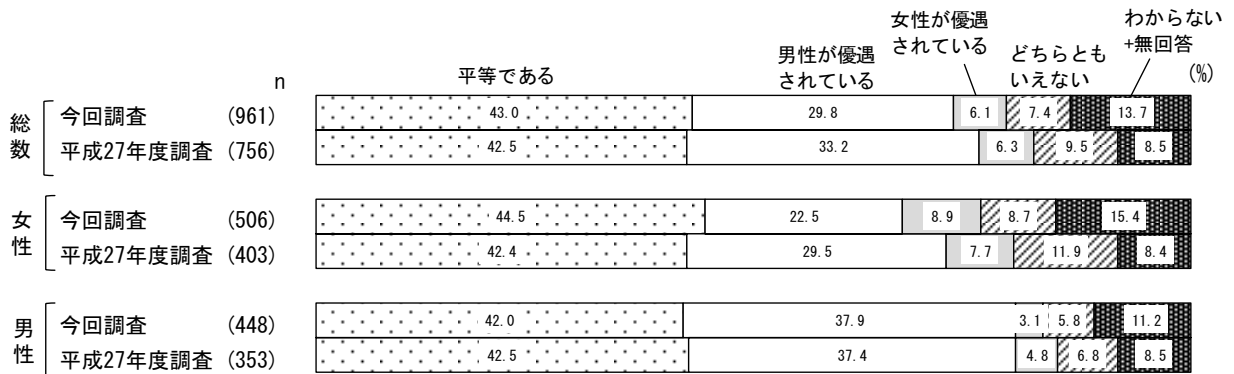


図10-3 職場での男女平等について (b) 昇進・昇格は

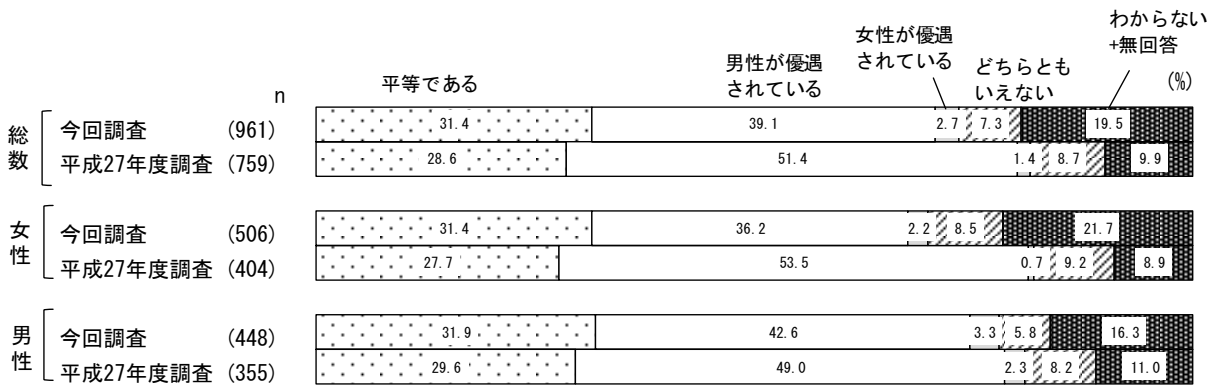
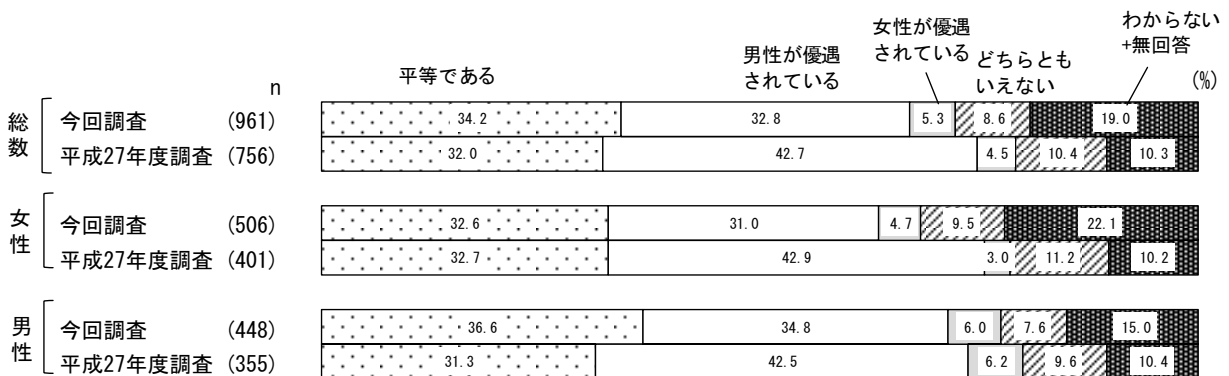


図10-4 職場での男女平等について (c) 人事配置は



※なお、今回調査では「わからない」に「無回答」を含めて集計しているが、平成27年度調査では「無回答」を集計から外している。

図10-5 職場での男女平等について (d) 教育や研修制度は

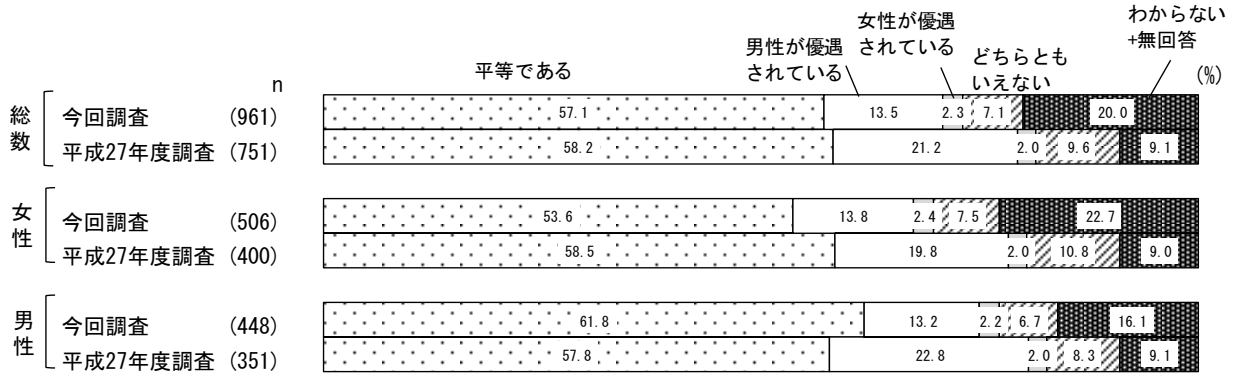


図10-6 職場での男女平等について (e) 賃金は

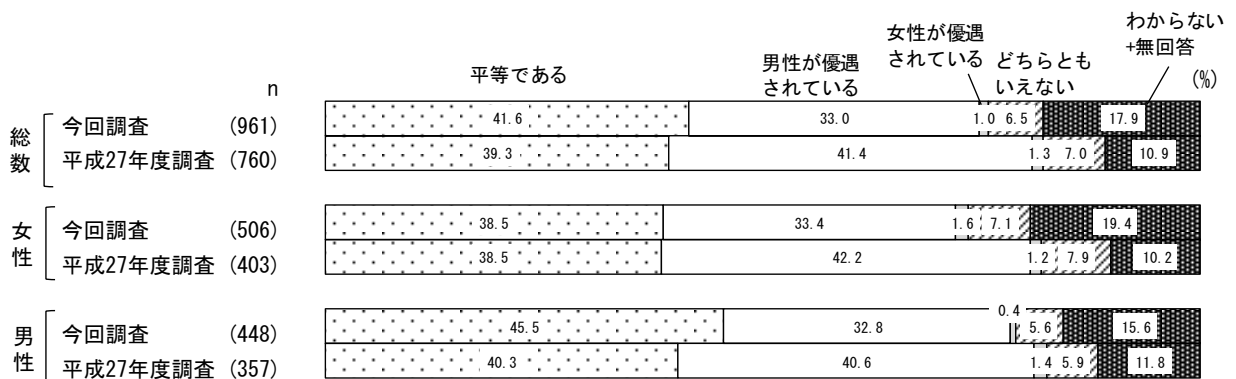


図10-7 職場での男女平等について (f) 仕事の内容は

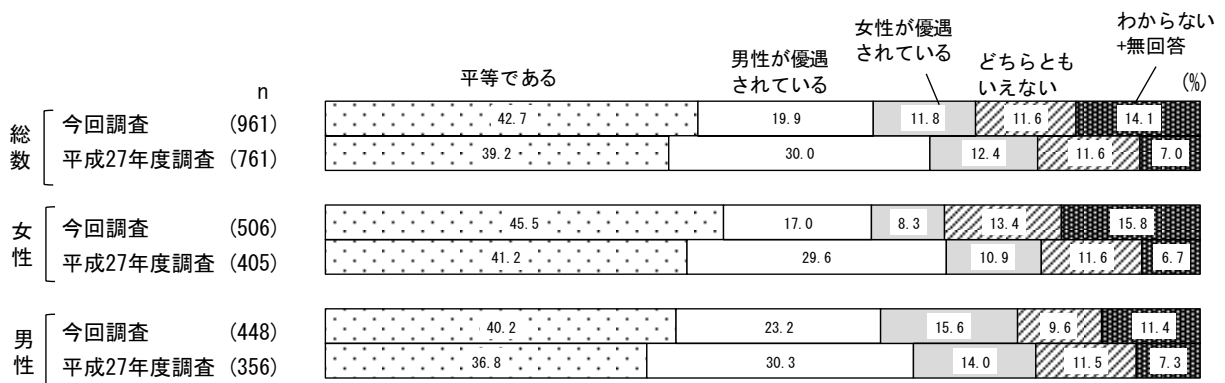
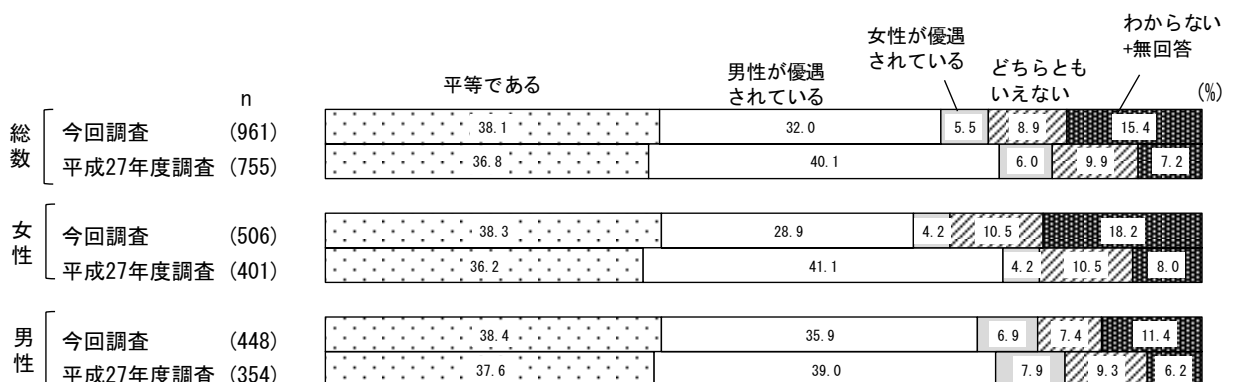


図10-8 職場での男女平等について (g) 全体的には



2 女性が管理職に昇進することについて

(現在、仕事【収入を得る仕事】をしている方にお聞きします。)

問11 女性が管理職に昇進することについて、どう思いますか。(○は1つだけ)

【性別】

男女とも『賛成である(計)』(女性80.4%、男性69.7%)が『賛成しない(計)』(女性2.2%、男性6.7%)を上回っている。

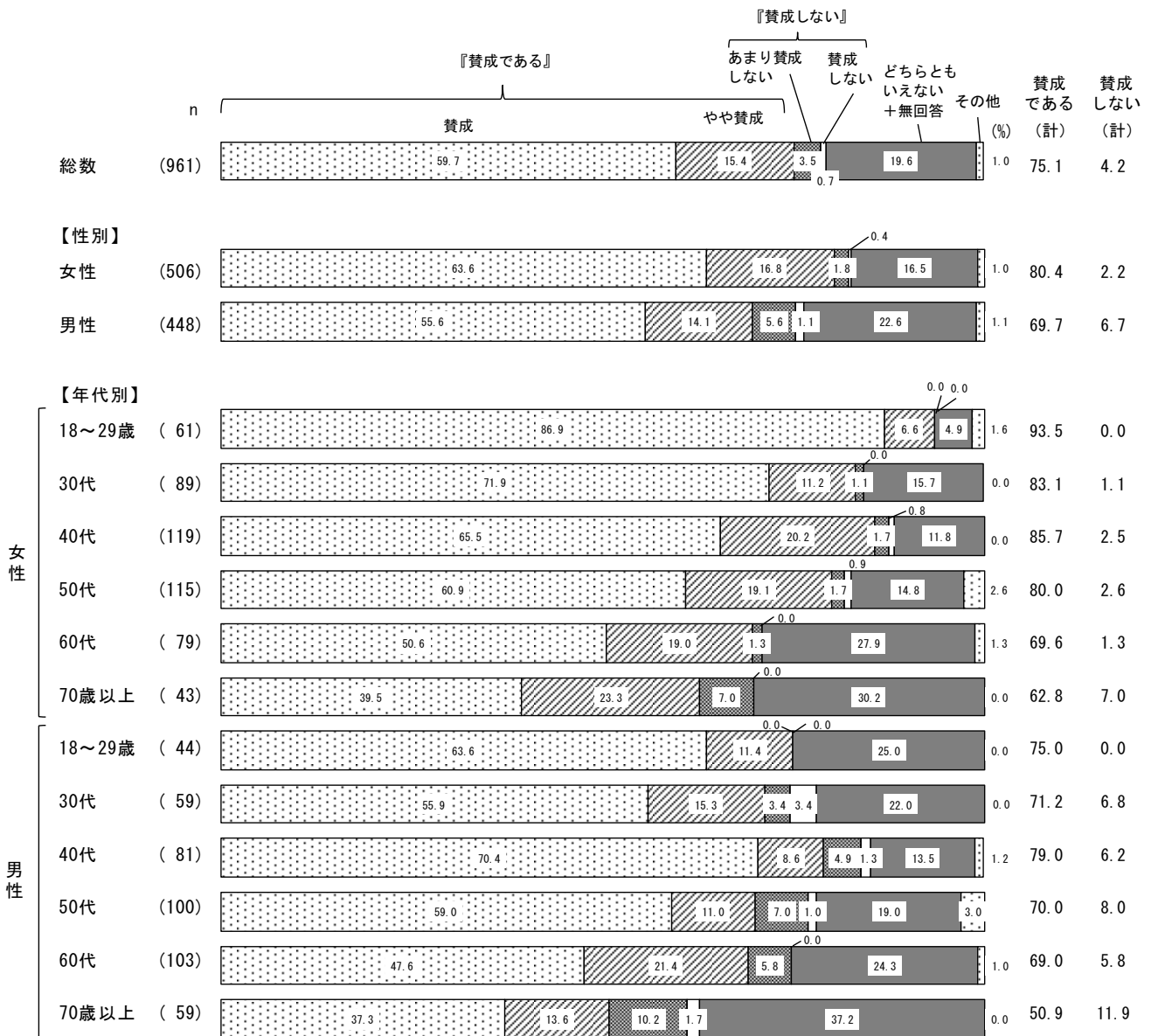
『賛成である(計)』は女性の方が男性より10.7ポイント多く、『賛成しない(計)』は男性の方が女性より4.5ポイント多くなっている。

【年代別】

女性では『賛成である(計)』が最も多いのは18～29歳(93.5%)で、次いで40代(85.7%)と続き、70歳以上(62.8%)が最も少ない。

男性では『賛成である(計)』が最も多いのは40代(79.0%)で、次いで、18～29歳(75.0%)と続き、70歳以上(50.9%)が最も少ない。

図11-1 女性が管理職に昇進することについて (性別・年代別)

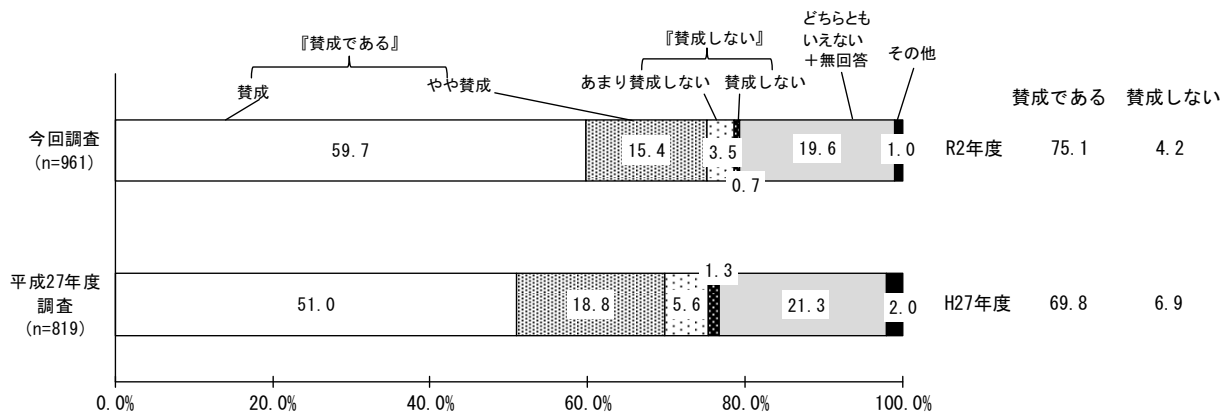


※『賛成である (計)』は調査票選択肢の「賛成」と「やや賛成」を合計したもの。
 『賛成しない (計)』は調査票選択肢の「賛成しない」と「あまり賛成しない」を合計したもの。
 以降の頁も同様。

【平成27年度調査との比較】

平成27年度調査と比べ『賛成である』が5.3ポイント増加し、『賛成しない』が2.7ポイント減少した。『賛成である』と『賛成しない』との差は、平成27年度調査は62.9ポイント、今回調査では70.9ポイントとなった。

図 11-2 女性が管理職に昇進することについて (平成 27 年度調査との比較)



3 管理職に昇進することについてのイメージ

(現在、仕事【収入を得る仕事】をしている方にお聞きします。)

問12 あなたは、職場において管理職に昇進することについてどのようなイメージをもっていますか。(a)、(b) どちらにもお答えください。

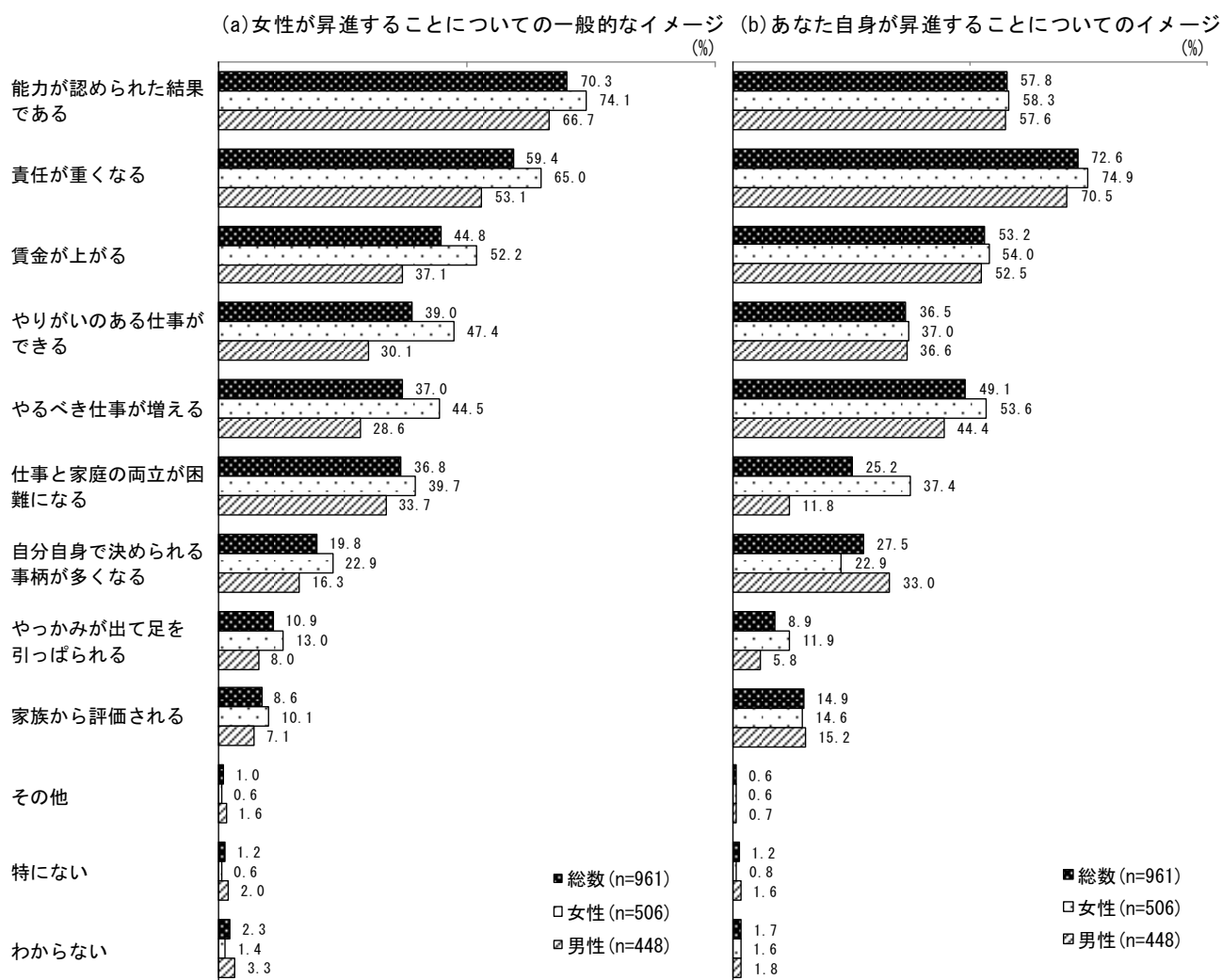
「(a) 女性が昇進することについての一般的なイメージ」では、男女ともに「能力が認められた結果である」(女性74.1%、男性66.7%)、「責任が重くなる」(女性65.0%、男性53.1%)、「賃金が上がる」(女性52.2%、男性37.1%)の順となっている。

男女の差が大きいものとして、「やりがいのある仕事ができる」(17.3ポイント差)で女性が男性のポイントを大きく上回っている。

「(b) あなた自身が昇進することについてのイメージ」では、男女ともに「責任が重くなる」(女性74.9%、男性70.5%)、「能力が認められた結果である」(女性58.3%、男性57.6%)、「賃金が上がる」(女性54.0%、男性52.5%)の順となっている。

男女の差が大きいものとしては、「仕事と家庭の両立が困難になる」(25.6ポイント差)で女性のポイントが、「自分自身で決められる事柄が多くなる」(10.1ポイント差)で男性のポイントが高くなっている。

図12-1 管理職に昇進することについてのイメージ 項目別一覧 (性別)

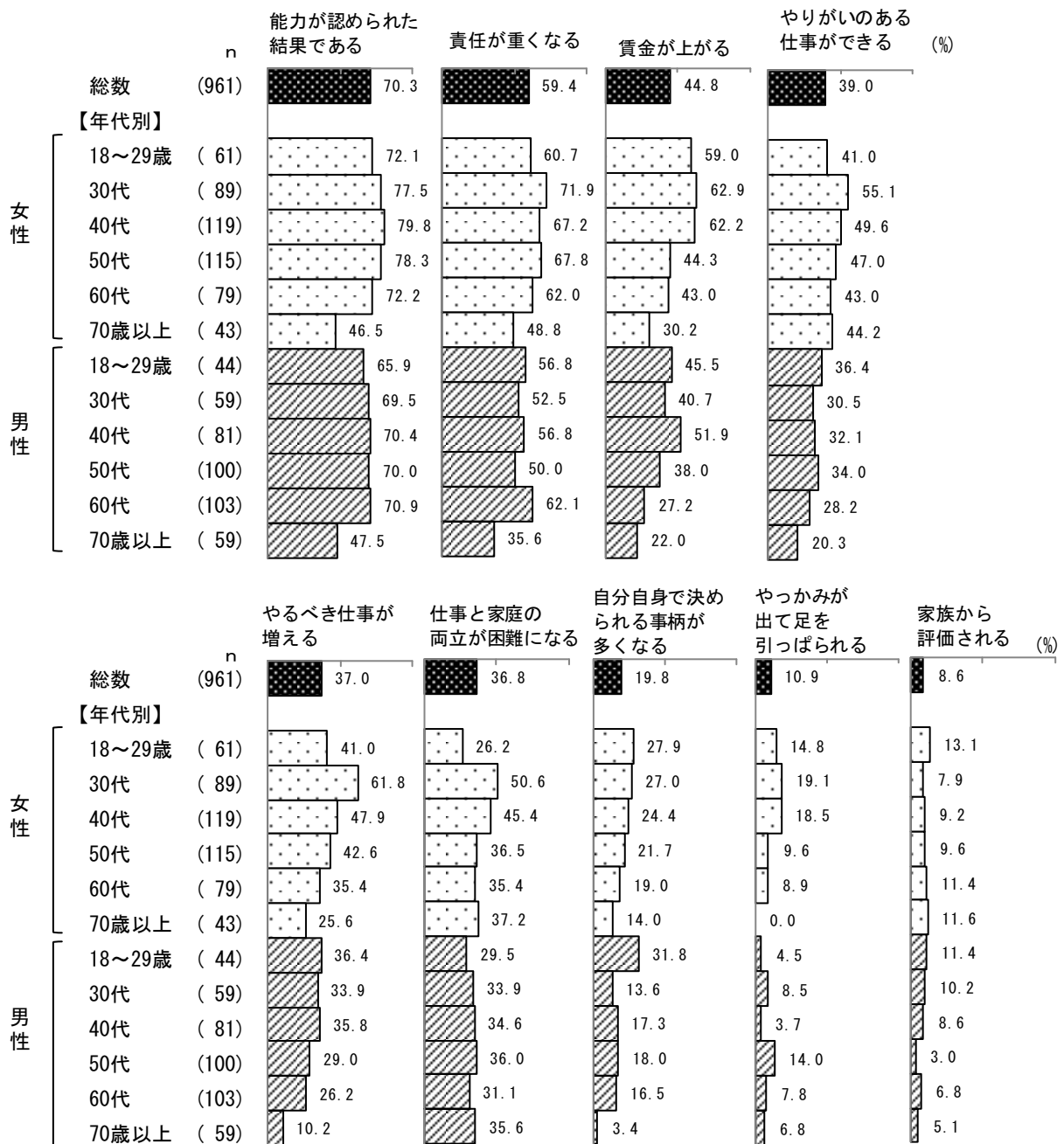


管理職に昇進することについてのイメージ

(a) 女性が昇進することについての一般的なイメージ

【年代別】
 女性では、70歳以上を除く全ての年代で「能力が認められた結果である」が最も多くなっている。
 男性では、全ての年代で「能力が認められた結果である」が最も多くなっている。

図12-2 (a) 女性が昇進することについての一般的なイメージ (年代別)



管理職に昇進することについてのイメージ

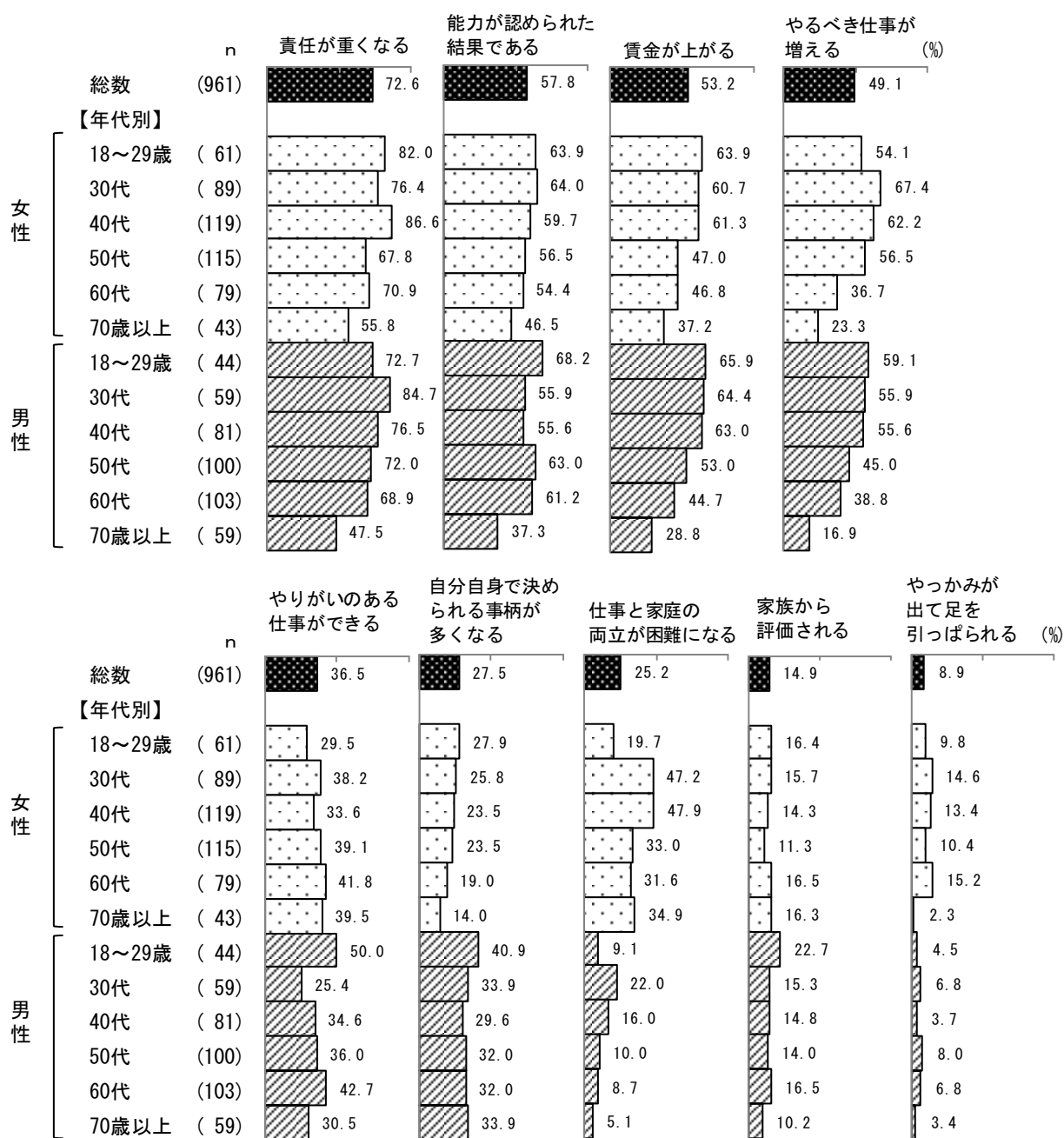
(b) あなた自身が昇進することについてのイメージ

【年代別】

女性では、「責任が重くなる」は全ての年代で最も多く、特に18～29歳（82.0%）と40代（86.6%）で8割を超えている。

男性においても、「責任が重くなる」は全ての年代で最も多く、特に30代（84.7%）で8割を超えている。

図12-3 (b) あなた自身が昇進することについてのイメージ (年代別)

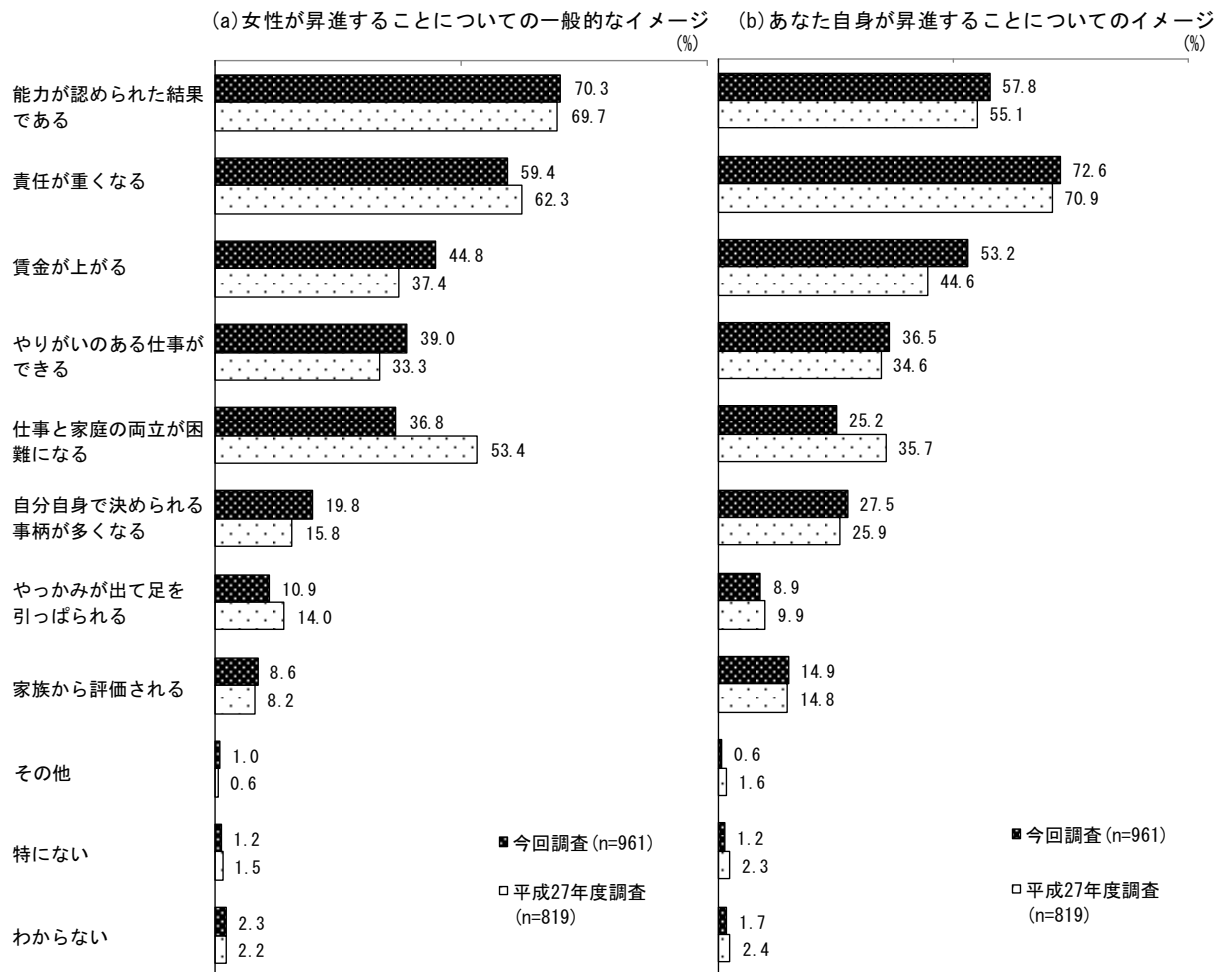


【平成27年度調査との比較】

平成27年度調査と比べると「(a) 女性が昇進することについての一般的なイメージ」で「仕事と家庭の両立が困難になる」が16.6ポイント減少しており、「やりがいのある仕事ができる」が5.7ポイント増加している。

「(b) あなた自身が昇進することについてのイメージ」でも「仕事と家庭の両立が困難になる」が10.5ポイント減少しており、「賃金が上がる」が8.6ポイント増加している。

図12-4 管理職に昇進することについてのイメージ (平成27年度調査との比較)



※今回調査における選択肢の「やるべき仕事が増える」は今回の調査での新規項目であり、比較できないため、表記していない。

4 女性のリーダーを増やす上での障害

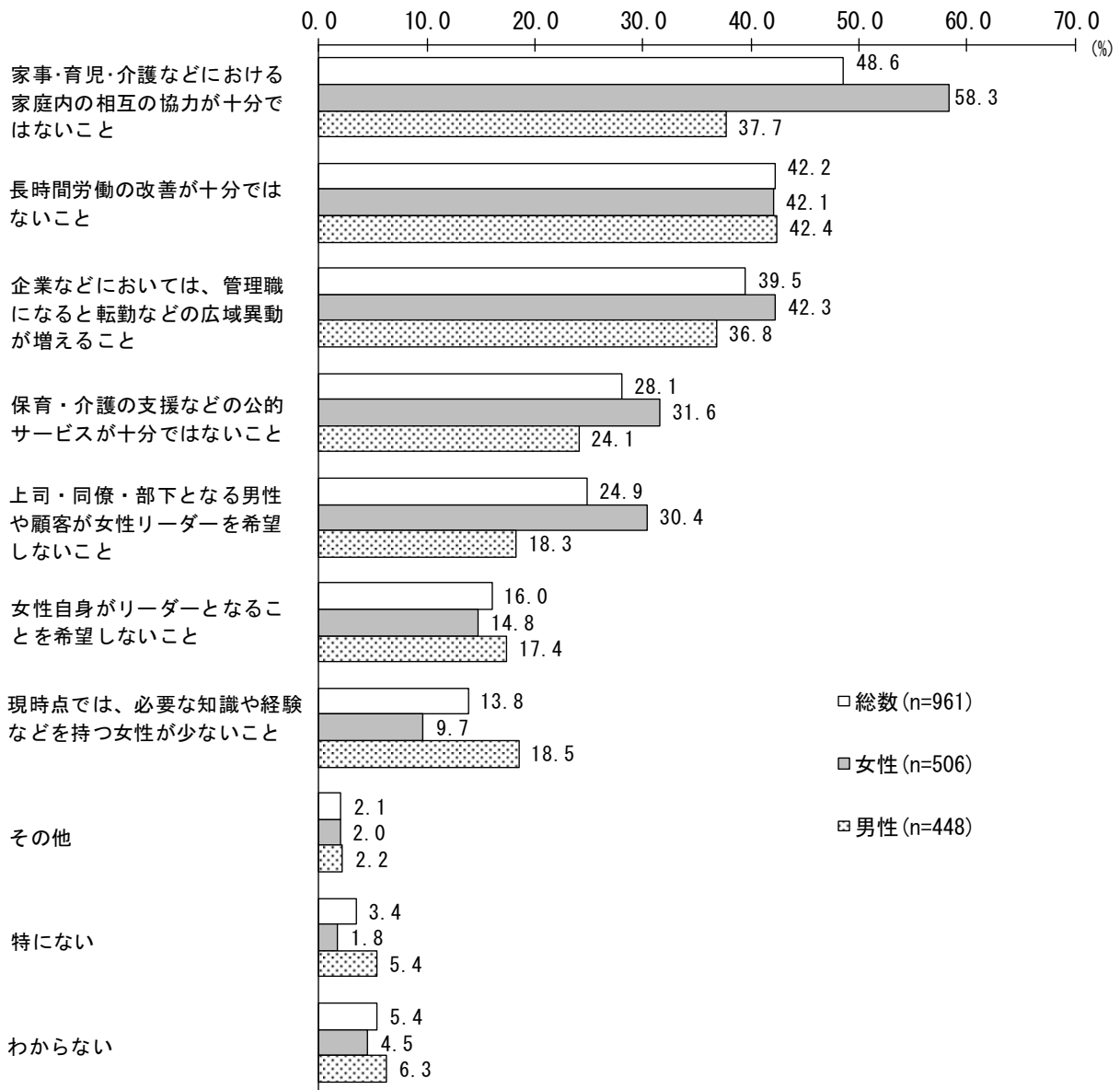
(現在、仕事【収入を得る仕事】をしている方にお聞きします。)

問13 あなたは、就業分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いませんか。(〇はいくつでも)

女性では「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(女性58.3%、男性37.7%)が最も多く、男性では「長時間労働の改善が十分ではないこと」(女性42.1%、男性42.4%)が最も多くなっている。

男女差では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(20.6ポイント差)で女性が男性のポイントを大きく上回っており、「現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと」(8.8ポイント差)で男性のポイントが女性のポイントを上回っている。

図13-1 女性のリーダーを増やす上での障害 項目別一覧 (性別)



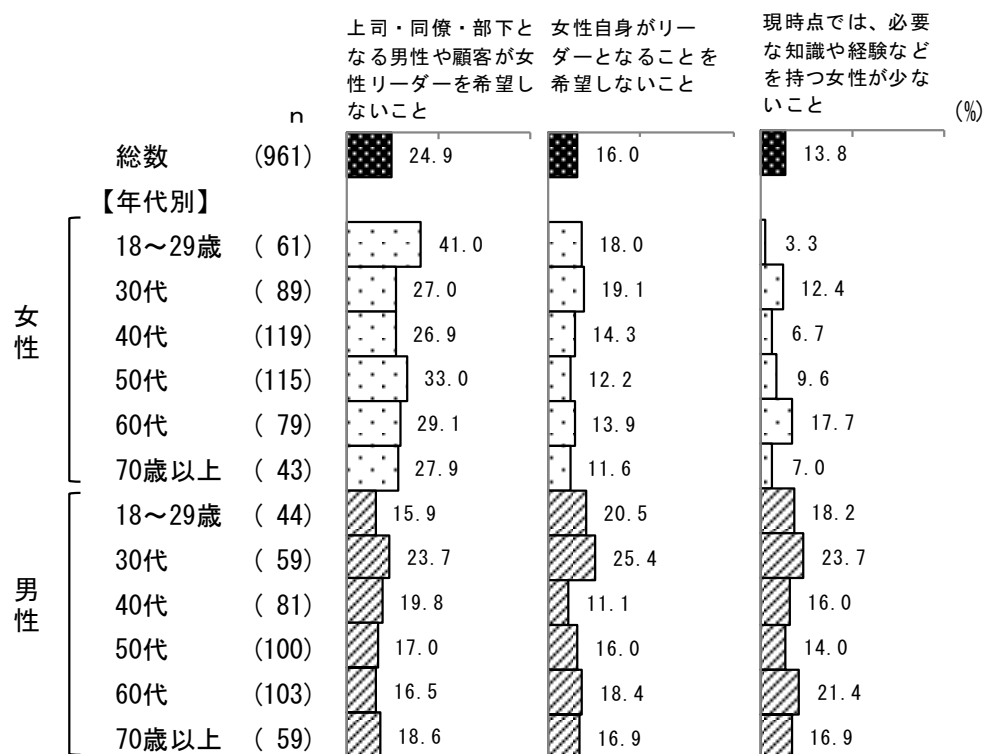
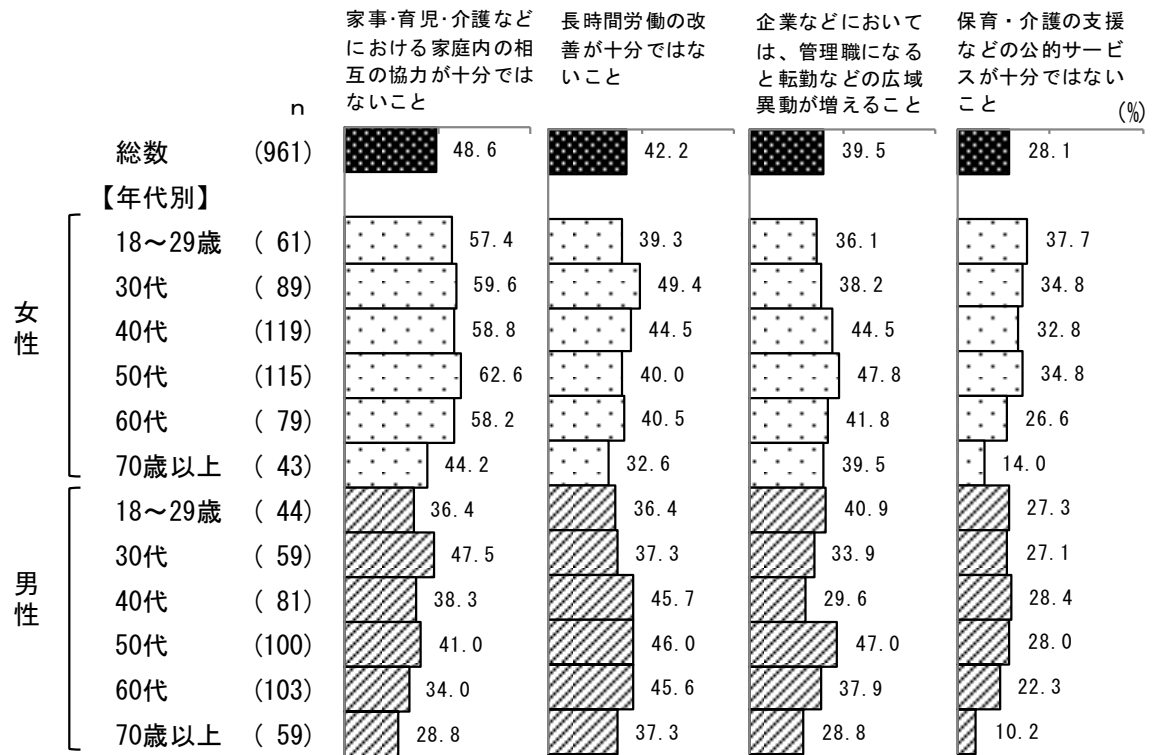
女性のリーダーを増やす上での障害

【年代別】

女性では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」はどの年代でも最も多くなっている。

男性では、「長時間労働の改善が十分ではないこと」は40代（45.7%）、60代（45.6%）、70歳以上（37.3%）で最も多くなっており、「企業などにおいては、管理職になると転勤などの広域異動が増えること」では18～29歳（40.9%）、50代（47.0%）で最も多くなっている。「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」は30代（47.5%）が5割近くで最も多くなっている。

図13-2 女性のリーダーを増やす上での障害 (年代別)



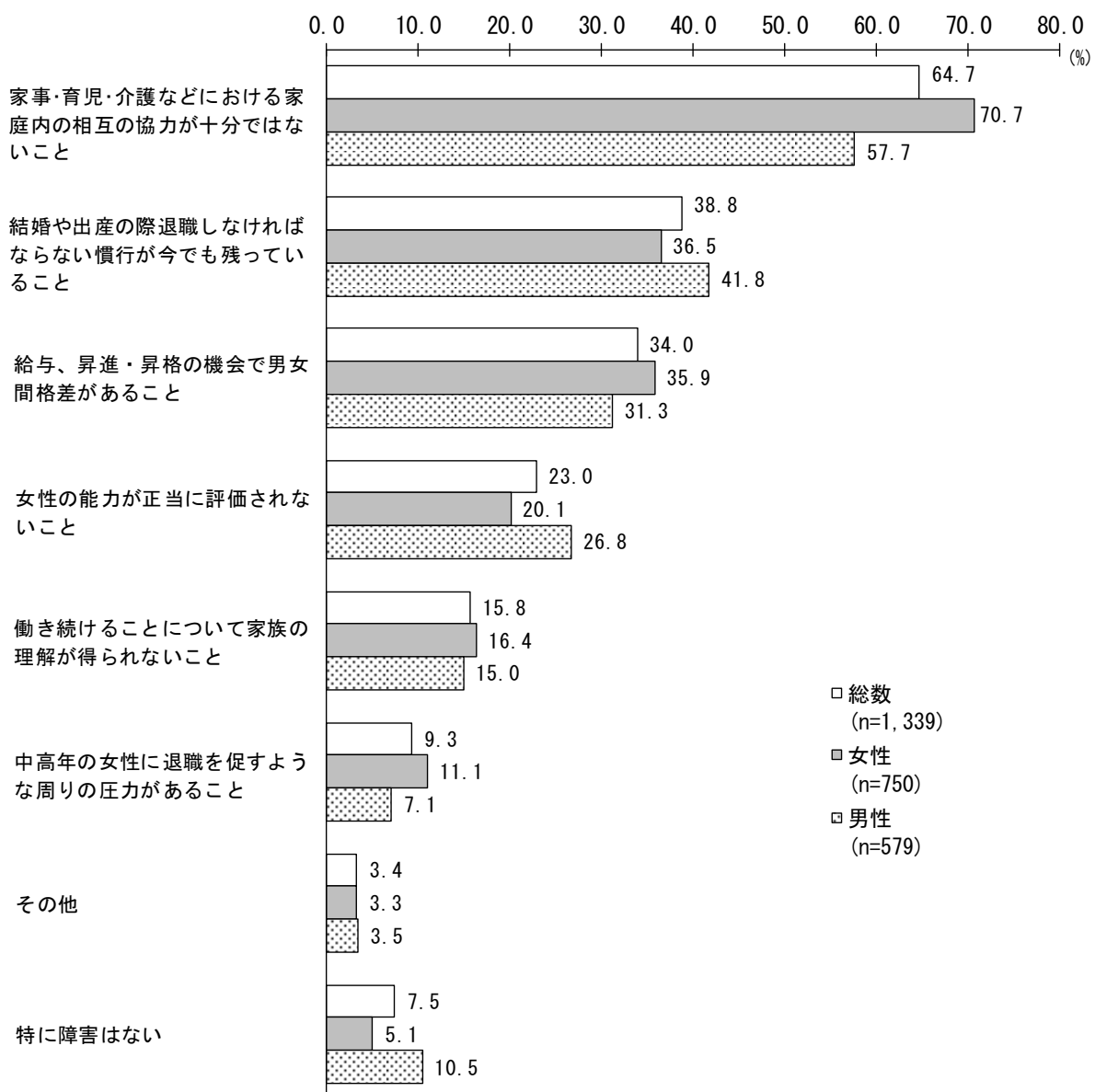
5 女性が働き続ける上での障害

問14 女性が職業を続けていく上では、どんな障害があると思いますか。(〇は3つまで)

男女とも、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(女性70.7%、男性57.7%)が過半数で最も高く、次いで「結婚や出産の際退職しなければならない慣行が今でも残っていること」(女性36.5%、男性41.8%)の順となっている。

男女の差が大きいものとして、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」(13.0ポイント差)で女性が男性のポイントを大きく上回っており、「女性の能力が正当に評価されないこと」(6.7ポイント差)で男性のポイントが高くなっている。

図14-1 女性が働き続ける上での障害 項目別一覧 (性別)



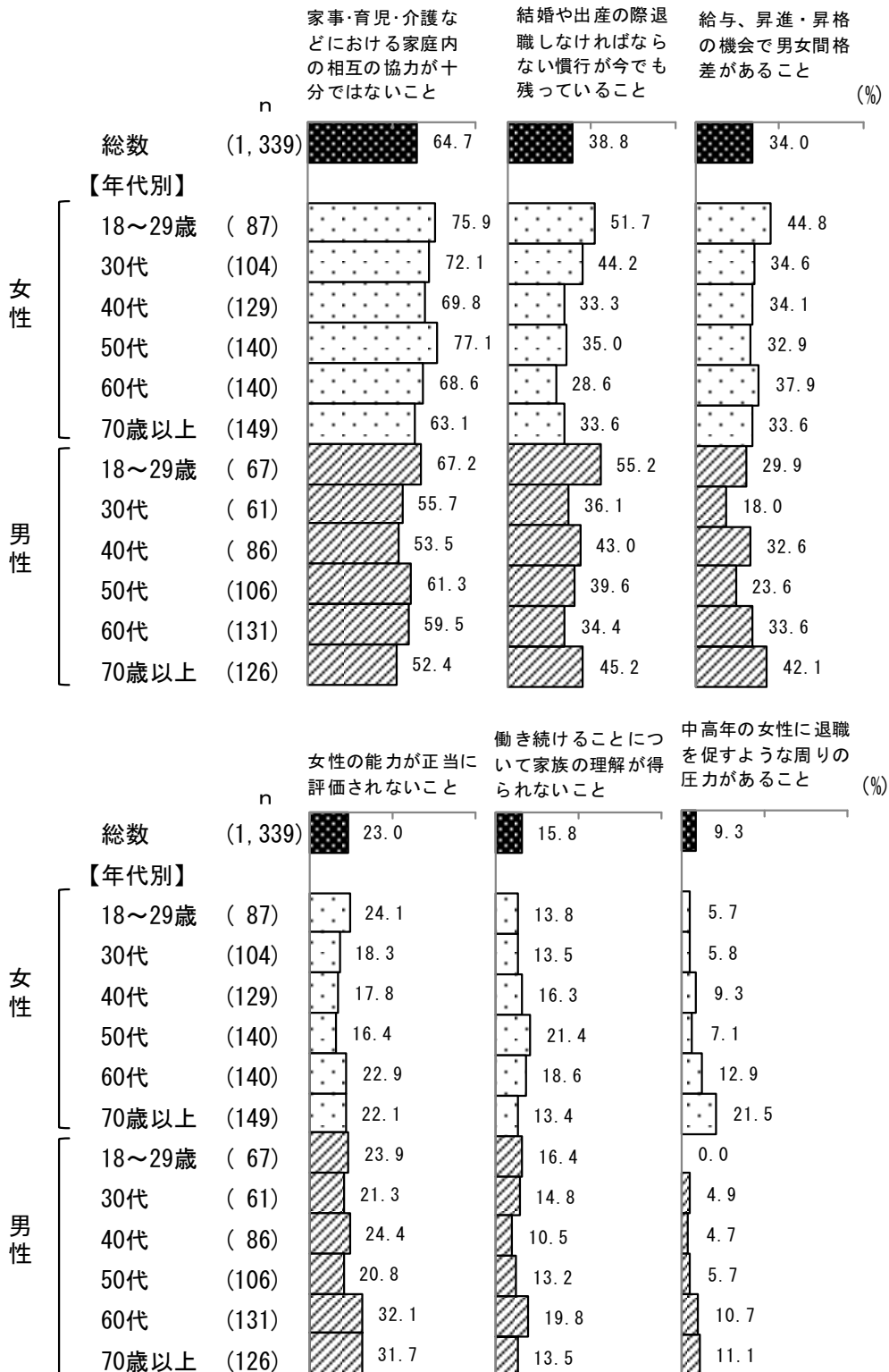
女性が働き続ける上での障害

【年代別】

女性では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」は全ての年代で最も多く、6～7割となっている。

男性においても、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと」は全ての年代で5割を超え、最も多くなっている。

図14-2 女性が働き続ける上での障害 項目別一覧 (年代別)



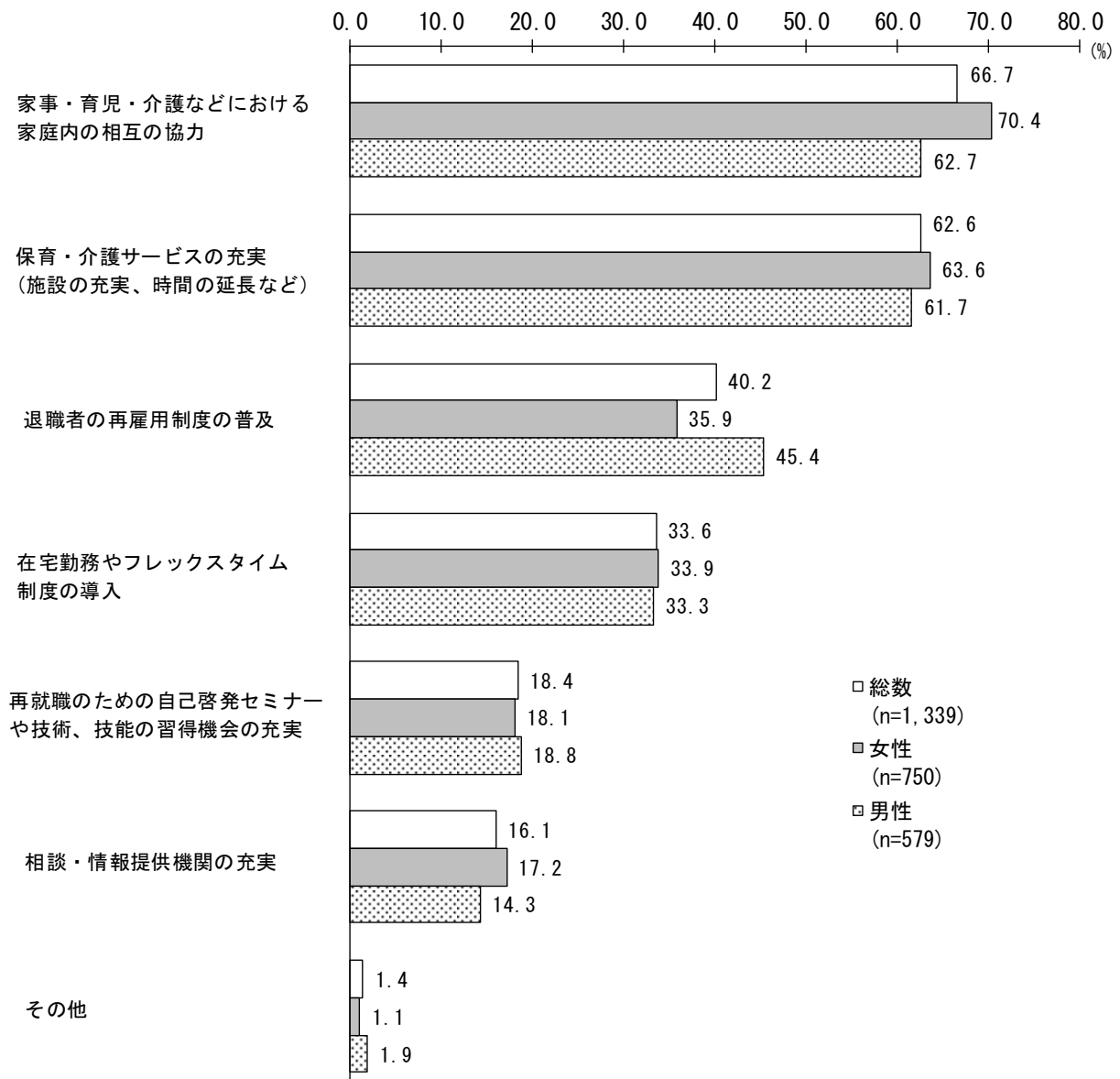
6 女性の再就職に必要なこと

問15 出産や育児、介護などで仕事から遠ざかっていた女性が再就職しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男女ともに「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」(女性70.4%、男性62.7%)が最も多くなっている。「保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)」(女性63.6%、男性61.7%)が続いている。

「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」は、女性の方が7.7ポイント多く、「退職者の再雇用制度の普及」(女性35.9%、男性45.4%)は、男性の方が9.5ポイント多くなっている。

図15-1 女性の再就職に必要なこと 項目別一覧 (性別)



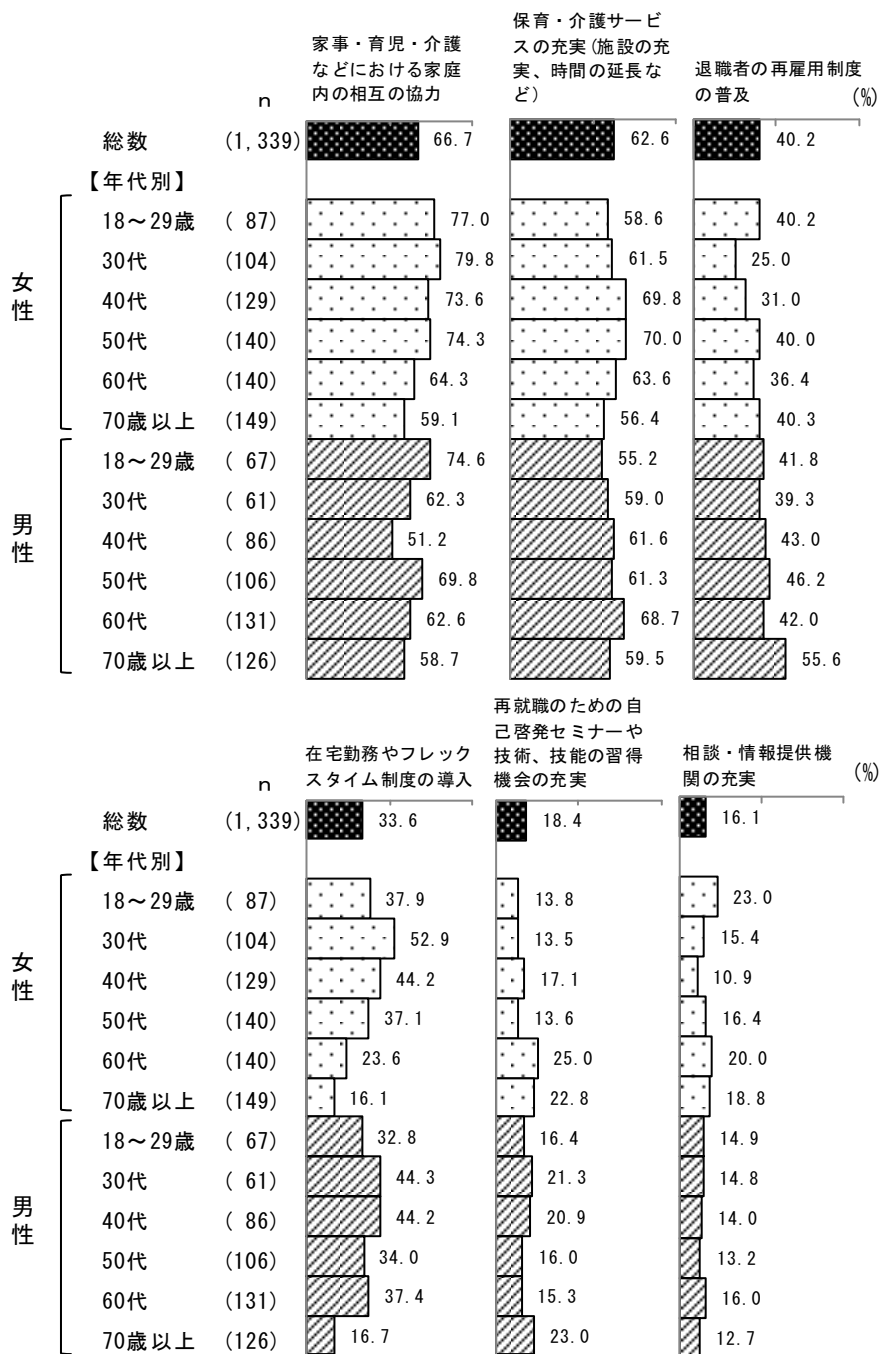
女性の再就職に必要なこと

【年代別】

女性では、全ての年代で「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」が最も多くなっている。

男性では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」は18～29歳（74.6%）、50代（69.8%）、30代（62.3%）で、「保育・介護サービスの充実（施設の充実、時間の延長など）」は60代（68.7%）、40代（61.6%）、70歳以上（59.5%）が最も多くなっている。

図 15-2 女性の再就職に必要なこと 項目別一覧（年代別）



女性の再就職に必要なこと

【職業別】

女性では、「保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)」は自営業等(72.4%)で最も多く、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」は勤め人(74.6%)、無職(64.6%)で最も多くなっている。

男性では、「家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力」は自営業等(61.0%)で、「保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)」は無職(61.7%)で最も多くなっている。両項目は勤め人(66.0%)では同率で最も多くなっている。

図15-3 女性の再就職に必要なこと (性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力	保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)	退職者の再雇用制度の普及	在宅勤務やフレックスタイム制度の導入	再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実	相談・情報提供機関の充実	その他	
全体		1,339	66.7	62.6	40.2	33.6	18.4	16.1	1.4	
性×職業別	女性	勤め人	429	74.6	65.3	35.4	38.5	15.6	17.7	1.4
		自営業・家族従業	58	67.2	72.4	36.2	37.9	13.8	8.6	0.0
		無職	243	64.6	58.4	37.0	24.3	23.9	18.9	0.4
	男性	勤め人	350	66.0	66.0	44.0	38.3	18.3	14.0	1.7
		自営業・家族従業	77	61.0	50.6	33.8	29.9	20.8	9.1	2.6
		無職	128	57.0	61.7	57.8	21.9	20.3	16.4	0.8

※グレーのセルは属性中トップの項目

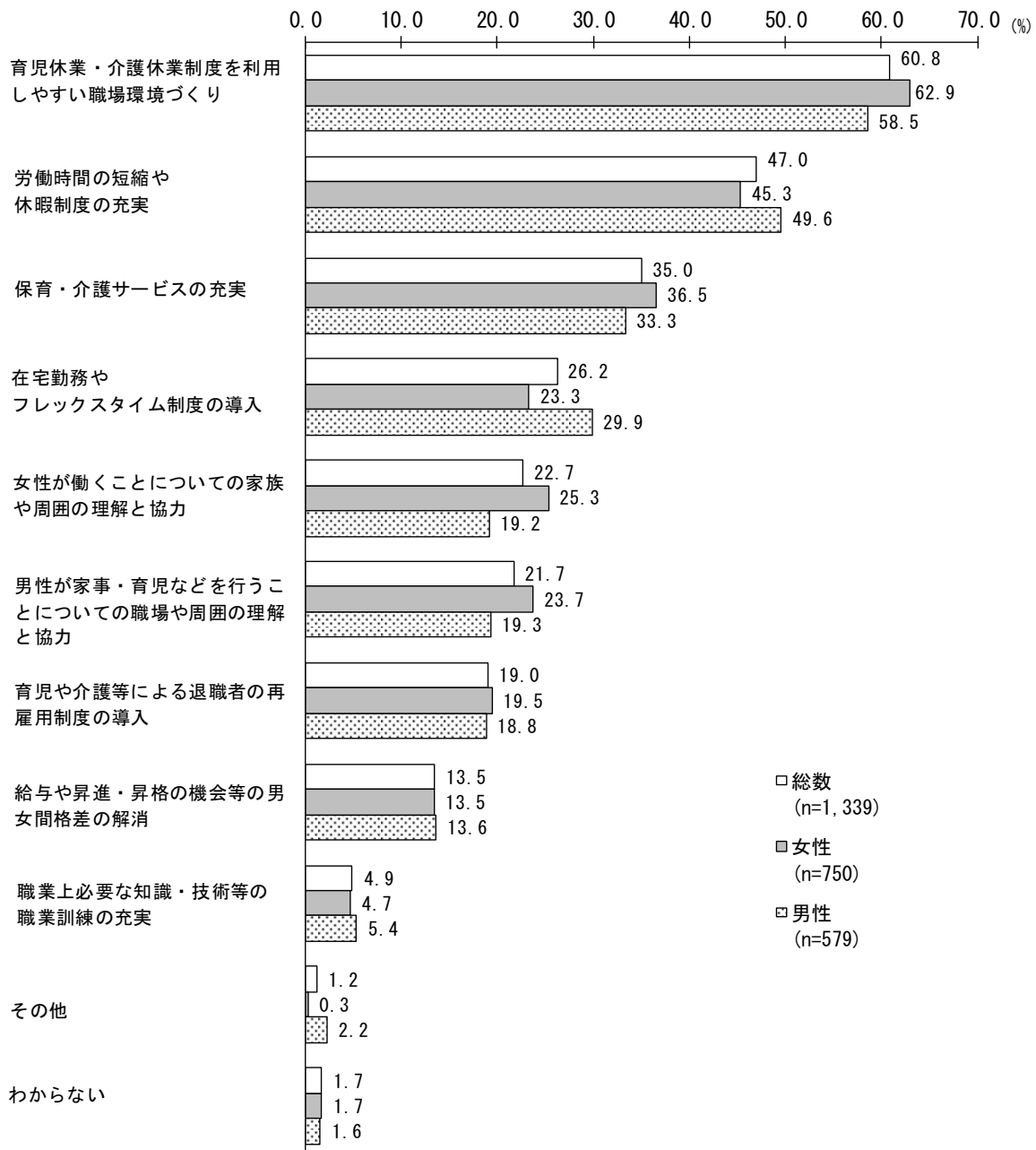
7 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと

問16 男性も女性も共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

男女とも、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」(女性62.9%、男性58.5%)が最も高くなっている。次いで「労働時間の短縮や休暇制度の充実」(女性45.3%、男性49.6%)、「保育・介護サービスの充実」(女性36.5%、男性33.3%)となっている。

男女の比較では、女性は「女性が働くことについての家族や周囲の理解と協力」(女性25.3%、男性19.2%)などの周囲の協力や理解を求める項目で、男性は、「在宅勤務やフレックスタイム制度の導入」(女性23.3%、男性29.9%)などの制度の導入や充実などの項目で上回っている。

図16-1 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと 項目別一覧 (性別)



男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと

【年代別】

女性では、「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」は30代以外の層で最も多くなっている。

男性では、「労働時間の短縮や休暇制度の充実」は30代（67.2%）、40代（59.3%）で最も多くなっている。

【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

男女とも、『賛成である』はどの層でも「育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり」が最も多くなっている。

図 16-2 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと

(年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別)

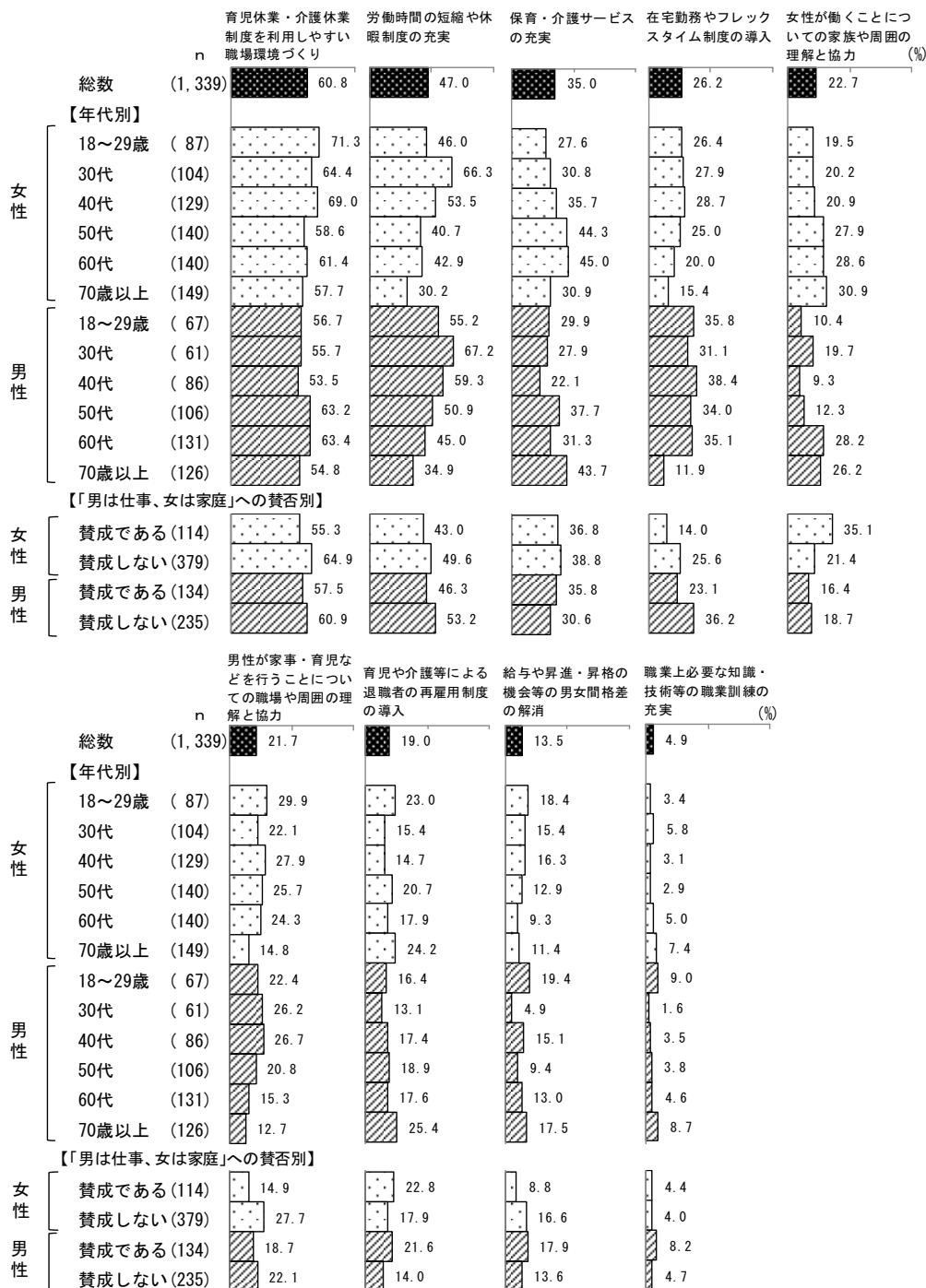


図 16-3 男女が共に仕事と家庭を両立していくために必要なこと（本人の性・職業別）

(単位：%)

		サンプル 数	育児休 業・介 護休 業制 度利 用し やす い職 場環 境づ くり	労働時 間の 短縮 や休 暇制 度の 充実	保育・介 護サー ビスの 充実	在宅勤 務や フレ ック スタ イム 制度 の導 入	女性が 働く こと につ いて の家 族や 周囲 の理 解と 協力	男性が 家事 ・育 児等 を行 うこ とに つ いて の職 場や 周囲 の理 解と 協力	育児や 介護 等に よる 退職 者の 再雇 用の 制度 の導 入	給与や 昇格 の機 会等 の男 女間 格差 の解 消	職業上 必要 な知 識・技 術等 の職 業訓 練の 充実	その他	わから ない
全体		1,339	60.8	47.0	35.0	26.2	22.7	21.7	19.0	13.5	4.9	1.2	1.7
性× 職業別	女性												
	勤め人	429	62.5	51.3	36.4	24.7	24.2	26.3	18.4	15.6	5.1	0.2	2.1
	自営業・ 家族従業	58	62.1	43.1	36.2	27.6	36.2	19.0	19.0	13.8	3.4	0.0	0.0
	無職	243	65.0	35.4	36.2	20.6	25.5	20.2	21.4	9.1	3.7	0.4	0.8
	男性												
	勤め人	350	59.4	58.9	28.0	34.6	16.3	20.3	19.4	14.3	4.6	2.9	0.9
自営業・ 家族従業	77	53.2	28.6	36.4	27.3	36.4	11.7	11.7	9.1	2.6	1.3	7.8	
無職	128	61.7	39.1	46.1	20.3	15.6	22.7	21.1	14.1	9.4	1.6	0.0	

※グレーのセルは属性中トップの項目

IV 女性の社会参画

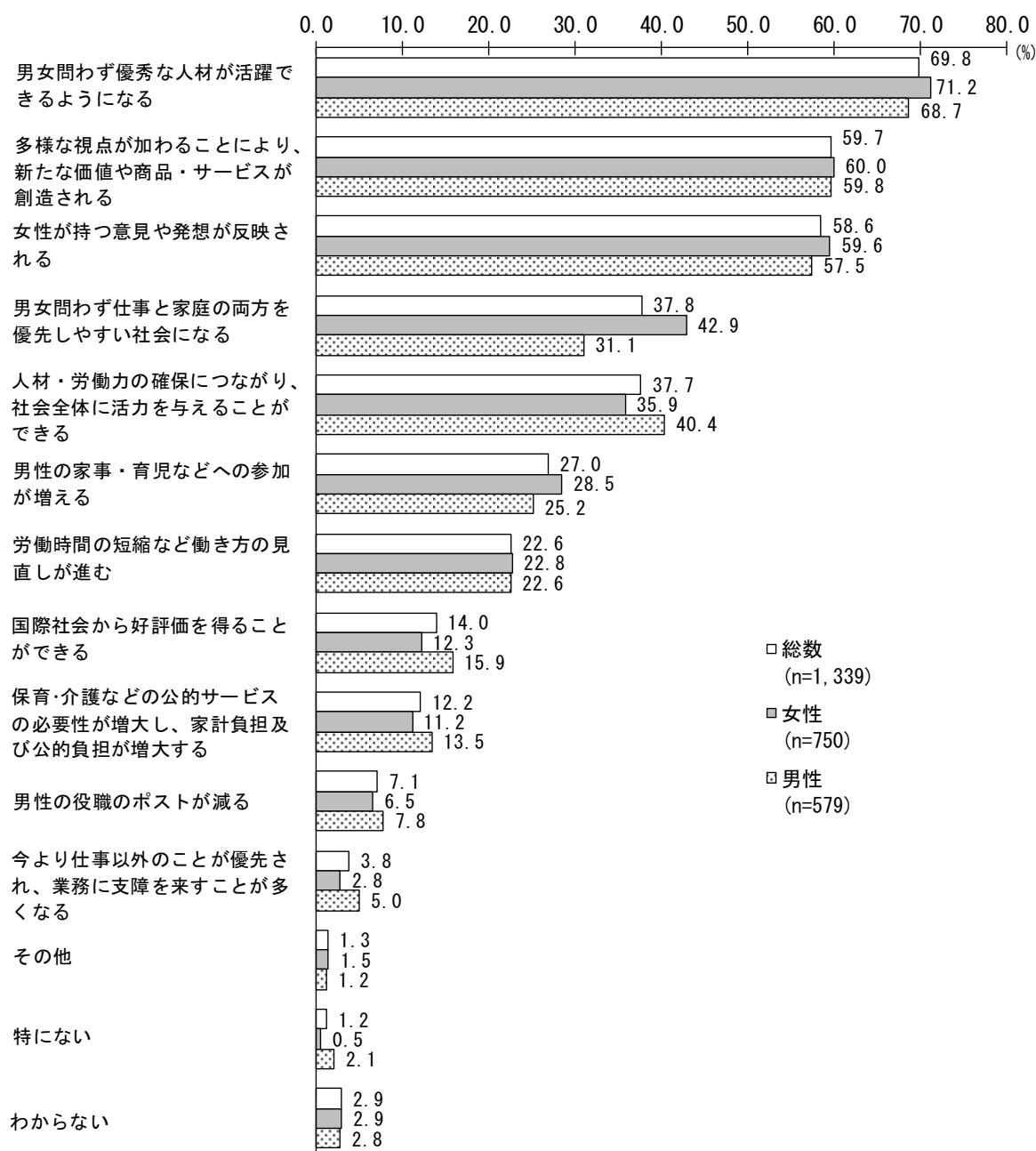
1 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか

問17 あなたは、社会の各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも) [今年度新規調査項目]

全体では、男女ともに、「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」(女性71.2%、男性68.7%)が最も多く、次いで、「多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される」(女性60.0%、男性59.8%)、「女性が持つ意見や発想が反映される」(女性59.6%、男性57.5%)の順となった。

男女の差が大きいものとして、「男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる」では女性(42.9%)が男性(31.1%)を11.8ポイント上回っている。

図17-1 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか 項目別一覧 (性別)



【年代別】

男女共に、全ての年代で「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が最も多くなっている。

【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

いずれの層でも「男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる」が最も多くなっている。

図 17-2 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか 項目別一覧
(年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別)

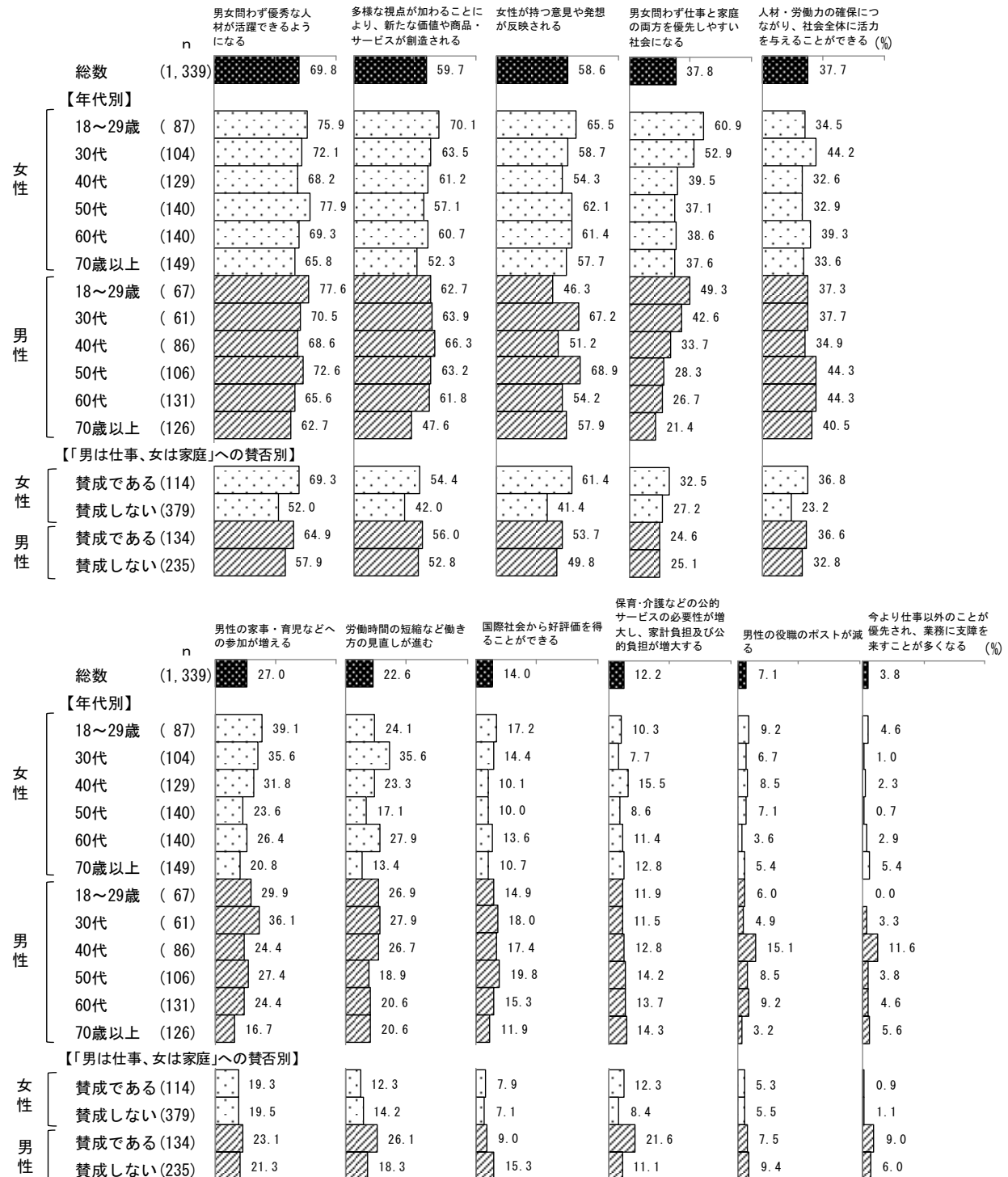


図17-3 女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思うか 項目別一覧
(性・未既婚別)

(単位：%)

		サンプル数	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる	多様な視点が加わることで、新たな価値や商品・サービスが創造される	女性が持つ意見や発想が反映される	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる	男性の家事・育児などへの参加が増える	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む	
全体		1,339	69.8	59.7	58.6	37.8	37.7	27.0	22.6	
性×未既婚別	女性	有配偶者	553	70.2	58.6	59.1	41.8	35.6	27.5	22.4
		離死別	61	70.5	50.8	59.0	41.0	34.4	32.8	24.6
		未婚	134	76.1	69.4	61.2	49.3	37.3	31.3	23.9
	男性	有配偶者	428	70.3	59.8	59.1	28.7	42.3	23.6	22.4
		離死別	26	65.4	65.4	53.8	15.4	30.8	23.1	15.4
		未婚	124	64.5	58.9	53.2	42.7	36.3	31.5	25.0

(単位：%)

		サンプル数	国際社会から好評価を得ることができる	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する	男性の役職のポストが減る	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる	その他	特になし	わからない	
全体		1,339	14.0	12.2	7.1	3.8	1.3	1.2	2.9	
性×未既婚別	女性	有配偶者	553	12.1	12.1	6.7	2.9	1.8	0.4	2.7
		離死別	61	11.5	11.5	6.6	3.3	0.0	0.0	3.3
		未婚	134	13.4	7.5	6.0	2.2	0.7	1.5	3.7
	男性	有配偶者	428	13.8	14.0	6.5	5.1	0.7	1.9	1.2
		離死別	26	26.9	11.5	11.5	3.8	3.8	0.0	3.8
		未婚	124	21.0	12.1	11.3	4.8	2.4	3.2	7.3

※グレーのセルは属性中トップの項目

2 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと

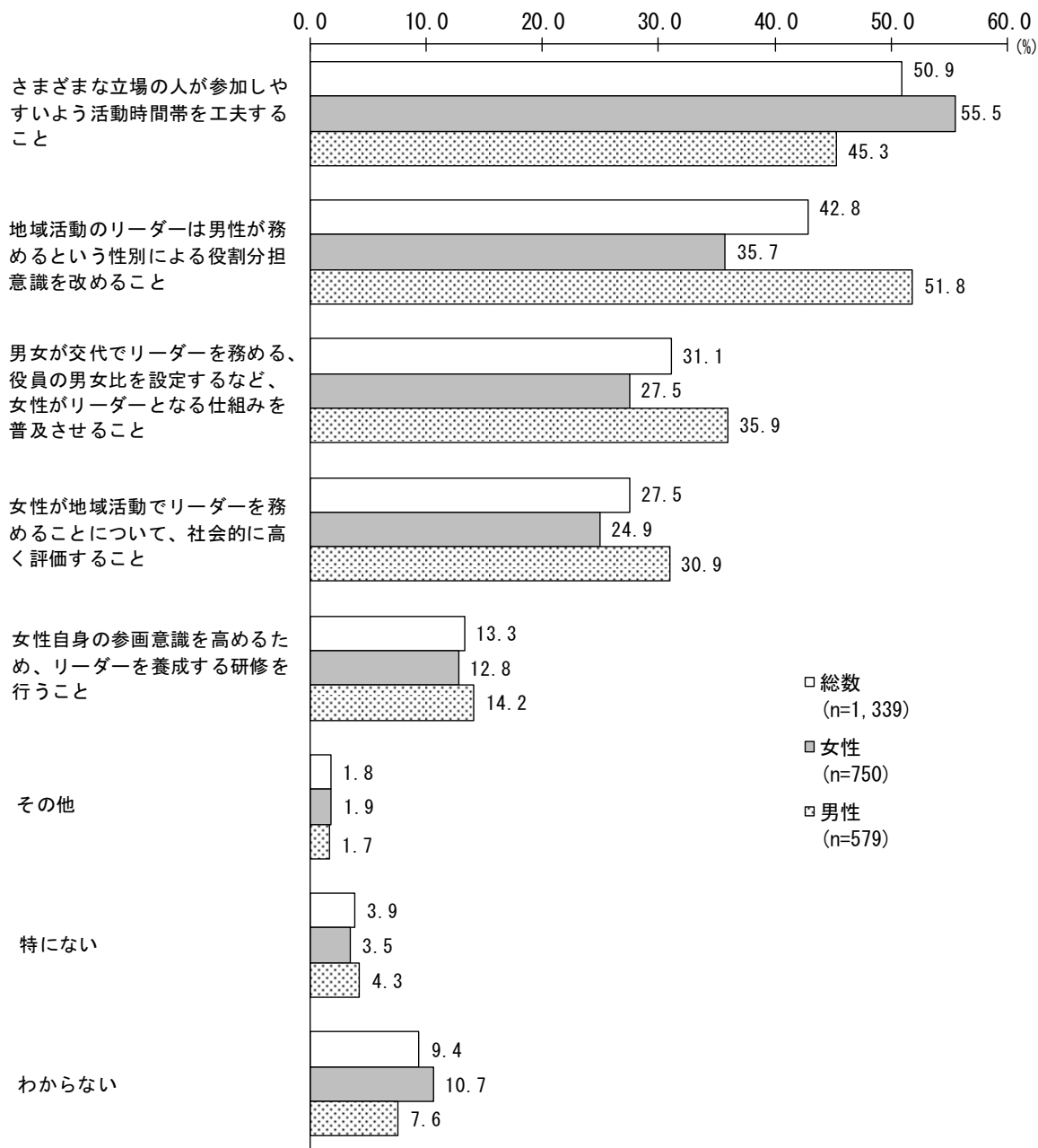
問 18 あなたは、自治会やPTA、自主防災組織などの地域活動において、女性が方針決定の場に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

[今年度新規調査項目]

女性では、「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」(55.5%)が最も多く、次いで「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」(35.7%)となっている。

男性では「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」(51.8%)が最も多く、次いで「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」(45.3%)となっている。

図18-1 女性が方針決定の場に参画するために必要なこと 項目別一覧 (性別)



【年代別】

女性では全ての年代で「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」が最も多くなっている。

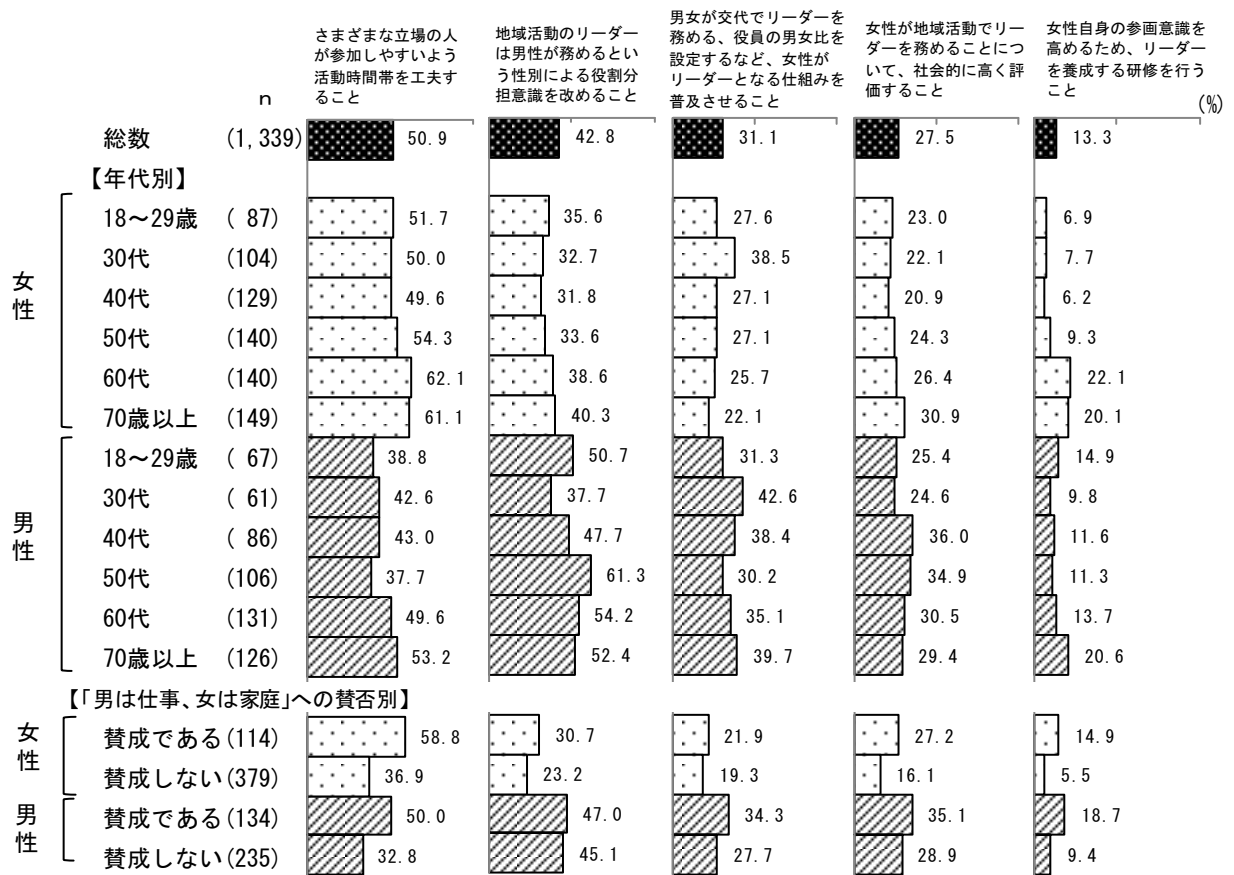
【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

女性では、いずれの層でも「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」が最も多くなっている。

男性では『賛成である』では「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」が最も多く、『賛成しない』では「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」が最も多くなっている。

図18-2 女性が方針決定の場に参加するために必要なこと 項目別一覧

(年代別、「男は仕事、女は家庭」への賛否別)



【地域別】

女性では、いずれの地域でも「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」が最も多くなっている。

男性では、能登北部以外で「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」が最も多くなっている。

【未既婚別】

女性では、いずれの層でも「さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること」が最も多くなっている。

男性では、いずれの層でも「地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること」が最も多くなっている。

図18-3 女性が方針決定の場に参加するために必要なこと 項目別一覧

(性・地域別、性・未既婚別)

		サンプル数	さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること	地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること	男女が交代でリーダーを務める、役員の男女比を設定するなど、女性がリーダーとなる仕組みを普及させること	女性が地域活動でリーダーを務めることについて、社会的に高く評価すること	女性自身の参画意識を高めるため、リーダーを養成する研修を行うこと	その他	特になし	わからない	
											(単位：%)
全体		1,339	50.9	42.8	31.1	27.5	13.3	1.8	3.9	9.4	
性×地域別	女性	能登北部	41	58.5	34.1	41.5	34.1	2.4	0.0	2.4	7.3
		能登中部	90	55.6	35.6	24.4	24.4	20.0	2.2	4.4	6.7
		石川中央	477	55.8	39.0	27.5	26.2	12.2	1.9	3.4	10.3
		南加賀	142	53.5	25.4	25.4	18.3	13.4	2.1	3.5	15.5
	男性	能登北部	37	48.6	43.2	37.8	32.4	10.8	2.7	0.0	5.4
		能登中部	55	36.4	50.9	36.4	32.7	23.6	0.0	5.5	7.3
		石川中央	367	45.8	51.5	35.1	30.8	13.9	1.9	4.9	7.4
		南加賀	119	46.2	56.3	37.0	29.4	11.8	1.7	3.4	9.2
性×未既婚別	女性	有配偶者	553	56.1	36.9	26.6	26.2	13.2	2.0	3.4	9.9
		離死別	61	55.7	26.2	36.1	27.9	21.3	0.0	1.6	4.9
		未婚	134	52.2	35.8	26.9	18.7	7.5	2.2	4.5	16.4
	男性	有配偶者	428	47.0	52.6	35.5	32.0	13.1	2.1	4.4	6.5
		離死別	26	46.2	57.7	34.6	23.1	23.1	0.0	3.8	0.0
		未婚	124	39.5	48.4	37.9	29.0	16.1	0.8	4.0	12.1

※グレーのセルは属性中トップの項目

V ドメスティック・バイオレンス (DV) 等

1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

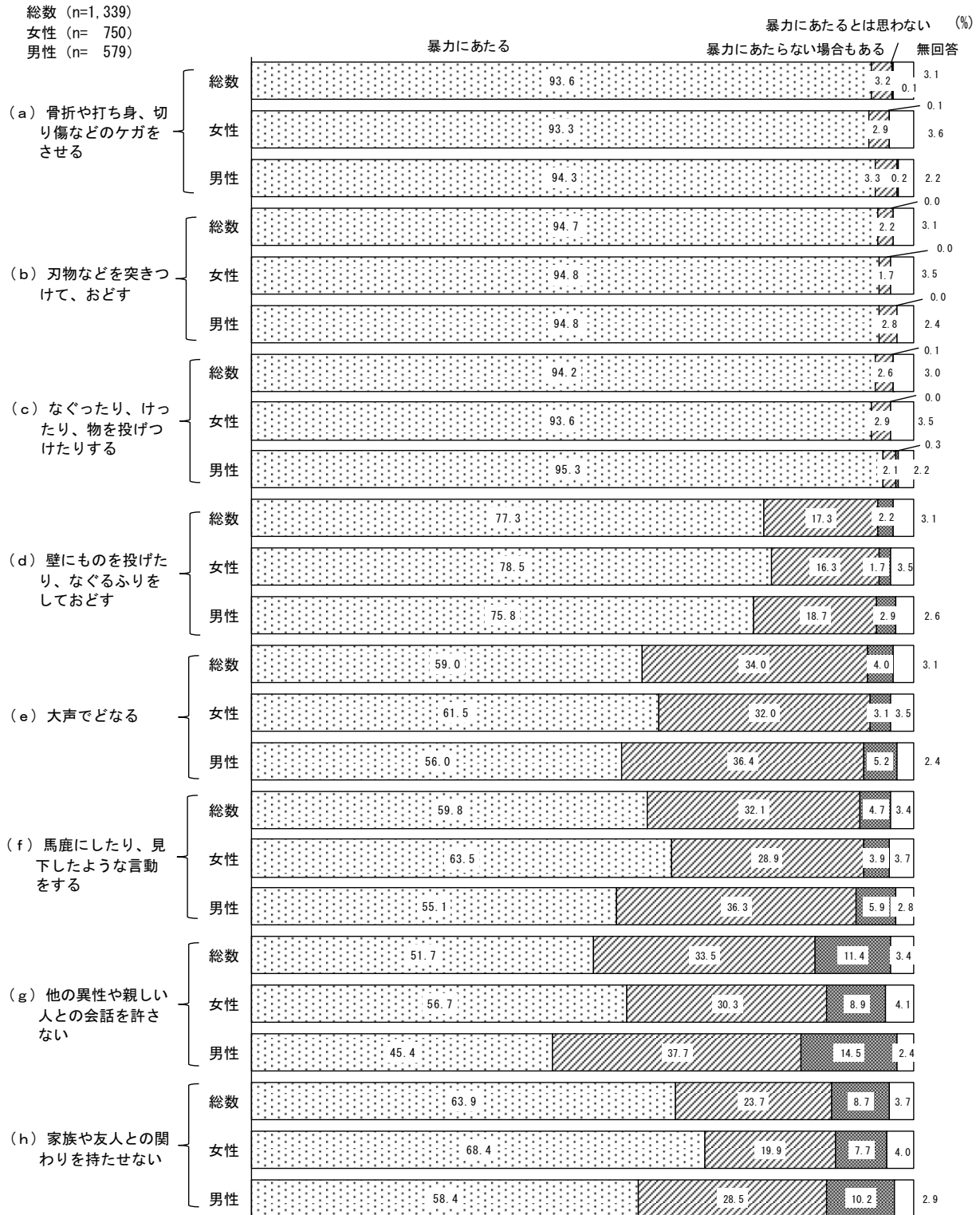
問19 次の(a)～(o)のようなことが配偶者や交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思えますか。(○はそれぞれ1つずつ)

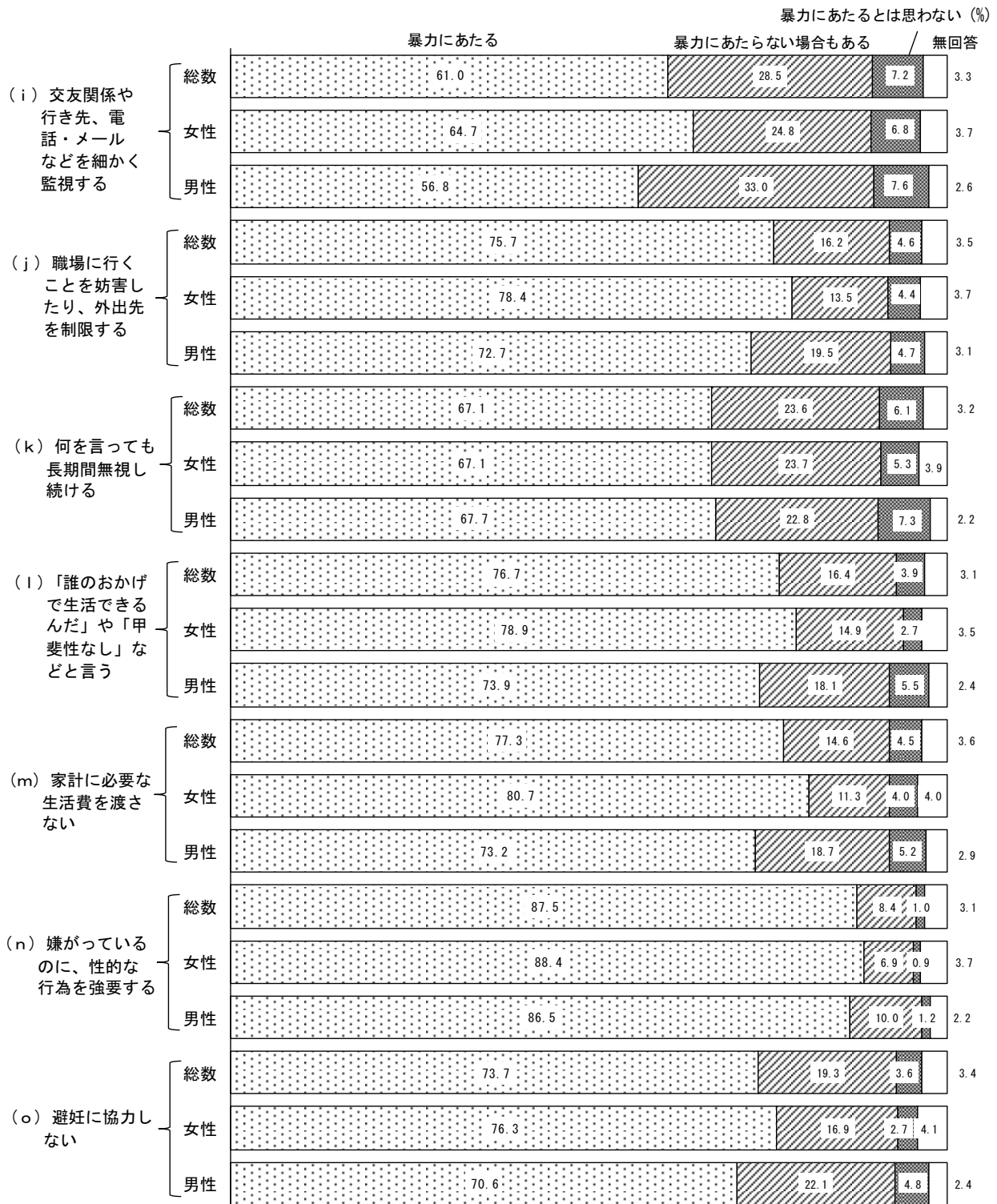
「暴力にあたる」と思うと答えた人を多い順に見ていくと、“(b)刃物などを突きつけて、おどす”(女性94.8%、男性94.8%、全体94.7%)が最も多く、次いで“(c)なぐったり、けったり、物を投げつけたりする”(女性93.6%、男性95.3%、全体94.2%)、“(a)骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる”(女性93.3%、男性94.3%、全体93.6%)が9割以上となっており、続いて“(n)嫌がっているのに、性的な行為を強要する”(女性88.4%、男性86.5%、全体87.5%)、“(d)壁にものを投げたり、なぐるふりをしておどす”(女性78.5%、男性75.8%、全体77.3%)、“(m)家計に必要な生活費を渡さない”(女性80.7%、男性73.2%、全体77.3%)、“(l)「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う”(女性78.9%、男性73.9%、全体76.7%)、“(j)職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する”(女性78.4%、男性72.7%、全体75.7%)、“(o)避妊に協力しない”(女性76.3%、男性70.6%、全体73.7%)の順となった。

“(g)他の異性や親しい人との会話を許さない”、“(e)大声でどなる”、“(f)馬鹿にしたり、見下したような言動をする”は、「暴力にあたる」と思う人の割合は少なくなっている。

男女を比較すると、大半の項目で、女性の方が「暴力にあたる」と思う人の割合が多い。

図19-1 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為 項目別一覧 (性別)





配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

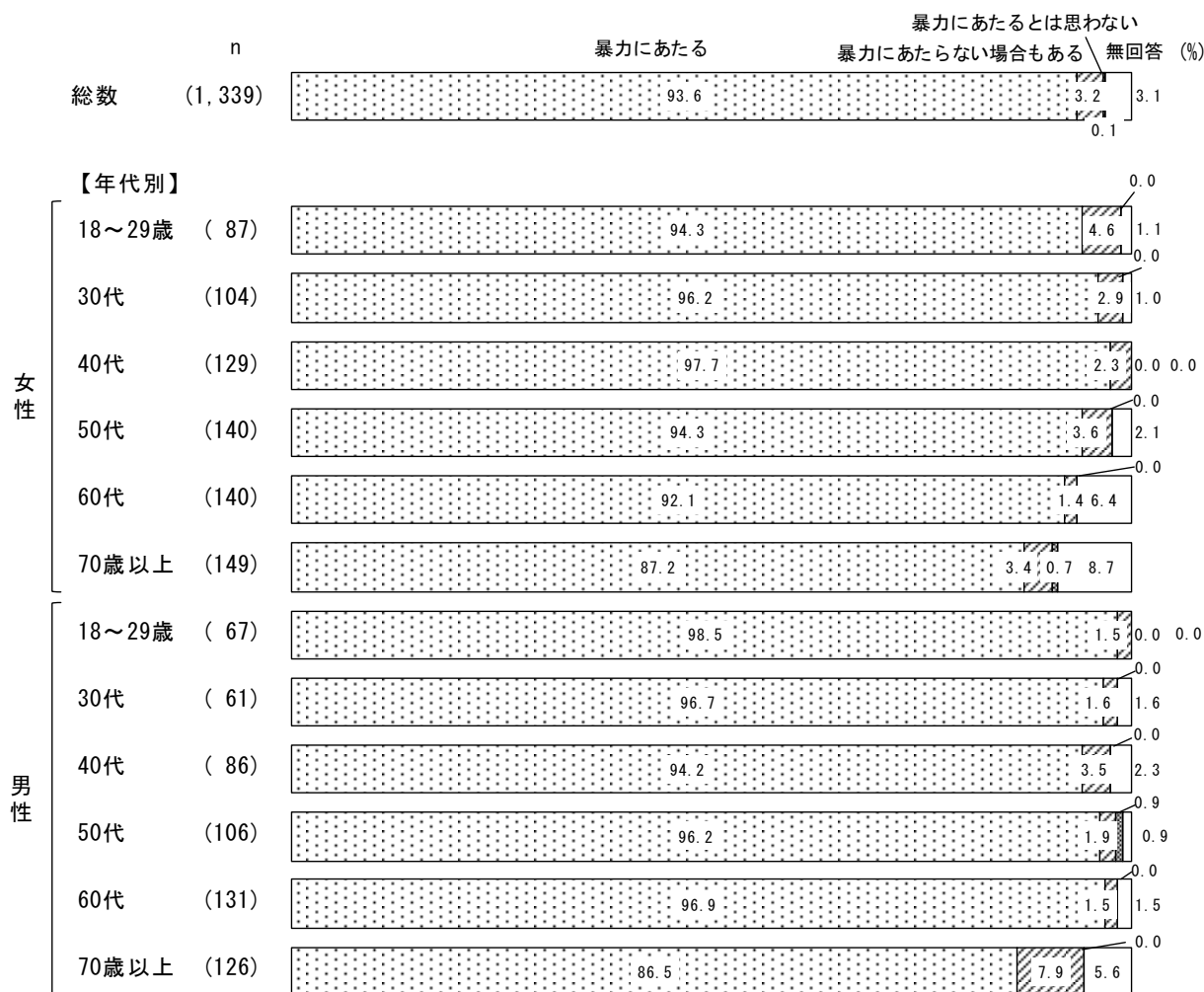
(a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる

【年代別】

男女とも、全ての年代で「暴力にあたる」が8割を超えている。

図19-2 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

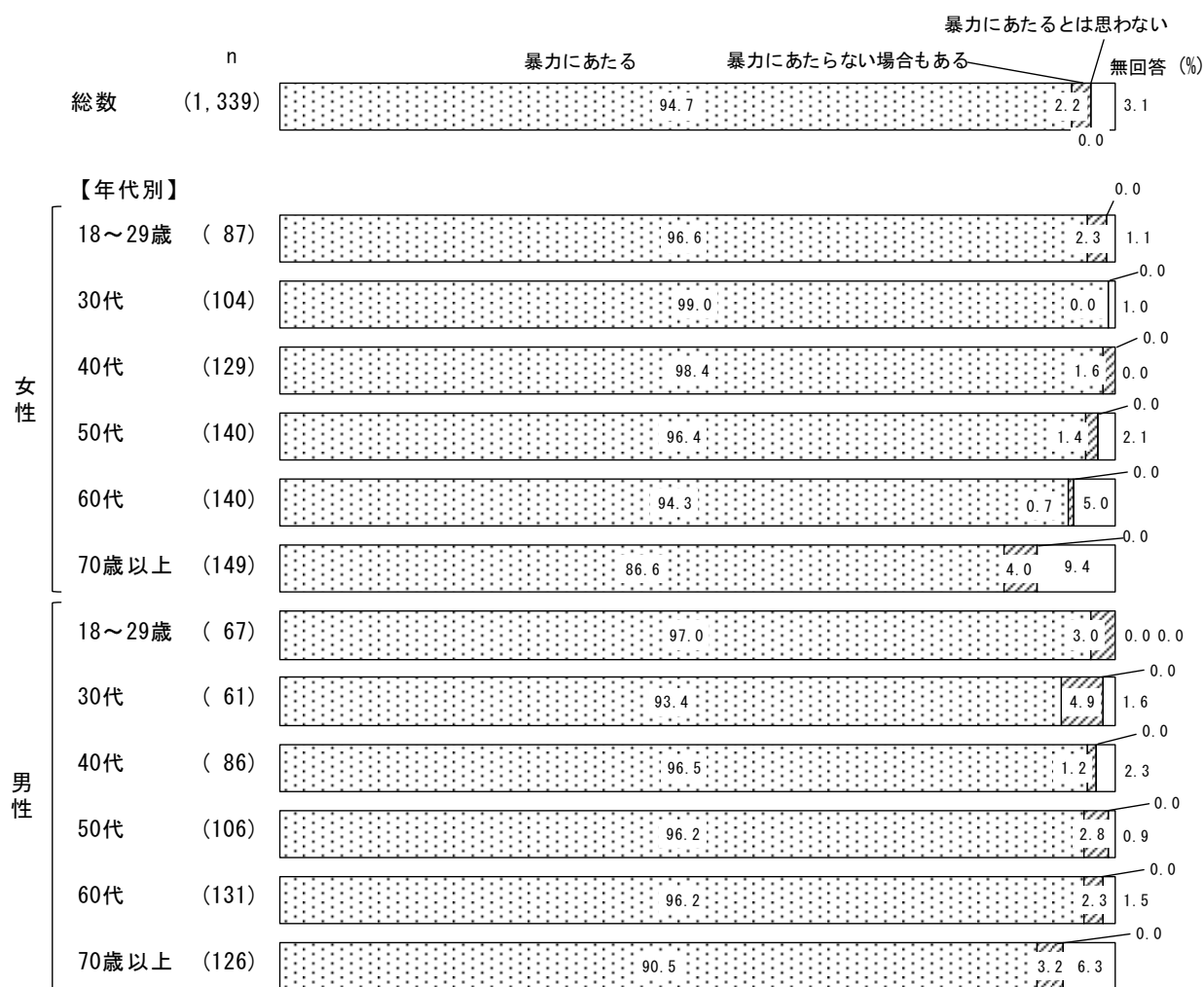
(a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる (年代別)



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (b) 刃物などを突きつけて、おどす

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（86.6%）を除く全ての年代で9割を超えている。
 男性では、全ての年代で9割を超えている。

図19-3 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (b) 刃物などを突きつけて、おどす（年代別）

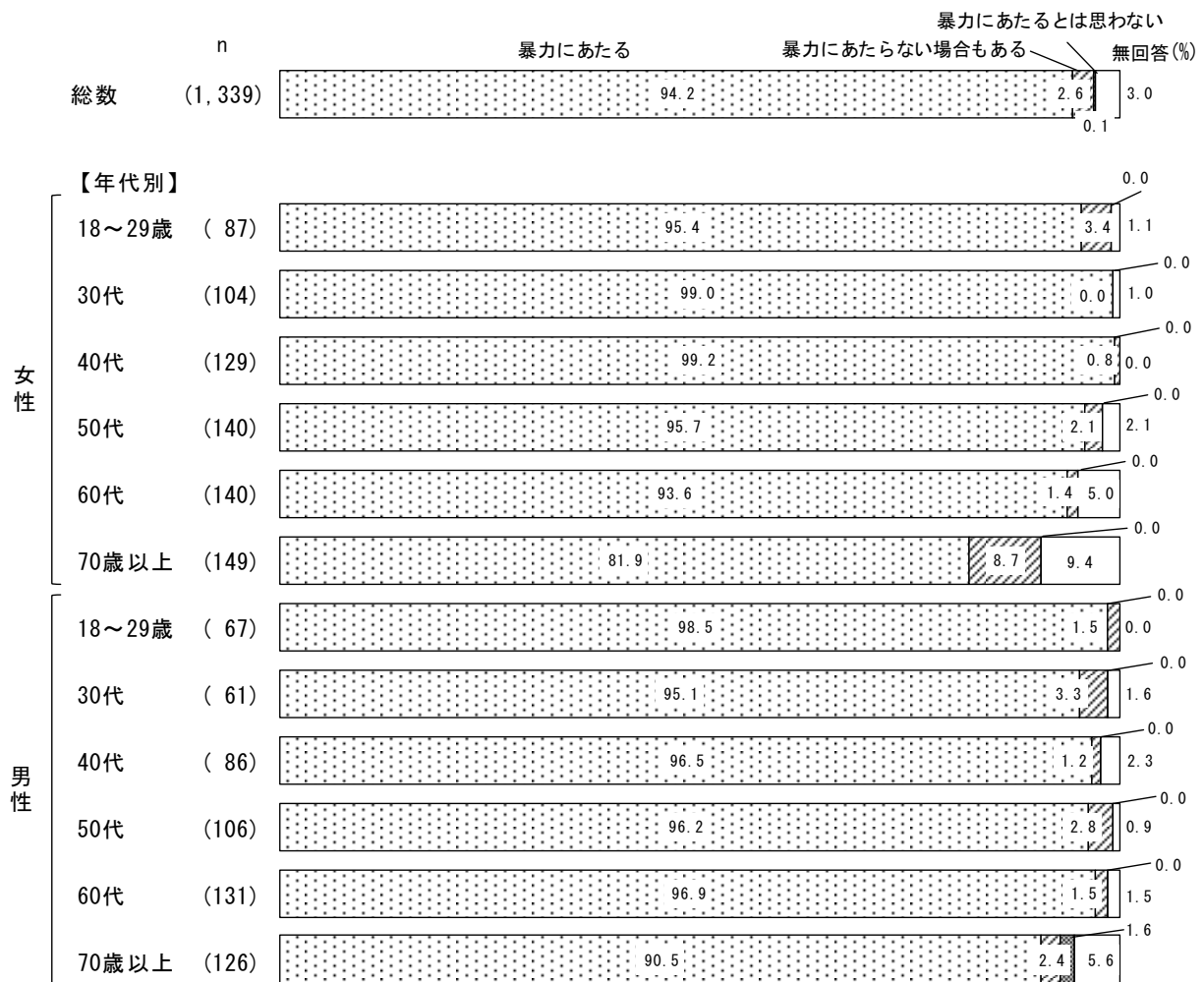


配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (c) なぐったり、けったり、物を投げつけたりする

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（81.9%）を除く全ての年代で9割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は全ての年代で9割を超えている。

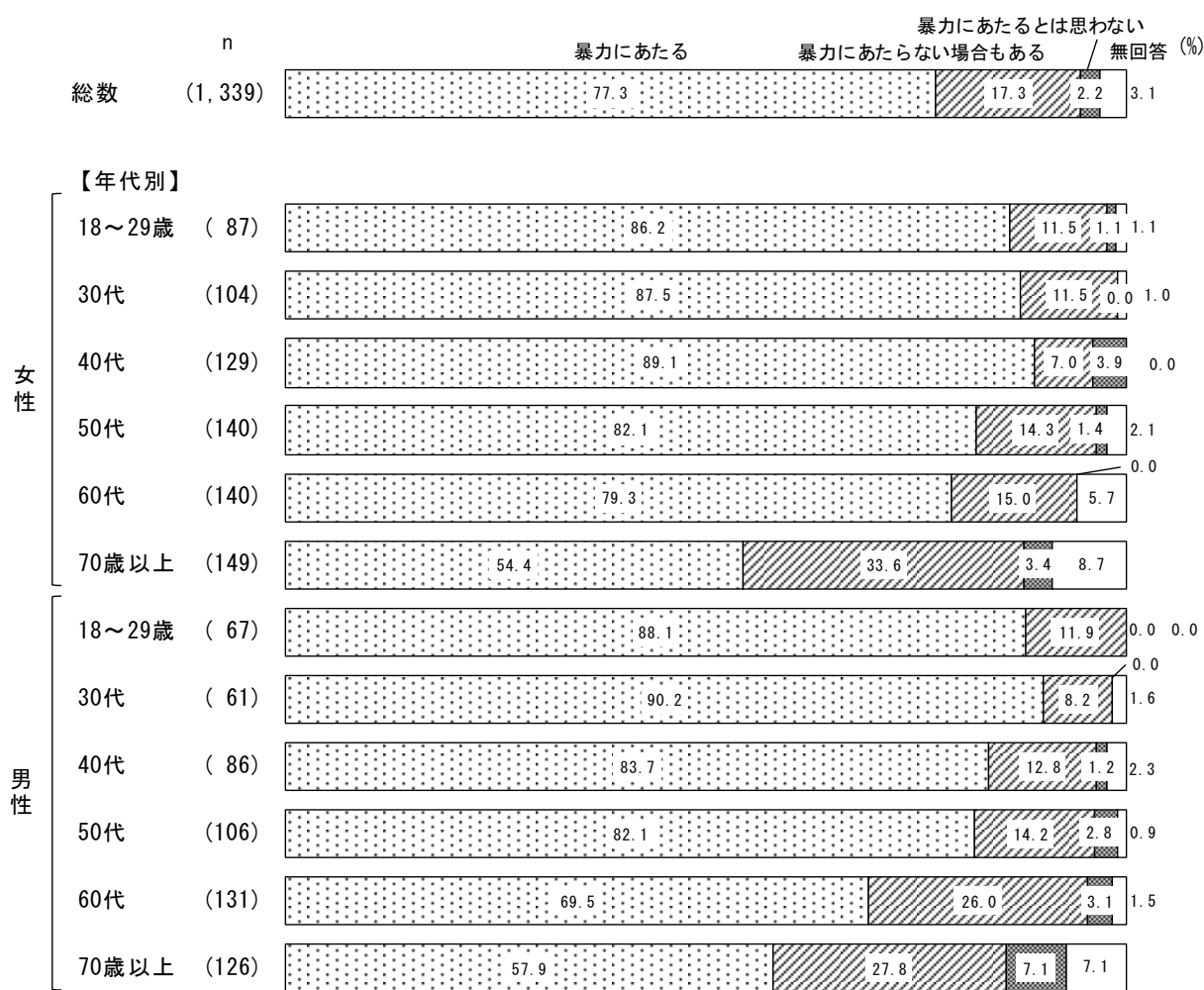
図19-4 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (c) なぐったり、けったり、物を投げつけたりする（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (d) 壁にものを投げたり、なぐるふりをしておどす

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は60代（79.3%）、70歳以上（54.4%）を除く全年代で8割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は60代（69.5%）、70歳以上（57.9%）を除く全年代で8割を超えている。

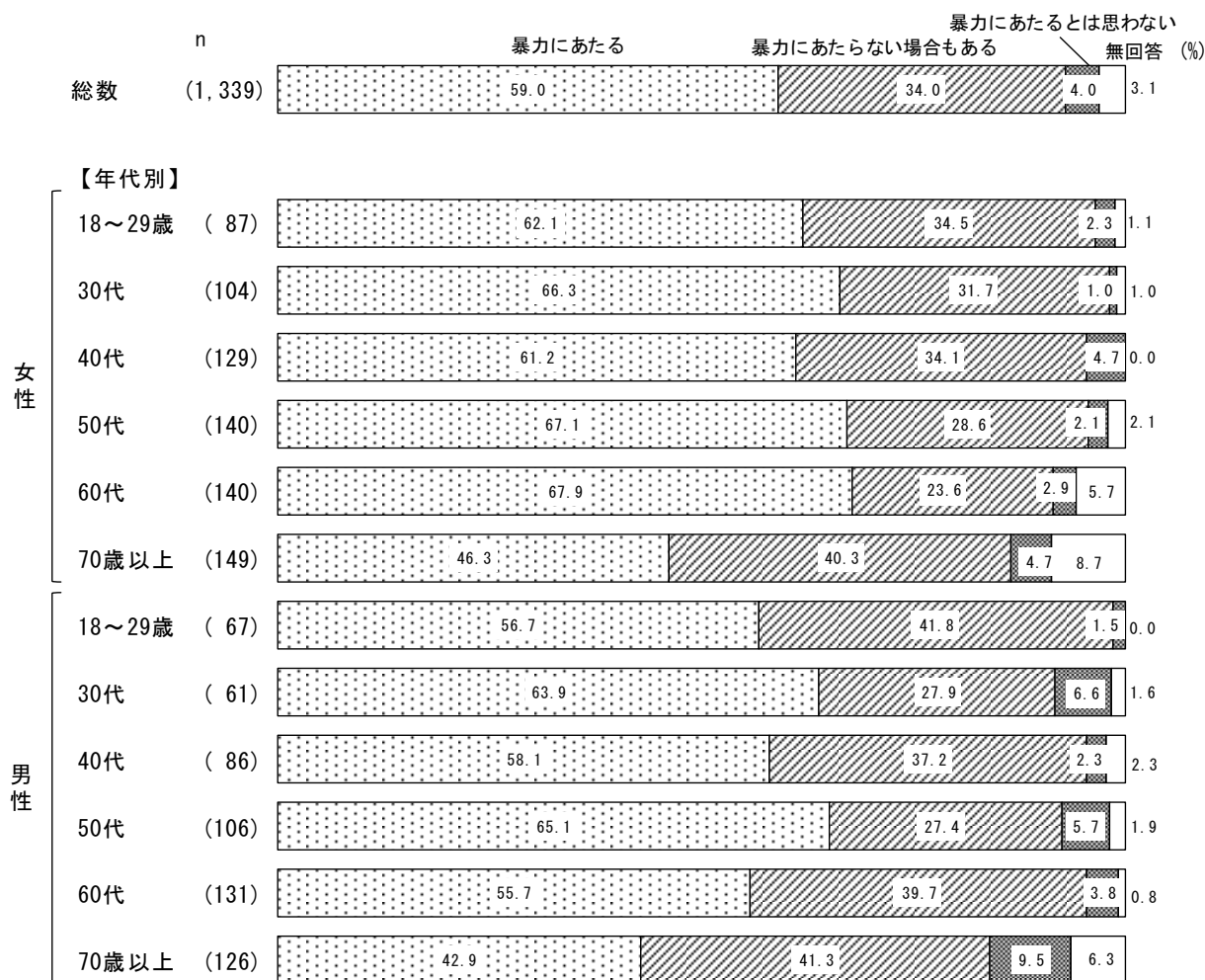
図19-5 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (d) 壁にものを投げたり、なぐるふりをしておどす（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (e) 大声でどなる

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（46.3%）を除く全年代で6割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（42.9%）を除く全年代で5割を超えている。

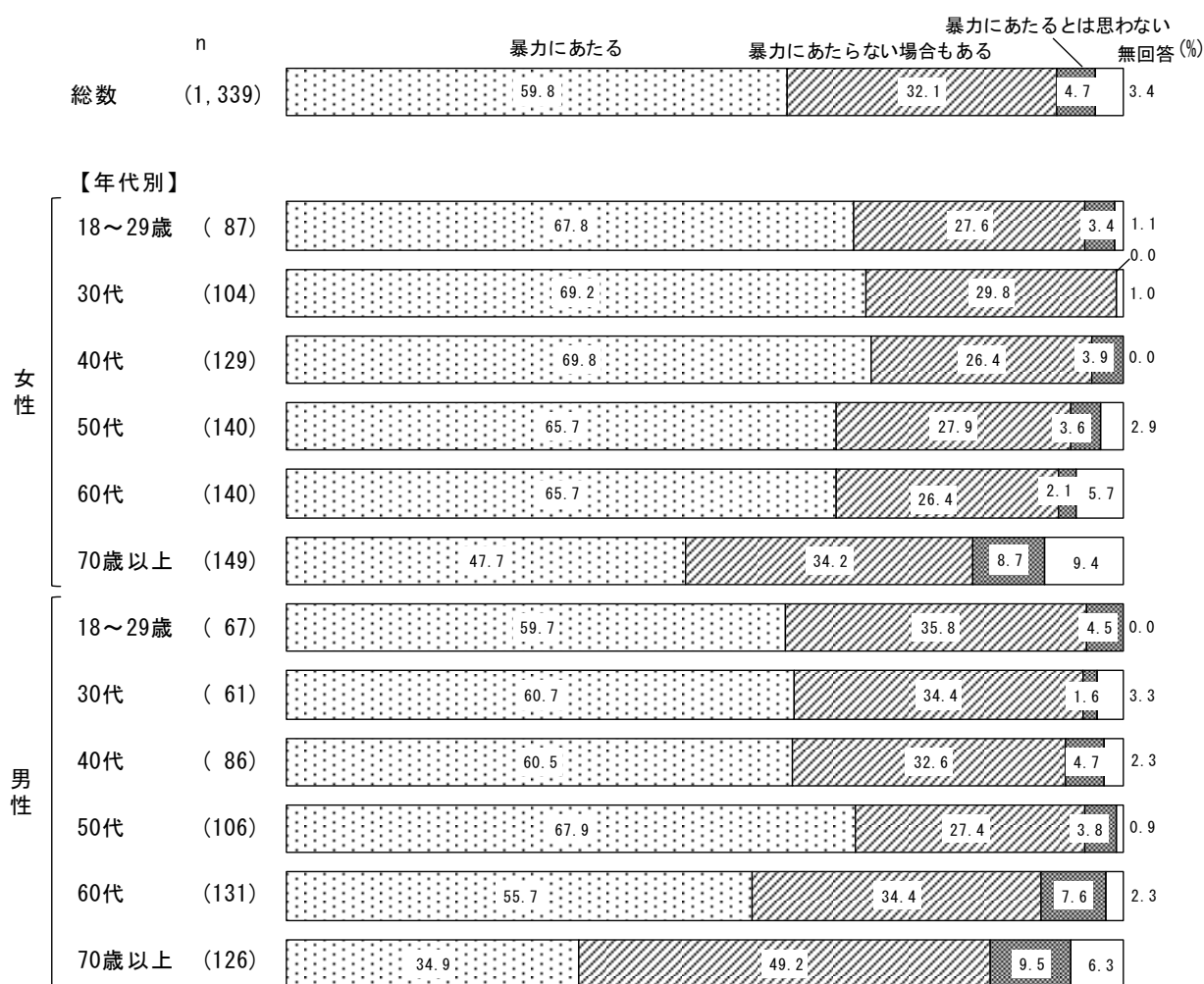
図19-6 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (e) 大声でどなる（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (f) 馬鹿にしたり、見下したような言動をする

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（47.7%）を除く全年代で6割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（34.9%）を除く全年代で5割を超えている。

図19-7 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (f) 馬鹿にしたり、見下したような言動をする（年代別）

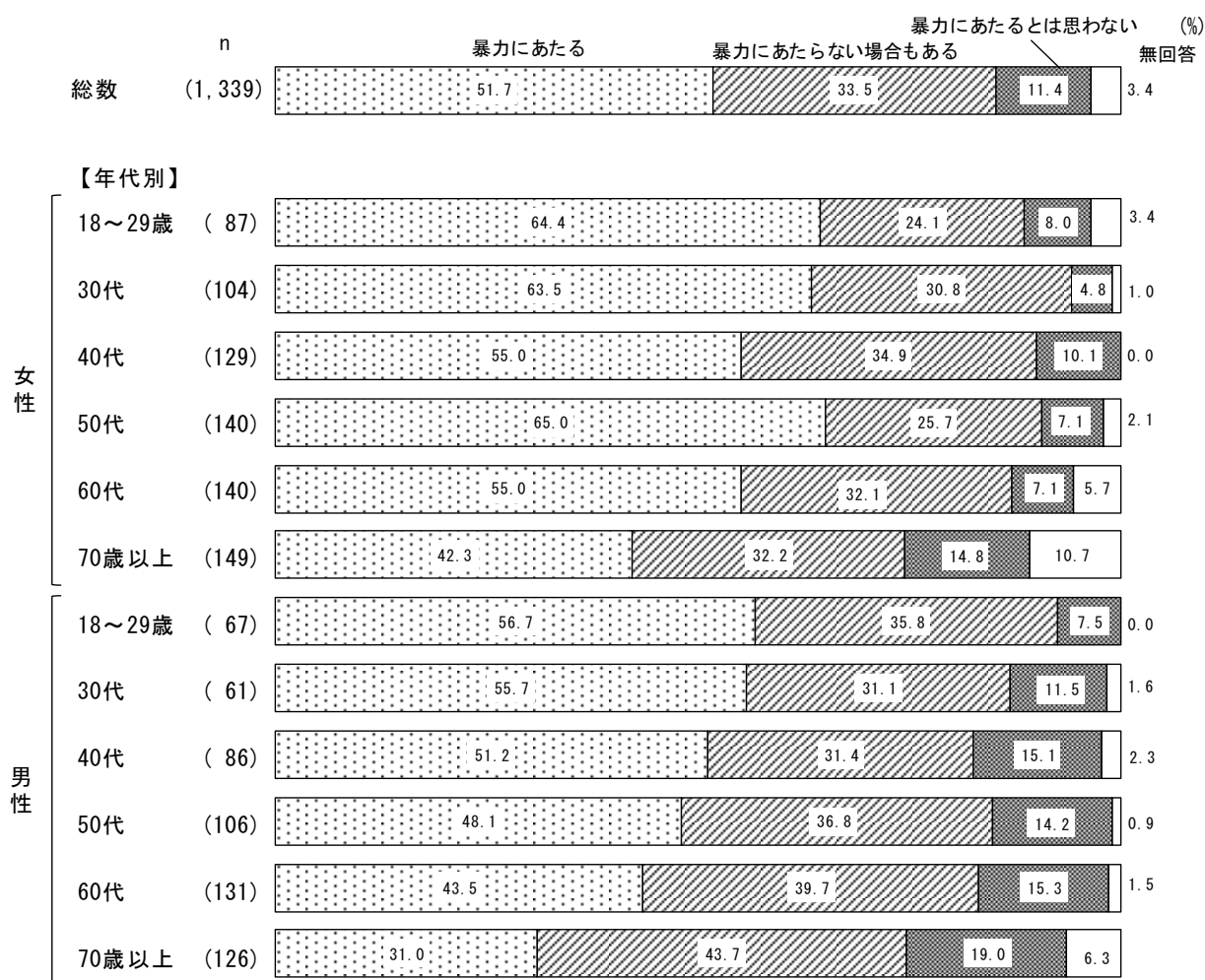


配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (g) 他の異性や親しい人との会話を許さない

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（42.3%）を除く全年代で5割を超えている。
 男性では、年代が上がるにつれ、「暴力にあたる」割合は減少している。

図19-8 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (g) 他の異性や親しい人との会話を許さない（年代別）



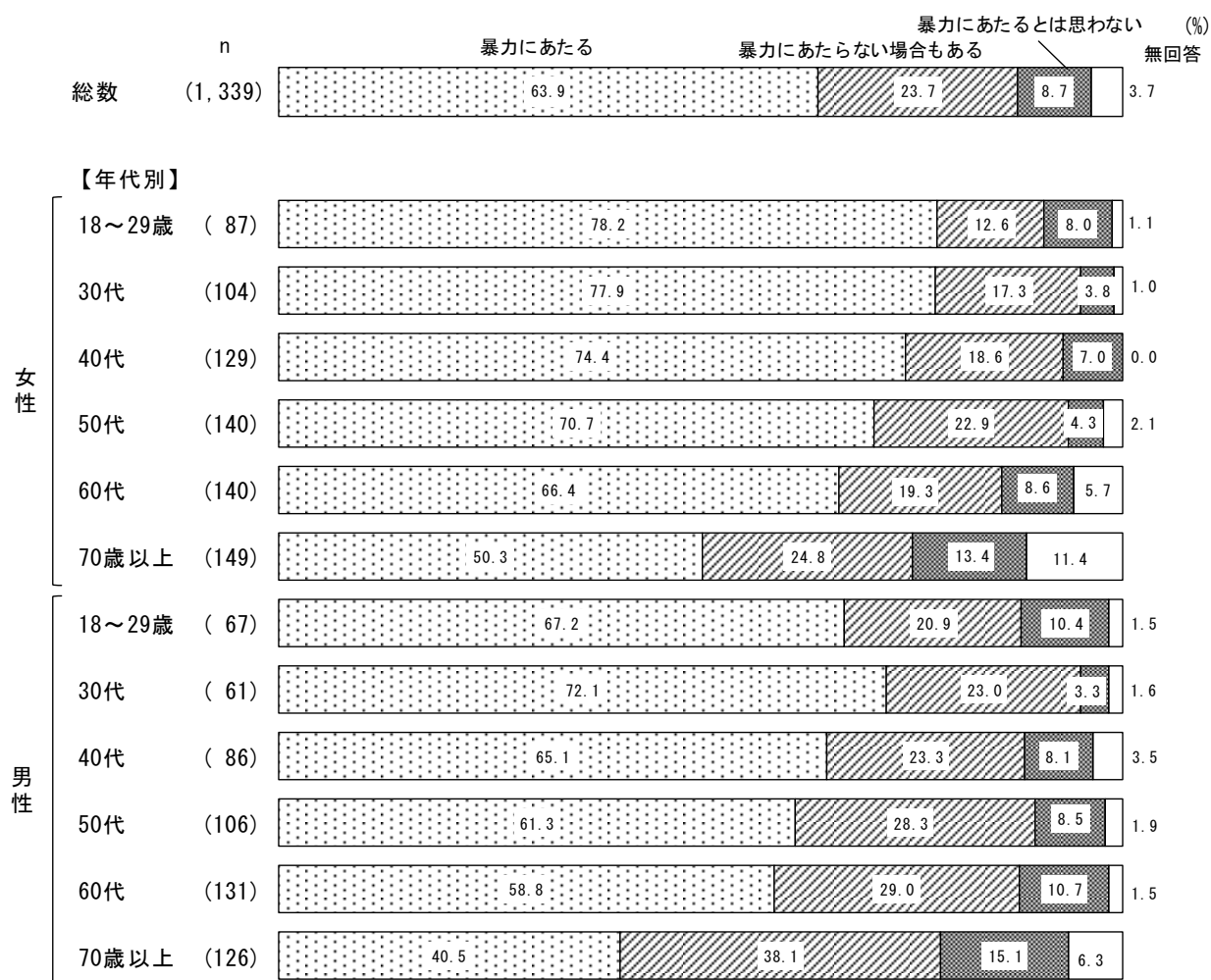
配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (h) 家族や友人との関わりを持たせない

【年代別】

女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（50.3%）で最も少ない。

男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（40.5%）を除く全年代で5割を超えている。

図19-9 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (h) 家族や友人との関わりを持たせない (年代別)



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

(i) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する

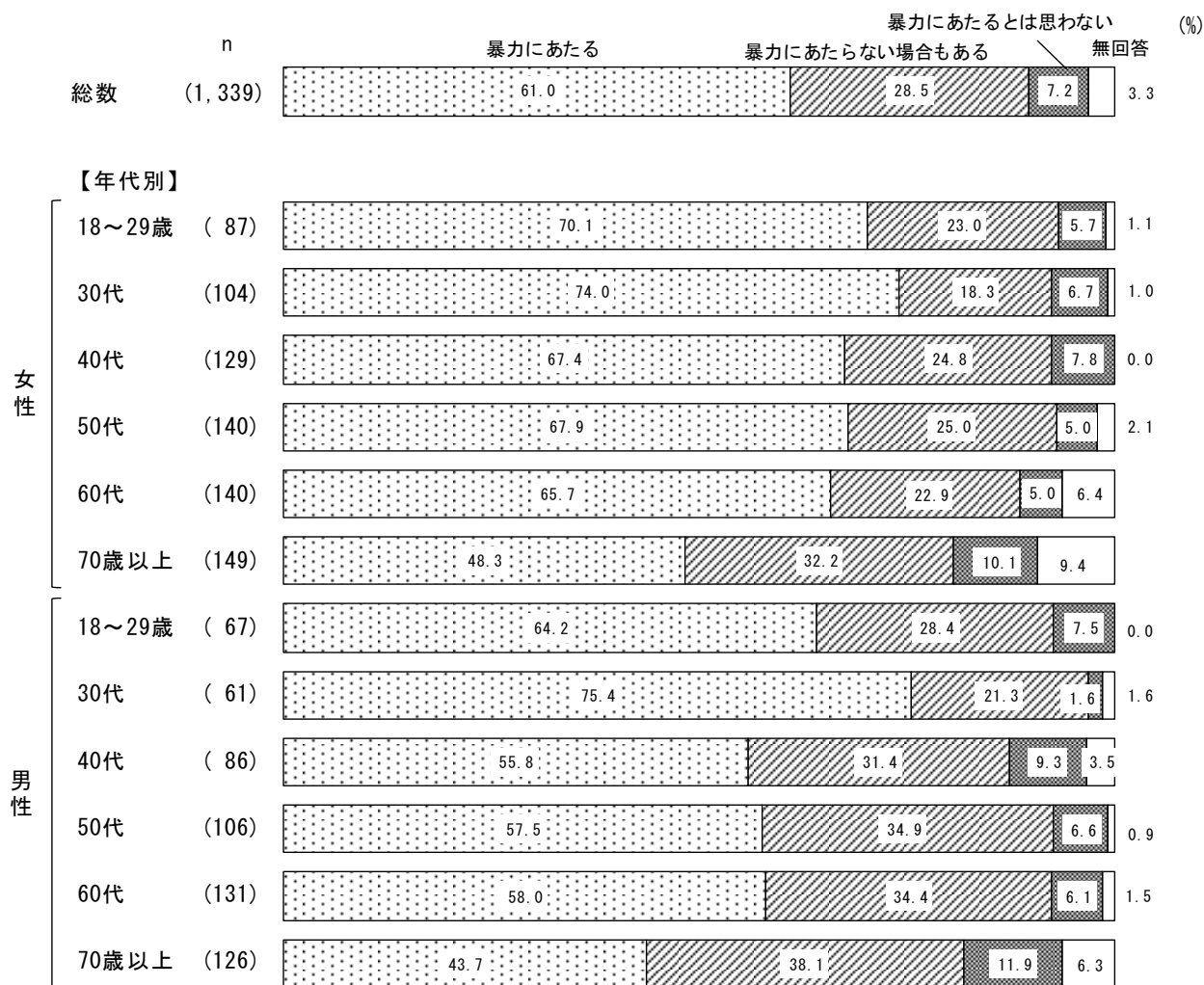
【年代別】

女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（48.3%）で最も少なく、他の年代では6割を超えている。

男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（43.7%）を除く全年代で5割を超えている。

図19-10 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

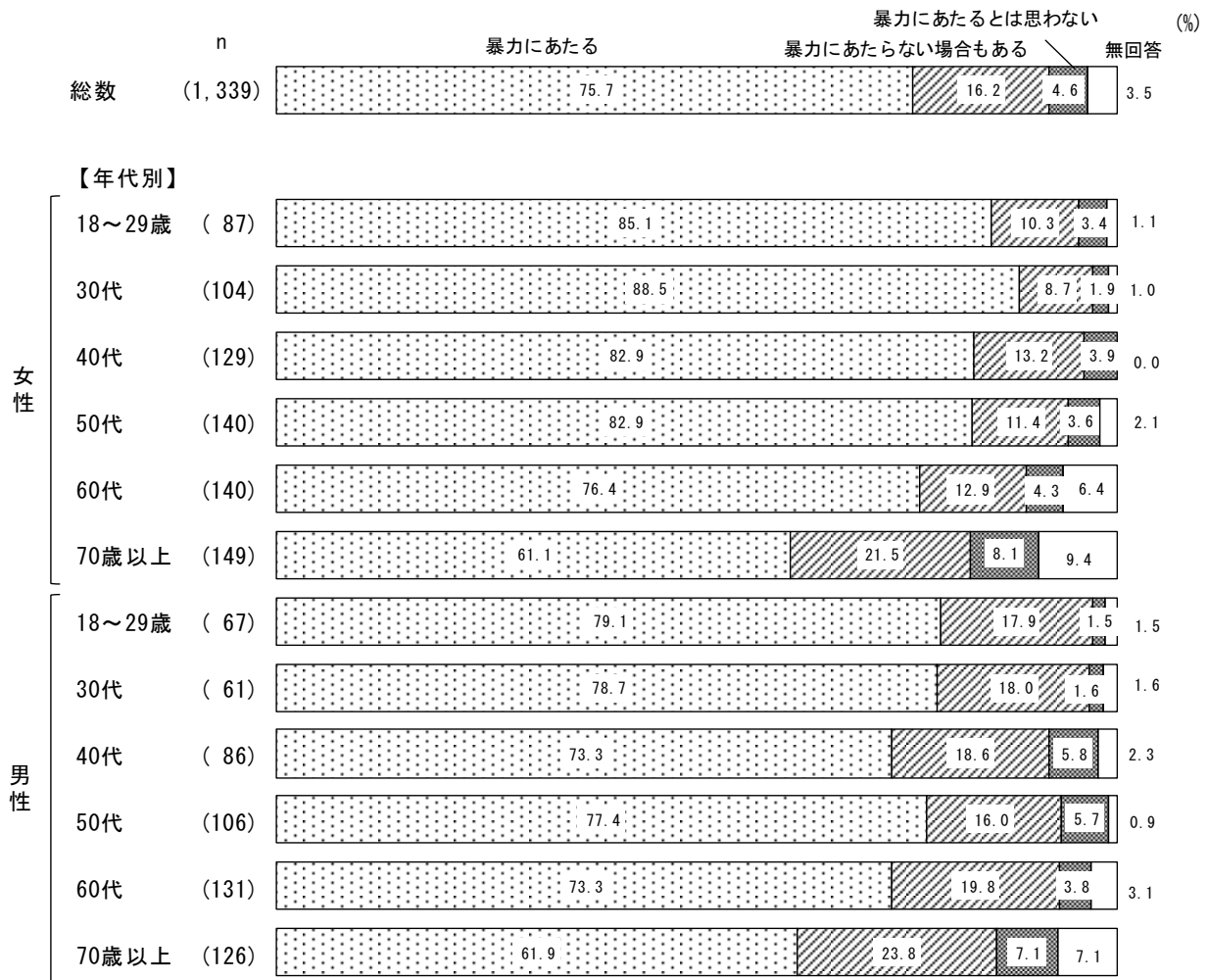
(i) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（61.1%）で最も少なく、他の年代では7割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（61.9%）を除く全年代で7割を超えている。

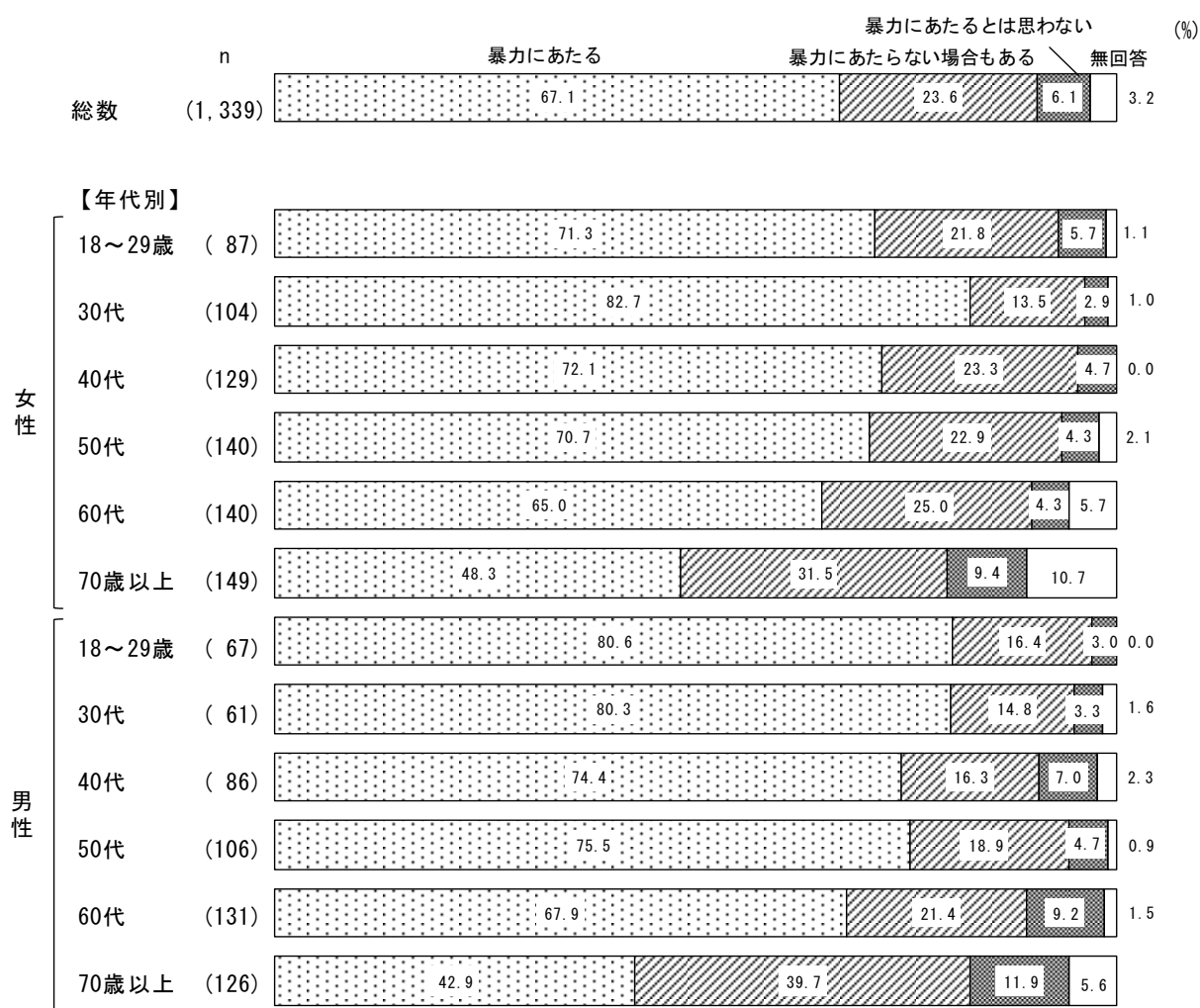
図19-11 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (k) 何を言っても長期間無視し続ける

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」は70歳以上（48.3%）で最も少なくなっており、男性でも、「暴力にあたる」は70歳以上で（42.9%）で最も少なくなっている。

図19-12 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (k) 何を言っても長期間無視し続ける（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

(1) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う

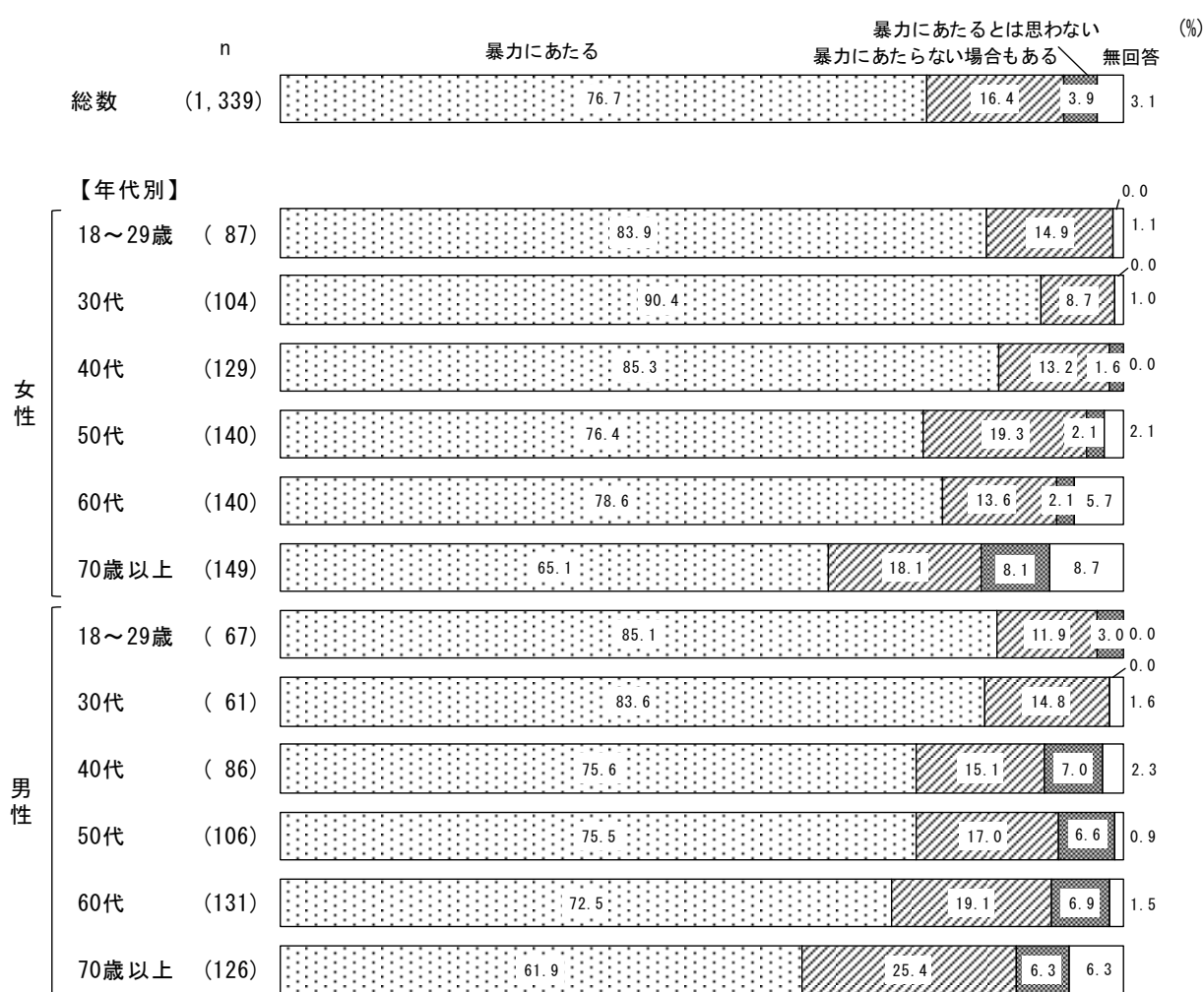
【年代別】

女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（65.1%）で最も少なく、他の年代では7割を超えている。

男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（61.9%）を除く全年代で7割を超えている。

図19-13 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

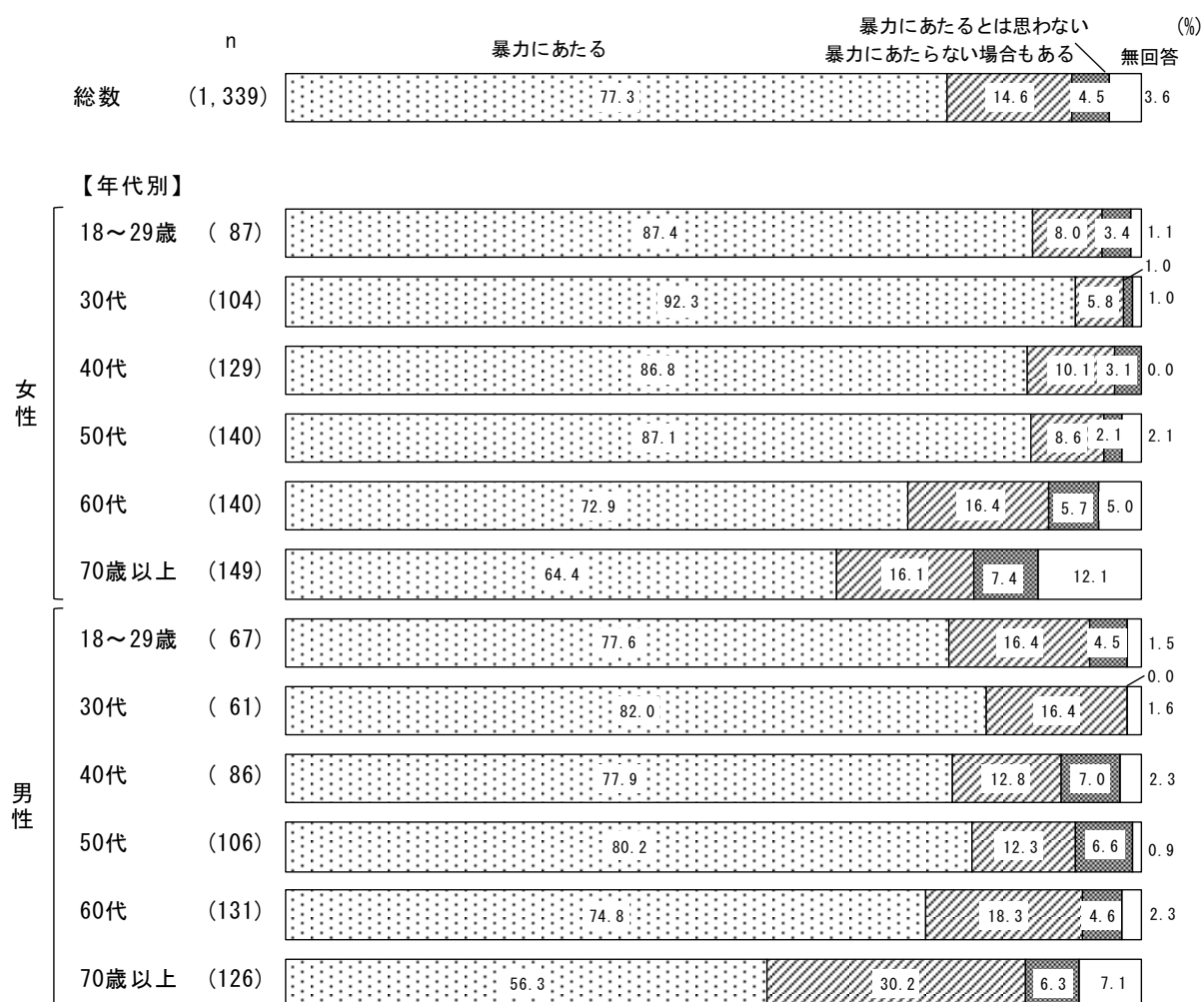
(1) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (m) 家計に必要な生活費を渡さない

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（64.4%）で最も少なく、他の年代では7割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（56.3%）を除く全年代で7割を超えている。

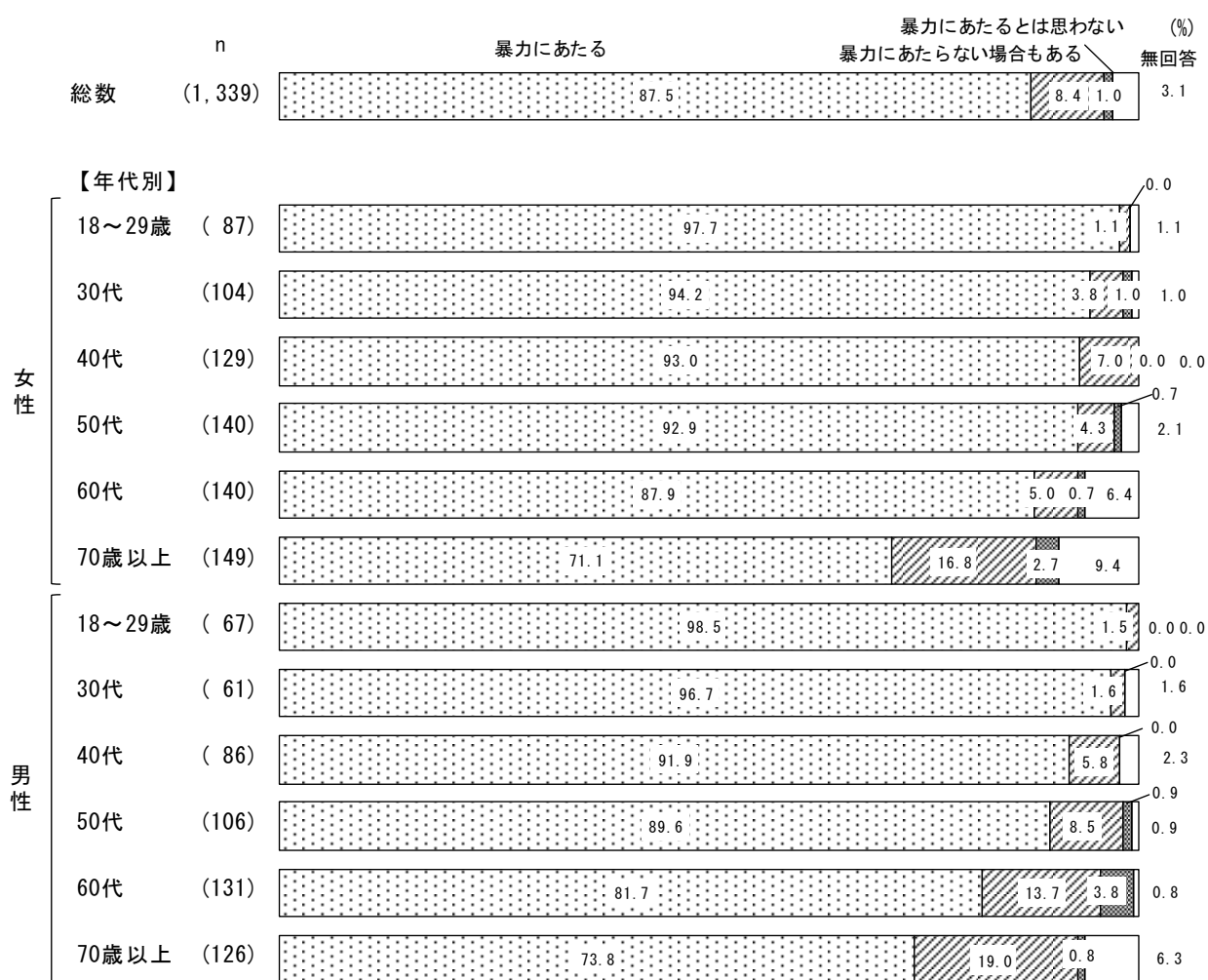
図19-14 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (m) 家計に必要な生活費を渡さない（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する

【年代別】
 女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（71.1%）で最も少なく、他の年代では8割を超えている。
 男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（73.8%）を除く全年代で8割を超えている。

図19-15 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する（年代別）



配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

(○) 避妊に協力しない

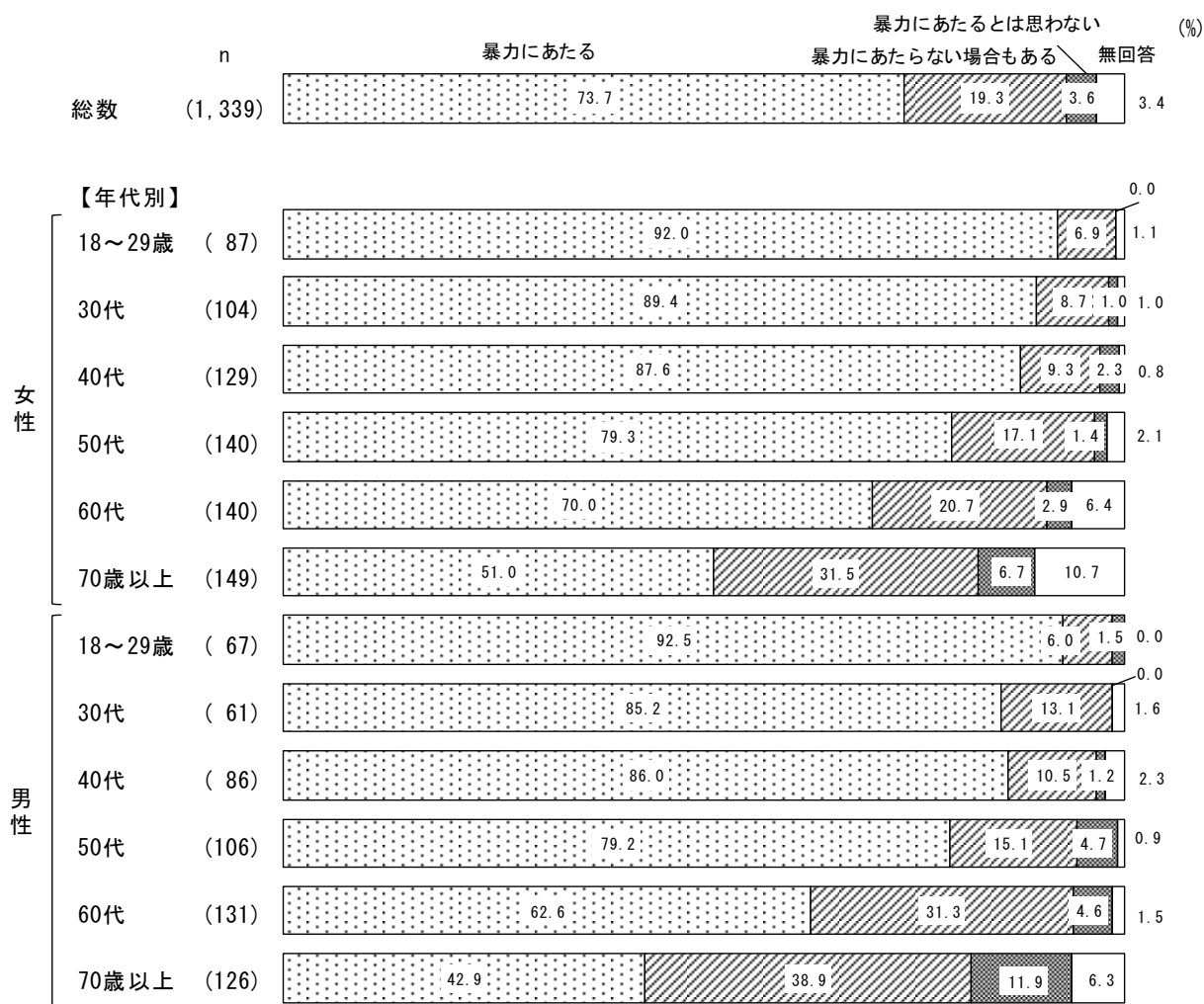
【年代別】

女性では、「暴力にあたる」が70歳以上（51.0%）で最も少なく、他の年代では7割以上となっている。

男性では、「暴力にあたる」は70歳以上（42.9%）が5割以下で最も少なく、それ以外の全年代で6割を超えている。

図19-16 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為

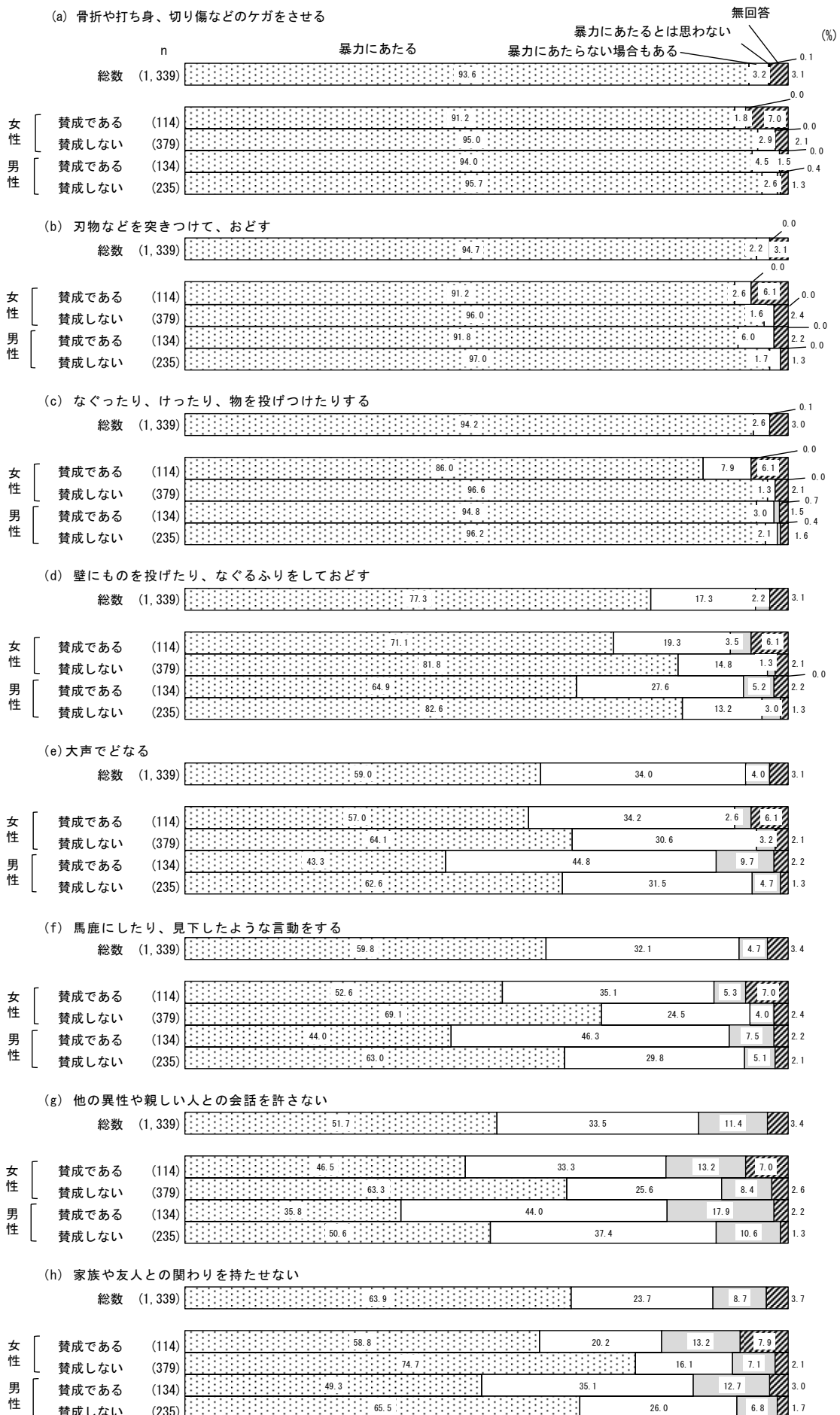
(○) 避妊に協力しない（年代別）



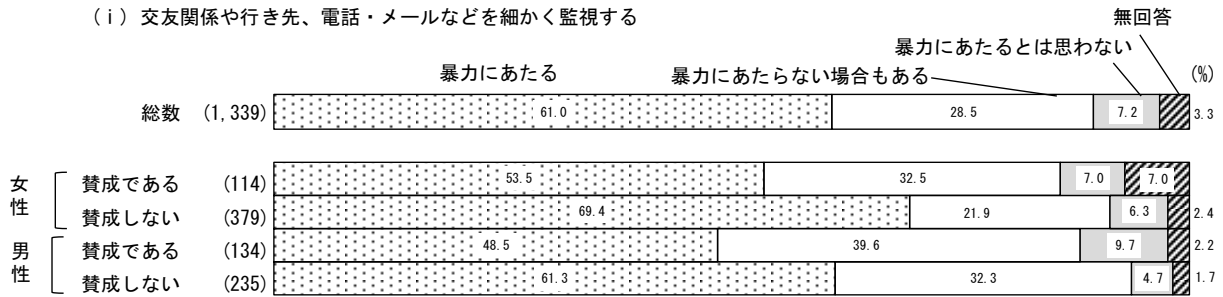
【「男は仕事、女は家庭」への賛否別】

賛否別に関わらず、多くの項目で女性が男性より「暴力にあたる」との回答する割合が多くなっている。『賛成しない』と回答した方がより「暴力にあたる」との回答する割合が多くなっている。最も差が大きいのは、女性で“(g)他の異性や親しい人との会話を許さない”であり、『賛成しない』(63.3%)と回答した方が『賛成である』(46.5%)より、16.8ポイント多く、男性では“(o)避妊に協力しない”であり、『賛成しない』(82.1%)と回答した方が『賛成である』(51.5%)より、30.6ポイント多くなっている。

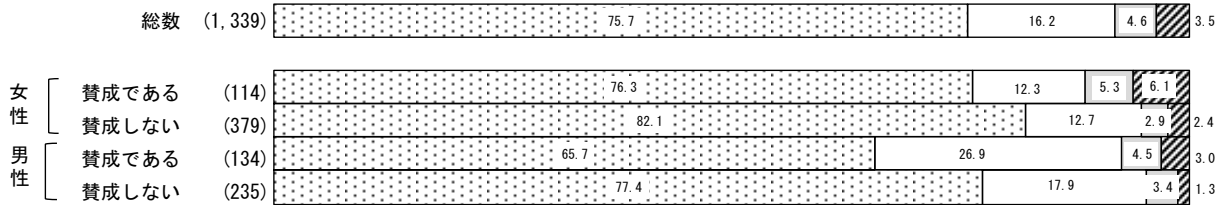
図19-17 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為
 (「男は仕事、女は家庭」への賛否別)



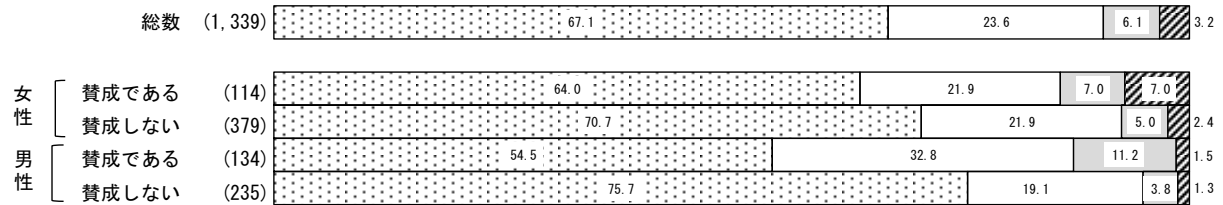
(i) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する



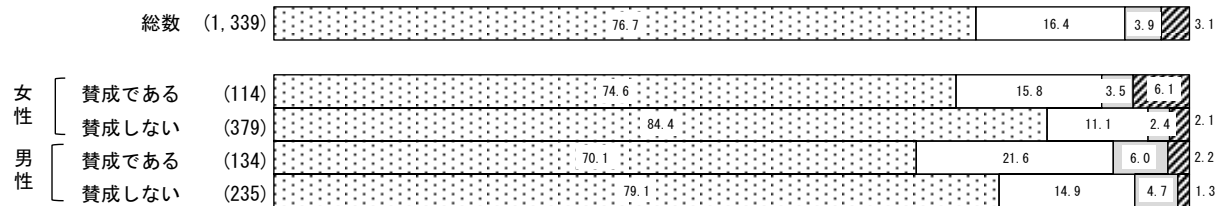
(j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する



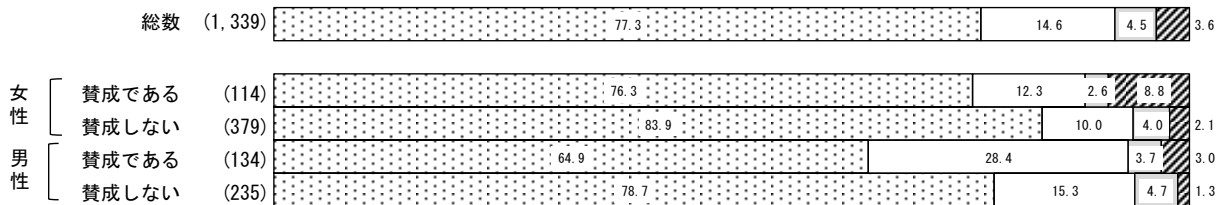
(k) 何を言っても長期間無視し続ける



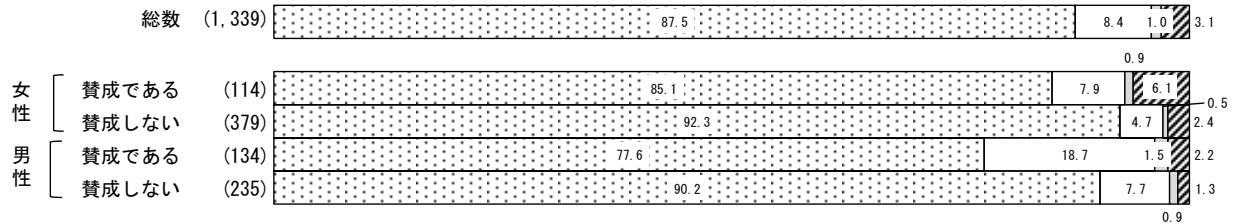
(l) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う



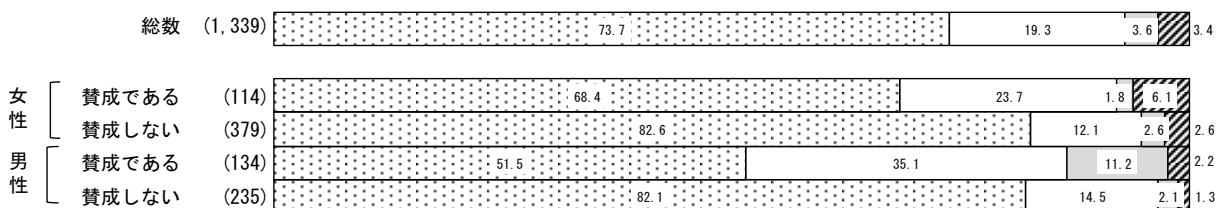
(m) 家計に必要な生活費を渡さない



(n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する



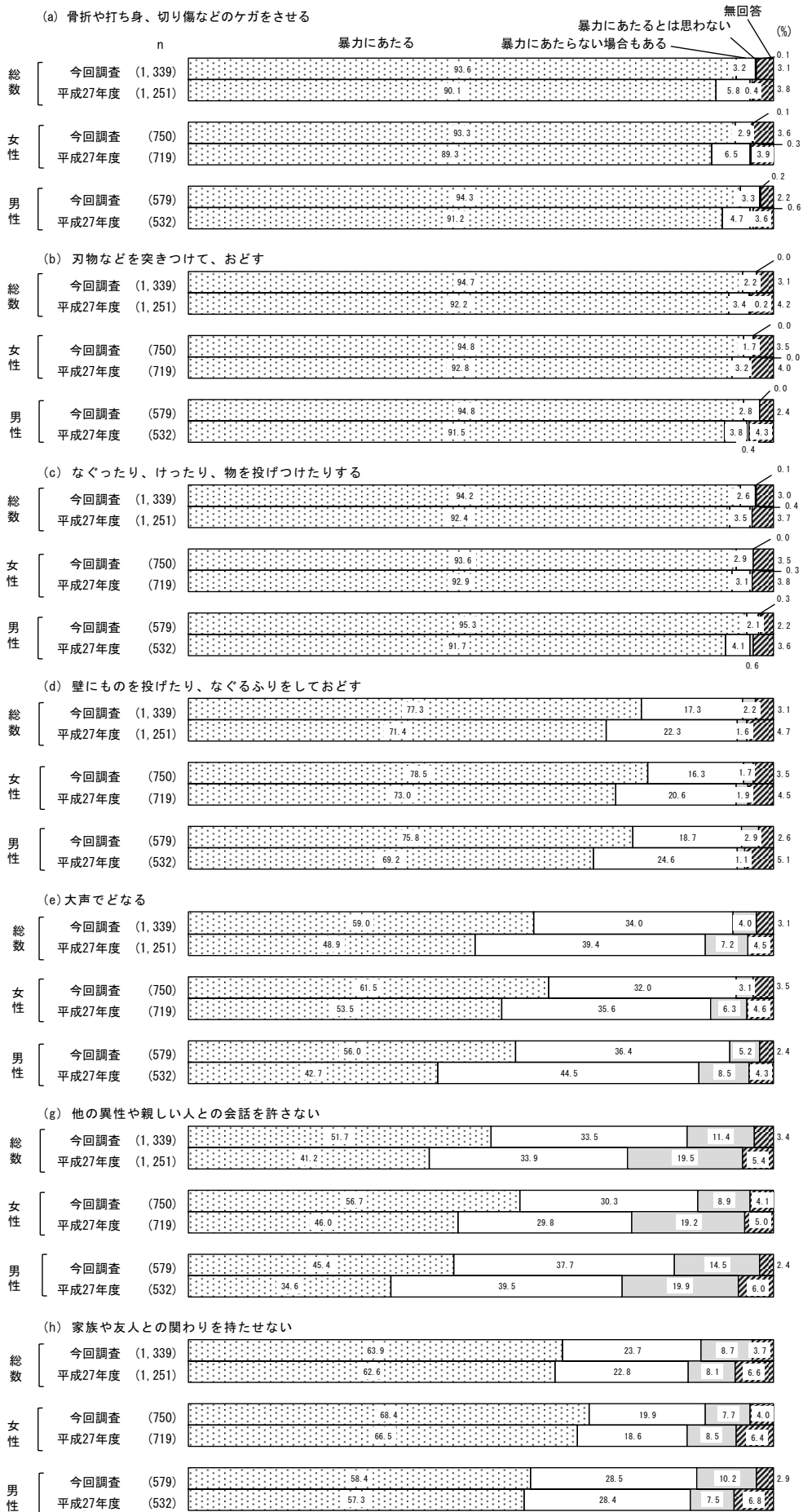
(o) 避妊に協力しない



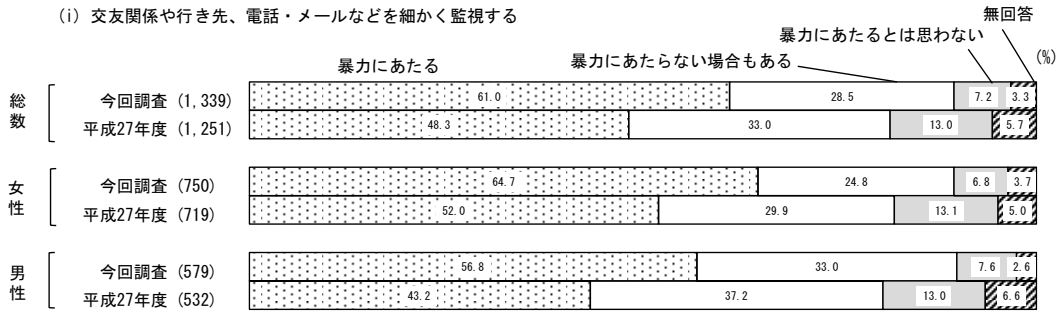
【平成27年度調査との比較】

多くの項目で前回調査より、「暴力にあたる」との回答する割合が多くなっている。

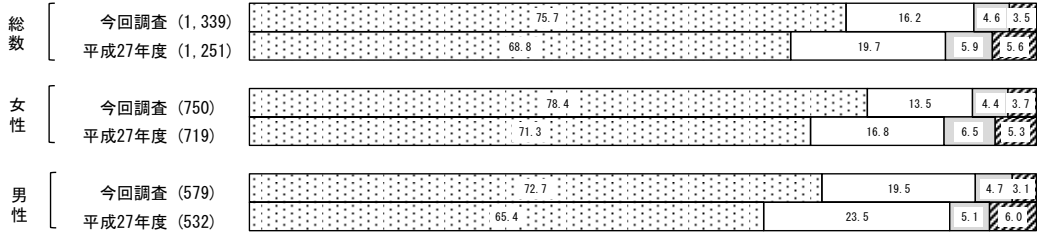
図19-18 配偶者や交際相手などからの暴力と認識される行為（平成27年度調査との比較）



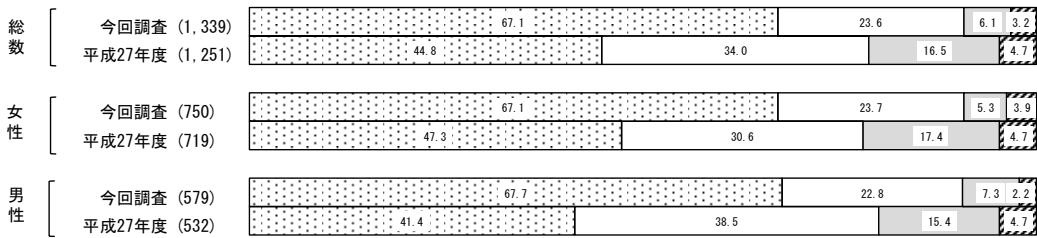
(i) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する



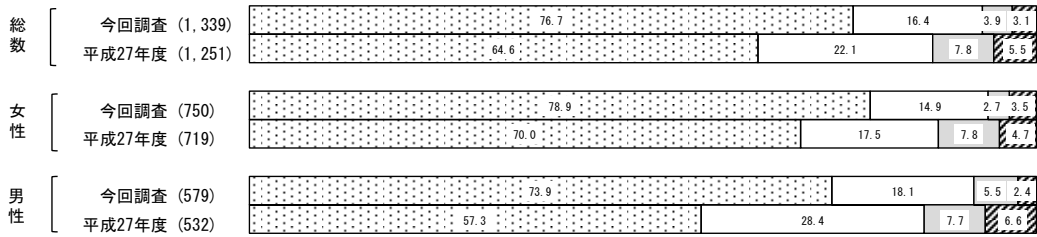
(j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する



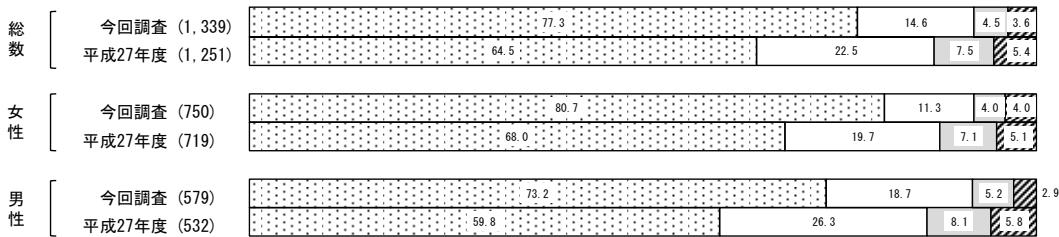
(k) 何を言っても長期間無視し続ける



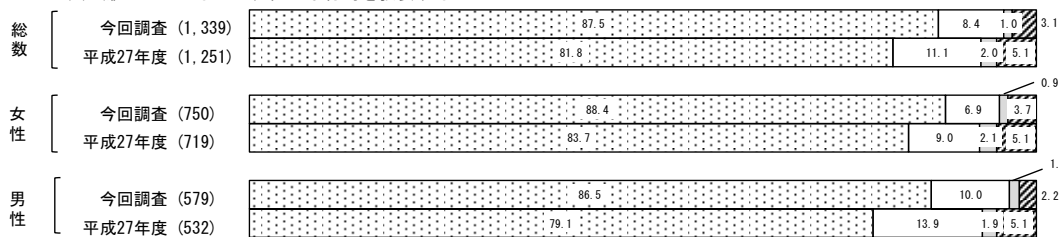
(l) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う



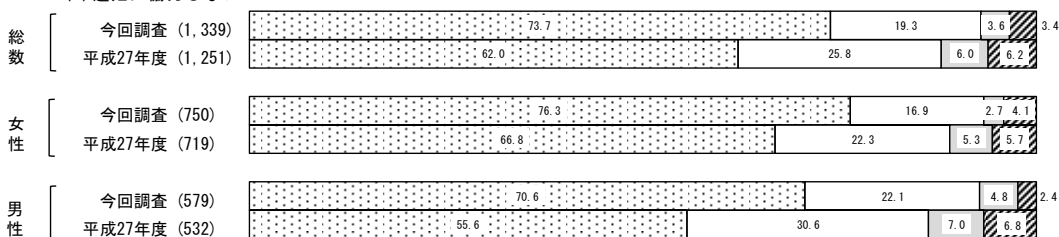
(m) 家計に必要な生活費を渡さない



(n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する



(o) 避妊に協力しない



※「(f)馬鹿にしたり、見下したような言動をする」については今回調査での新規項目であり、比較できないため、表記していない。

2 配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(これまでに結婚したことがある人【ここでの結婚は事実婚や別居中の夫婦を含む】にお聞きします。)

問20 あなたは、これまでにあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。
「①これまで」(a)～(d)それぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。
(○はそれぞれ1つずつ)

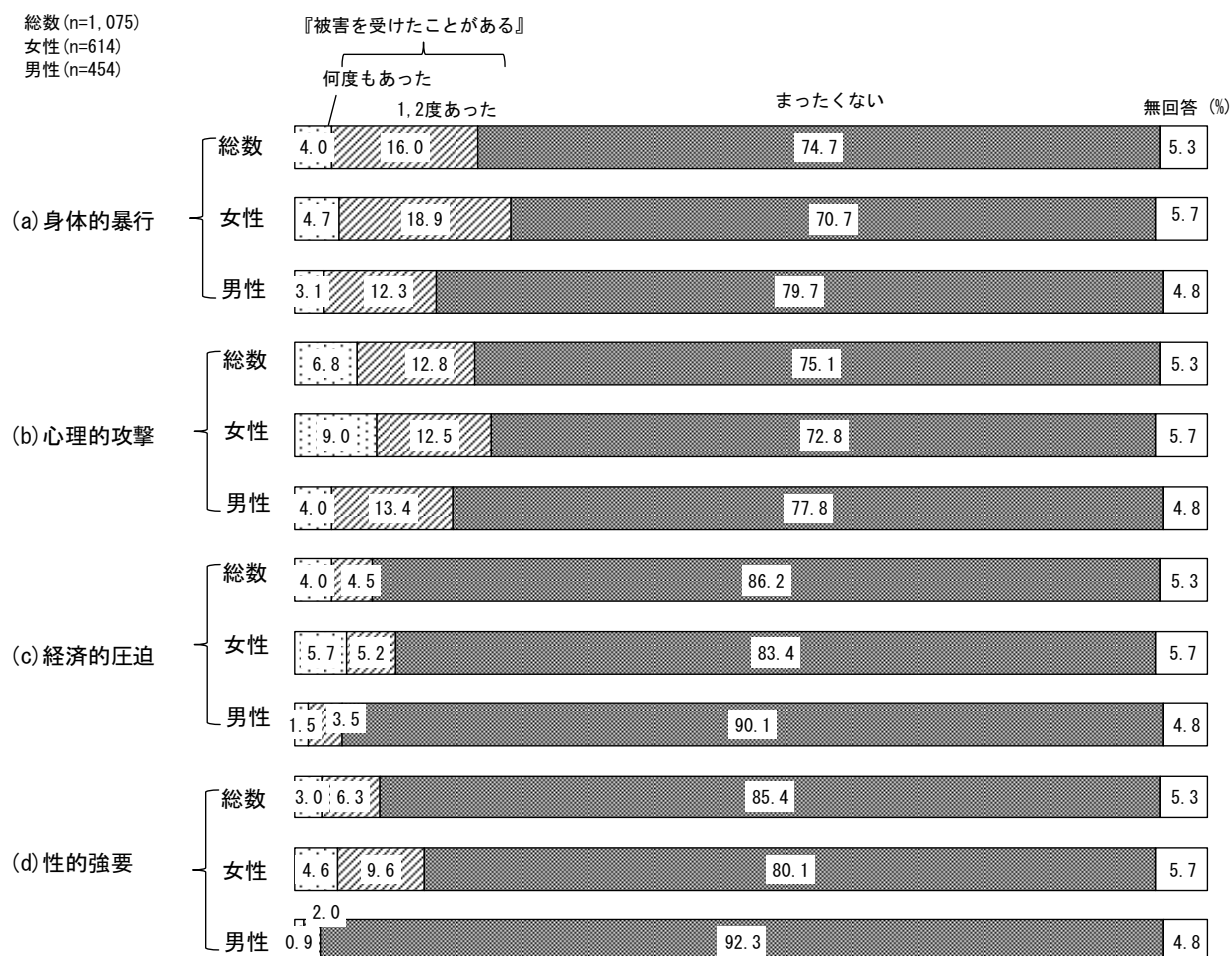
“(a) 身体的暴行”では、「何度もあった」(女性4.7%、男性3.1%)、「1、2度あった」(女性18.9%、男性12.3%)となり、その合計では女性が男性を8.2ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”では、「何度もあった」は女性(9.0%)が男性(4.0%)を5.0ポイント上回り、「1、2度あった」(女性12.5%、男性13.4%)では、大きな差は見られない。

“(c) 経済的圧迫”では、「何度もあった」(女性5.7%、男性1.5%)、「1、2度あった」(女性5.2%、男性3.5%)となり、その合計では女性が男性を5.9ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、「何度もあった」(女性4.6%、男性0.9%)、「1、2度あった」(女性9.6%、男性2.0%)で、その合計では女性が男性を11.3ポイント上回った。

図20-1 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)



配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

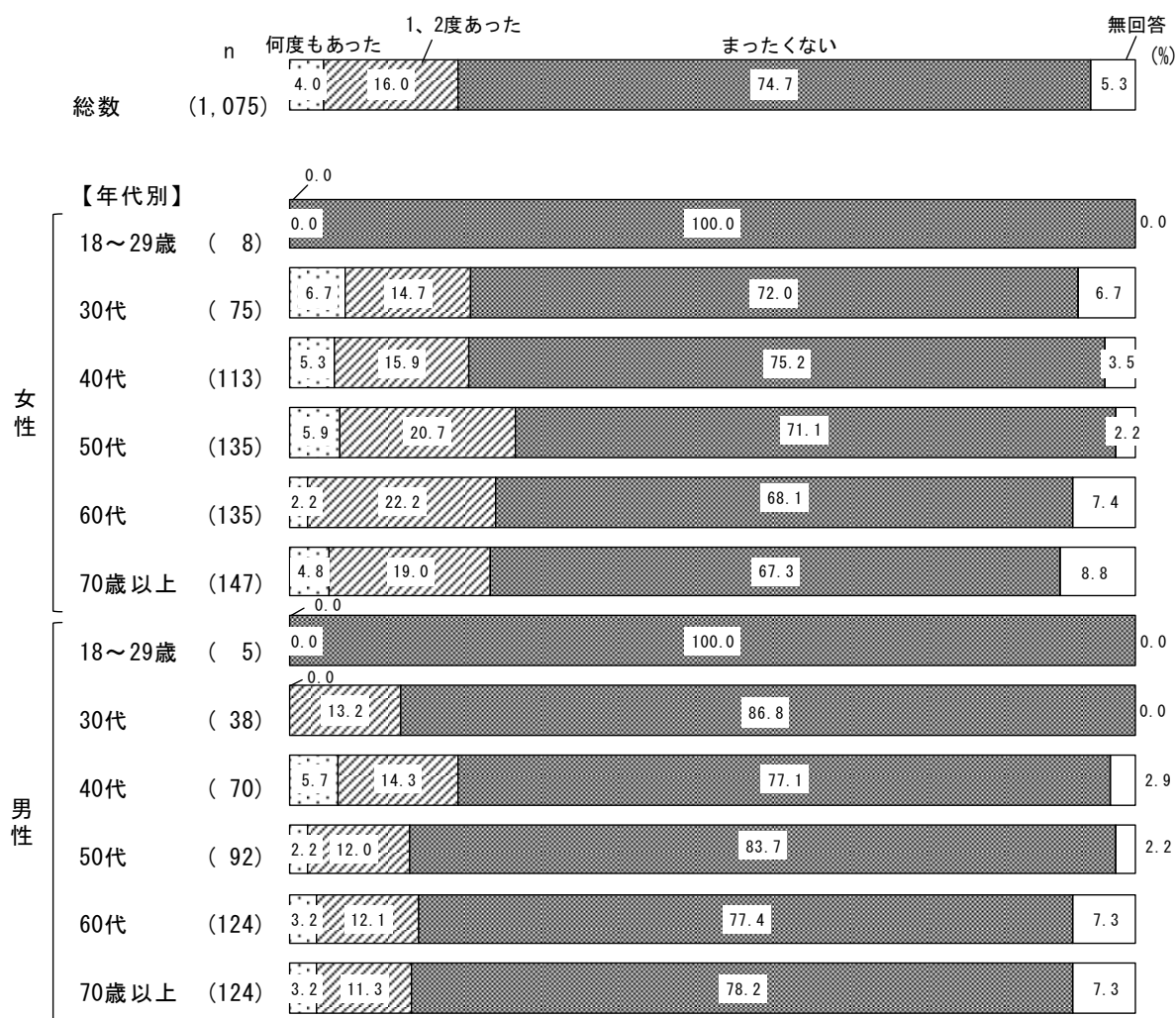
【年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は50代（「何度もあった」5.9%、「1、2度あった」20.7%）が最も多く、いずれの年代も2割を超えている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（「何度もあった」5.7%、「1、2度あった」14.3%）を除いて、1割台となっている。

図20-2 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)



配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫など）

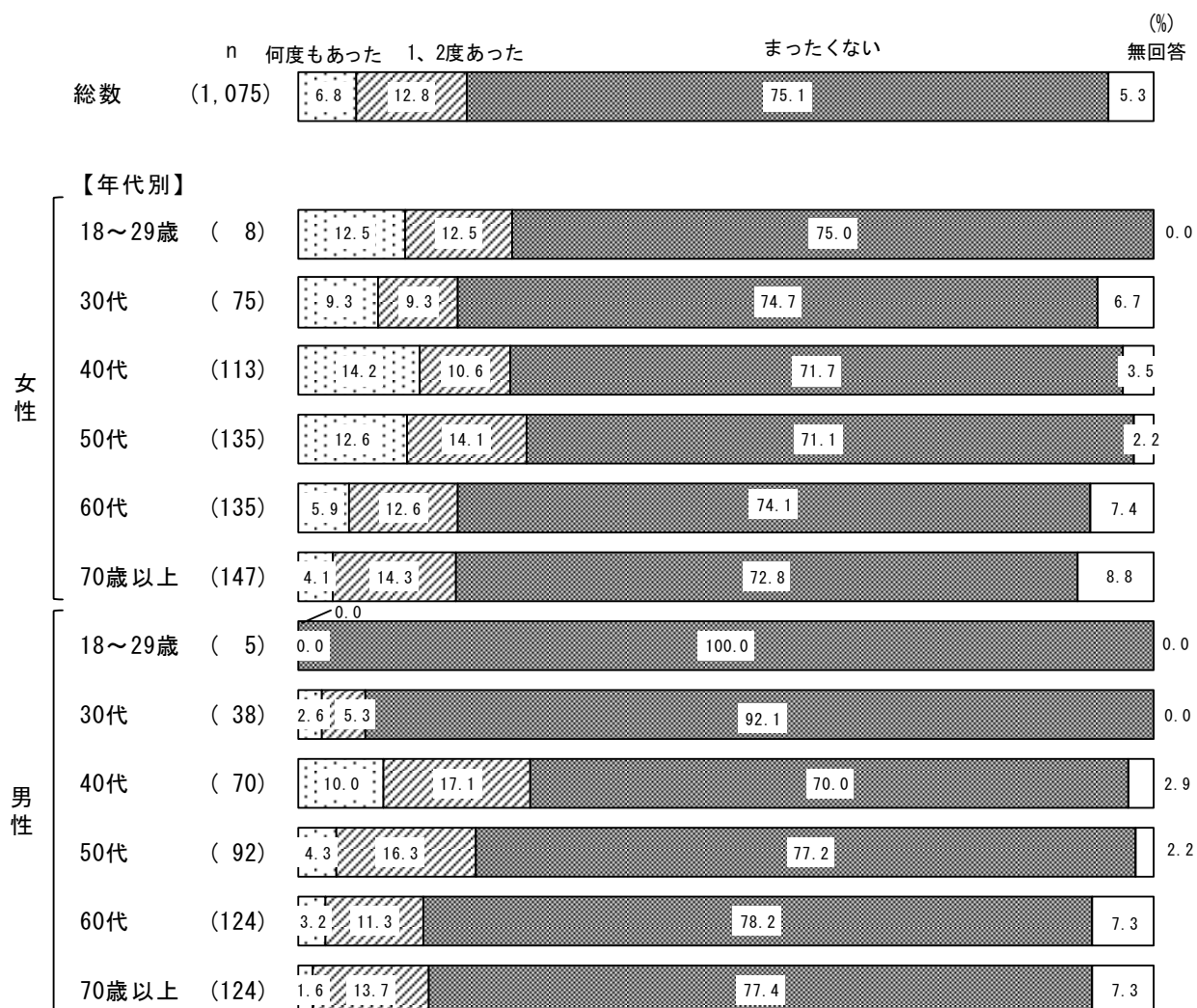
【年代別】

※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計で50代（「何度もあった」12.6%、「1、2度あった」14.1%）が最も多くなっている。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計が、40代（27.1%）と50代（20.6%）で多くなっている。

図20-3 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃 (年代別)

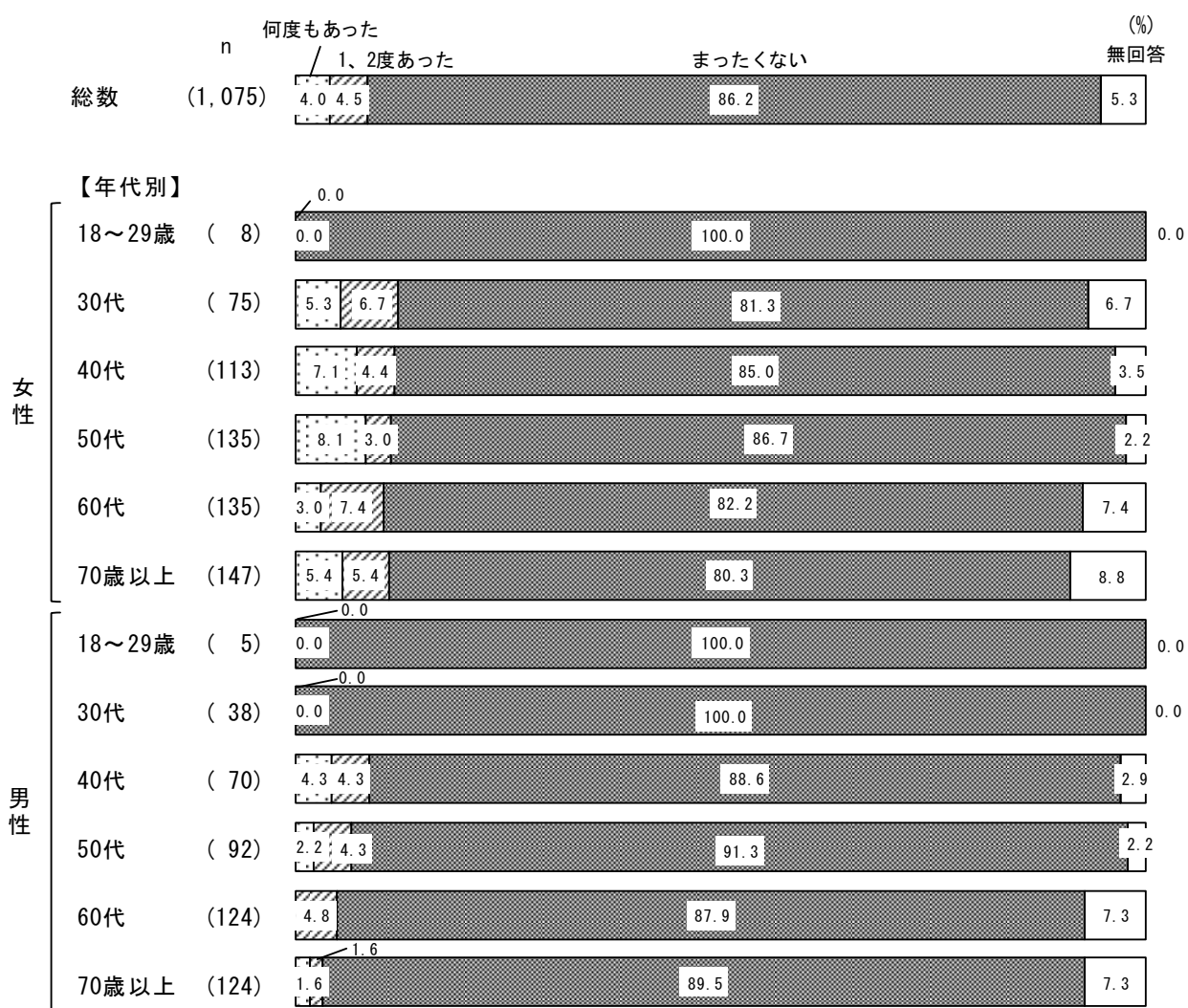


配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(c) 経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代から70歳以上で1割台となっている。
 男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代から70歳以上で1割を下回っている。

図20-4 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)

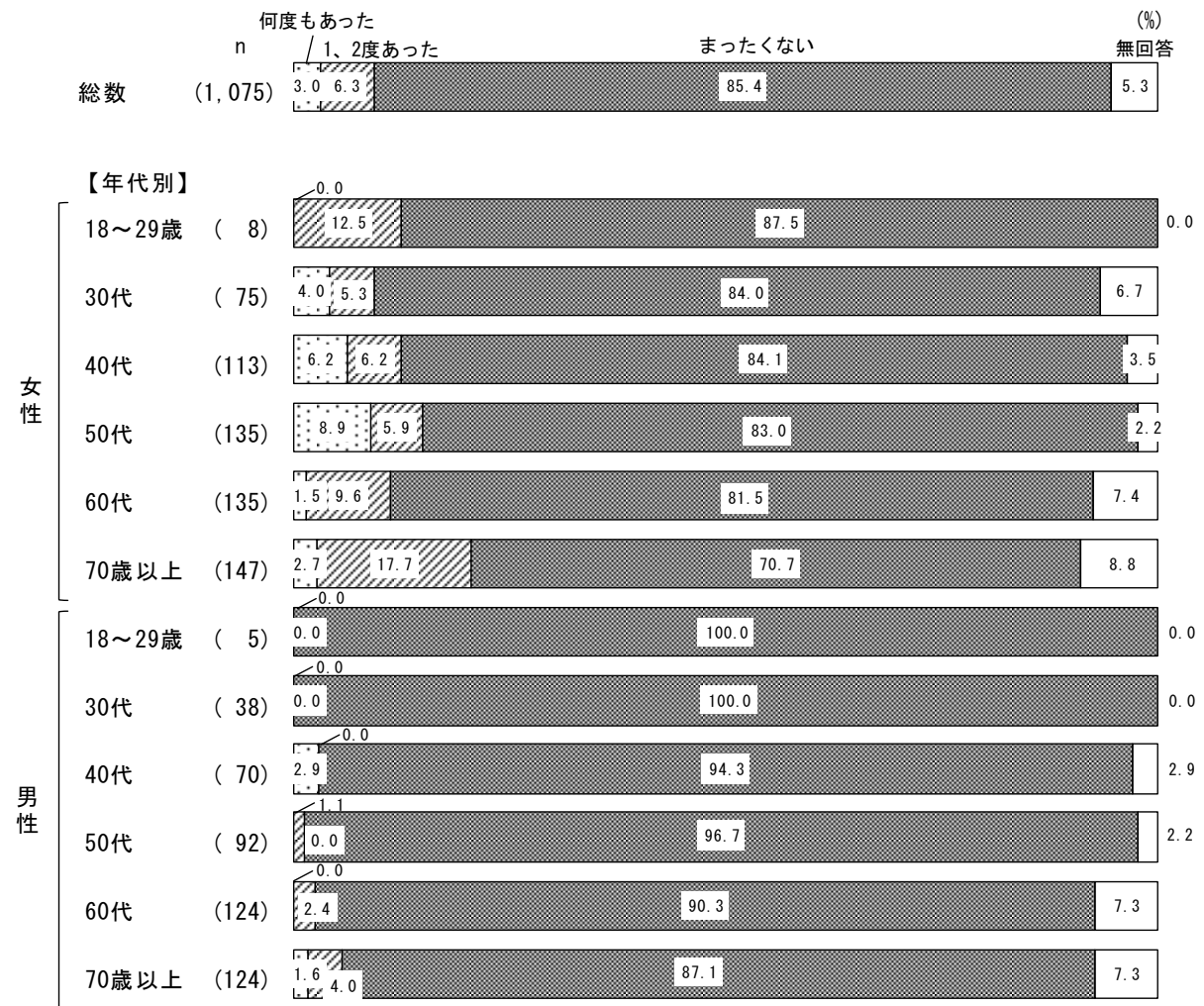


配偶者からのこれまでの被害経験の有無

(d) 性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は70歳以上を除き、各年代で1割台となっている。
 男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代から70歳以上で1割を下回っている。

図20-5 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



配偶者からのこれまでの被害経験の有無・まとめ＜平成29年度内閣府調査との比較＞
 （内閣府が平成29年12月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較
 をする。）

【性別】
 女性では、「何度もあった」は0.5ポイント、「1、2度あった」は4.0ポイント、合計4.5ポイント多くなっている。
 男性では、「何度もあった」は0.9ポイント、「1、2度あった」は3.8ポイント、合計4.7ポイント多くなっている。

【年代別】
 女性では、『あった（計）』は、50代で6.0ポイント、30代で4.5ポイント、60歳以上で3.0ポイント内閣府調査よりも多くなっている。
 男性では、『あった（計）』は、40代で12.1ポイント、60歳以上で4.7ポイント、50代で0.6ポイント内閣府調査よりも多くなっている。

図20-6 配偶者からのこれまでの被害経験の有無＜平成29年度内閣府調査結果との比較＞
 （性別）

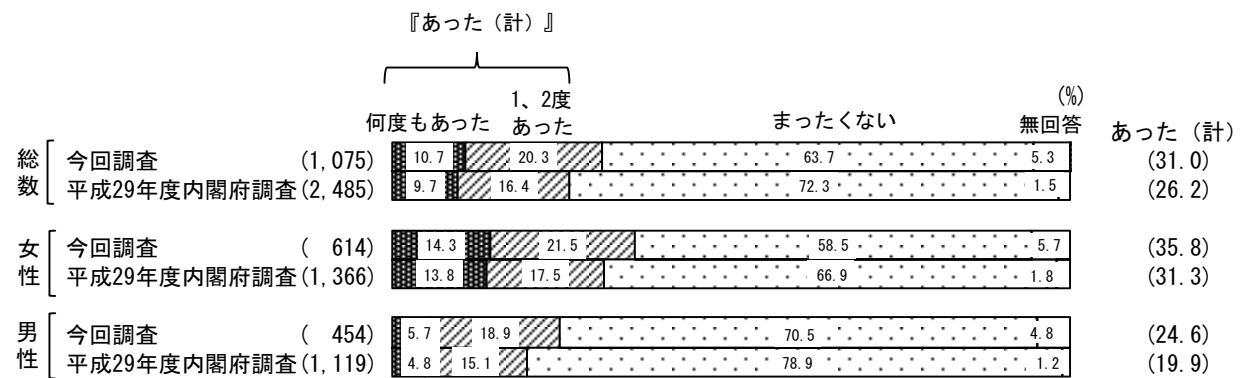
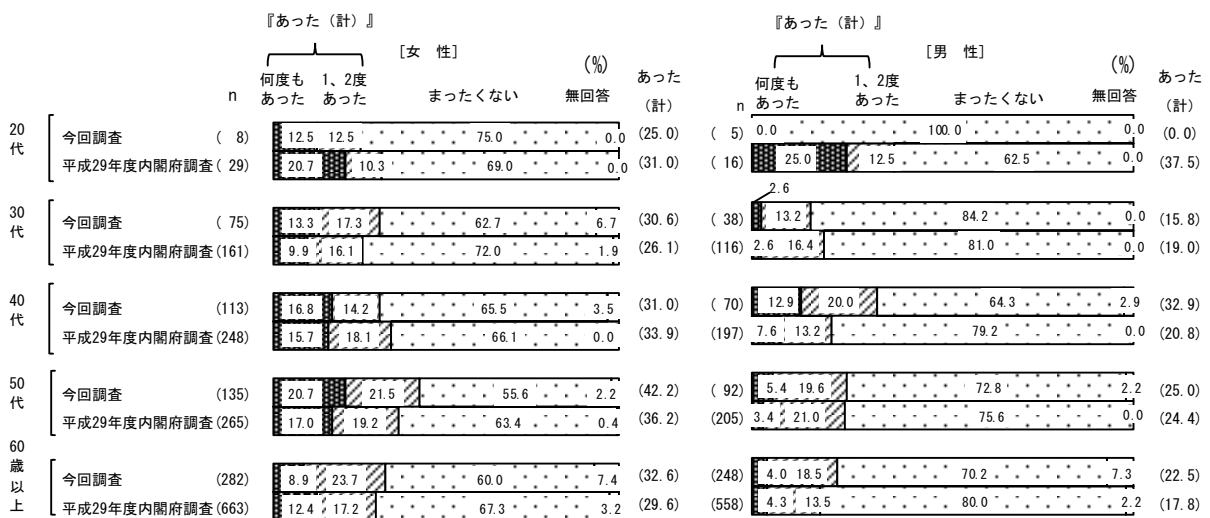


図20-7 配偶者からのこれまでの被害経験の有無＜平成29年度内閣府調査結果との比較＞
 （年代別）



※『あった（計）』は、調査票選択肢の「何度もあった」と「1、2度あった」を合計したものの。年齢区分について、「20代」は今回調査では「18～29歳」の区分であり、「60歳以上」は「60代」・「70歳以上」を合計したものの。

配偶者からのこれまでの被害経験の有無 被害の内容

配偶者からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では、「身体的暴行のみ」(6.5%)が最も多く、次いで「身体的暴行と心理的攻撃」(6.2%)、「心理的攻撃のみ」(3.7%)、「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」(3.7%)と続き、被害の重複もみられる。

男性では、「身体的暴行と心理的攻撃」(6.4%)、「心理的攻撃のみ」(6.2%)、「身体的暴行のみ」(5.7%)と続き、男女ともに被害の重複がみられる。

女性の方が「性的強要のみ」で男性よりも2.5ポイント多く、男性では、「心理的攻撃のみ」で女性より2.5ポイント多くなっている。

図 20-8 配偶者からのこれまでの被害経験の有無 (性別)

	総数 (n)	身体的 暴行のみ	心理的 攻撃のみ	経済的 圧迫のみ	性的 強要のみ	身体的 暴行と 心理的 攻撃	身体的 暴行と 経済的 圧迫	身体的 暴行と 性的 強要	心理的 攻撃と 経済的 圧迫	心理的 攻撃と 性的 強要	経済的 圧迫と 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 性的 強要	身体的 暴行・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	経済的 圧迫・ 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	ま た た く な い	無 回 答
【性別】 (%)																			
総数	1,075	6.1	4.7	1.5	1.9	6.2	0.4	0.8	0.7	1.3	0.3	2.0	1.4	0.4	0.6	2.7	63.7	5.3	
女性	614	6.5	3.7	2.0	2.9	6.2	0.3	1.5	0.5	1.8	0.5	2.4	2.3	0.7	0.8	3.7	58.5	5.7	
男性	454	5.7	6.2	0.7	0.4	6.4	0.4	0.0	1.1	0.7	0.0	1.3	0.2	0.0	0.2	1.3	70.5	4.8	

3 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(問20「①これまで」で「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた人にお聞きします。)

問20 あなたは、この1年間にあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

「②この1年間」(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれ1つずつ)

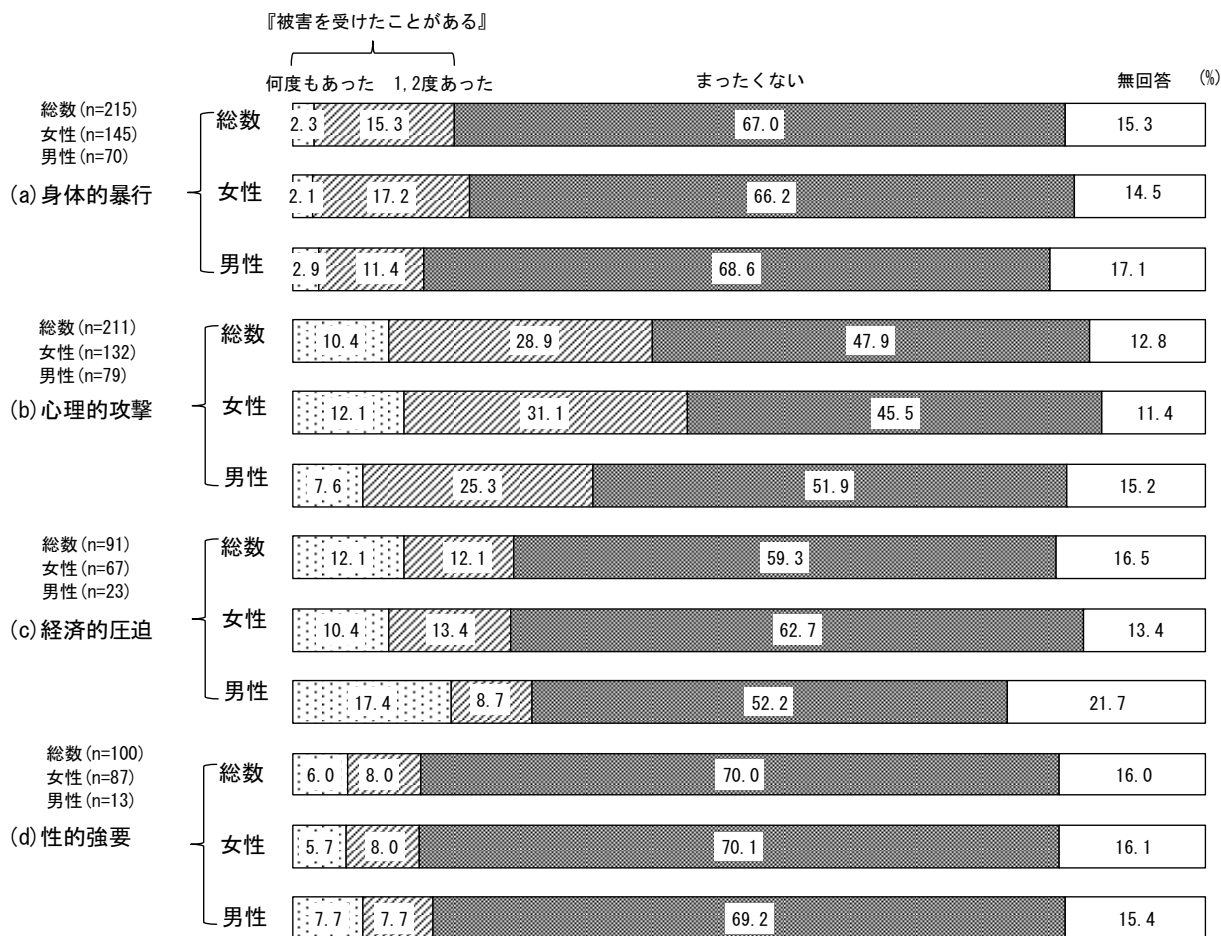
“(a) 身体的暴行”では、「何度もあった」(女性2.1%、男性2.9%)、「1、2度あった」(女性17.2%、男性11.4%)となり、その合計では女性が男性を5.0ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”は、総数・男女ともに最も多く、「何度もあった」(女性12.1%、男性7.6%)、「1、2度あった」(女性31.1%、男性25.3%)となり、その合計では女性が男性を10.3ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、「何度もあった」(女性10.4%、男性17.4%)、「1、2度あった」(女性13.4%、男性8.7%)となり、その合計では男性が女性を2.3ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、「何度もあった」(女性5.7%、男性7.7%)、「1、2度あった」(女性8.0%、男性7.7%)で、その合計では男性が女性を1.7ポイント上回った。

図 20-9 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 項目別一覧(性別)



配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

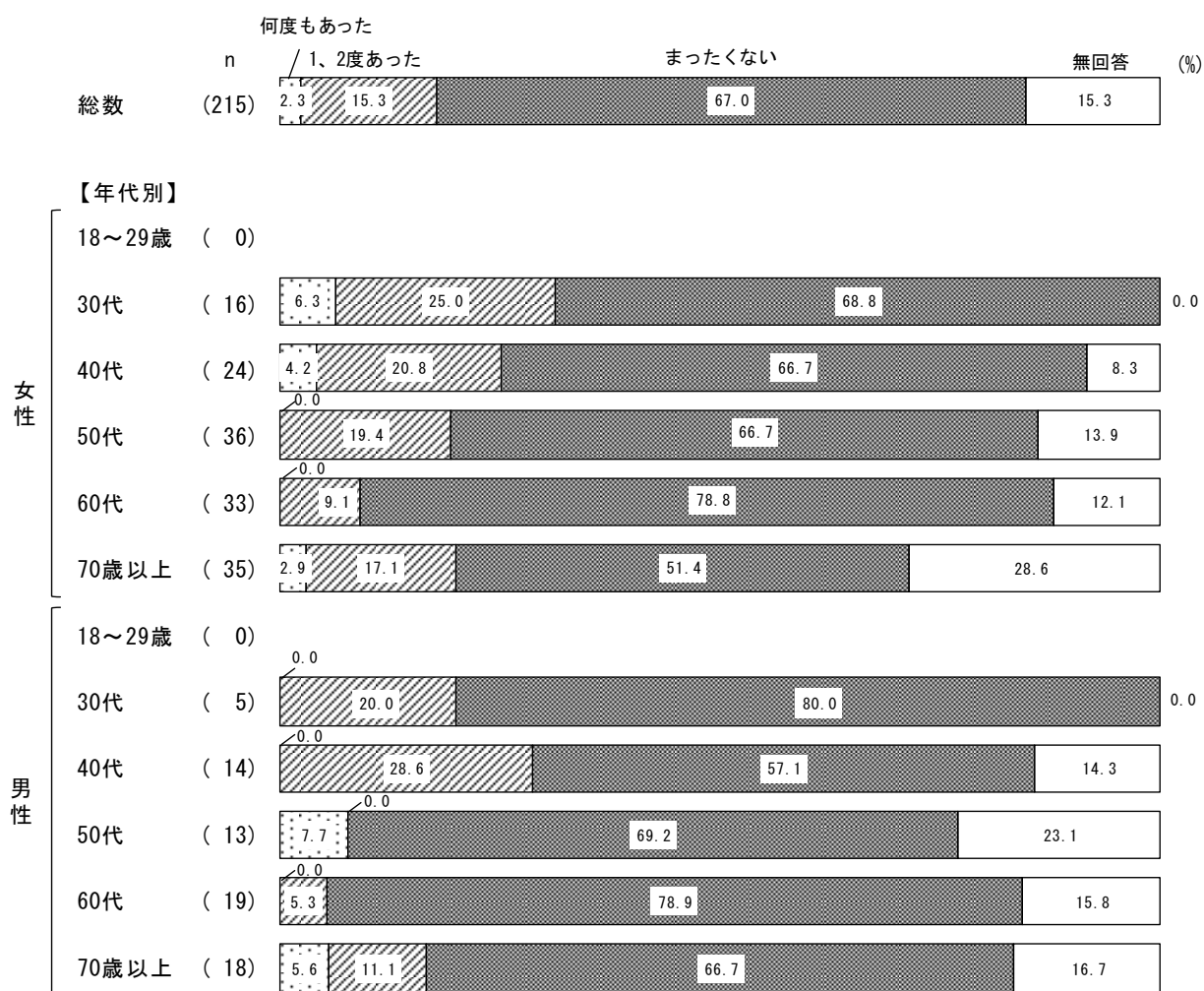
【年代別】

※女性の「18～29歳」、男性の「18～29歳」「30代」についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は30代（31.3%）が最も多い。

男性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（28.6%）が最も多い。

図 20-10 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)

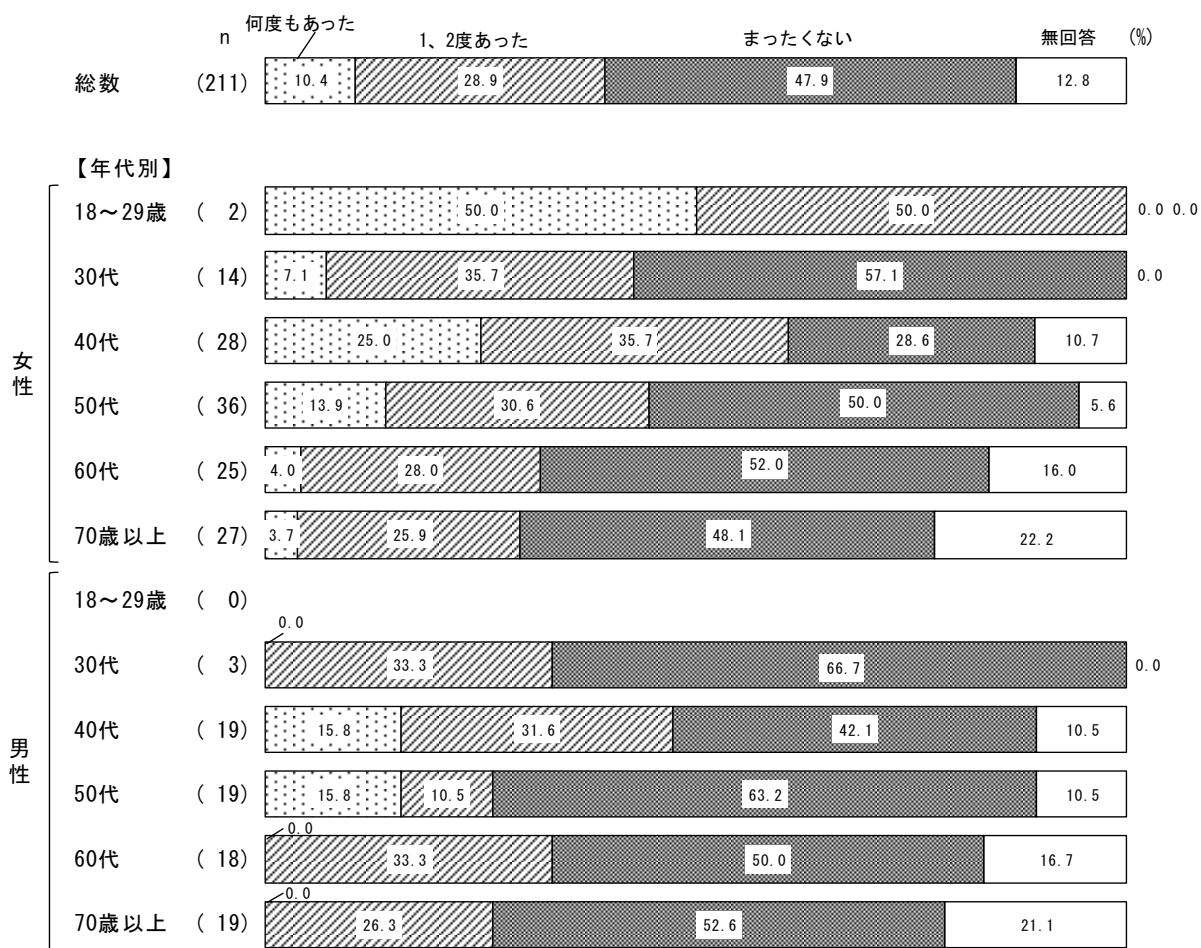


配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

【年代別】
 ※女性の「18～29歳」、男性の「18～29歳」「30代」についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 男女ともに、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（女性60.7%、男性47.4%）で最も多くなっている。

図20-11 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (b) 心理的攻撃 (年代別)



配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

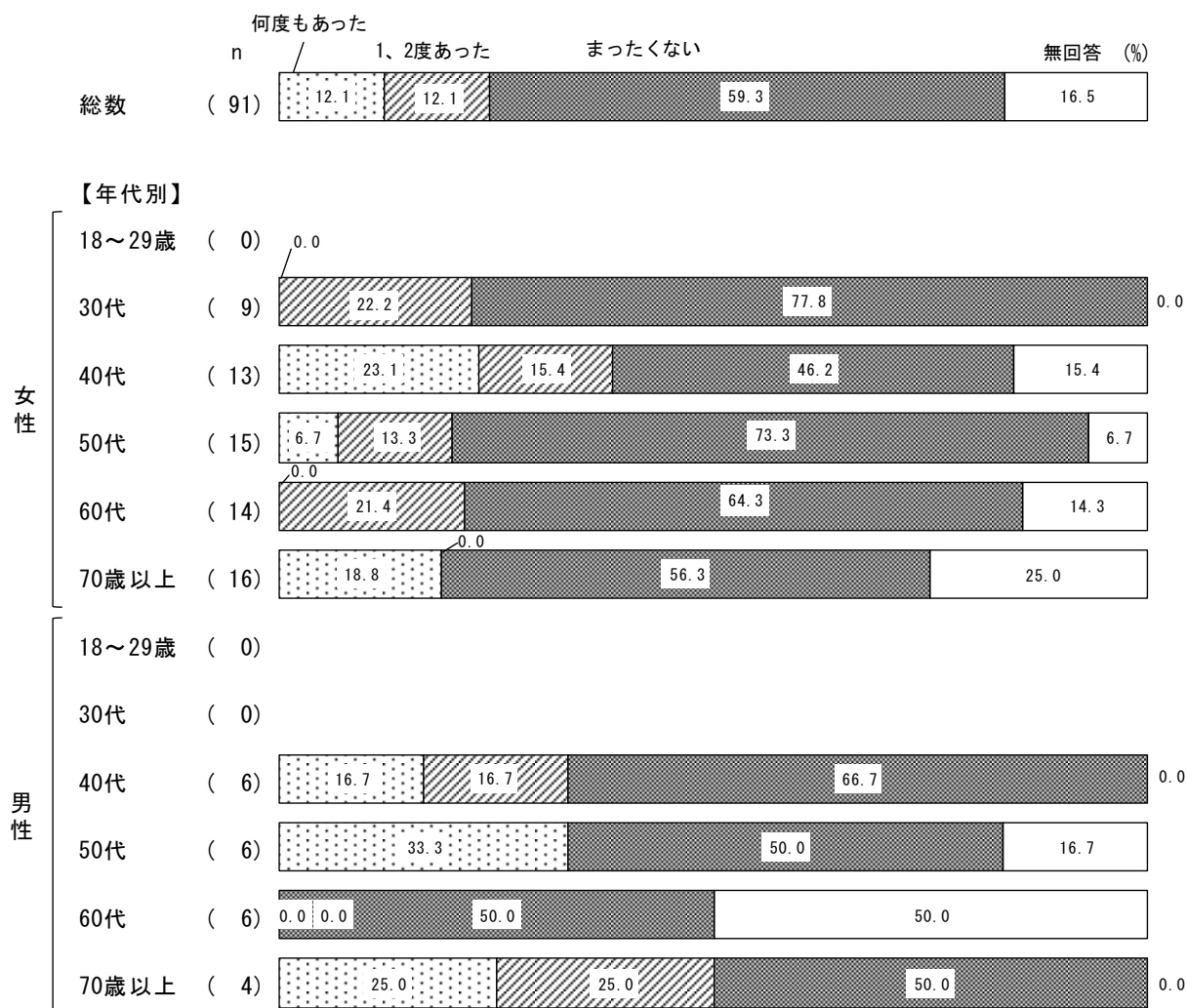
(c) 経済的圧迫（例えば、生活費を渡さない、貯金を勝手に使われる、外で働くことを妨害されるなど）

【年代別】

※女性の「18～29歳」、男性の「18～29歳」「30代」についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（38.5%）で最も多くなっている。

図20-12 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)

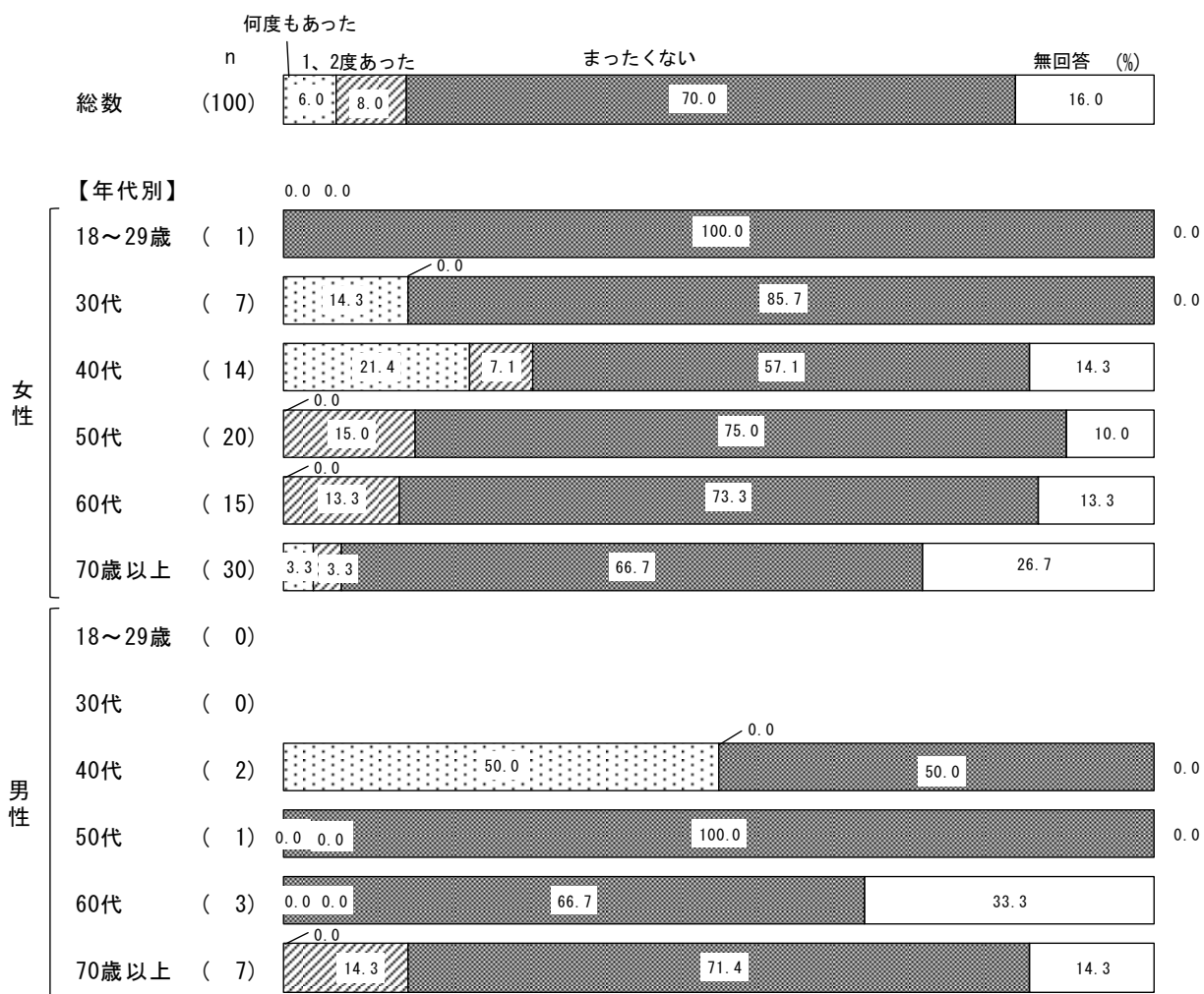


配偶者からのこの1年間の被害経験の有無

(d) 性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】
 ※女性の「18～29歳」「30代」と「男性」についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、「何度もあった」と「1、2度あった」の合計は40代（28.5%）で最も多くなっている。

図20-13 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



配偶者からのこの1年間の被害経験の有無・まとめく平成29年度内閣府調査との比較
 (内閣府が平成29年12月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較
 をする。)

【性別】

女性では、「何度もあった」の差は1.5ポイント少なく、「1、2度あった」は1.3ポイント多くなっている。

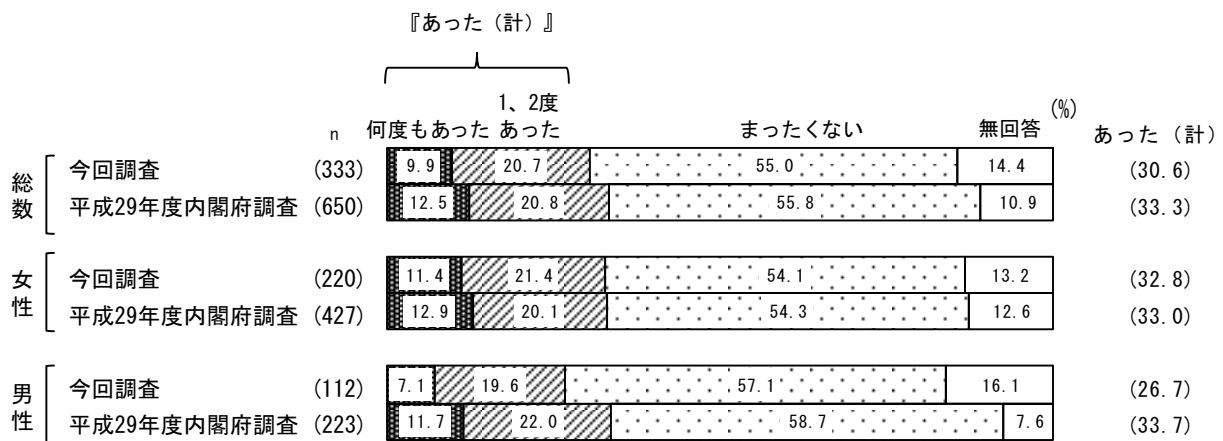
男性でも、「何度もあった」は4.6ポイント少なく、「1、2度あった」は2.4ポイント少なくなっている。

【年代別】

女性では、『あった(計)』は、40代で9.1ポイント内閣府調査よりも多くなっている。

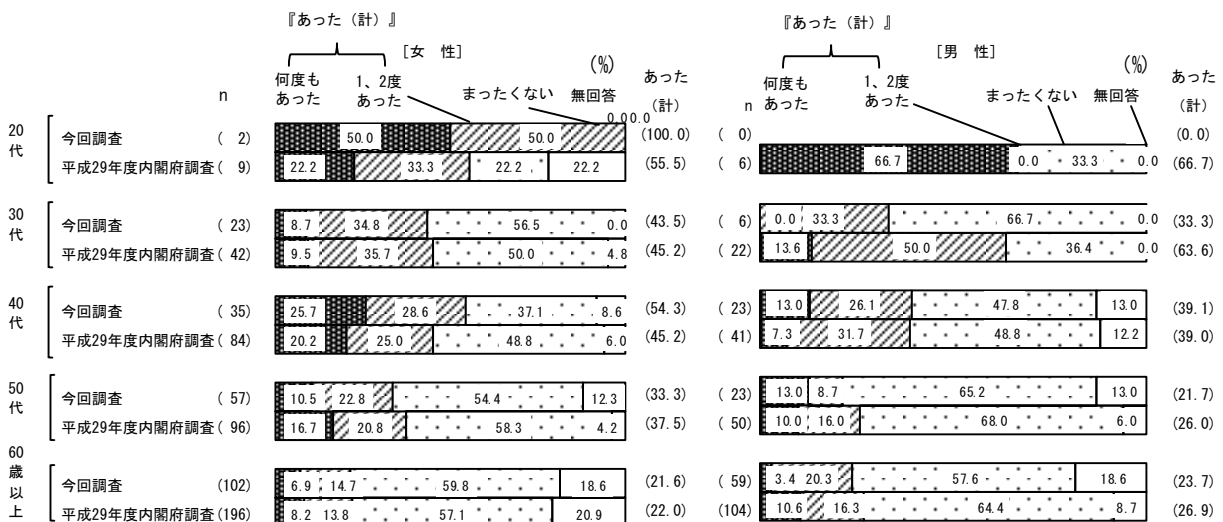
男性でも、『あった(計)』は、40代で0.1ポイント内閣府調査よりも多くなっている。

図20-14 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無く平成29年度内閣府調査結果との比較
 (性別)



※『あった(計)』は、調査票選択肢の「何度もあった」「1、2度あった」を合計したものだ。

図20-15 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無く平成29年度内閣府調査結果との比較
 (性別)



配偶者からのこの1年間の被害経験の有無 被害の内容

配偶者からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、男女とも「心理的攻撃のみ」（女性12.3%、男性13.4%）が最も多い。
 女性では次いで、「身体的暴行と心理的攻撃」（6.8%）、「身体的暴行のみ」（3.2%）、「心理的攻撃と経済的圧迫」（3.2%）となっている。
 男性では次いで、「身体的暴行と心理的攻撃」（4.5%）、「身体的暴行のみ」（2.7%）、「心理的攻撃と経済的圧迫」（2.7%）と続いている。

図 20-16 配偶者からのこの1年間の被害経験の有無（性別）

	総数 (n)	身体的 暴行のみ	心理的 攻撃のみ	経済的 圧迫のみ	性的 強要のみ	身体的 暴行と 心理的 攻撃	身体的 暴行と 経済的 圧迫	身体的 暴行と 性的 強要	心理的 攻撃と 経済的 圧迫	心理的 攻撃と 性的 強要	経済的 圧迫と 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	性的 強要 身体的 暴行・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 強要	まっ たたく ない	無 回 答	
【性別】 (%)																		
総数	333	3.0	12.6	0.6	1.5	6.0	0.0	0.0	3.0	0.6	0.3	1.2	0.3	0.0	0.6	0.9	55.0	14.4
女性	220	3.2	12.3	0.5	2.3	6.8	0.0	0.0	3.2	0.5	0.5	1.4	0.5	0.0	0.9	0.9	54.1	13.2
男性	112	2.7	13.4	0.9	0.0	4.5	0.0	0.0	2.7	0.9	0.0	0.9	0.0	0.0	0.9	0.9	57.1	16.1

4 配偶者からの暴力についての相談経験の有無

(問20「①これまで」で「1、2度あった」、「何度もあった」と答えた人にお聞きします。)

問20-1 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、どこ(だれ)かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

配偶者からの暴力についての相談経験の有無

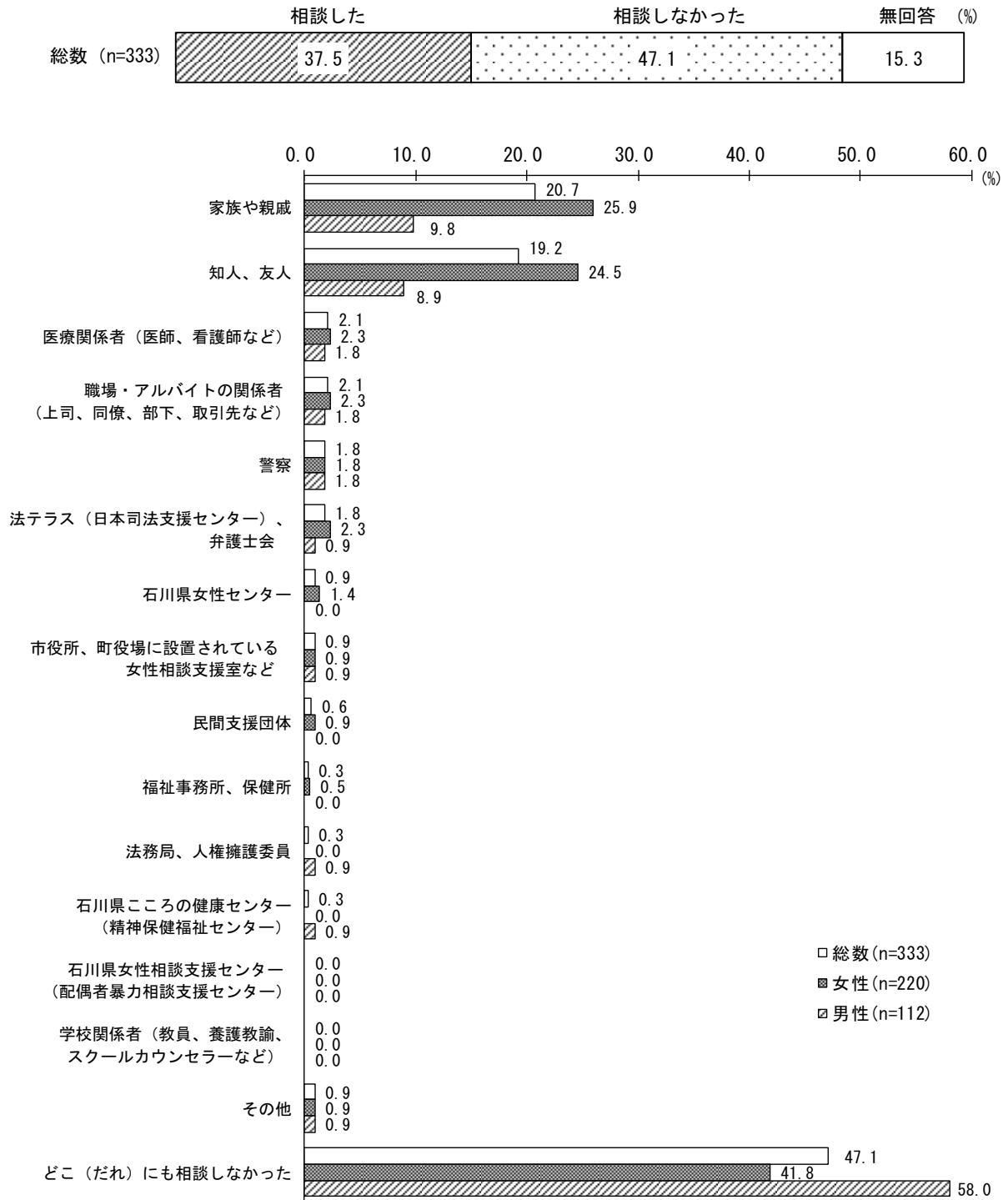
配偶者から被害を受けたことが「これまでにあった」と答えた人に、どこ(だれ)かに打ち明けたり、相談したことがあるかをたずねたところ、「相談した」と答えた人は37.5%、「相談しなかった」は47.1%で、「相談しなかった」の方が9.6ポイント多かった。

相談した人のうち、どこ(だれ)に相談したかを見ると、女性では「家族や親戚」(25.9%)、次いで「知人、友人」(24.5%)の順で、その他は3%未満となっている。

男性では「家族や親戚」(9.8%)、次いで「知人、友人」(8.9%)の順で、その他は2%未満となっている。

性別で見ると、男性の方が「どこ(だれ)にも相談しなかった」(58.0%)が5割を超え、女性(41.8%)より16.2ポイント多くなっている。

図20-1-1 配偶者からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧（性別）



【年代別】

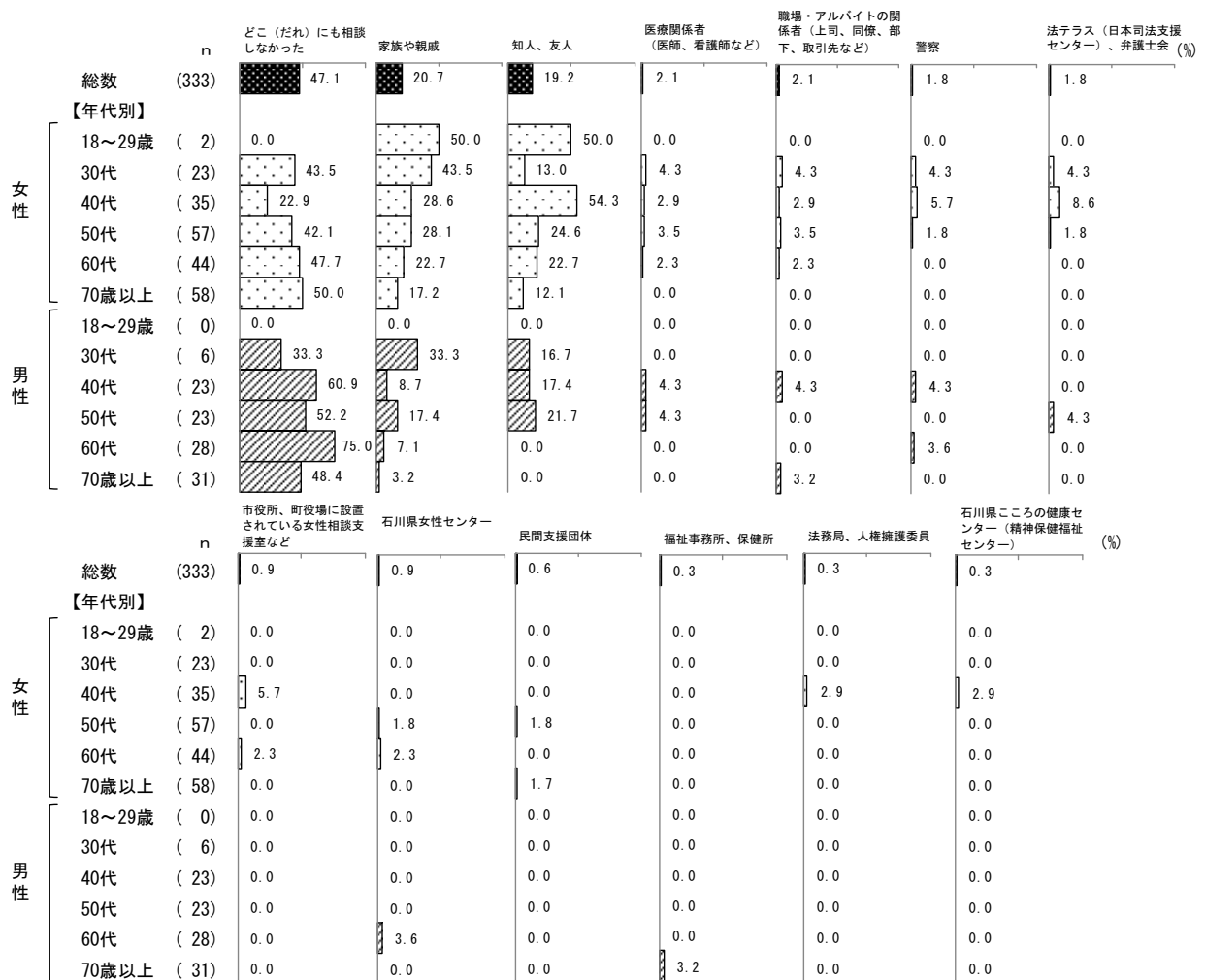
※男女とも18～29歳についてはサンプル数が少ないため、参考掲載とする。

また、「学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）」と「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」は回答がなかったため掲載していない。

全体で最も多い「どこ（だれ）にも相談しなかった」を除くと、女性では「家族や親戚」が30代（43.5%）、50代（28.1%）、70歳以上（17.2%）で最も多く、「知人、友人」は40代（54.3%）が最も多い。

男性では「家族や親戚」が30代（33.3%）で、「知人、友人」は50代（21.7%）、40代（17.4%）で最も多い。

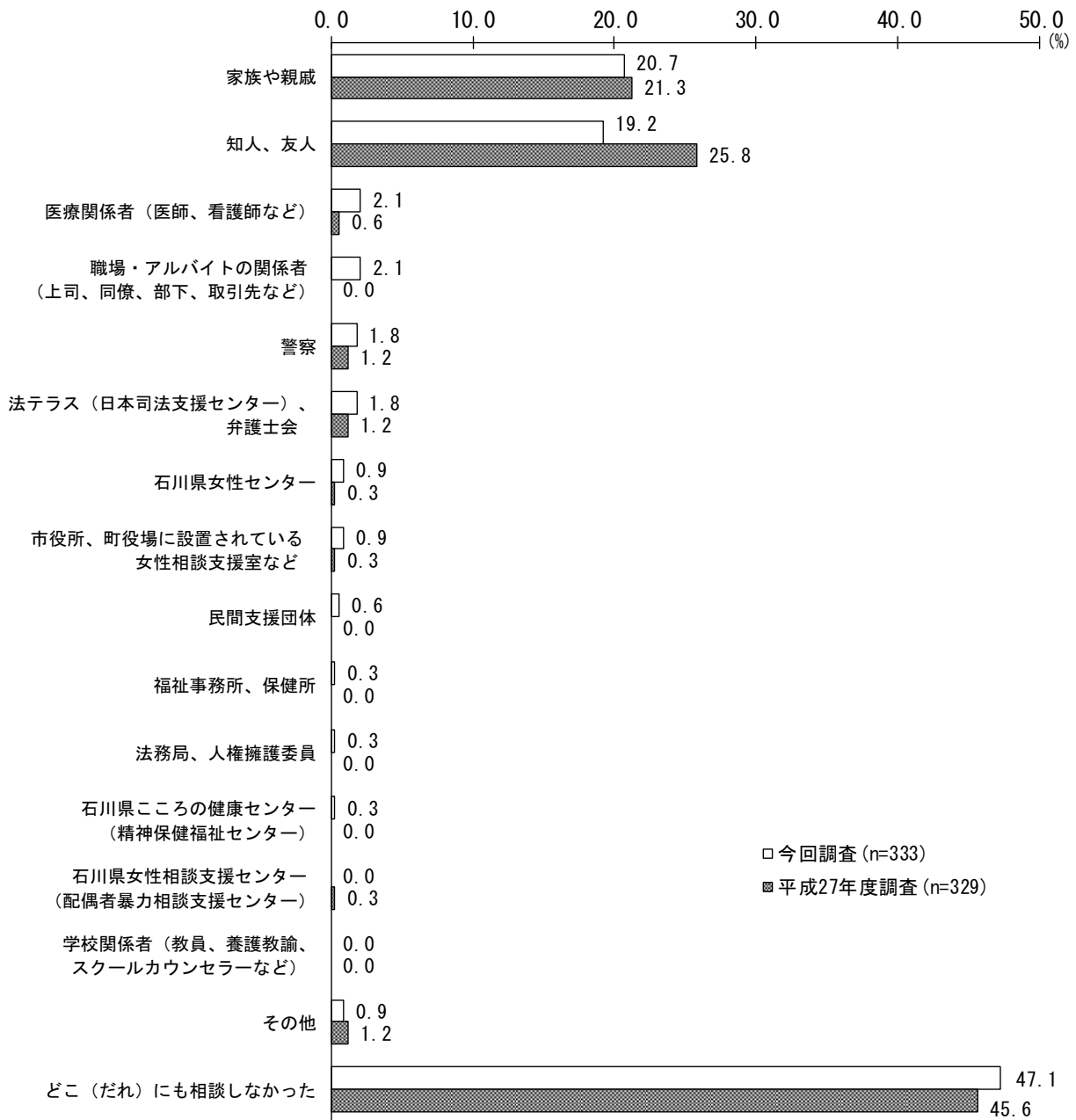
図20-1-2 配偶者からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧（年代別）



【平成27年度調査との比較】

「知人、友人」においては6.6ポイント減少し、「家族や親戚」においても0.6ポイント減少した。「どこ（だれ）にも相談しなかった」は1.5ポイント増加している。

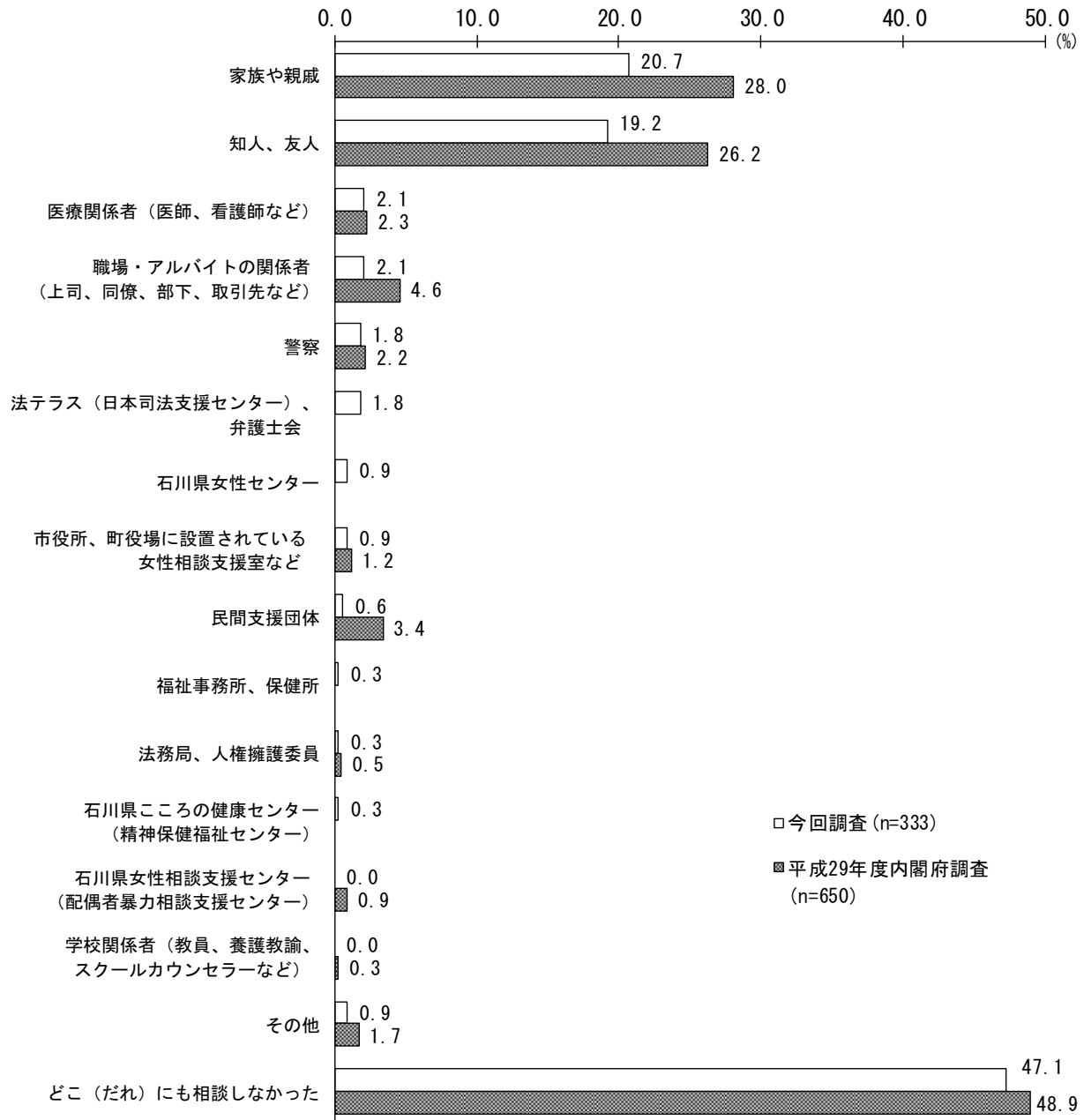
図20-1-3 配偶者からの暴力についての相談経験の有無（平成27年度調査との比較）



【平成29年度内閣府調査との比較】

「どこ（だれ）にも相談しなかった」については大きな差はないが、上位2つの項目「家族や親戚」は7.3ポイント、「知人、友人」は7.0ポイント内閣府調査を下回っている。

図20-1-4 配偶者からの暴力についての相談経験の有無（平成29年度内閣府調査との比較）



5 配偶者からの暴力について相談しなかった理由

(問20-1で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた人にお聞きします。)

問20-2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

【性別】

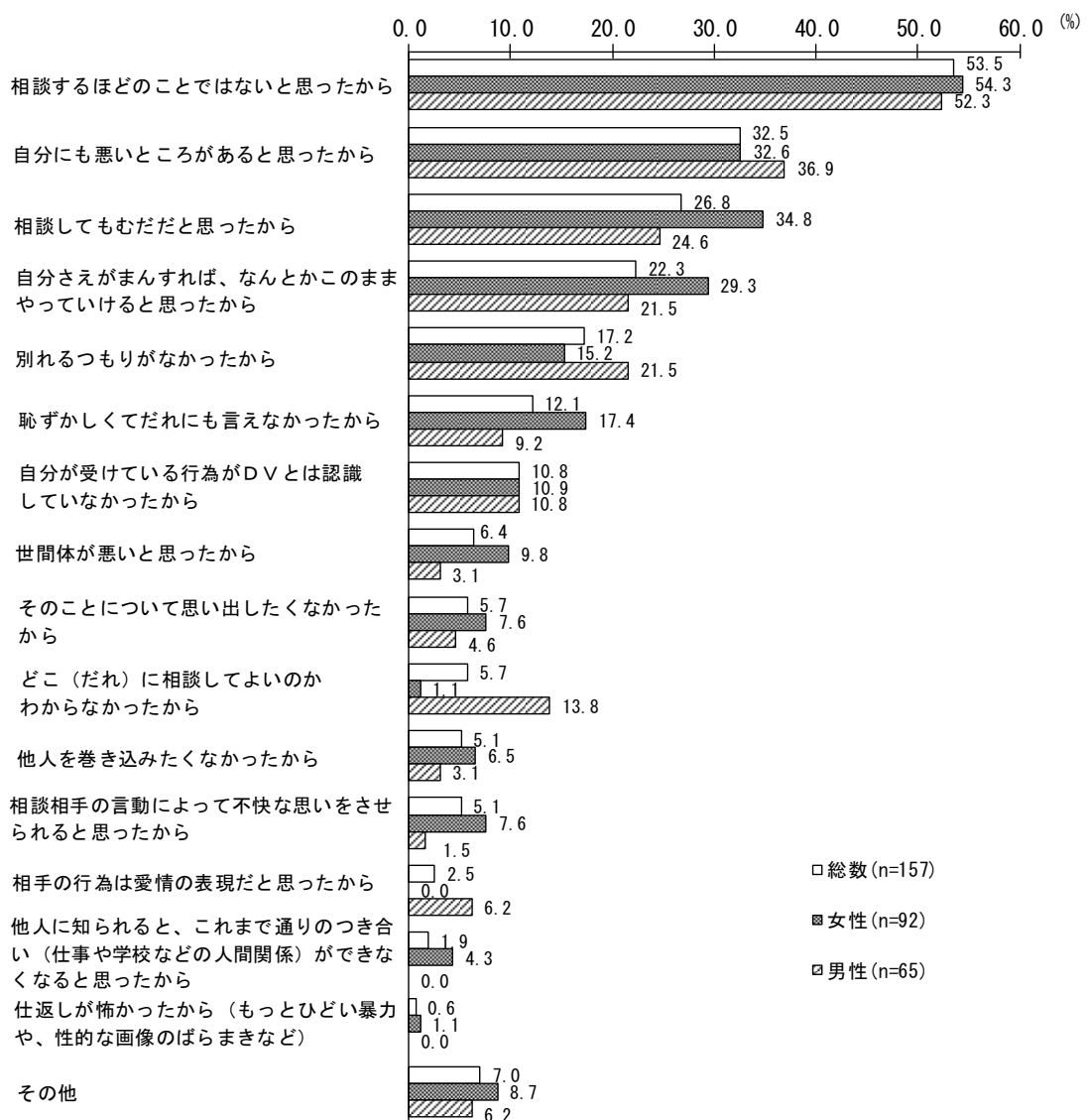
配偶者から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、男女ともに最も多かったのが「相談するほどのことではないと思ったから」(女性54.3%、男性52.3%)であった。

次いで、女性では「相談してもむだだと思ったから」(34.8%)、「自分にも悪いところがあると思ったから」(32.6%)、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」(29.3%)と続く。

男性では「自分にも悪いところがあると思ったから」(36.9%)、「相談してもむだだと思ったから」(24.6%)と続く。

男女の違いで特徴的なのは、「相談してもむだだと思ったから」では女性の方が10.2ポイント多くなっている。「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから」では男性の方が12.7ポイント多くなっている。

図 20-2-1 配偶者からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧(性別)

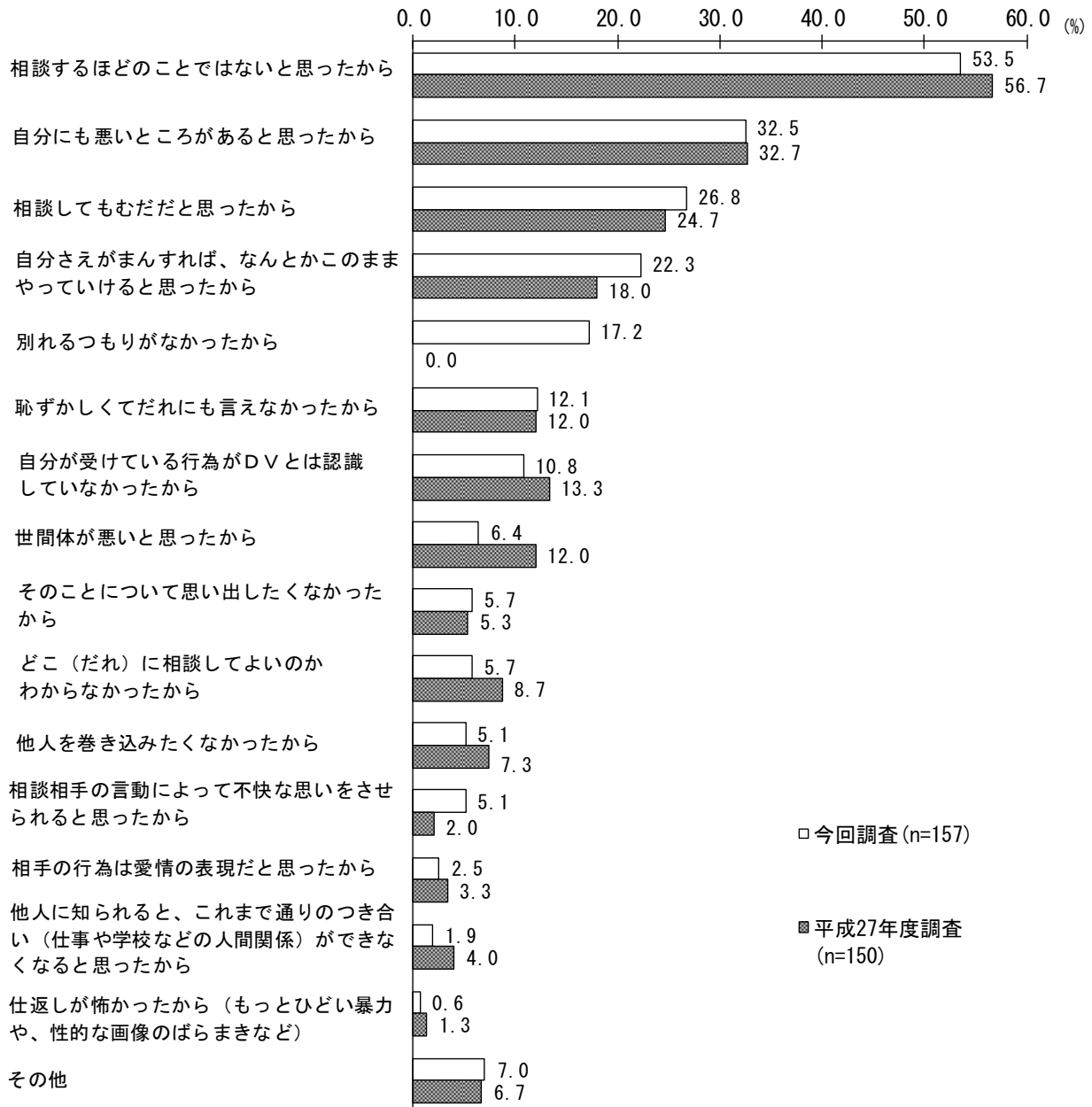


【平成 27 年度調査との比較】

前回調査から「相談してもむだだと思ったから」「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「そのことについて思い出したくなかったから」「相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから」の項目で増加している。

差が大きいものとしては、「世間体が悪いと思ったから」が5.6ポイント減少し、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が4.3ポイント増加している。

図 20-2-2 配偶者からの暴力について相談しなかった理由 (平成 27 年度調査との比較)

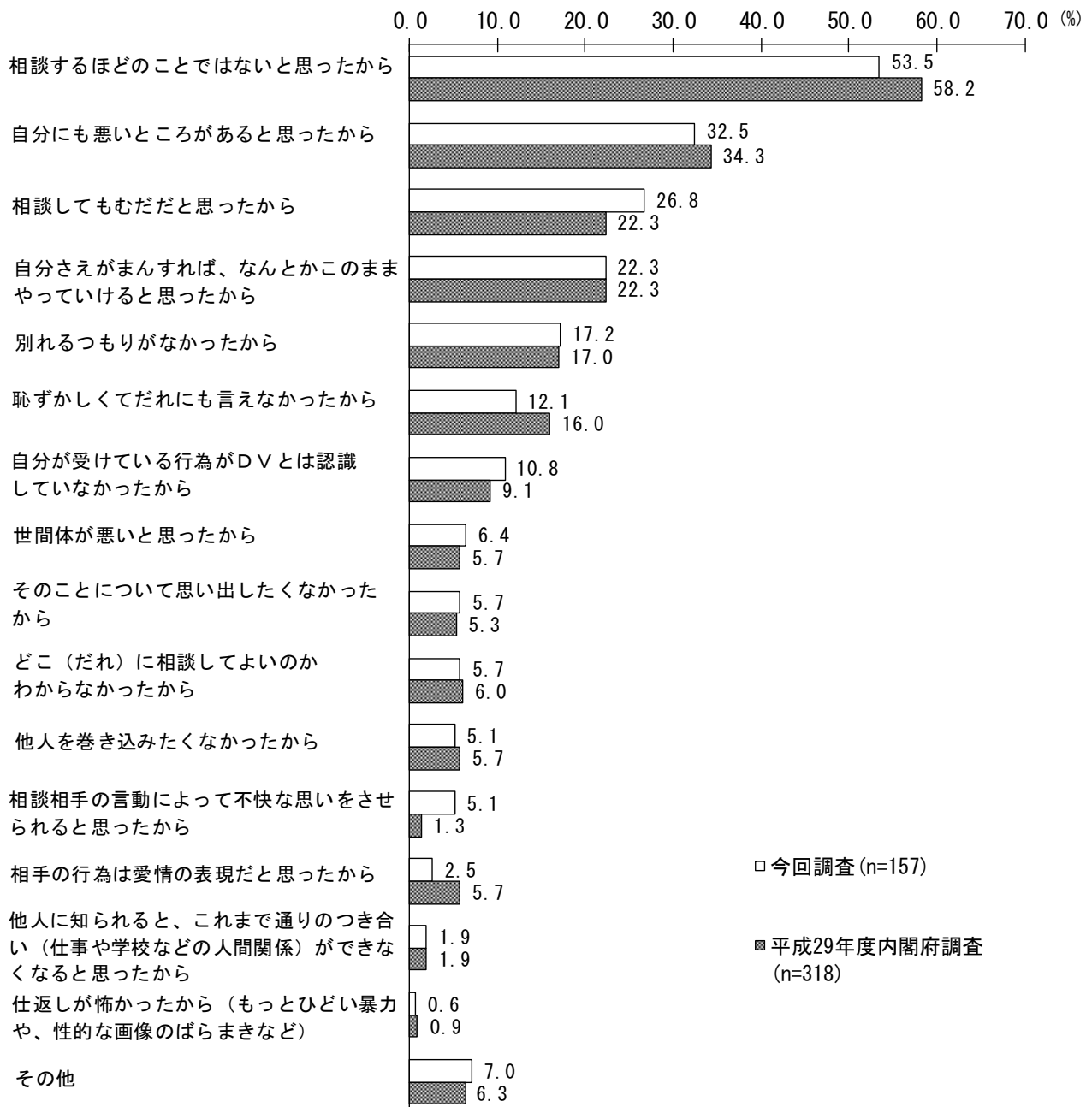


※選択肢のうち「別れるつもりがなかったから」は今回調査で新たに追加したものであるため、比較できない。

【平成29年度内閣府調査との比較】

内閣府調査との差が大きいものとしては、「相談するほどのことではないと思ったから」が4.7ポイント少なく、「相談してもむだだと思ったから」が4.5ポイント多くなっている。

図 20-2-3 配偶者からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧
(平成 29 年度内閣府調査との比較)



6 交際相手からの被害経験の有無

(これまでに交際相手がいたことのある方にお聞きします。複数の交際相手がいたことのある方については、経験の1つについてお答えください。)

【ここでいう「交際相手」には、事実婚は含みません。】

問21 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。「①交際相手」の(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

“(a) 身体的暴行”では、『10～20歳代にあった』(女性8.4%、男性3.4%)、「30歳代以上にあった」(女性1.7%、男性1.1%)となり、その合計では女性が男性を5.6ポイント上回っている。

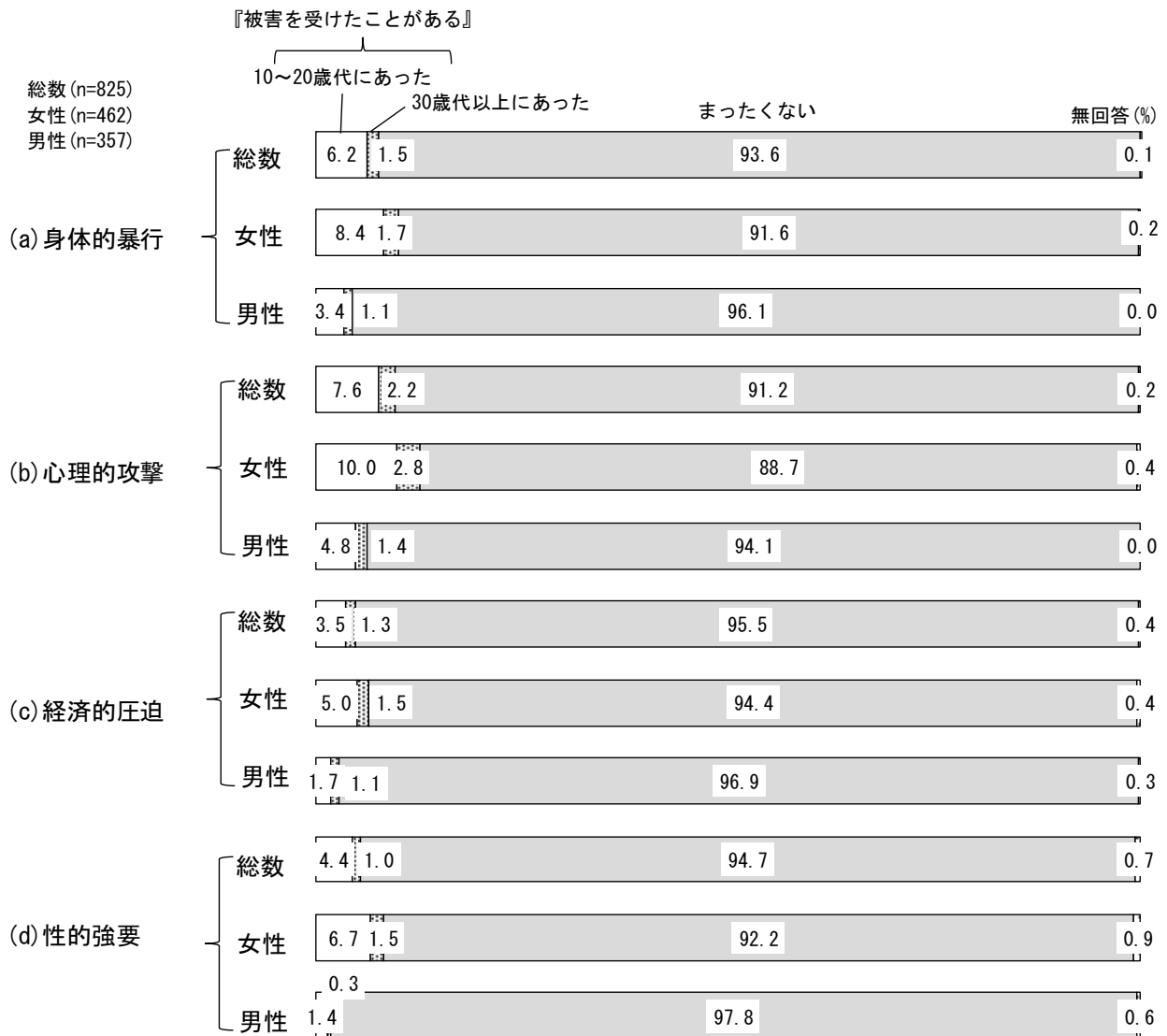
“(b) 心理的攻撃”では、『10～20歳代にあった』(女性10.0%、男性4.8%)、「30歳代以上にあった」(女性2.8%、男性1.4%)で、その合計では女性が男性を6.6ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、『10～20歳代にあった』(女性5.0%、男性1.7%)、「30歳代以上にあった」(女性1.5%、男性1.1%)となり、その合計では女性が男性を3.7ポイント上回った。

“(d) 性的強要”では、『10～20歳代にあった』(女性6.7%、男性1.4%)、「30歳代以上にあった」(女性1.5%、男性0.3%)で、その合計では女性が男性を6.5ポイント上回った。

全ての項目で、『10～20歳代にあった』と「30歳代以上にあった」のいずれにおいても、女性の方が男性より多くなっている。

図21-1 交際相手からの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)



※『10～20歳代にあった』は、調査票選択肢の「10歳代にあった」と「20歳代にあった」を合計したもの。以降の頁も同様。

※複数の項目を選択している場合があるため、合計値が100%を超える場合がある。以降の頁も同様。

交際相手からの被害経験の有無

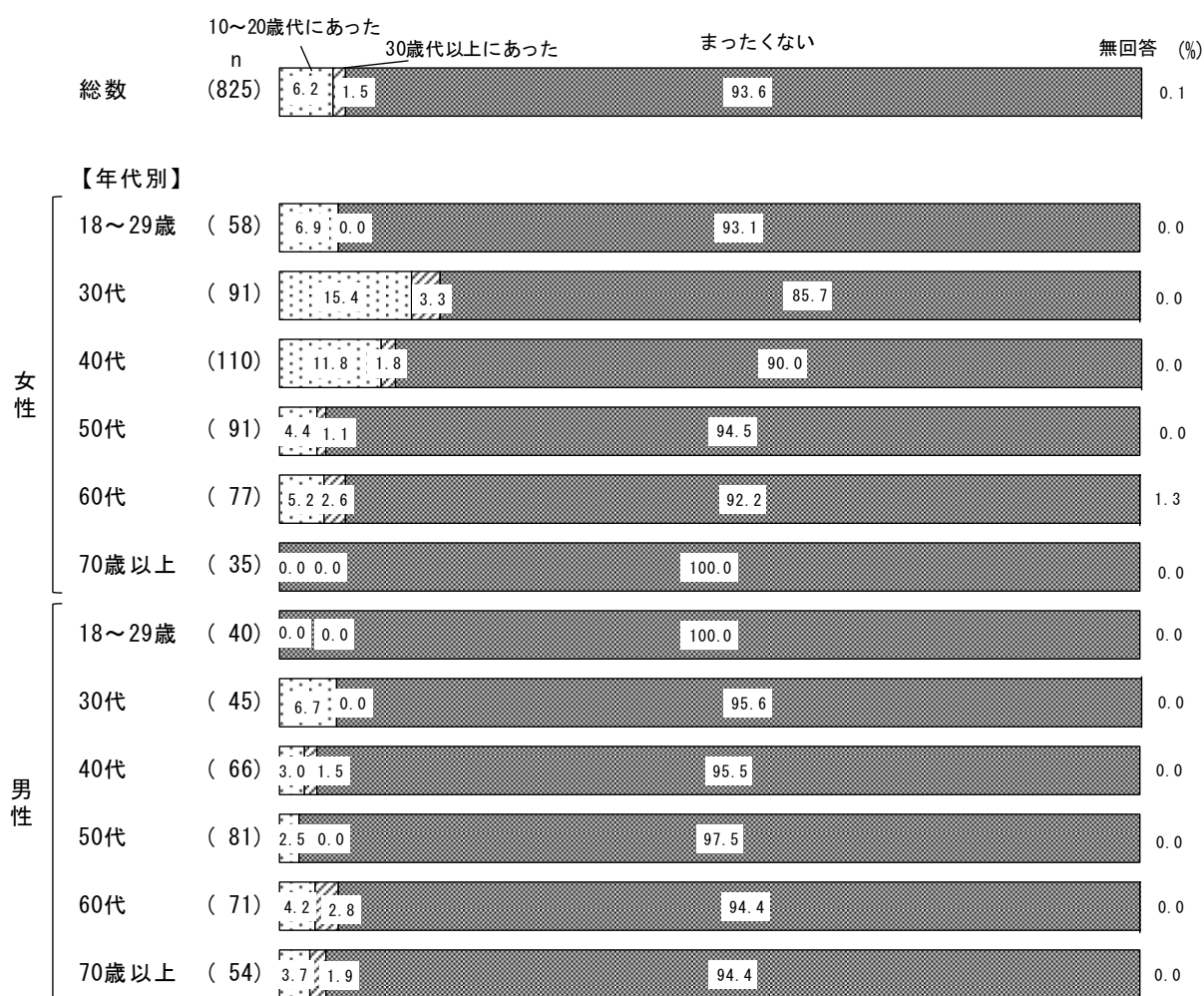
(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

【年代別】

女性では、『10～20歳代にあった』と「30歳代以上にあった」の合計で最も多かったのが30代（18.7%）で、最も少なかったのが70歳以上（『10～20歳代にあった』『30歳代以上にあった』（ともに0.0%））だった。

男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図 21-2 交際相手からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行 (年代別)

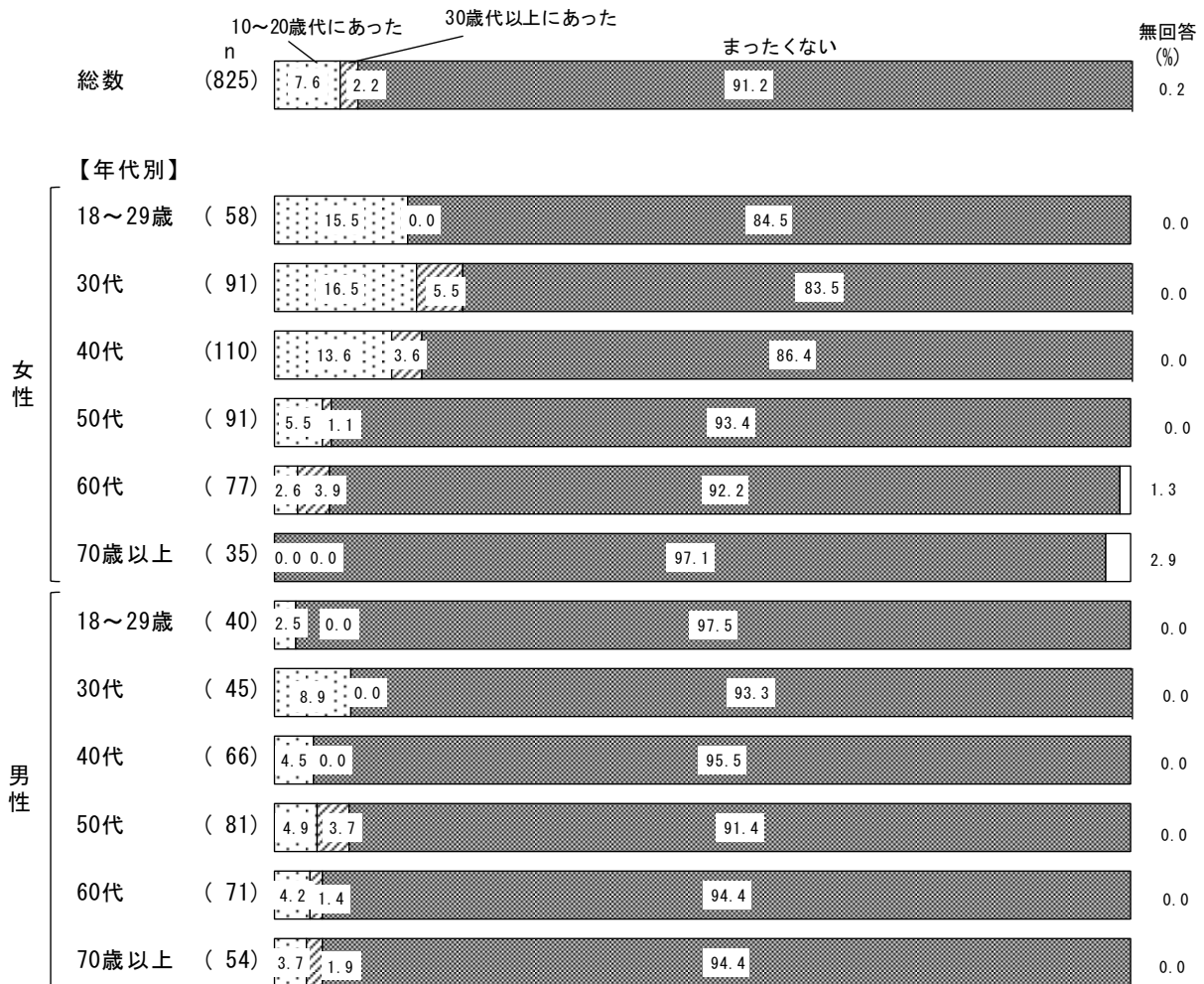


交際相手からの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

【年代別】
 女性では、30代（『10～20歳代にあった』16.5%、「30歳代以上にあった」5.5%、合計22.0%）が最も多く、40代（『10～20歳代にあった』13.6%、「30歳代以上にあった」3.6%、合計17.2%）、18～29歳（『10～20歳代にあった』15.5%）が続く。
 男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図21-3 交際相手からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃 (年代別)



交際相手からの被害経験の有無

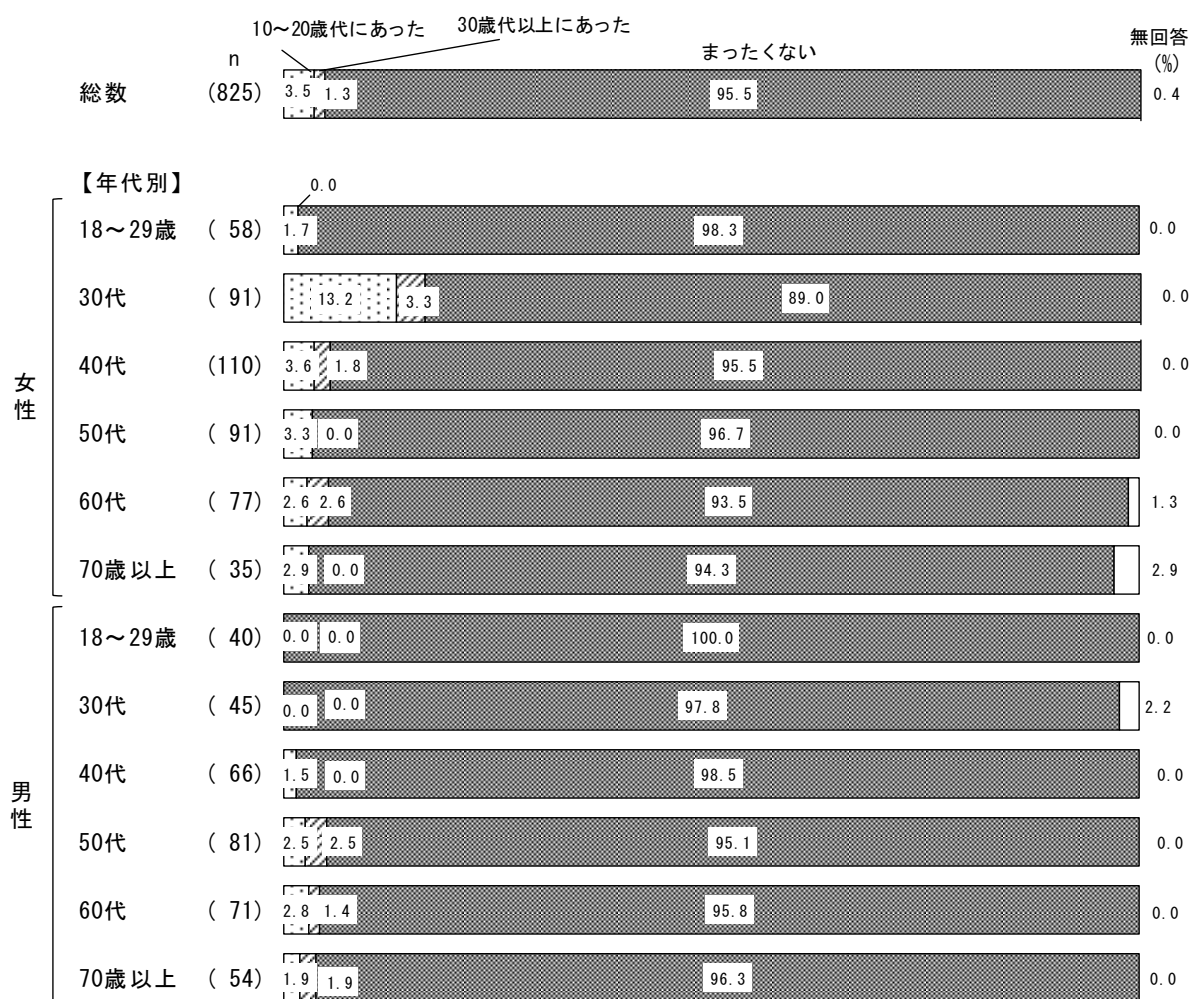
(c) 経済的圧迫（例えば、給料や貯金を勝手に使われる、デート代や生活費を無理やり払わされるなど）

【年代別】

女性では、30代（『10～20歳代にあった』13.2%、「30歳代以上にあった」3.3%）が他の年代に比べて多くなっている。

男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図21-4 交際相手からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)

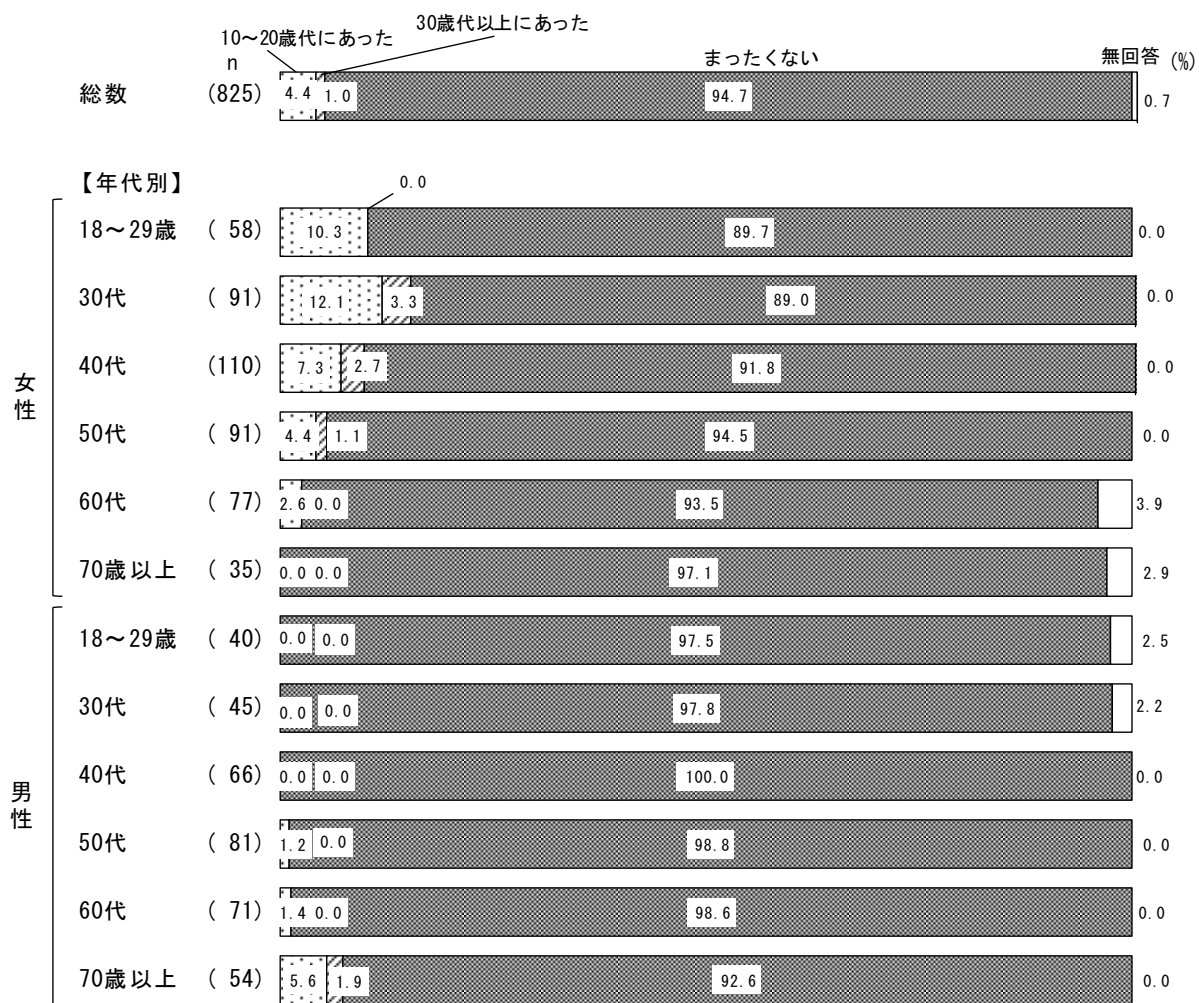


交際相手からの被害経験の有無

(d) 性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】
 女性では、30代（『10～20歳代にあった』12.1%、「30歳代以上にあった」3.3%、合計15.4%）が最も多く、18～29歳（『10～20歳代にあった』10.3%）、40代（『10～20歳代にあった』7.3%、「30歳代以上にあった」2.7%、合計10.0%）が続く。
 男性では、どの年代でも1割を下回っている。

図21-5 交際相手からの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



交際相手からの被害経験の有無・まとめ 平成 29 年度内閣府調査との比較

(内閣府が平成29年12月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較をする。)

【性別】

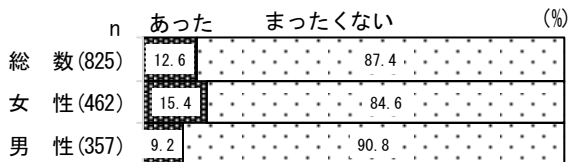
内閣府調査では、質問対象者が「交際相手がいた(いる)」人になっており、本県調査の対象者(全員)と異なるため、単純に比較することはできないが、『あった』と答えた人は、今回調査(女性15.4%、男性9.2%)では内閣府調査(女性21.4%、男性11.5%)より女性では6.0ポイント、男性では2.3ポイント少なくなっている。

【年代別】

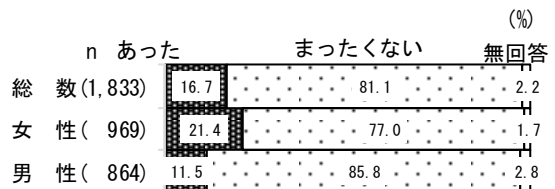
女性では、『あった』は20代(20.7%)で内閣府調査より15.3ポイント少なくなっている。男性でも、『あった』は20代(2.5%)で内閣府調査より15.5ポイント少なくなっている。

図21-6 交際相手からの被害経験の有無 平成29年度内閣府調査結果との比較(性別)

【今回調査】



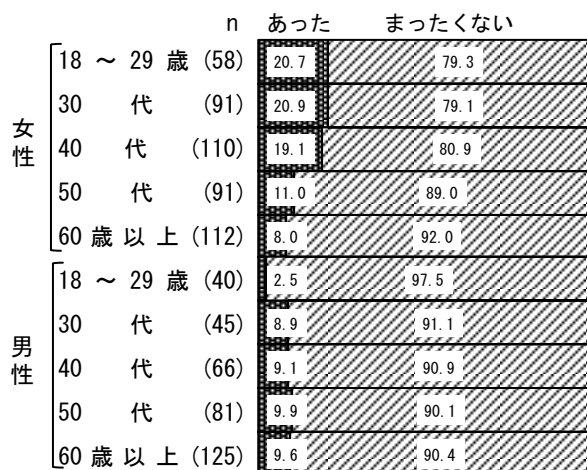
【平成29年度内閣府調査】



※『あった』は調査票選択肢の「10～20歳代にあった」「30歳代以上にあった」を合計したものの。

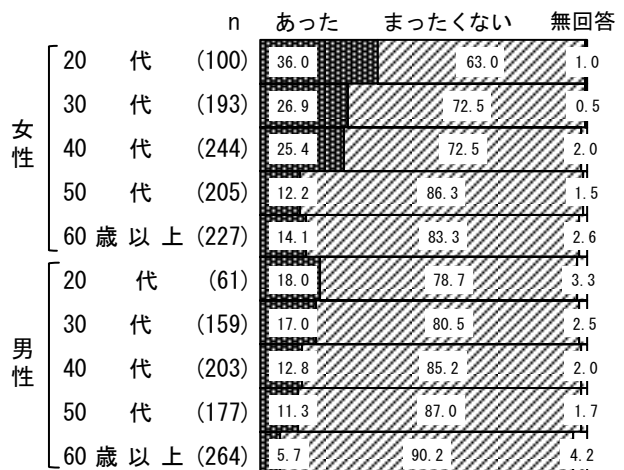
図21-7 交際相手からの被害経験の有無 平成29年度内閣府調査結果との比較(年代別)

【今回調査】



(%)

【平成29年度内閣府調査】

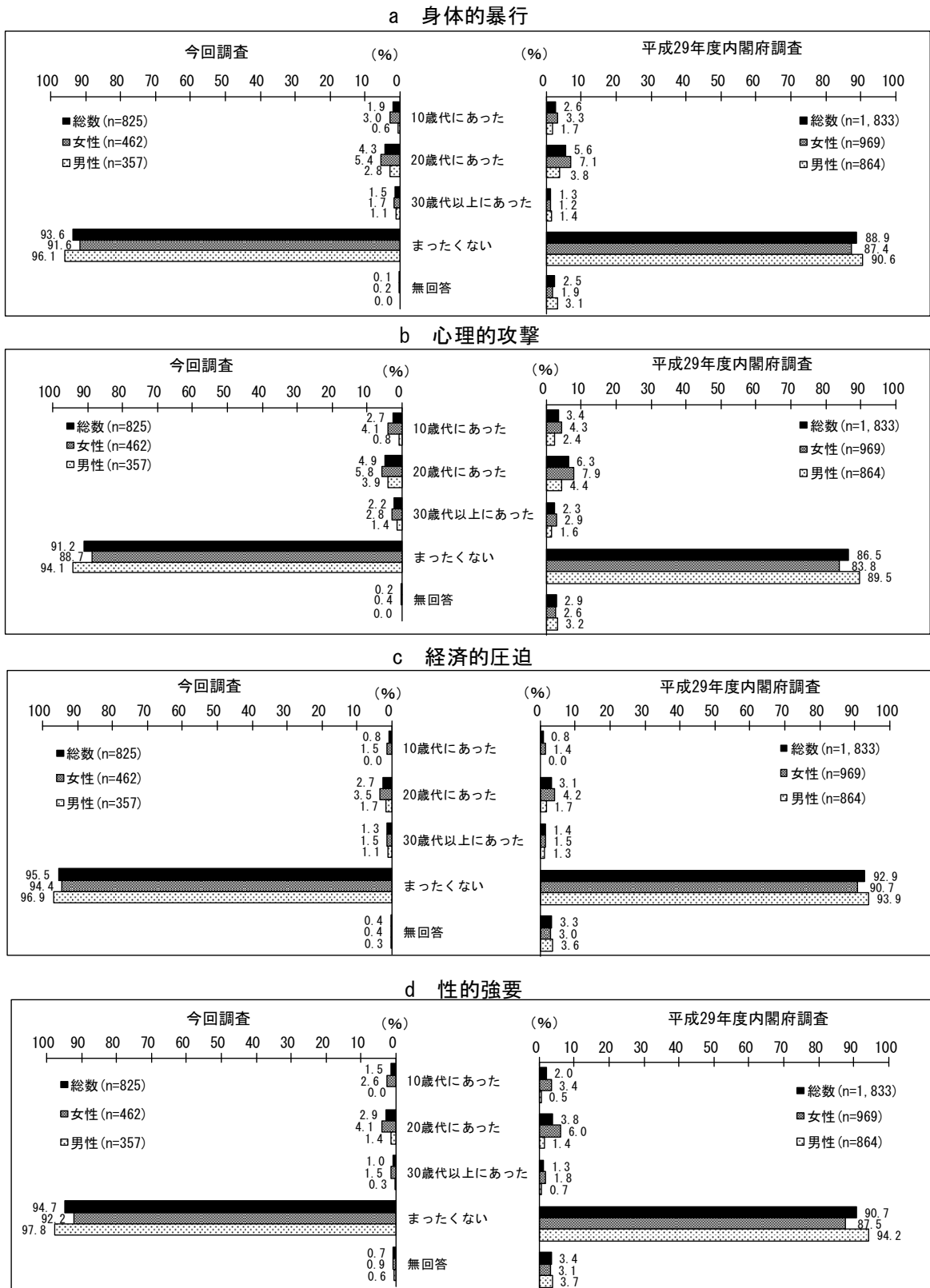


※『あった』は調査票選択肢の「10～20歳代にあった」「30歳代以上にあった」を合計したものの。

交際相手からの被害経験の有無・まとめ<平成29年度内閣府調査との比較>

全ての項目で内閣府調査と大きな差は見られない。

図21-8 交際相手からの被害経験の有無
 <平成29年度内閣府調査結果との比較> (性別)



交際相手からの被害経験の有無 被害の内容

交際相手からの被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では、「心理的攻撃のみ」と「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」（ともに2.4%）が最も多く、次いで「身体的暴行のみ」と「心理的攻撃と性的強要」（ともに1.9%）の順になっている。
 男性では、最も多いのが「心理的攻撃のみ」（2.2%）、次いで「身体的暴行のみ」（1.7%）、であり、「身体的暴行と心理的攻撃」、「心理的攻撃と経済的圧迫」（0.8%）となっている。

図21-9 交際相手からの被害経験の有無 （性別）

	総数 (n)	身体的 暴行のみ	心理的 攻撃のみ	経済的 圧迫のみ	性的 強要のみ	身体的 暴行と 心理的 攻撃	身体的 暴行と 経済的 圧迫	身体的 暴行と 性的 強要	心理的 攻撃と 経済的 圧迫	心理的 攻撃と 性的 強要	経済的 圧迫と 性的 強要	経済的 圧迫 身体的 暴行・ 心理的 攻撃・	性的 強要 身体的 暴行・ 心理的 攻撃・	性的 強要 身体的 暴行・ 経済的 圧迫・	心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・	ま つ た く な い
【 性別 】 (%)																		
総数	825	1.8	2.3	0.4	1.1	1.2	0.1	0.2	0.6	1.1	0.1	0.8	0.2	0.0	0.2	1.6	87.4	
女性	462	1.9	2.4	0.4	1.5	1.5	0.2	0.4	0.4	1.9	0.0	1.1	0.4	0.0	0.2	2.4	84.6	
男性	357	1.7	2.2	0.3	0.6	0.8	0.0	0.0	0.8	0.0	0.3	0.6	0.0	0.0	0.3	0.6	90.8	

7 同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(問21「①交際相手」で『10～20歳代にあった』、「30歳代以上にあった」と答えた人で「①交際相手」と同居した経験 [いわゆる「同棲経験」]のある人にお聞きします。)

問21 あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。「②同居の際」の(a)～(d)のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。(○はそれぞれいくつでも)

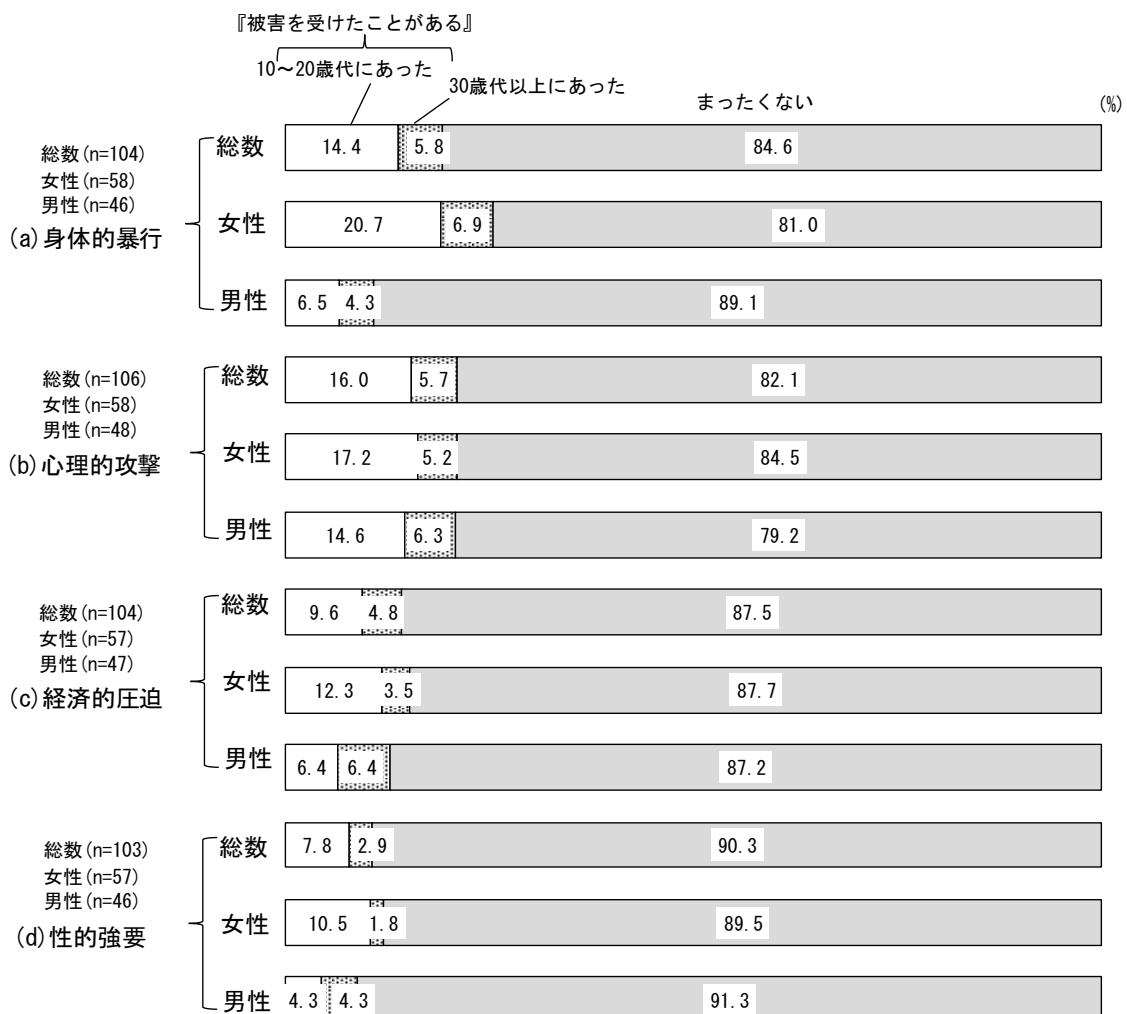
“(a) 身体的暴行”では、『10～20歳代にあった』(女性20.7%、男性6.5%)、「30歳代以上にあった」(女性6.9%、男性4.3%)となり、その合計では女性が男性を16.8ポイント上回っている。

“(b) 心理的攻撃”では、『10～20歳代にあった』は(女性17.2%、男性14.6%)、「30歳代以上にあった」(女性5.2%、男性6.3%)で、合計では女性が男性を1.5ポイント上回っている。

“(c) 経済的圧迫”では、『10～20歳代にあった』(女性12.3%、男性6.4%)、「30歳代以上にあった」(女性3.5%、男性6.4%)となり、合計では女性が男性を3.0ポイント上回っている。

“(d) 性的強要”では、『10～20歳代にあった』(女性10.5%、男性4.3%)、「30歳代以上にあった」(女性1.8%、男性4.3%)となり、合計では女性が男性を3.7ポイント上回っている。

図 21-10 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 項目別一覧 (性別)

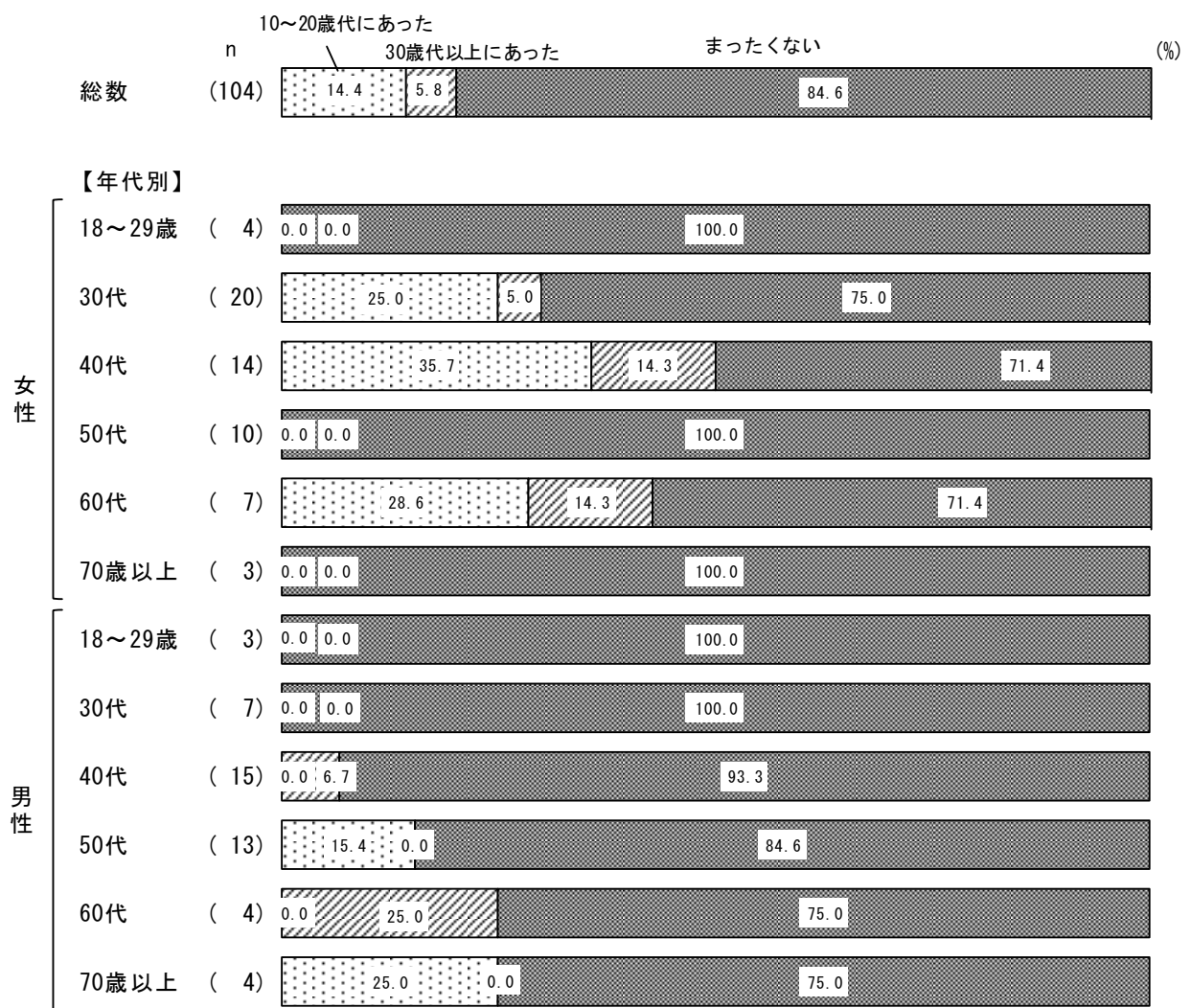


同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(a) 身体的暴行（例えば、なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体に対する暴行）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳、60代及び70歳以上についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、40代（『10～20歳代にあった』35.7%、「30歳代以上にあった」14.3%、合計50.0%）が最も多くなっている。
 男性では、50代が『10～20歳代にあった』（15.4%）で最も多くなっている。

図21-11 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (a) 身体的暴行（年代別）



同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(b) 心理的攻撃（例えば、人格を否定するような暴言、交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視したり、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ、あるいは、自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫）

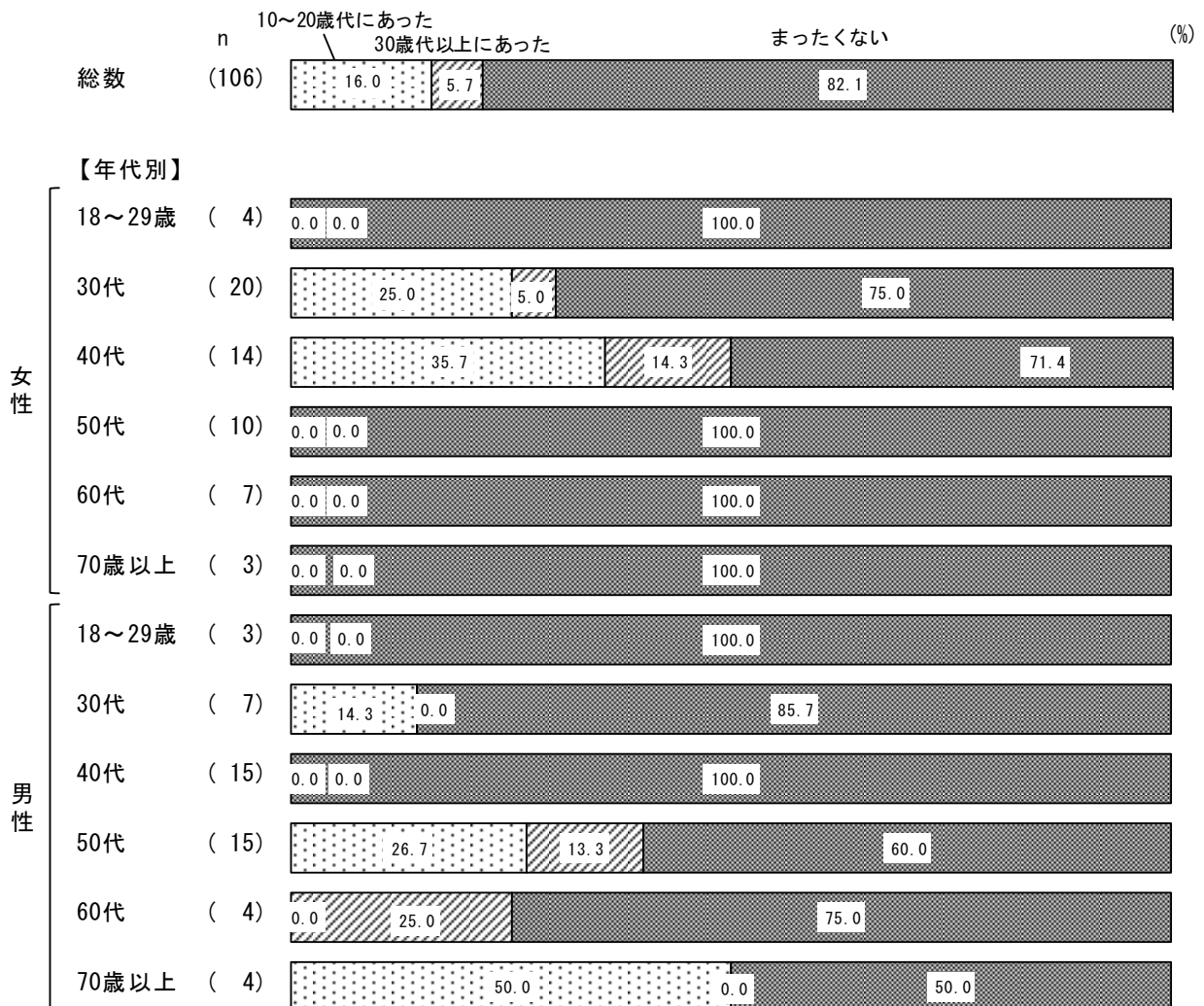
【年代別】

※男女とも18～29歳、60代及び70歳以上についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。

女性では、40代（『10～20歳代にあった』35.7%、「30歳代以上にあった」14.3%、合計50.0%）が最も多くなっている。

男性では、50代（『10～20歳代にあった』26.7%、「30歳代以上にあった」13.3%、合計40.0%）で最も多くなっている。

図21-12 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (b) 心理的攻撃（年代別）

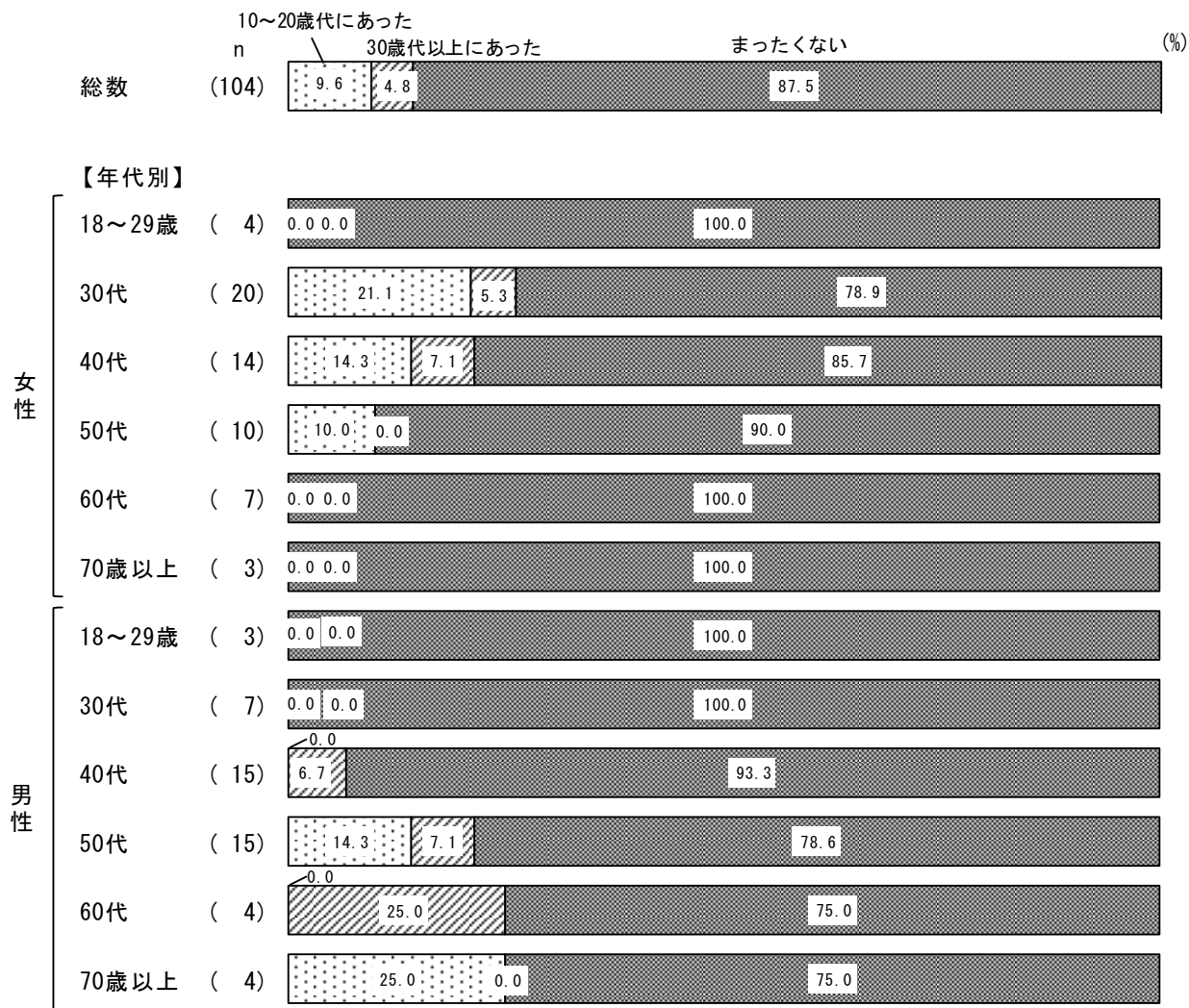


同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(c) 経済的圧迫（例えば、給料や貯金を勝手に使われる、デート代や生活費を無理やり払わされるなど）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳、60代及び70歳以上についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、30代（『10～20歳代にあった』21.1%、「30歳代以上にあった」5.3%、合計26.4%）が最も多くなっている。
 男性では、50代（『10～20歳代にあった』14.3%、「30歳代以上にあった」7.1%、合計21.4%）が最も多くなっている。

図21-13 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (c) 経済的圧迫 (年代別)

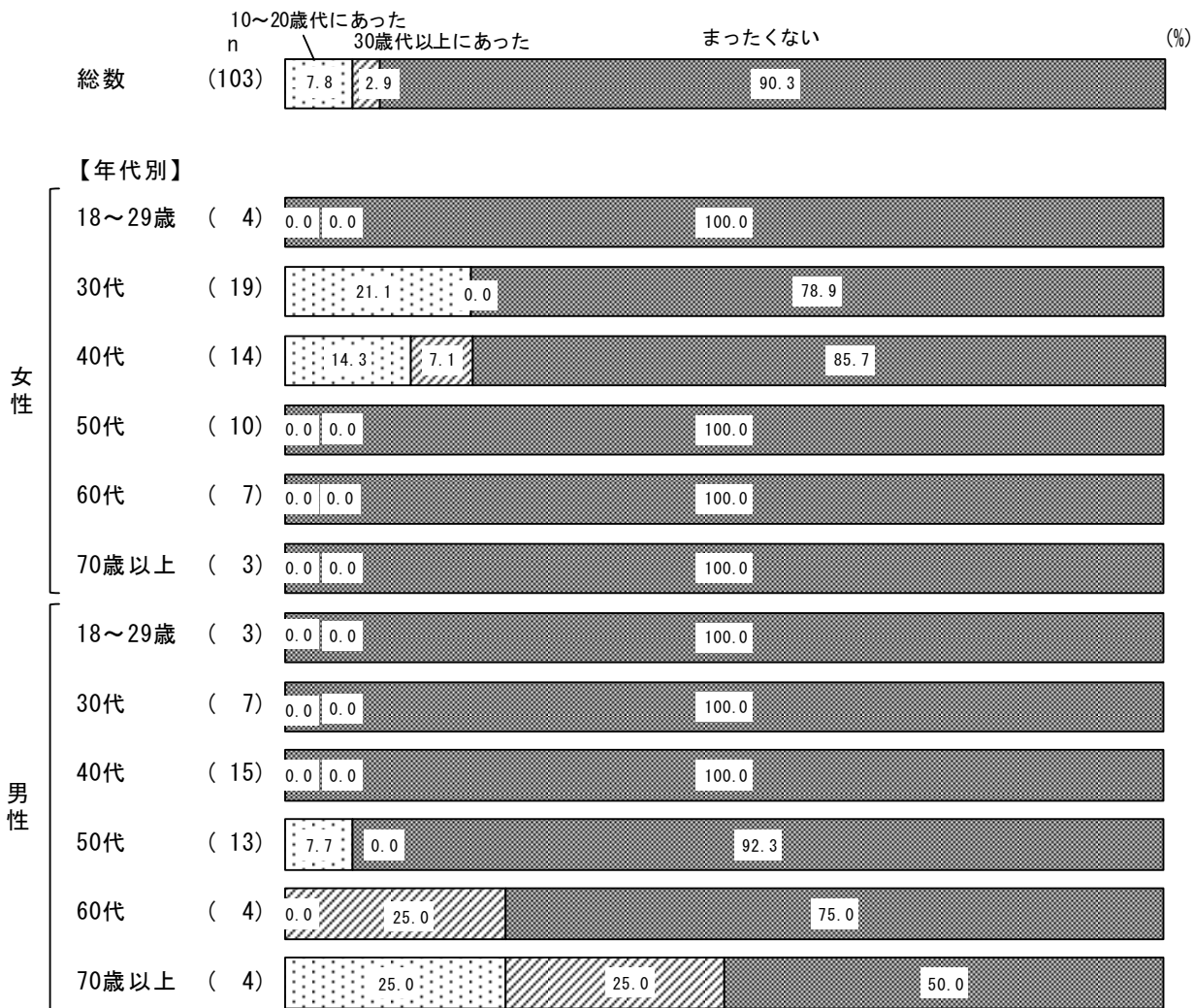


同居の際の交際相手からの被害経験の有無

(d) 性的強要（例えば、嫌がっているのに性的な行為を強要される、見たくないポルノ映像等を見せられる、避妊に協力しないなど）

【年代別】
 ※男女とも18～29歳、60代及び70歳以上についてはサンプル数が少ないため参考掲載とする。
 女性では、40代（『10～20歳代にあった』14.3%、「30歳代以上にあった」7.1%、合計21.4%）が最も多くなっている。
 男性では、唯一50代で『10～20歳代にあった』（7.7%）となっている。

図21-14 同居の際の交際相手からの被害経験の有無 (d) 性的強要 (年代別)



同居の際の交際相手からの被害経験の有無・まとめ 平成29年度内閣府調査との比較
 (内閣府が平成29年12月に実施した「男女間における暴力に関する調査」の調査結果と比較
 をする。)

【性別】

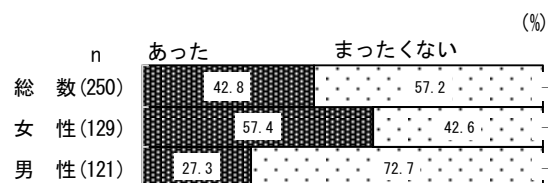
内閣府調査では、質問対象者が「交際相手がいた(いる)」人になっており、本県調査の
 対象者と異なるため、単純に比較することはできないが、女性では、『あった』が35.0ポイ
 ント、男性でも、『あった』が2.3ポイント、内閣府調査より少なくなっている。

図 21-15 同居の際の交際相手からの被害経験の有無
 平成 29 年度内閣府調査結果との比較 (性別)

【今回調査】



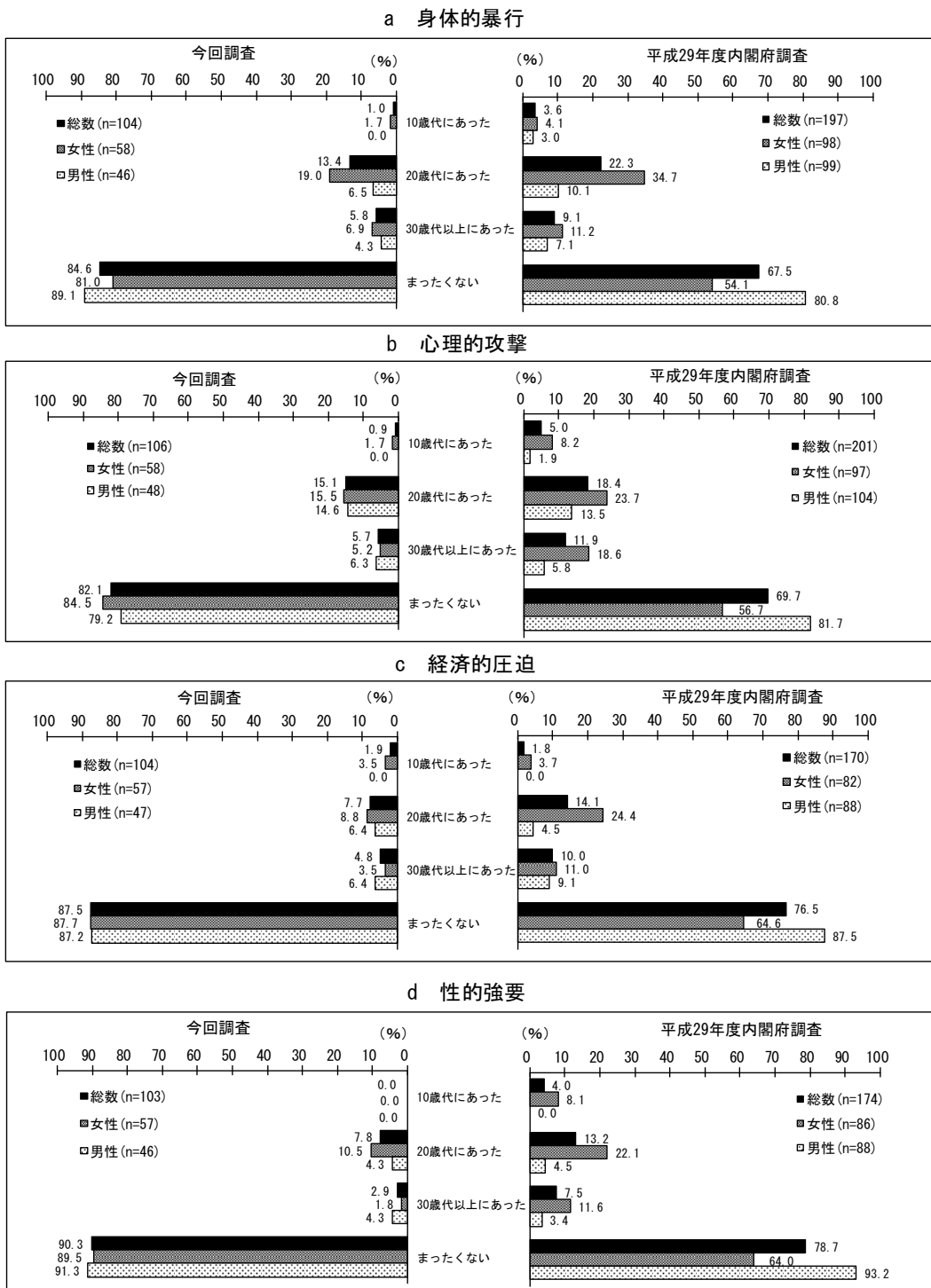
【平成 29 年度内閣府調査】



同居の際の交際相手からの被害経験の有無・まとめ<平成29年度内閣府調査との比較>

女性では、いずれかの年代で被害にあったと回答する割合は、全ての項目において、内閣府を下回っている。
 男性では、“(b) 心理的攻撃”の被害経験について、「20歳代にあった」、「30歳代以上にあった」で内閣府調査よりもそれぞれ1.1ポイント、0.5ポイント上回っており、“(c) 経済的圧迫”の被害経験について、「20歳代にあった」で1.9ポイント、“(d) 性的強要”は「30歳代以上にあった」で0.9ポイント上回っている。

図 21-16 同居の際の交際相手からのこれまでの被害経験の有無
 平成29年度内閣府調査結果との比較（性別）



同居の際の交際相手からの被害経験の有無 被害の内容

交際相手からの同居の際における被害経験の有無について、被害の内容を見ると、女性では「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫・性的強要」(6.9%)が最も多く、次いで「身体的暴行のみ」と「身体的暴行と心理的攻撃」「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫」(3.4%)となっている。

男性では「心理的攻撃のみ」(6.3%)が最も多く、次いで「身体的暴行・心理的攻撃・経済的圧迫」(4.2%)となっている。

図 21-17 同居の際の交際相手からの被害経験の有無（性別）

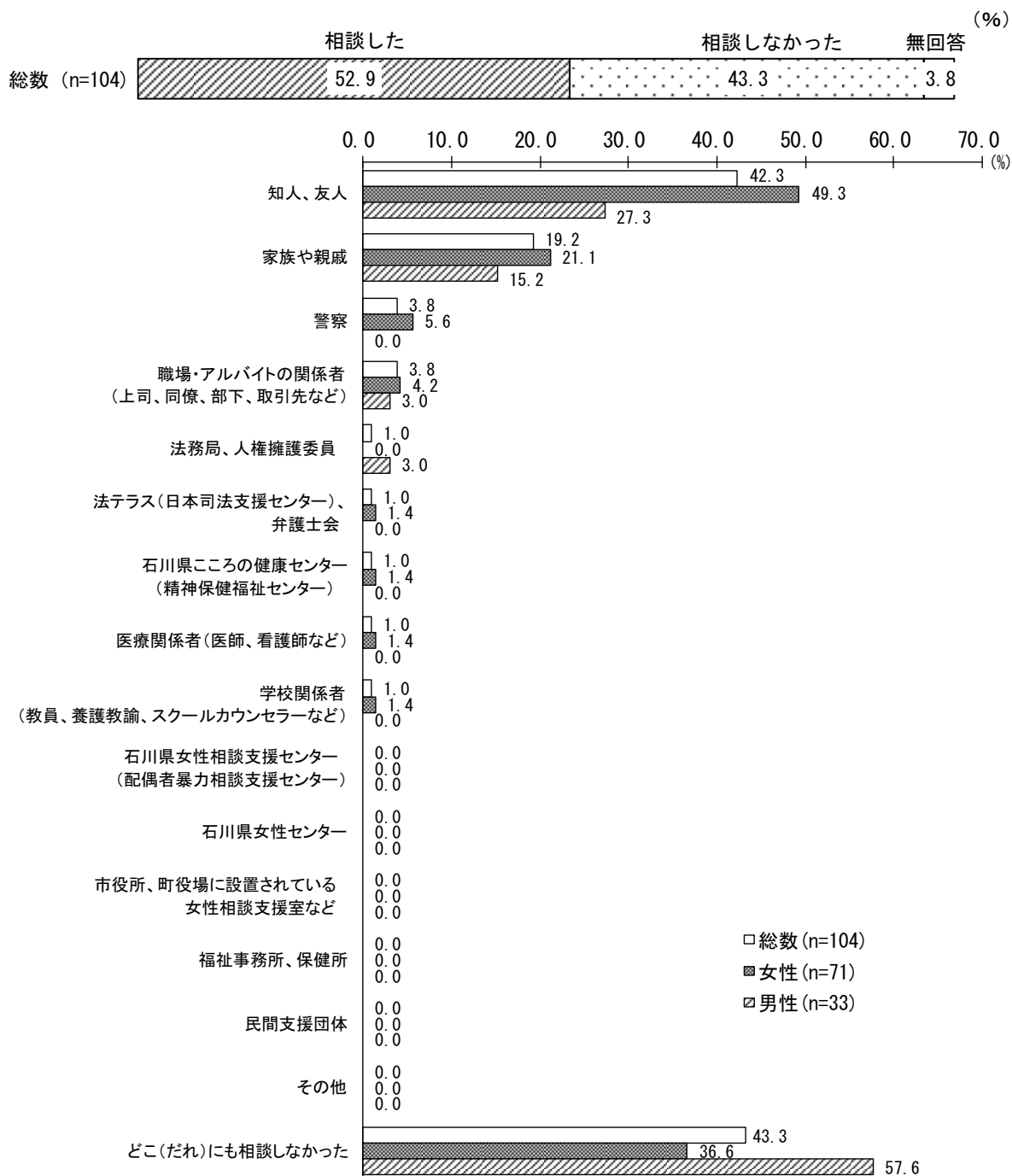
	総数 (n)	身体的 暴行のみ	心理的 攻撃のみ	経済的 圧迫のみ	性的 強要のみ	身体的 暴行と 心理的 攻撃	身体的 暴行と 経済的 圧迫	身体的 暴行と 性的 強要	心理的 攻撃と 経済的 圧迫	心理的 攻撃と 性的 強要	経済的 圧迫と 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 性的 強要	身体的 暴行・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	身体的 暴行・ 心理的 攻撃・ 経済的 圧迫・ 性的 強要	まったく ない
【性別】 (%)																	
総数	106	1.9	2.8	0.9	1.9	2.8	0.9	0.0	0.9	0.9	0.0	3.8	0.9	0.0	0.9	4.7	76.4
女性	58	3.4	0.0	1.7	1.7	3.4	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	3.4	1.7	0.0	0.0	6.9	77.6
男性	48	0.0	6.3	0.0	2.1	2.1	2.1	0.0	2.1	2.1	0.0	4.2	0.0	0.0	2.1	2.1	75.0

8 交際相手からの暴力についての相談経験の有無

(問21で1つでも『10～20歳代にあった』、「30歳代以上にあった」と答えた人にお聞きします。)
 問21-1 あなたは交際相手から受けたそのような行為について、どこ(だれ)かに打ち明けた
 り、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつ
 でも)

「どこ(だれ)に相談しなかった」人は43.3%(女性36.6%、男性57.6%)で男性が上
 回っている。
 相談先では、男女とも「知人、友人」(女性49.3%、男性27.3%)が最も多く、次いで
 「家族や親戚」(女性21.1%、男性15.2%)と続く。
 他の項目は1割を下回っている。

図21-1-1 交際相手からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧(性別)

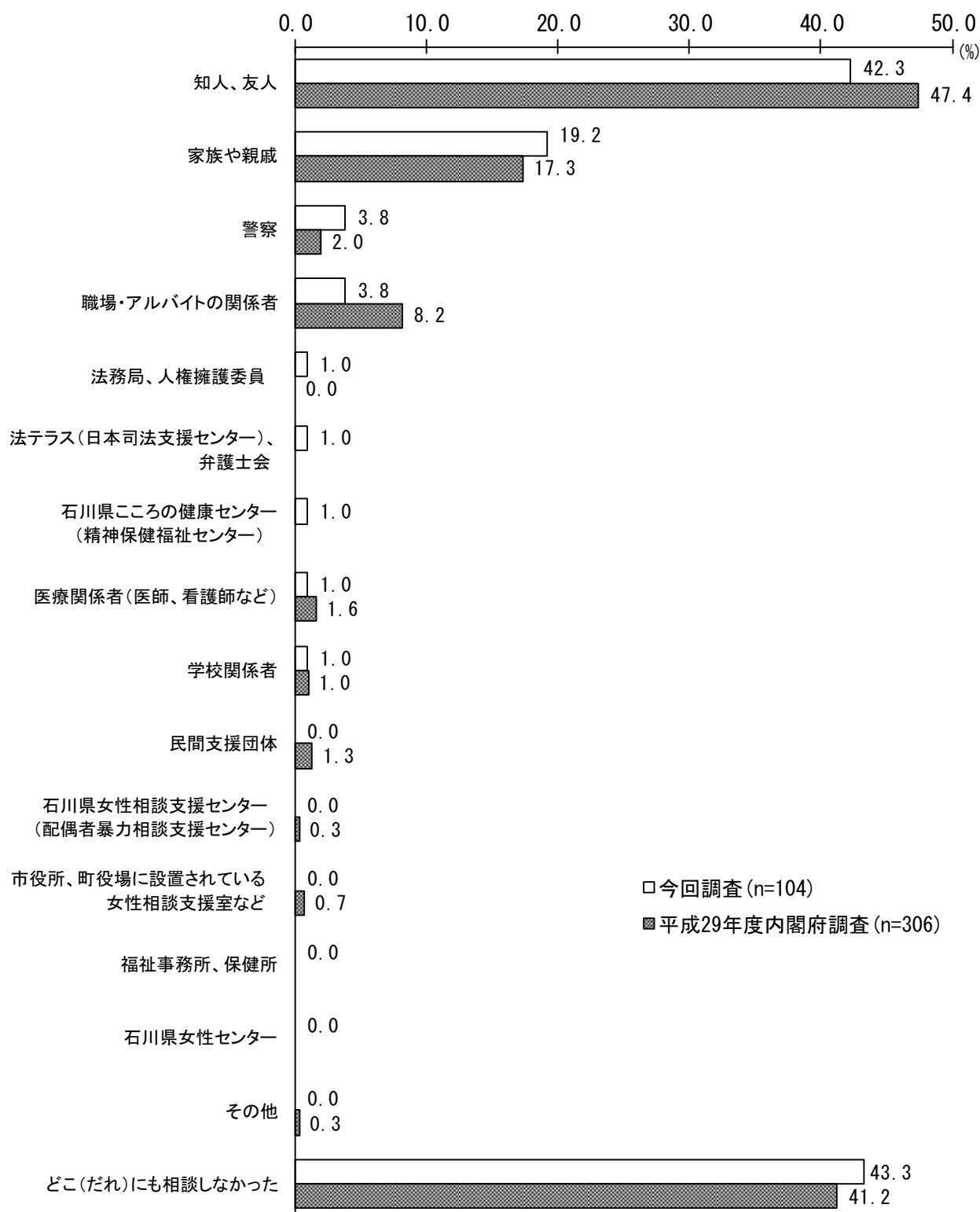


交際相手からの暴力についての相談経験の有無

【平成29年度内閣府調査との比較】

「どこ（だれ）にも相談しなかった」人は、2.1ポイント今回調査が上回っている。「知人、友人」では5.1ポイント内閣府調査を下回っている。

図21-1-2 交際相手からの暴力についての相談経験の有無 項目別一覧
(平成29年度内閣府調査との比較)



9 交際相手からの暴力について相談しなかった理由

(問21-1で「どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた人にお聞きします。)

問21-2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

交際相手から被害を受けながら「相談しなかった」と答えた人に、その理由をたずねたところ、女性で最も多かったのは「相談するほどのことではないと思ったから」(38.5%)であった。男性で最も多かったのは「自分にも悪いところがあると思ったから」(42.1%)であった。

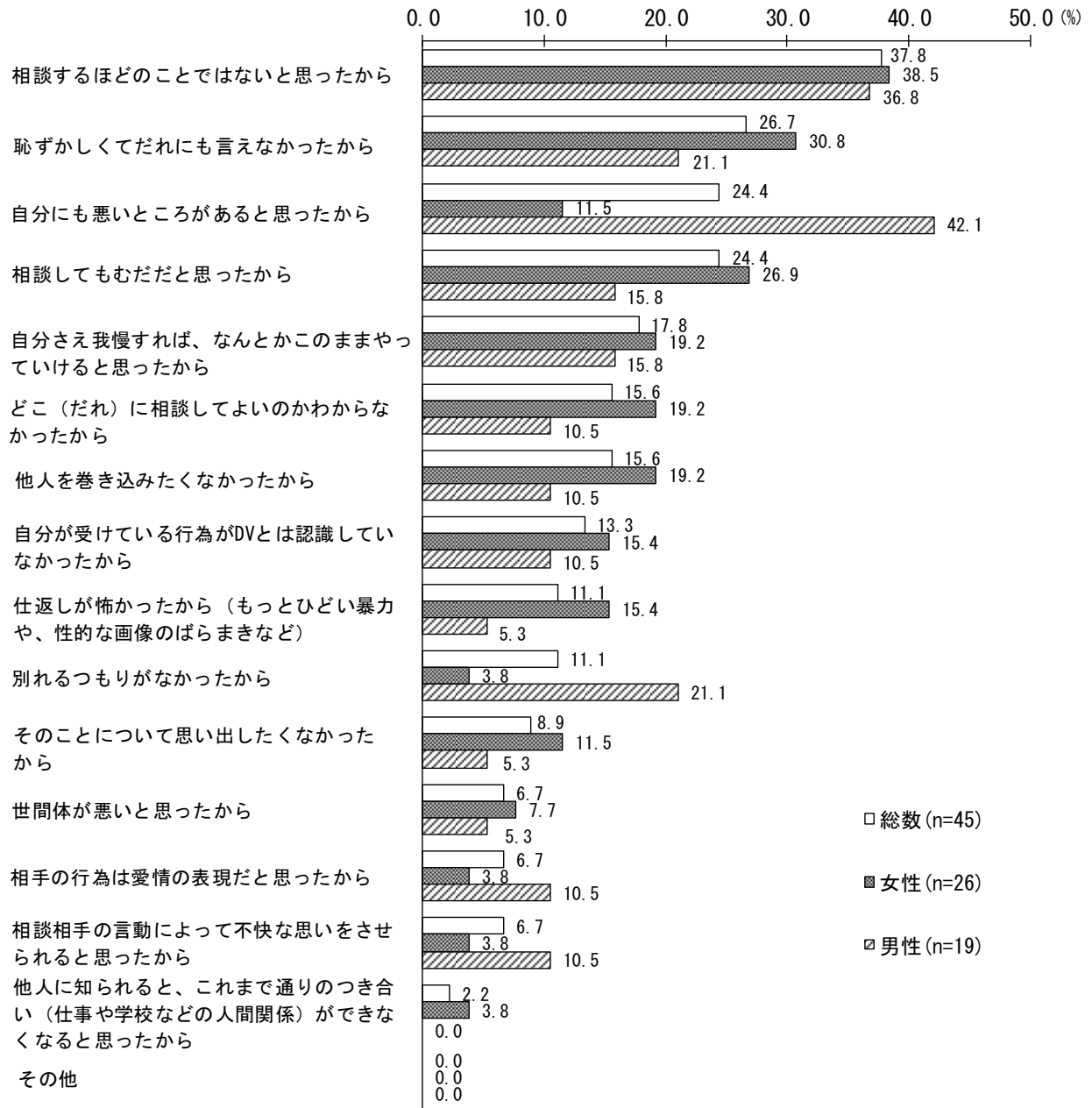
女性では、次いで「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」(30.8%)、「相談してもむだだと思ったから」(26.9%)が続く。

男性では、次いで「相談するほどのことではないと思ったから」(36.8%)、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」「別れるつもりがなかったから」がともに21.1%で並んだ。

女性の方が男性より多くなったのは、「恥ずかしくてだれにも言えなかったから」、「相談してもむだだと思ったから」、「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」、「どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから」、「他人を巻き込みたくなかったから」、「自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから」などがある。

男性の方が女性より多くなったのは、「別れるつもりがなかったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」などであった。

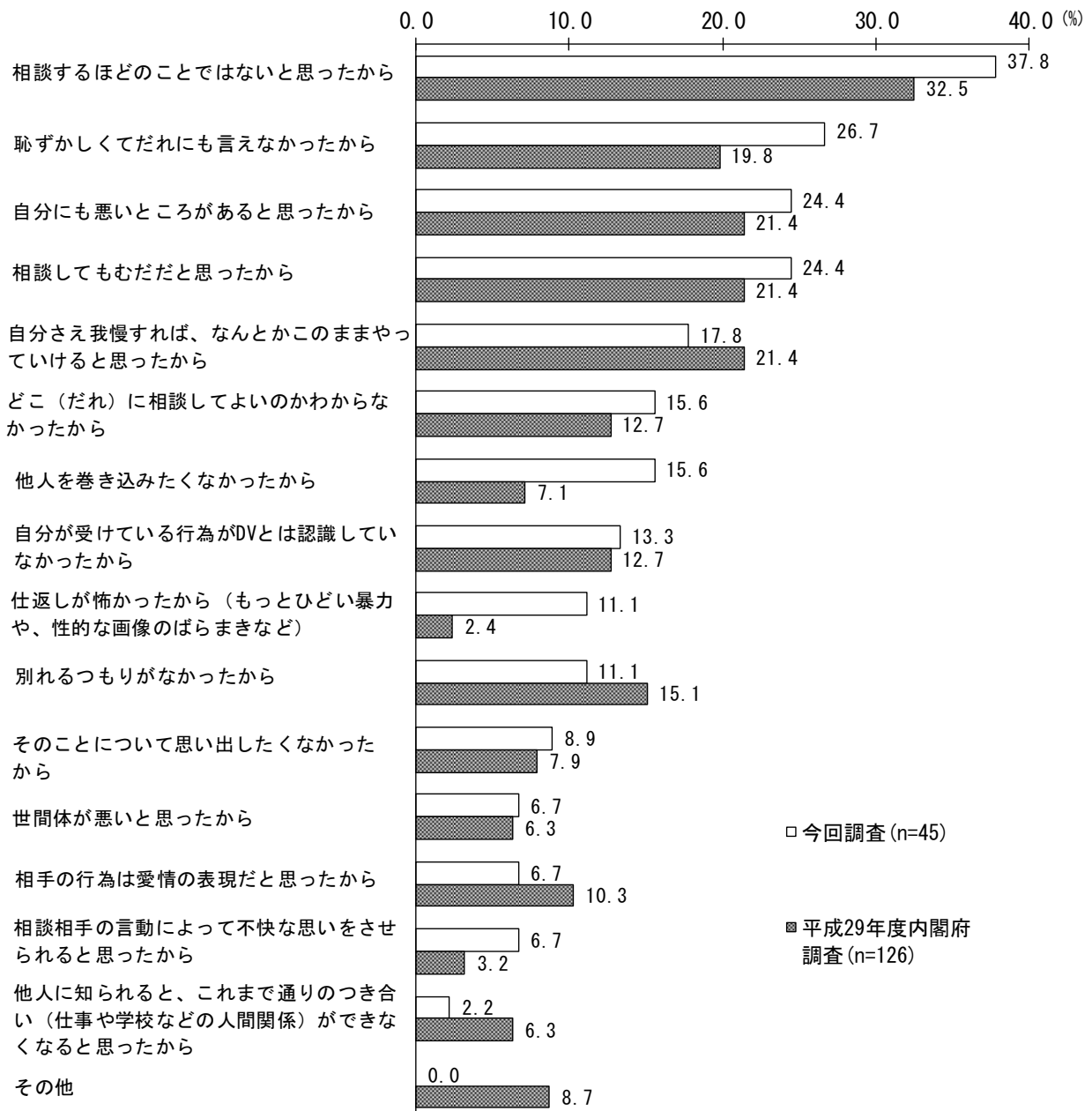
図 21-2-1 交際相手からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧（性別）



【平成29年度内閣府調査との比較】

「自分さえ我慢すれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「別れるつもりがなかったから」「相手の行為は愛情の表現だと思ったから」「他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから」の項目で内閣府調査を下回っている。他の項目では内閣府調査を上回っている。

図 21-2-2 交際相手からの暴力について相談しなかった理由 項目別一覧
(平成 29 年度内閣府調査との比較)



10 性暴力被害に関するイメージ

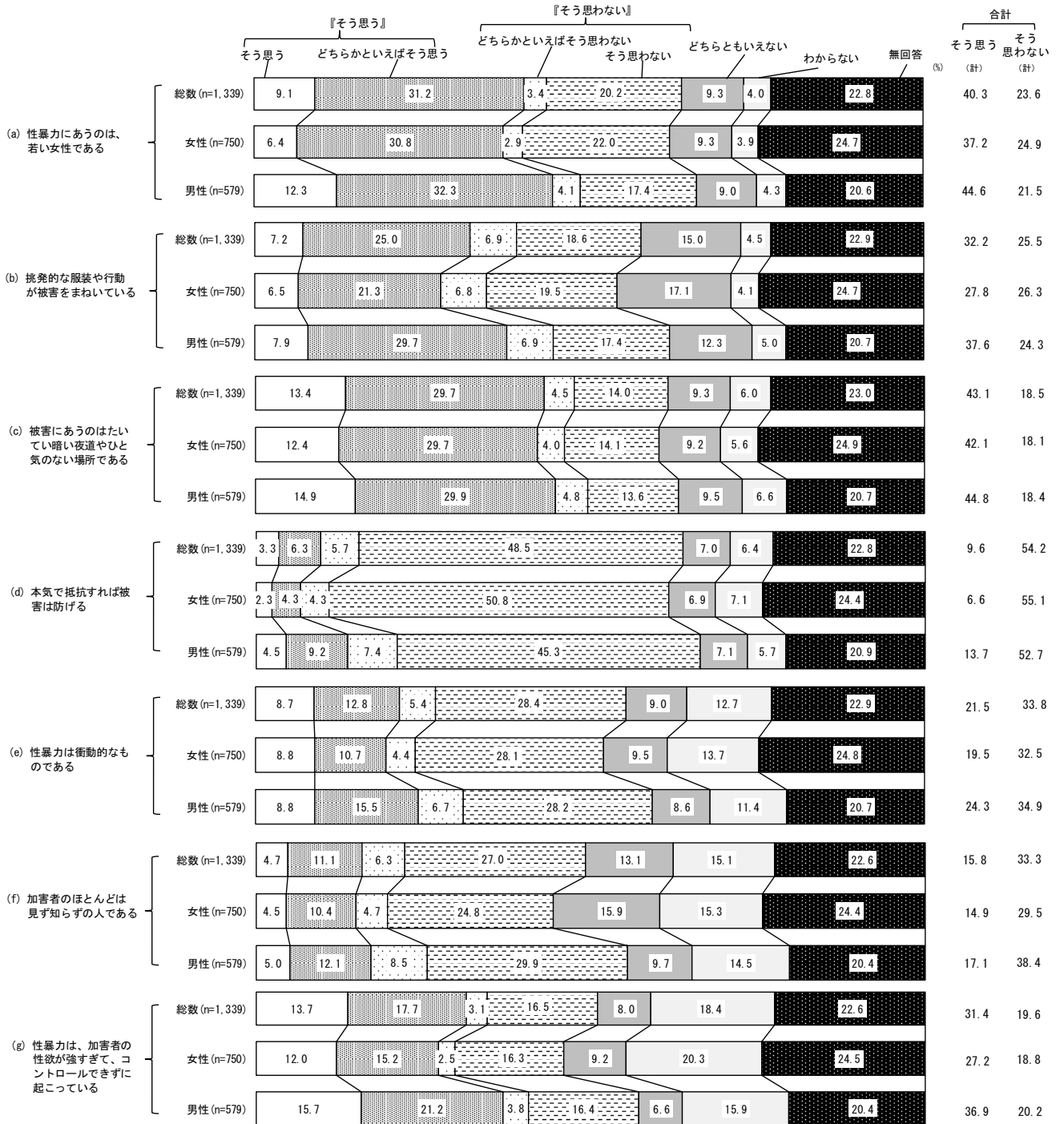
問 22 次の (a)～(g) について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ) [今年度新規調査項目]

男女とも「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が最も多かったのは「(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気のない場所である」(女性42.1%、男性44.8%)であった。次いで、「(a) 性暴力にあうのは、若い女性である」(女性37.2%、男性44.6%)、「(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねている」(女性27.8%、男性37.6%)となっている。

男女とも「どちらかといえばそう思わない」「そう思わない」の合計が最も多かったのは「(d) 本気で抵抗すれば被害は防げる」(女性55.1%、男性52.7%)であった。

男女の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の差が大きいものとしては「(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねている」(9.8ポイント差)と「(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている」(9.7ポイント差)であり、ともに男性が上回っている。

図 22-1 性暴力被害に関するイメージ 項目別一覧 (性別)



※『そう思う (計)』は調査票選択肢の「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」を合計したもの。『そう思わない (計)』は調査票選択肢の「そう思わない」と「どちらかといえばそう思わない」を合計したもの。

性暴力被害に関するイメージ

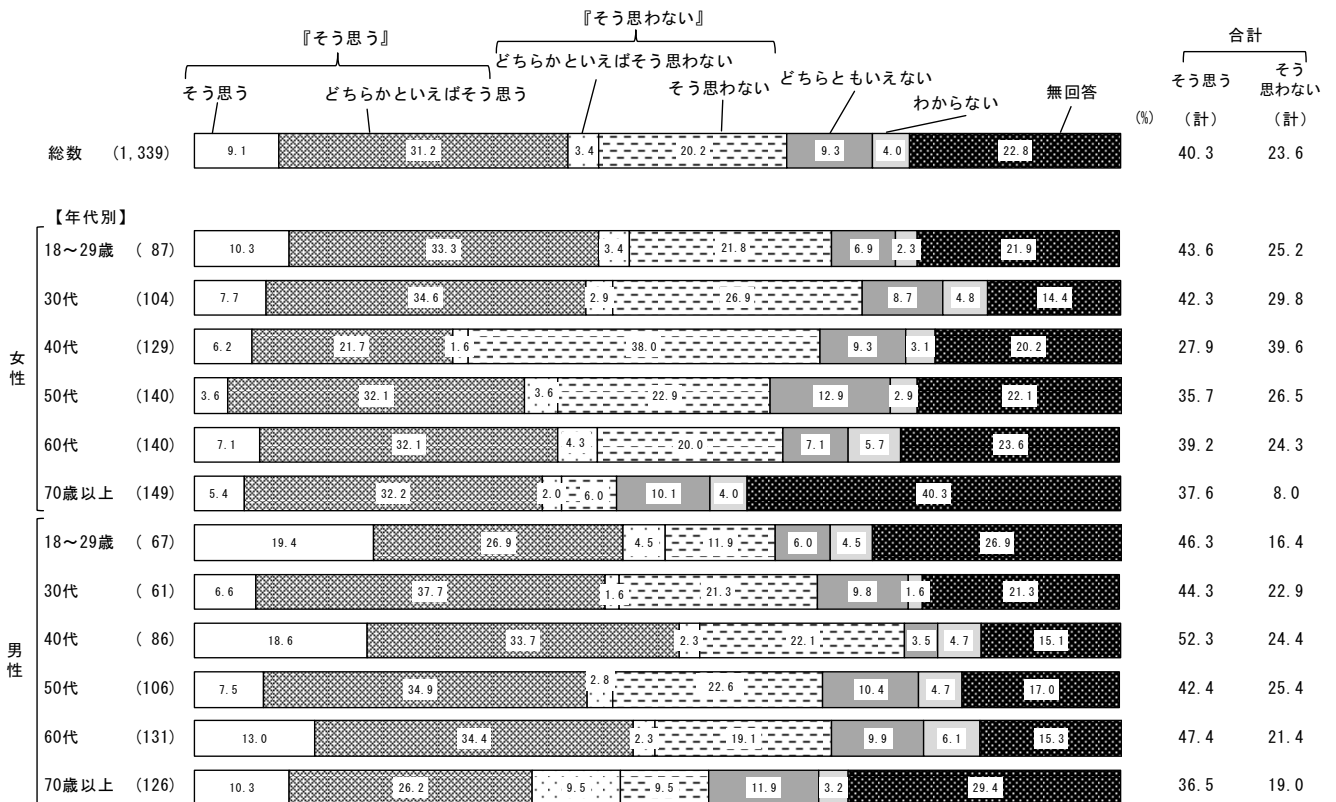
(a) 性暴力にあうのは、若い女性である

【年代別】

女性では『そう思わない（計）』が40代（39.6%）で最も多く、『そう思う（計）』は18～29歳（43.6%）で最も多かった。

男性では『そう思う（計）』が40代（52.3%）で最も多かった。

図 22-2 性暴力被害に関するイメージ (a) 性暴力にあうのは、若い女性である（年代別）



性暴力被害に関するイメージ

(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねている

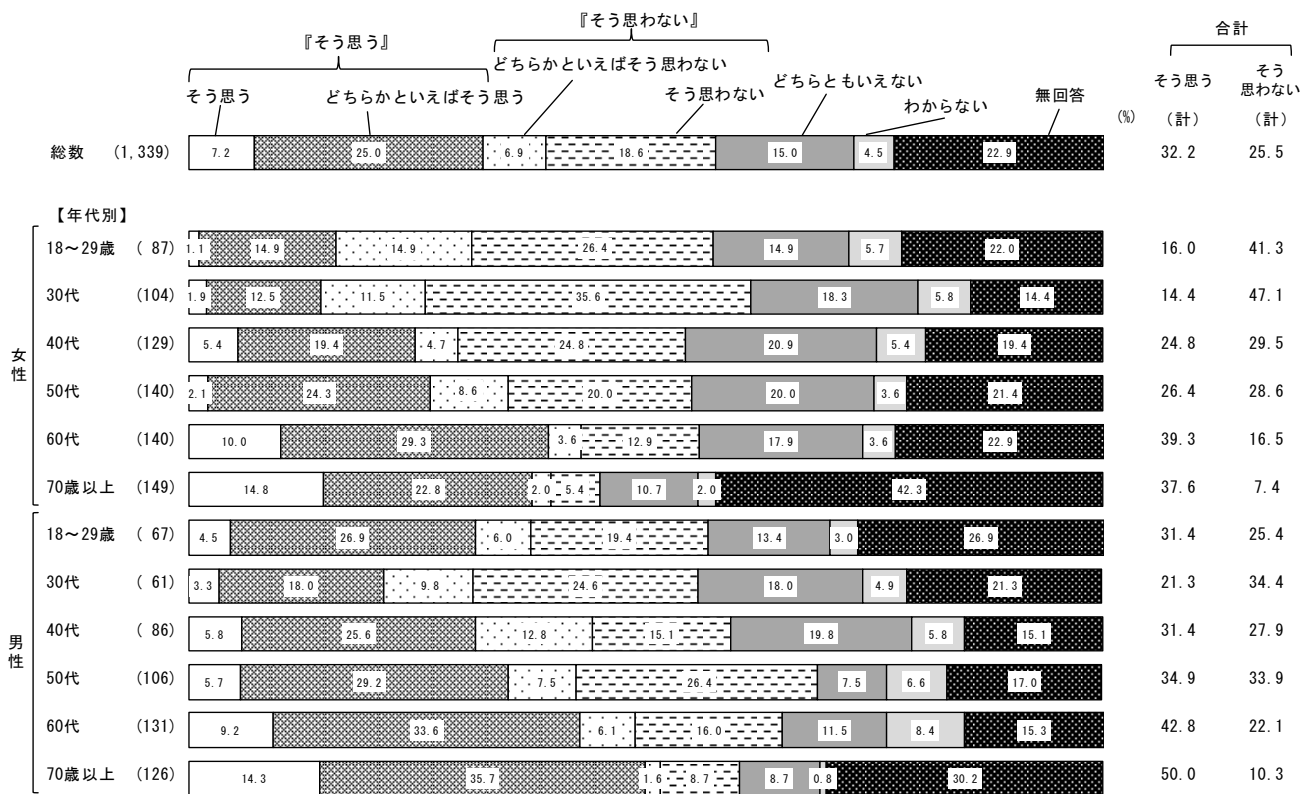
【年代別】

女性では『そう思わない（計）』は30代（47.1%）で最も多く、『そう思う（計）』は60代（39.3%）で最も多かった。

男性では『そう思う（計）』が70歳以上（50.0%）で最も多かった。

図 22-3 性暴力被害に関するイメージ

(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねている（年代別）



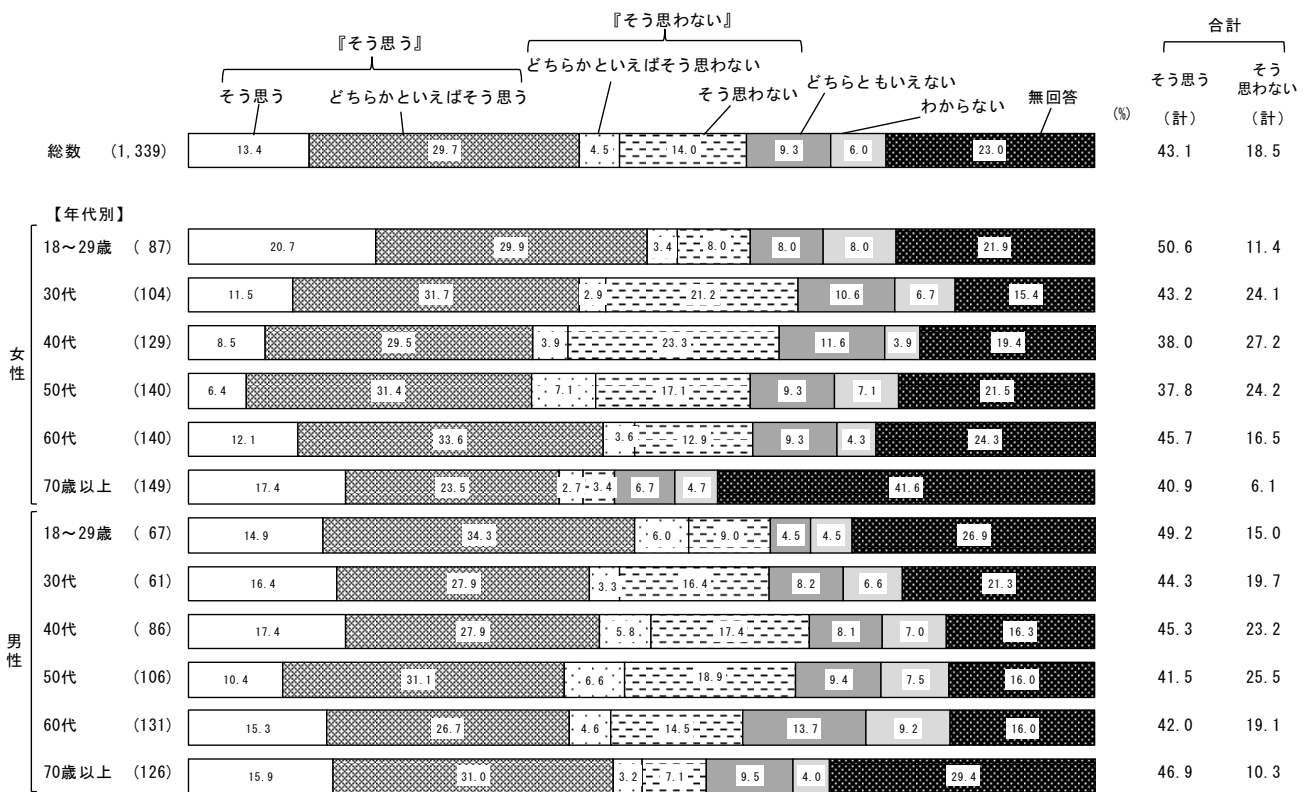
性暴力被害に関するイメージ

(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である

【年代別】
 男女ともに『そう思う（計）』が18～29歳（女性50.6%、男性49.2%）で最も多かった。
 女性では『そう思わない（計）』が最も多いのは40代（27.2%）であり、男性では50代（25.5%）が最も多かった。

図 22-4 性暴力被害に関するイメージ

(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気の少ない場所である（年代別）

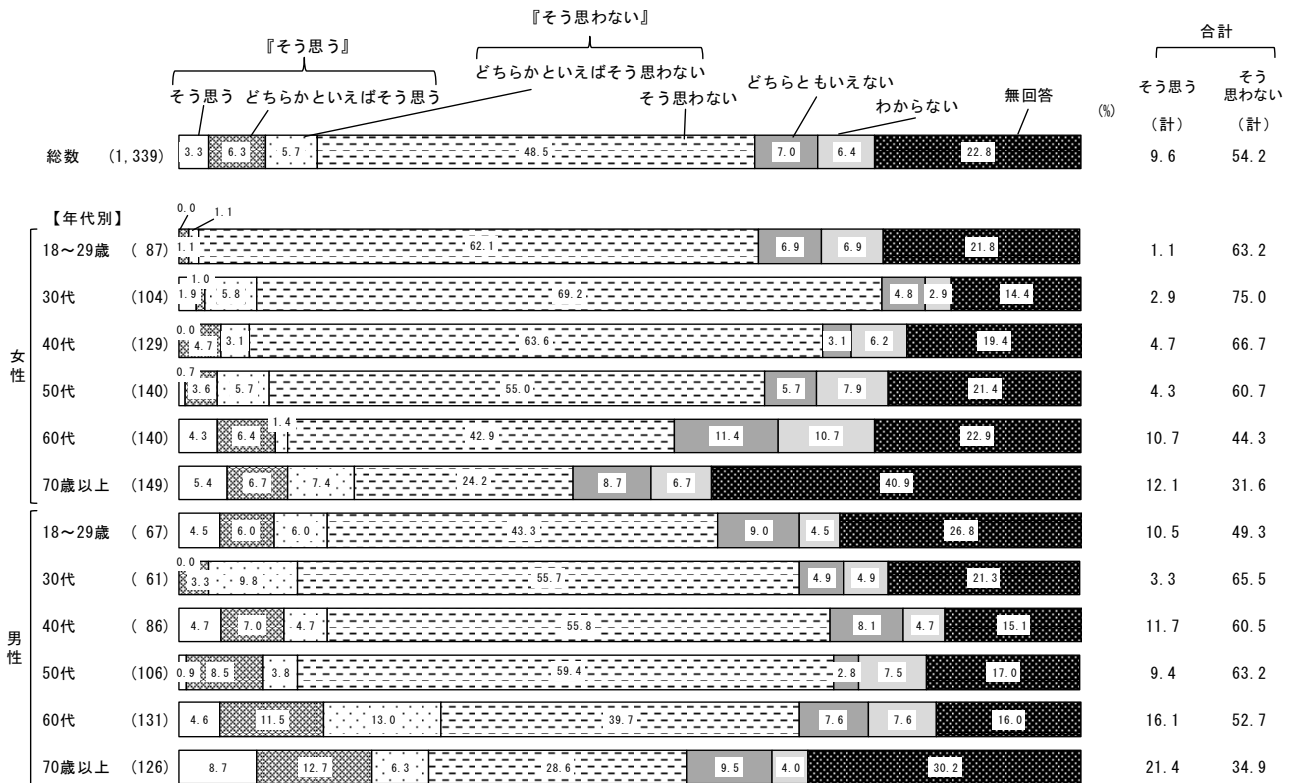


性暴力被害に関するイメージ

(d) 本気で抵抗すれば被害は防げる

【年代別】
 女性では70歳以上（12.1%）と60代（10.7%）で『そう思う（計）』が1割を超えている。
 男性では70歳以上（21.4%）、60代（16.1%）、40代（11.7%）、18～29歳（10.5%）で、『そう思う（計）』が1割を超えている。

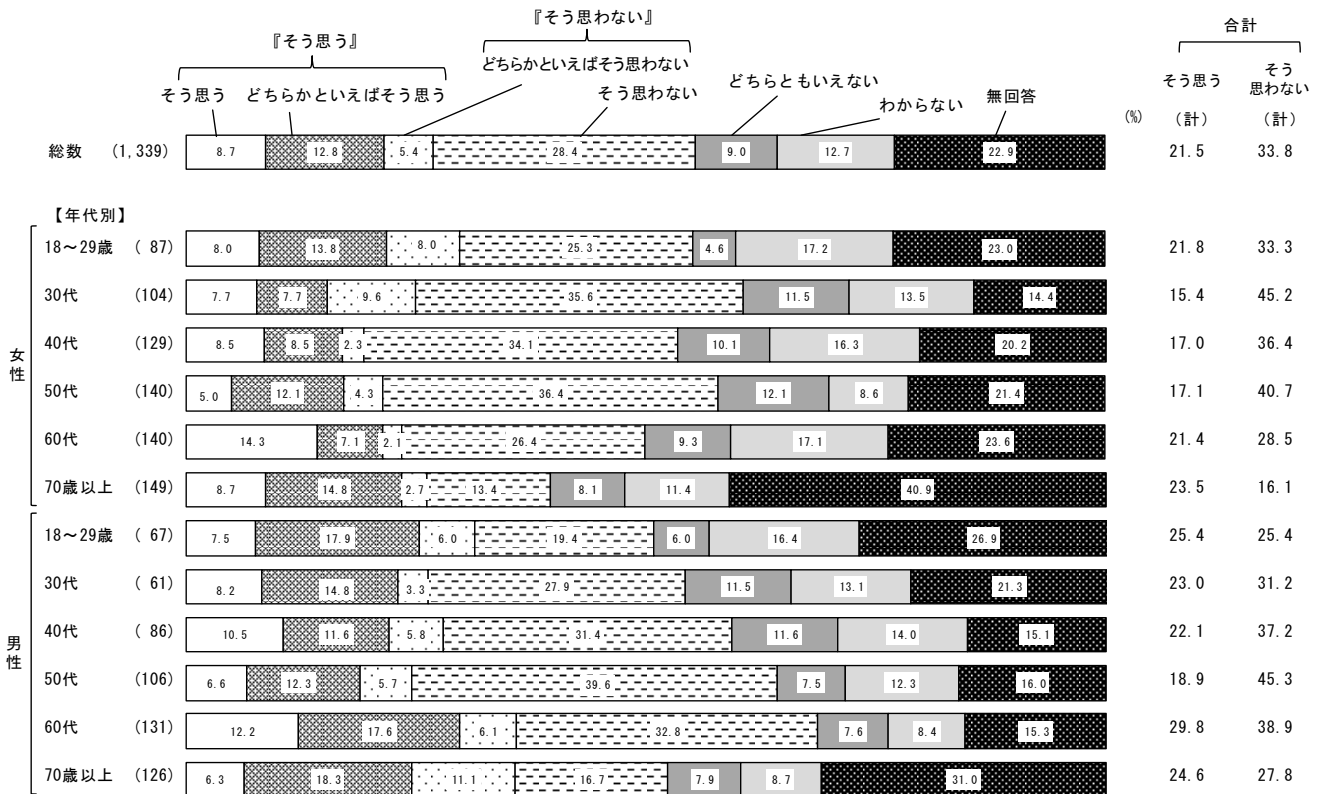
図 22-5 性暴力被害に関するイメージ (d) 本気で抵抗すれば被害は防げる (年代別)



性暴力被害に関するイメージ
 (e) 性暴力は衝動的なものである

【年代別】
 女性では『そう思わない（計）』が30代（45.2%）で最も多かった。
 男性では『そう思わない（計）』が50代（45.3%）で最も多かった。

図 22-6 性暴力被害に関するイメージ (e) 性暴力は衝動的なものである（年代別）



性暴力被害に関するイメージ

(f) 加害者のほとんどは見ず知らずの人である

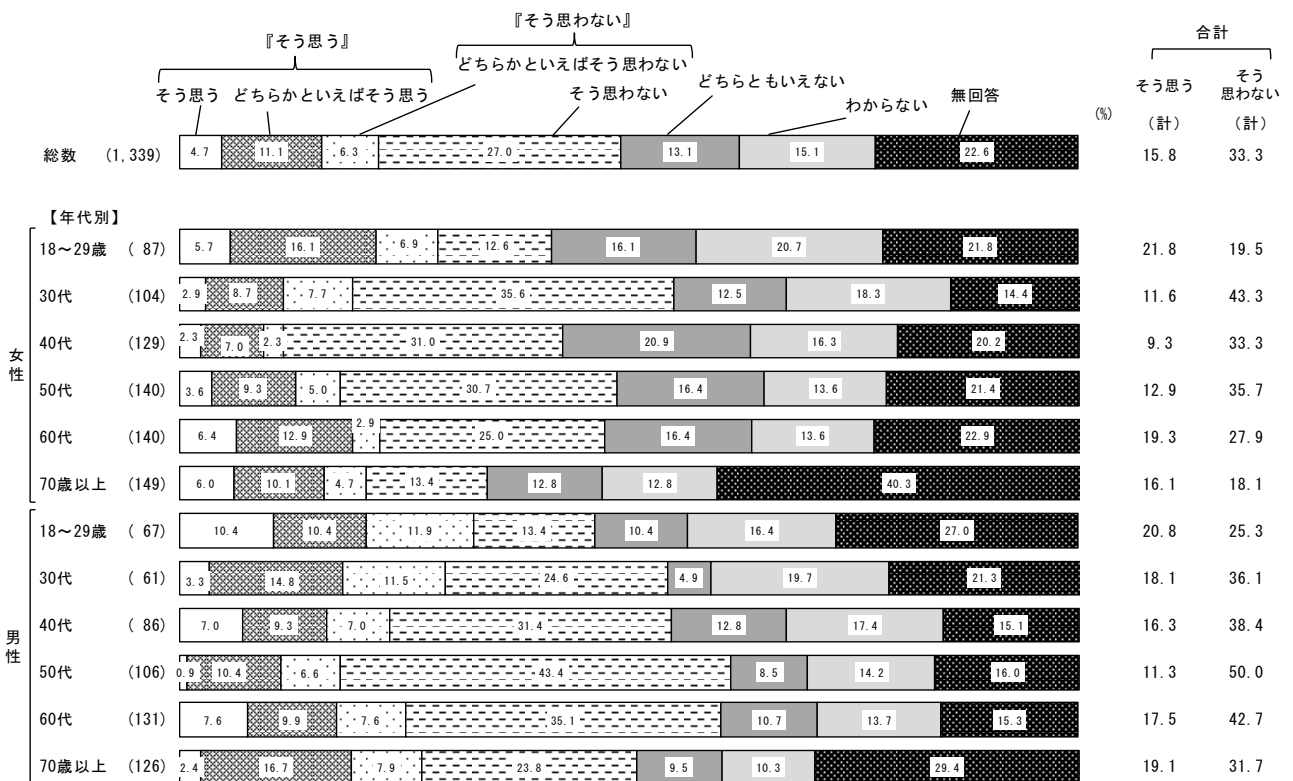
【年代別】

女性では『そう思う (計)』が18～29歳 (21.8%)、『そう思わない (計)』は30代 (43.3%)で最も多かった。

男性では、『そう思う (計)』が18～29歳 (20.8%)、『そう思わない (計)』が50代 (50.0%)で最も多かった。

図 22-7 性暴力被害に関するイメージ

(f) 加害者のほとんどは見ず知らずの人である (年代別)



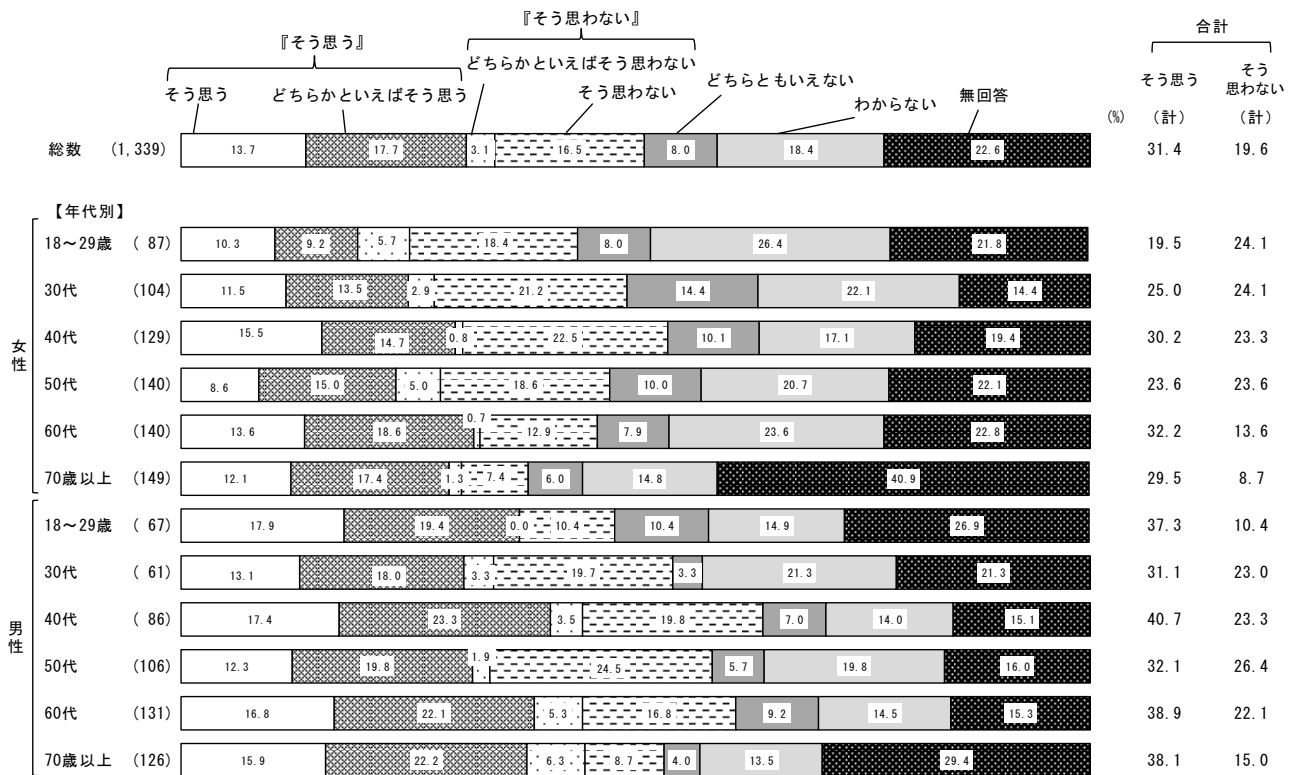
性暴力被害に関するイメージ

(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている

【年代別】
 女性では『そう思う（計）』が60代（32.2%）で最も多かった。
 男性では『そう思う（計）』が40代（40.7%）で最も多かった。

図 22-8 性暴力被害に関するイメージ

(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている（年代別）

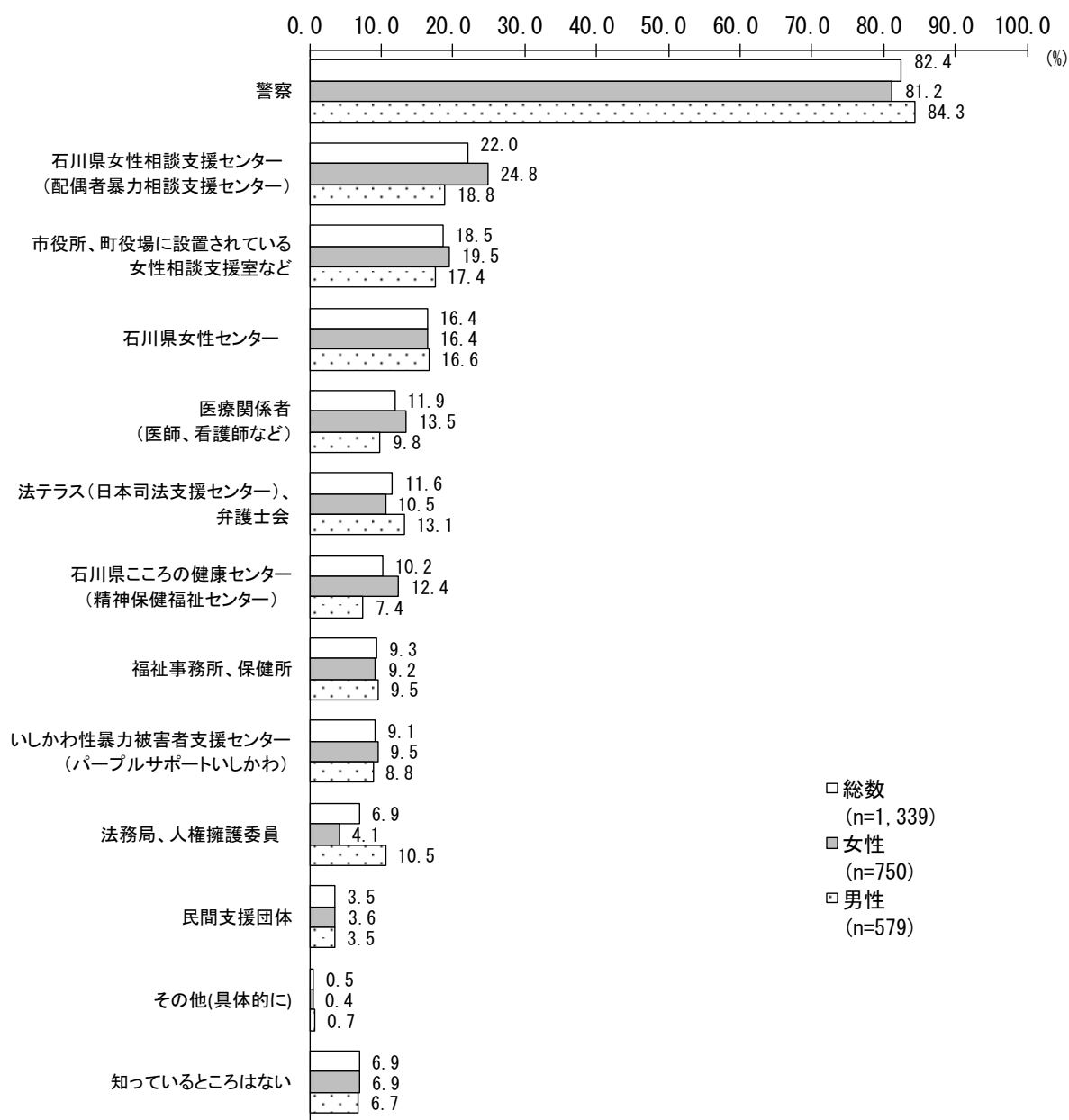


1 1 相談機関・関係者の周知状況

問23 DVや性暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者であなたが既に知っていたものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

男女とも最も多かったのは「警察」(女性81.2%、男性84.3%)であった。
 次に、男女ともに「石川県女性相談支援センター(配偶者暴力相談支援センター)」(女性24.8%、男性18.8%)、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」(女性19.5%、男性17.4%)、「石川県女性センター」(女性16.4%、男性16.6%)の順となっている。

図 23-1 相談機関・関係者の周知状況 (性別)



【年代別】

男女ともすべての年代で「警察」が最も多い。

次いで、女性では、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」が60代（32.9%）で多くなっている。

男性では、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」が30代（21.3%）と40代（22.1%）で多くなっている。

【地域別】

男女ともにすべての地域で「警察」が最も多い。

女性では、能登北部（24.4%）と石川中央（26.8%）で「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」が多い。

男性では、能登中部（21.8%）と南加賀（21.8%）で「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」が多く、石川中央（21.3%）で「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」が多い。

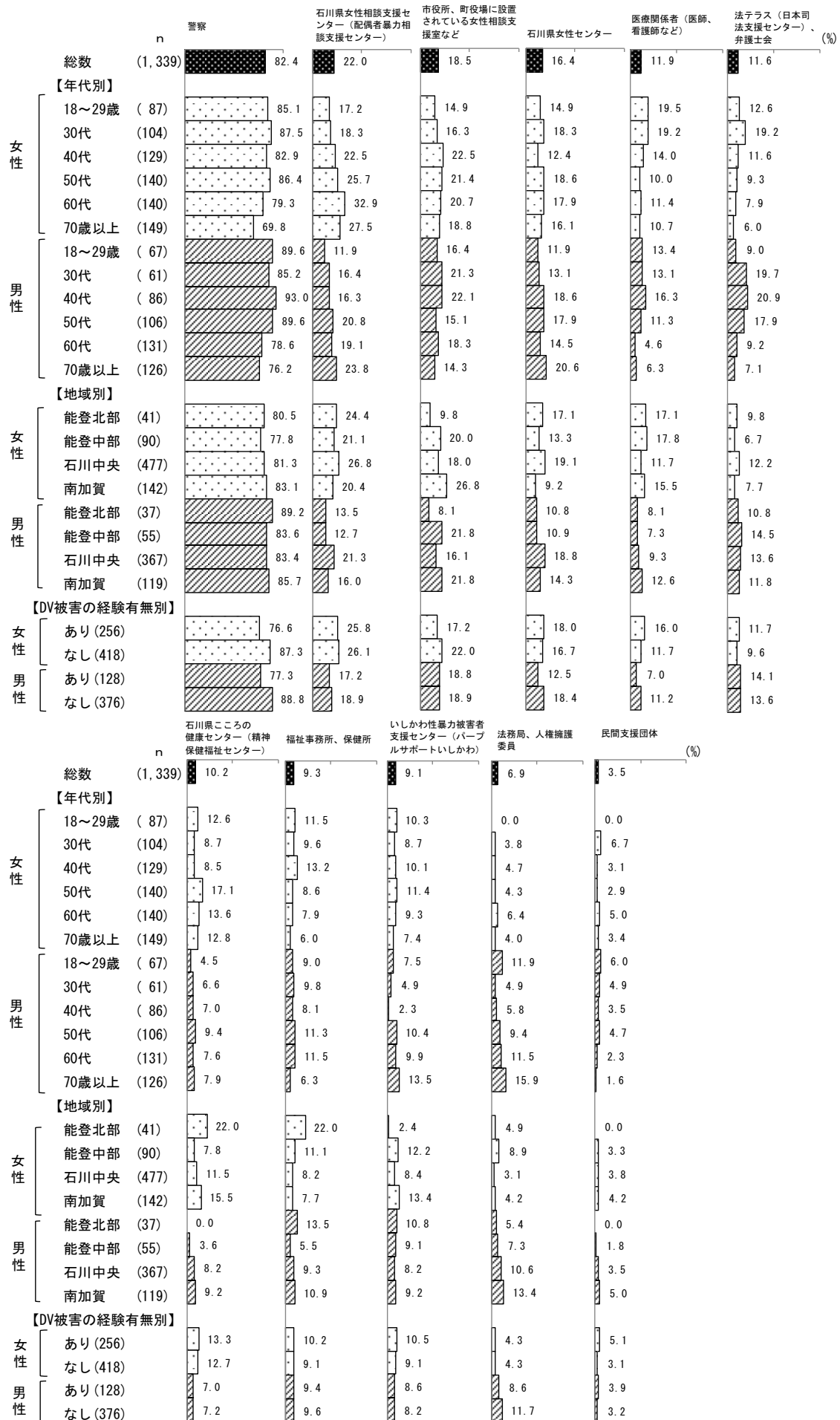
【DV被害の経験有無別】

男女ともにすべての層で「警察」が最も多い。

また、「警察」、「石川県女性相談支援センター（配偶者暴力相談支援センター）」、「市役所、町役場に設置されている女性相談支援室など」については男女ともに被害経験のない層の方が多くなっている。

※【DV被害の経験有無別】は、問20または21で『被害を受けたことがある』と回答した人別の集計である。

図 23-2 相談機関・関係者の周知状況 (年代別、地域別、DV被害の経験有無別)



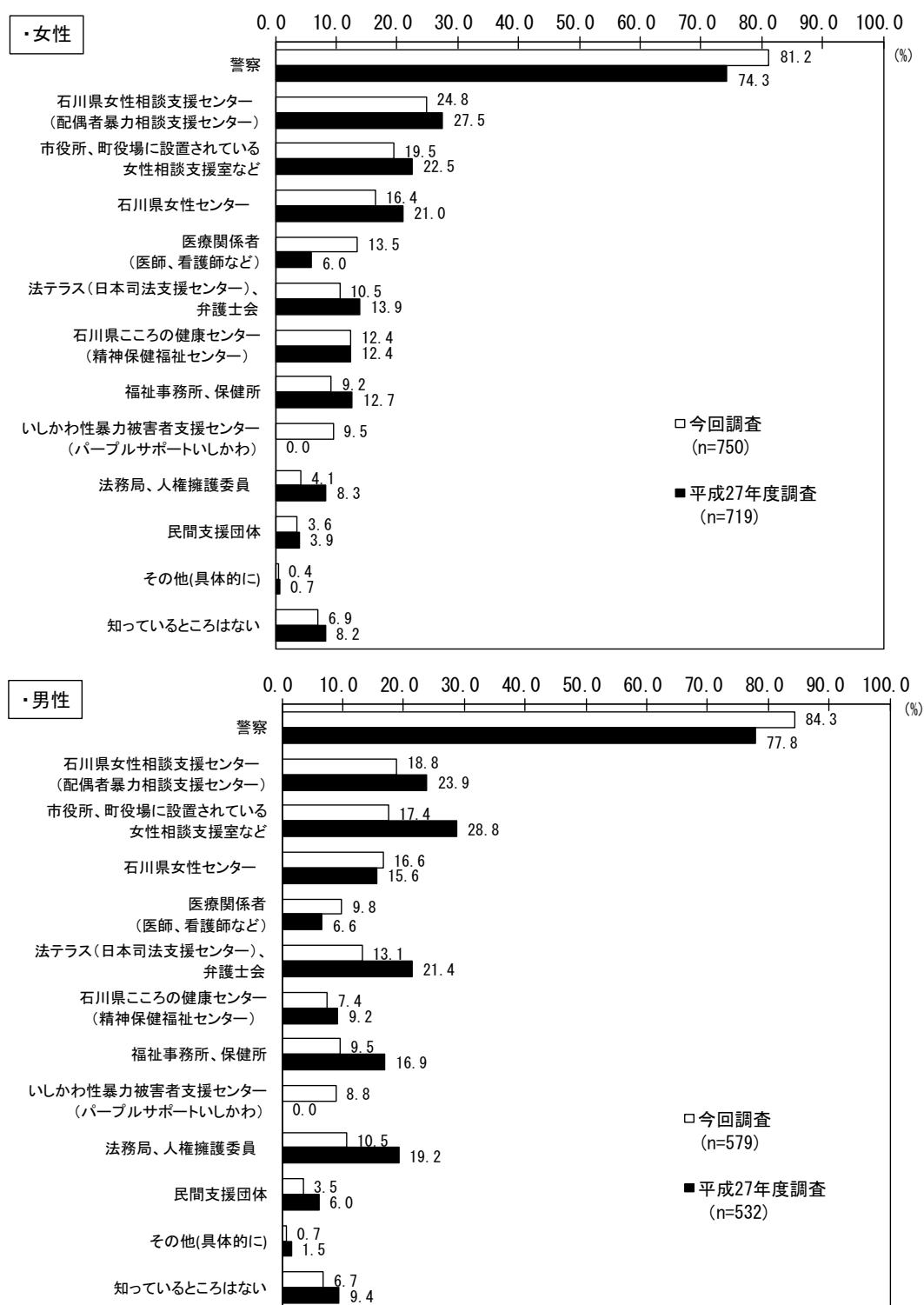
【平成27年度調査との比較】

女性では「警察」、「医療関係者」の項目が前回調査より増加している。

男性では「警察」、「石川県女性センター」、「医療関係者」の項目が前回調査より増加している。

(平成27年度調査では設問を「配偶者や交際相手など、親密な関係にある者から暴力を受けたとき」としており、また、選択肢に新たに「いしかわ性暴力被害者支援センター(パープルサポートいしかわ)」を追加するなど一部異なるものがあることから、厳密な比較はできない。)

図 23-3 相談機関・関係者の周知状況 (平成 27 年度調査との比較)



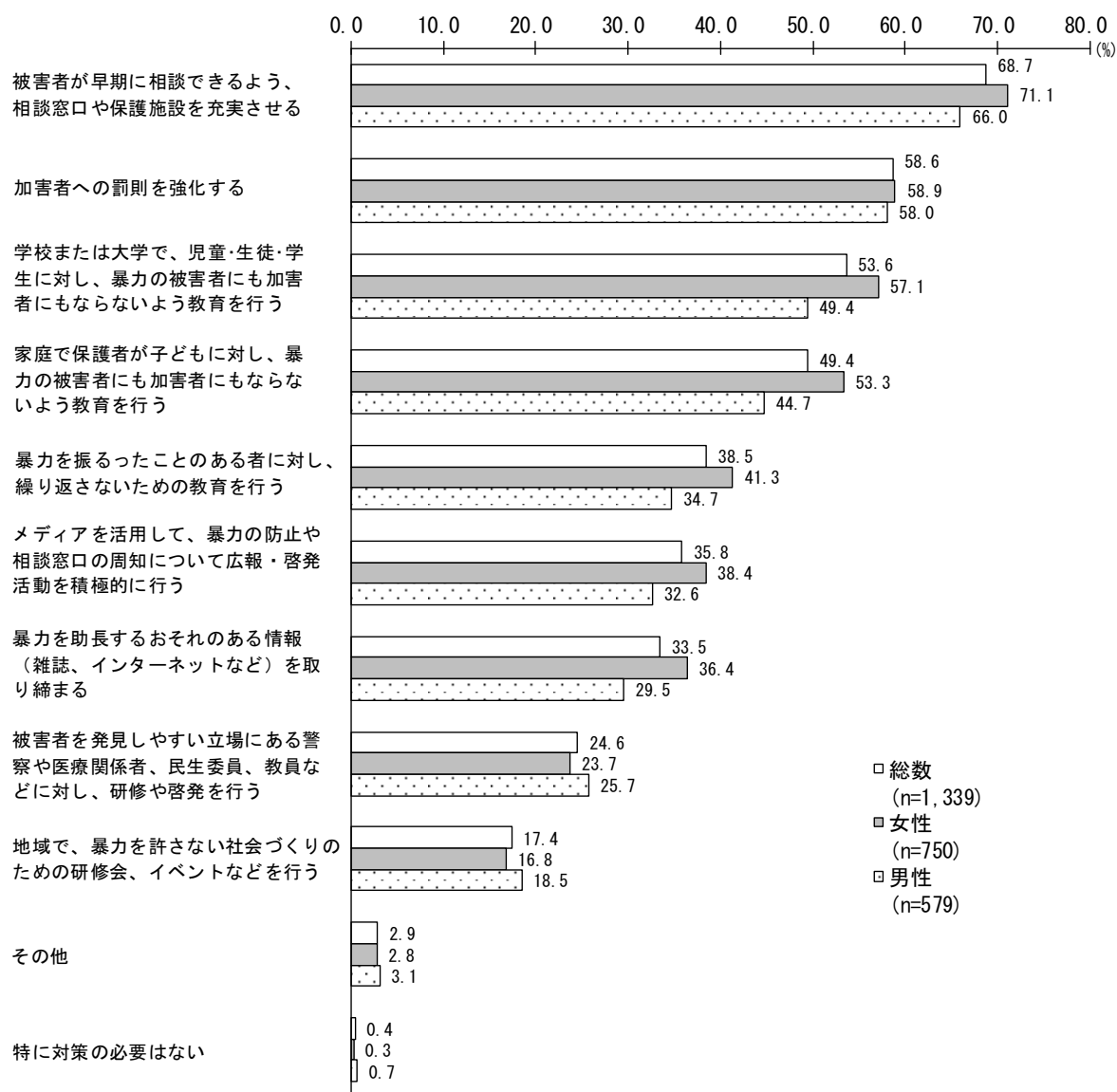
12 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと

問24 DVや性暴力等の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

全体では、「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」(女性71.1%、男性66.0%、全体68.7%)が最も多く、次いで「加害者への罰則を強化する」(女性58.9%、男性58.0%、全体58.6%)、「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(女性57.1%、男性49.4%、全体53.6%)の順となった。

男女の差が大きいものとしては、「家庭で保護者が子どもに対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(8.6ポイント差)と「学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う」(7.7ポイント差)で女性のポイントが多くなっている。

図24-1 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと(性別)



DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと

【年代別】

女性では「加害者への罰則を強化する」が30代（76.0%）、40代（69.0%）で最も多くなっている。他の年代では「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最も多くなっている。

男性ではいずれの年代でも「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最も多くなっている。

【DV被害の経験有無別】

男女とも、いずれの層でも「被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる」が最も多くなっている。

※【DV被害の経験有無別】は、問20または21で『被害を受けたことがある』と回答した人別の集計である。

図 24-2 DV や性暴力等の暴力をなくすために必要なこと（年代別、DV 被害の有無別）

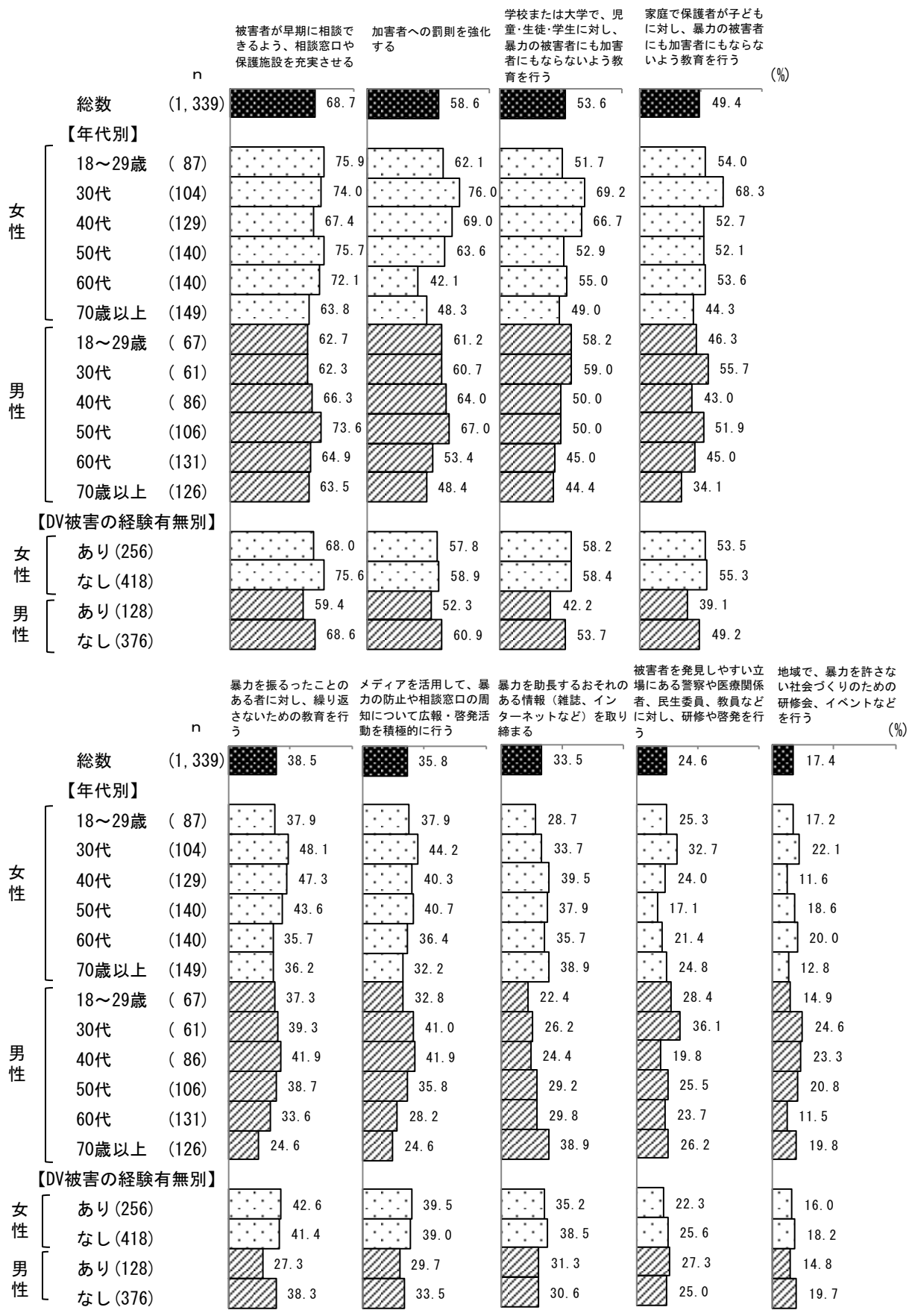


図24-3 DVや性暴力等の暴力をなくすために必要なこと（性・地域別）

(単位：%)

		サンプル数	被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる	加害者への罰則を強化する	学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う	家庭で保護者が子どもに対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う	暴力を振るったことのある者に対し、繰り返さないための教育を行う	メディアを活用して、暴力の防止や相談窓口の周知について広報・啓発活動を積極的に行う	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者、民生委員、教員などに対し、研修や啓発を行う	地域で、暴力を許さない社会づくりのための研修会、イベントなどを行う	その他(具体的に)	特に対策の必要はない	
全体		1,339	68.7	58.6	53.6	49.4	38.5	35.8	33.5	24.6	17.4	2.9	0.4	
性×地域別	女性	能登北部	41	75.6	53.7	48.8	46.3	31.7	29.3	43.9	14.6	14.6	2.4	2.4
		能登中部	90	71.1	56.7	52.2	52.2	33.3	36.7	37.8	16.7	14.4	2.2	0.0
		石川中央	477	72.3	60.2	56.8	54.5	41.5	38.2	35.2	26.4	17.6	3.4	0.2
		南加賀	142	65.5	57.7	63.4	52.1	48.6	43.0	37.3	21.8	16.2	1.4	0.0
	男性	能登北部	37	70.3	51.4	43.2	43.2	27.0	29.7	29.7	27.0	18.9	2.7	0.0
		能登中部	55	67.3	56.4	49.1	47.3	32.7	30.9	34.5	27.3	16.4	1.8	0.0
		石川中央	367	64.9	59.1	49.9	46.6	35.1	34.3	30.2	27.0	18.5	2.7	1.1
		南加賀	119	67.2	57.1	49.6	38.7	37.0	29.4	25.2	20.2	19.3	5.0	0.0

※グレーのセルは属性中トップの項目

VI 男女共同参画社会の実現に向けて

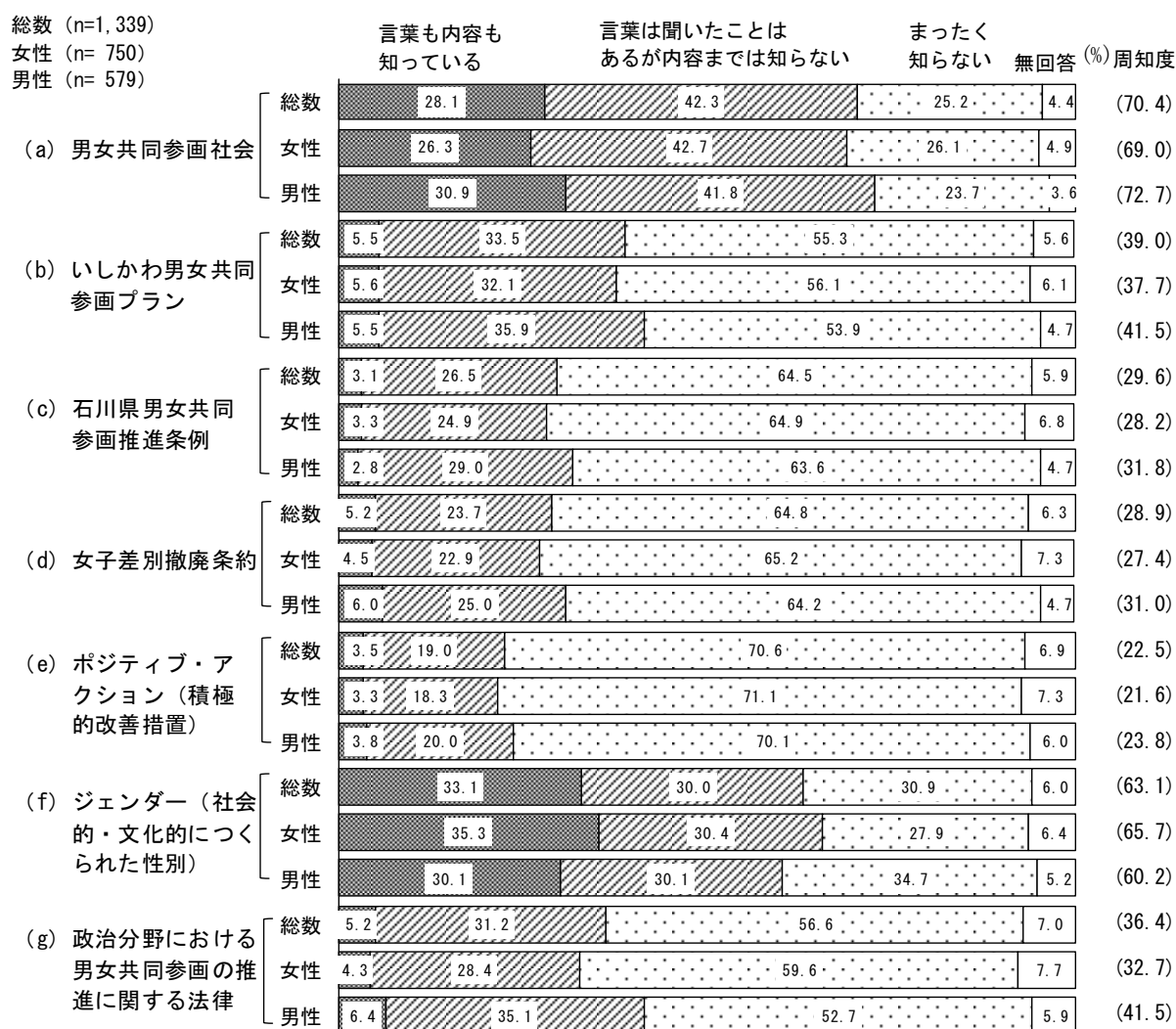
1 用語の周知度

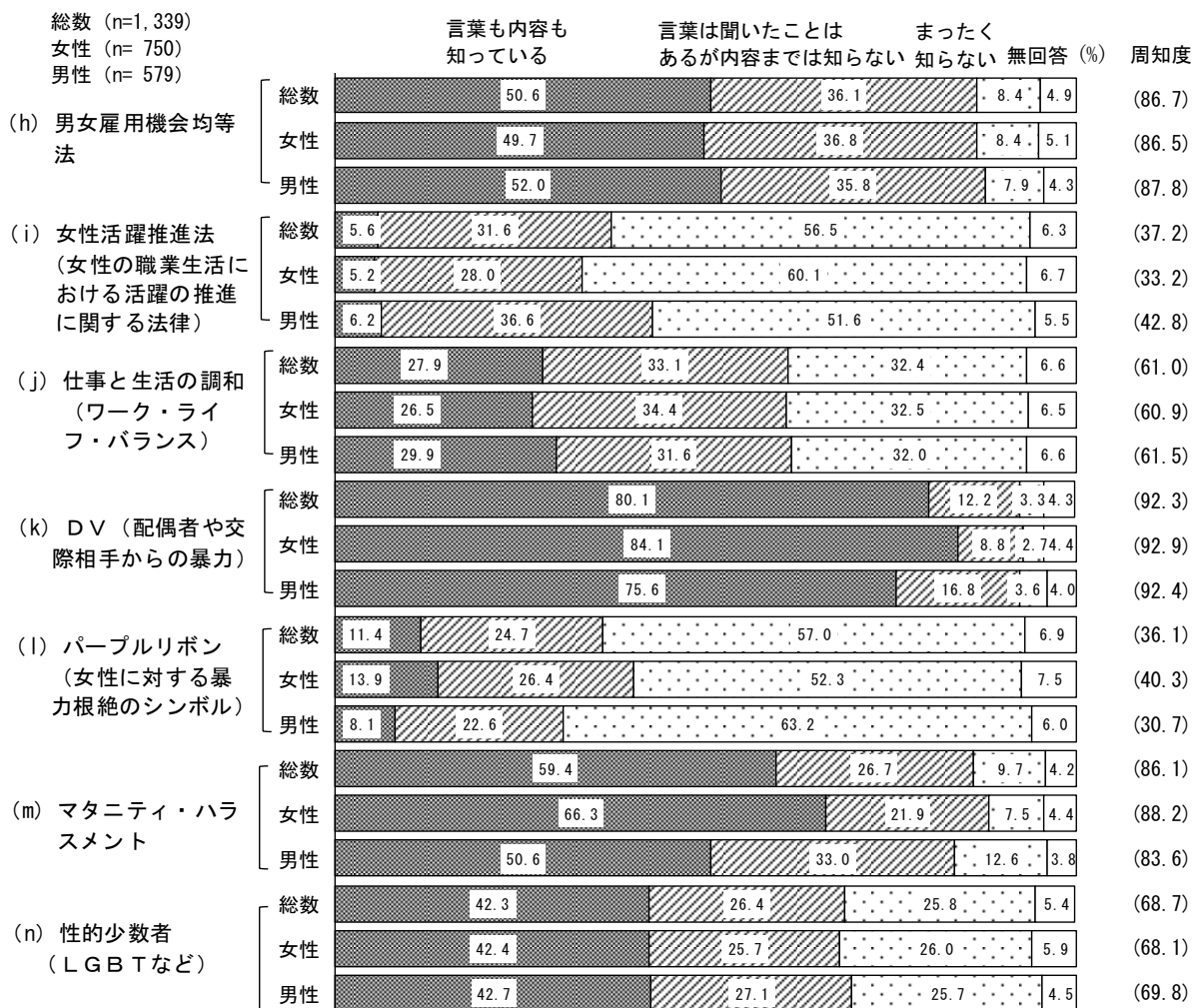
問25 あなたは(a)～(n)それぞれの言葉についてどの程度ご存知ですか。該当する番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

全体では、“(k)DV(配偶者や交際相手からの暴力)”が最も周知度が高く(女性92.9%、男性92.4%、全体92.3%)、次いで“(h)男女雇用機会均等法”(女性86.5%、男性87.8%、全体86.7%)、“(m)マタニティ・ハラスメント”(女性88.2%、男性83.6%、全体86.1%)となっており、8割を超えている。続いて、“(a)男女共同参画社会”(女性69.0%、男性72.7%、全体70.4%)、“(n)性的少数者(LGBTなど)”(女性68.1%、男性69.8%、全体68.7%)、“(f)ジェンダー(社会的・文化的につくられた性別)”(女性65.7%、男性60.2%、全体63.1%)、“(j)仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)”(女性60.9%、男性61.5%、全体61.0%)で6割を超えている。

※周知度:「言葉も内容も知っている」と「言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない」の合計

図25-1 用語の周知度 項目別一覧(性別)





用語の周知度 (a) 男女共同参画社会

【年代別】

男女とも18～29歳（女性88.5%、男性86.6%）で周知度が最も高く、40代（女性58.9%）、30代（男性55.7%）で最も低くなっている。

図25-2 用語の周知度 (a) 男女共同参画社会（年代別）

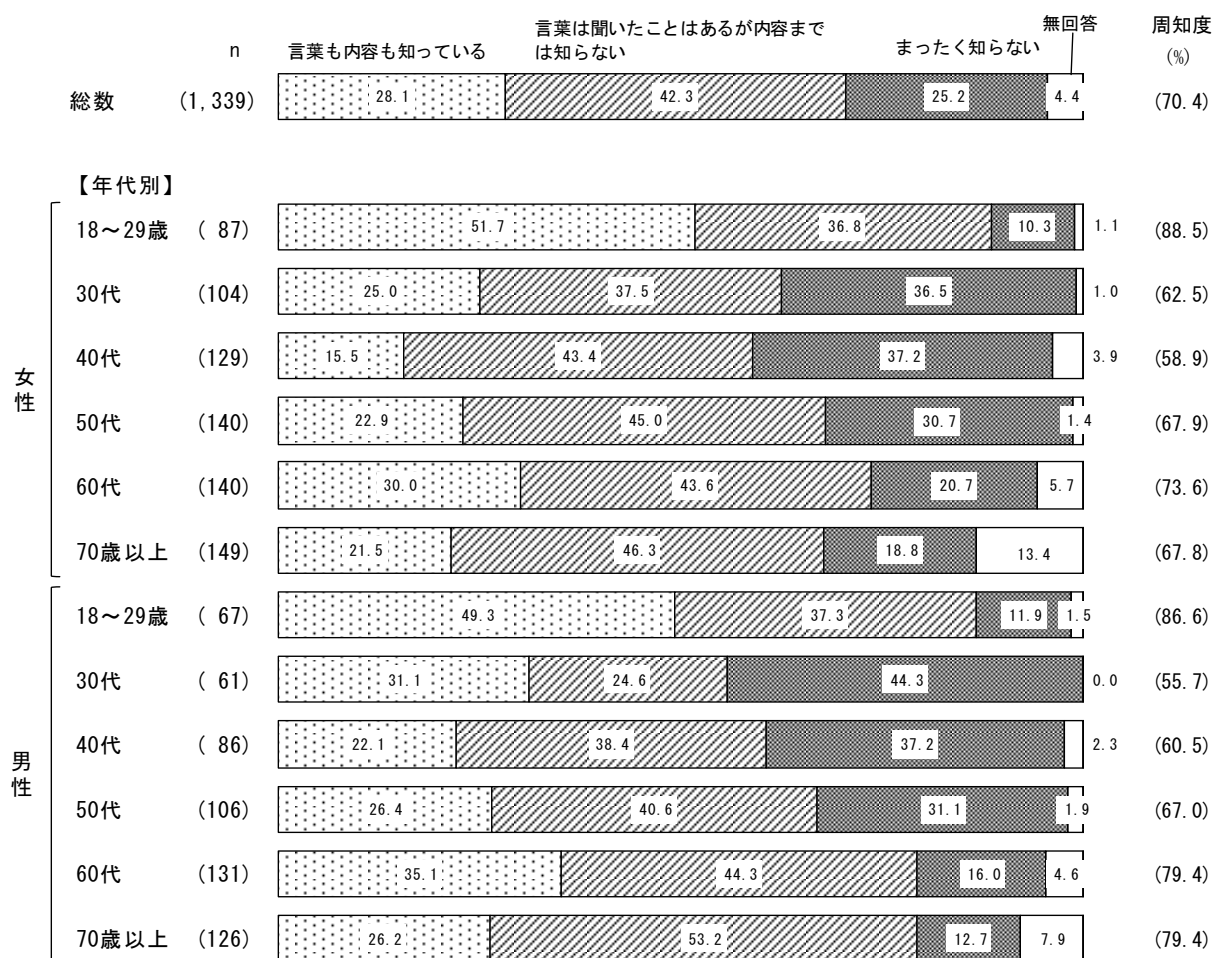


図25-3 用語の周知度 (a) 男女共同参画社会 (性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	28.1	42.3	25.2	4.4	(70.4)	
性×地域別	女性	能登北部	41	31.7	39.0	22.0	7.3	(70.7)
		能登中部	90	40.0	38.9	15.6	5.6	(78.9)
		石川中央	477	24.5	42.8	28.7	4.0	(67.3)
		南加賀	142	21.8	45.8	25.4	7.0	(67.6)
	男性	能登北部	37	21.6	45.9	32.4	0.0	(67.5)
		能登中部	55	34.5	47.3	14.5	3.6	(81.8)
		石川中央	367	30.2	42.0	24.3	3.5	(72.2)
		南加賀	119	34.5	37.0	23.5	5.0	(71.5)
性×職業別	女性	勤め人	429	26.3	41.7	28.9	3.0	(68.0)
		自営業・家族従業	58	20.7	46.6	25.9	6.9	(67.3)
		無職	243	28.0	43.6	21.0	7.4	(71.6)
	男性	勤め人	350	31.7	38.6	27.7	2.0	(70.3)
		自営業・家族従業	77	18.2	54.5	20.8	6.5	(72.7)
		無職	128	36.7	46.1	12.5	4.7	(82.8)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (b) いしかわ男女共同参画プラン

【年代別】

周知度は女性では、60代（45.0%）で最も高く、18～29歳（29.9%）で最も低い。
男性では70歳以上（51.5%）が最も高くなっており、30代（22.9%）で最も低い。

図25-4 用語の周知度 (b) いしかわ男女共同参画プラン（年代別）

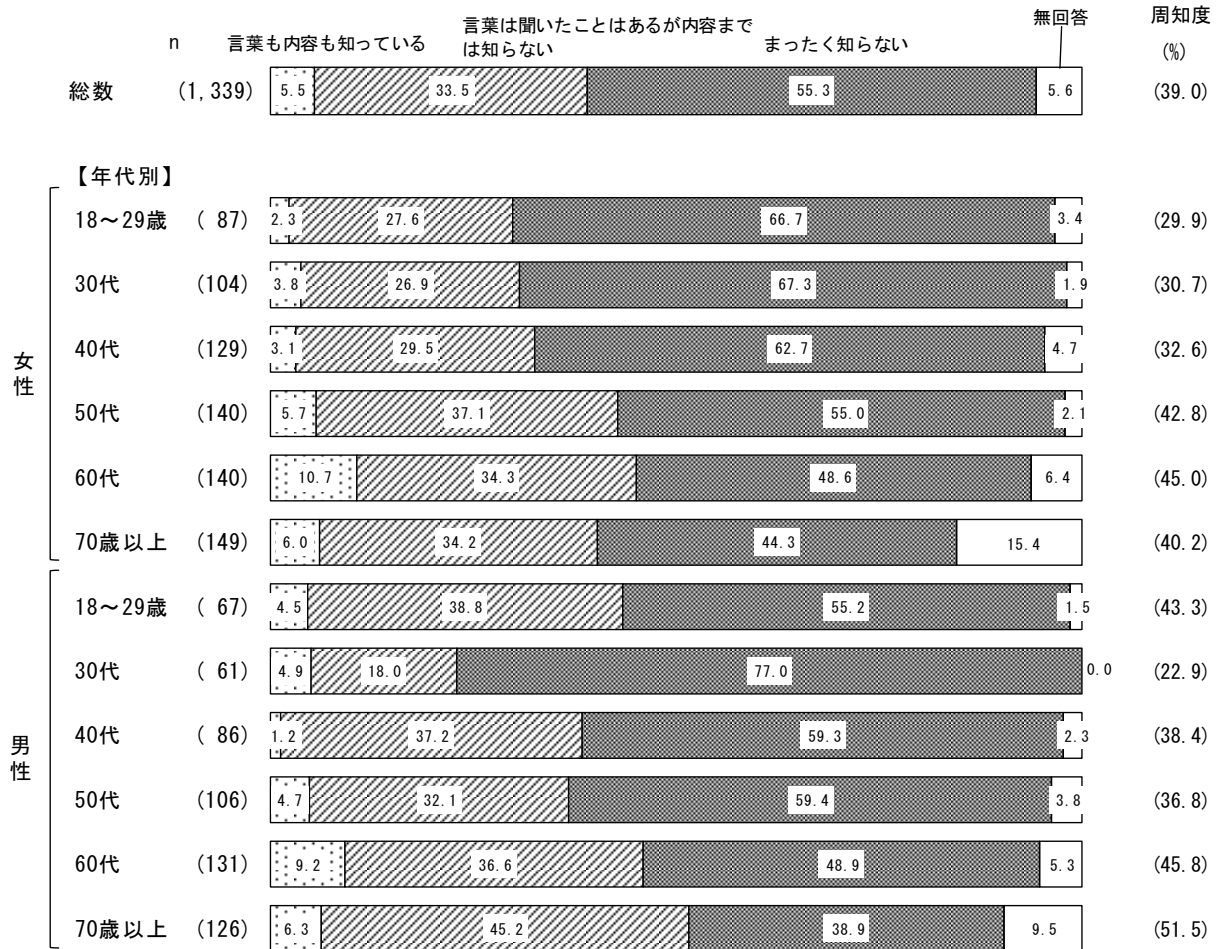


図25-5 用語の周知度 (b) いしかわ男女共同参画プラン (性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	5.5	33.5	55.3	5.6	(39.0)	
性×地域別	女性	能登北部	41	9.8	24.4	56.1	9.8	(34.2)
		能登中部	90	13.3	36.7	43.3	6.7	(50.0)
		石川中央	477	4.4	32.5	58.1	5.0	(36.9)
		南加賀	142	3.5	30.3	57.7	8.5	(33.8)
	男性	能登北部	37	2.7	43.2	51.4	2.7	(45.9)
		能登中部	55	7.3	40.0	45.5	7.3	(47.3)
		石川中央	367	6.0	34.3	55.9	3.8	(40.3)
		南加賀	119	4.2	36.1	52.9	6.7	(40.3)
性×職業別	女性	勤め人	429	4.4	30.5	60.6	4.4	(34.9)
		自営業・家族従業	58	5.2	39.7	46.6	8.6	(44.9)
		無職	243	7.4	33.3	51.0	8.2	(40.7)
	男性	勤め人	350	4.9	34.0	58.3	2.9	(38.9)
		自営業・家族従業	77	2.6	41.6	46.8	9.1	(44.2)
		無職	128	7.8	40.6	46.1	5.5	(48.4)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (c) 石川県男女共同参画推進条例

【年代別】

周知度は女性では60代（34.3%）、70歳以上（34.2%）で3割を超え、他の年代では2割台となっている。

男性では18～29歳（41.8%）で最も高く、30代（16.4%）で最も低くなっている。

図25-6 用語の周知度 (c) 石川県男女共同参画推進条例 (年代別)

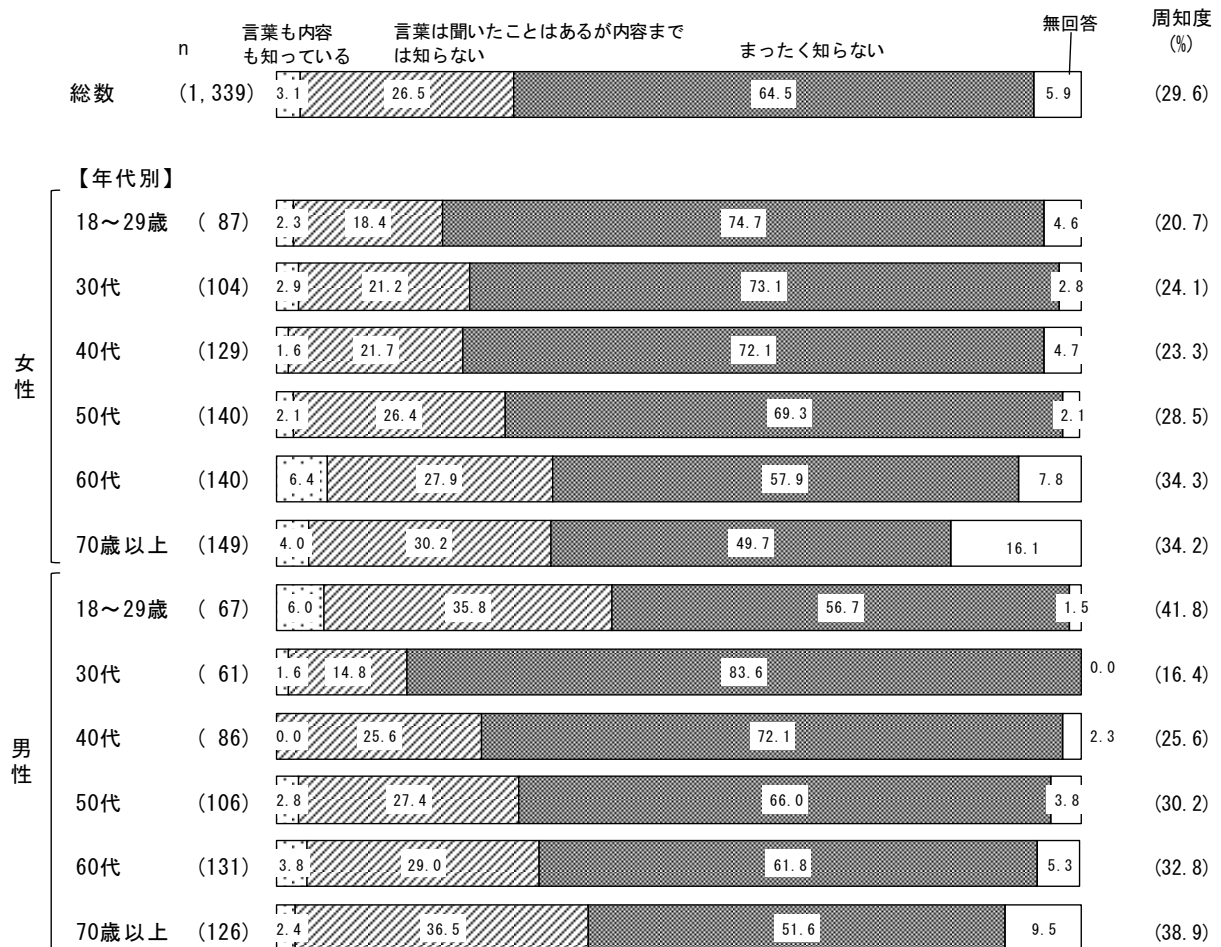


図25-7 用語の周知度 (c) 石川県男女共同参画推進条例 (性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	3.1	26.5	64.5	5.9	(29.6)	
性×地域別	女性	能登北部	41	4.9	12.2	70.7	12.2	(17.1)
		能登中部	90	6.7	26.7	58.9	7.8	(33.4)
		石川中央	477	3.4	25.6	65.4	5.7	(29.0)
		南加賀	142	0.7	25.4	65.5	8.5	(26.1)
	男性	能登北部	37	2.7	35.1	59.5	2.7	(37.8)
		能登中部	55	1.8	36.4	54.5	7.3	(38.2)
		石川中央	367	3.3	28.9	63.8	4.1	(32.2)
		南加賀	119	1.7	23.5	68.9	5.9	(25.2)
性×職業別	女性	勤め人	429	2.6	24.0	69.0	4.4	(26.6)
		自営業・家族従業	58	3.4	29.3	58.6	8.6	(32.7)
		無職	243	4.1	26.7	59.3	9.9	(30.8)
	男性	勤め人	350	2.6	28.0	66.3	3.1	(30.6)
		自営業・家族従業	77	1.3	28.6	61.0	9.1	(29.9)
		無職	128	3.9	32.8	57.8	5.5	(36.7)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (d) 女子差別撤廃条約

【年代別】
 男女とも18～29歳（女性40.2%、男性49.2%）で周知度が4割を超え、他の年代より高くなっている。

図25-8 用語の周知度 (d) 女子差別撤廃条約 (年代別)

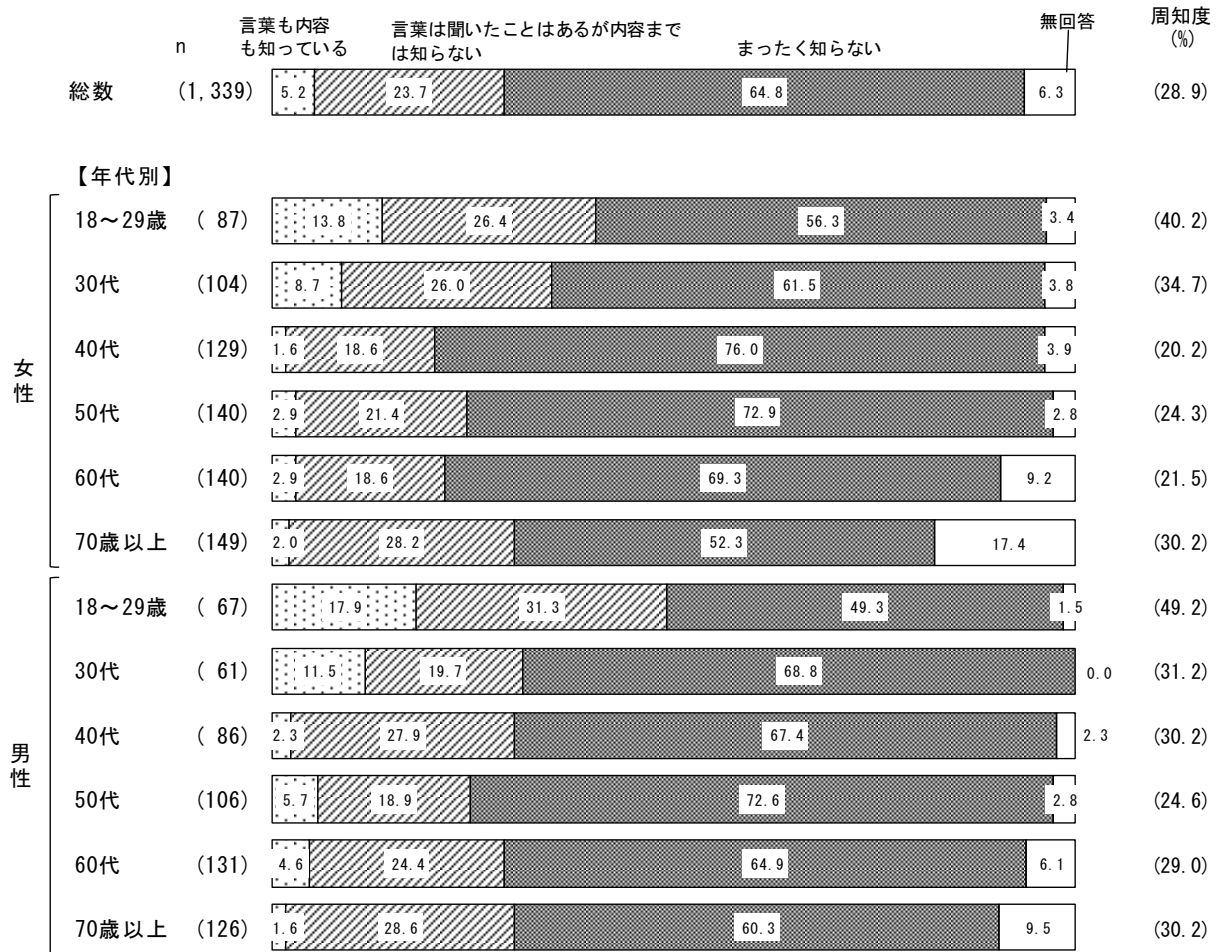


図25-9 用語の周知度 (d) 女子差別撤廃条約 (性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	5.2	23.7	64.8	6.3	(28.9)	
性×地域別	女性	能登北部	41	4.9	22.0	58.5	14.6	(26.9)
		能登中部	90	5.6	20.0	64.4	10.0	(25.6)
		石川中央	477	5.0	24.9	64.6	5.5	(29.9)
		南加賀	142	2.1	18.3	69.7	9.9	(20.4)
	男性	能登北部	37	0.0	29.7	67.6	2.7	(29.7)
		能登中部	55	7.3	21.8	65.5	5.5	(29.1)
		石川中央	367	6.8	25.3	63.8	4.1	(32.1)
		南加賀	119	5.0	24.4	63.9	6.7	(29.4)
性×職業別	女性	勤め人	429	4.2	21.7	69.5	4.7	(25.9)
		自営業・家族従業	58	3.4	22.4	65.5	8.6	(25.8)
		無職	243	4.9	26.7	57.2	11.1	(31.6)
	男性	勤め人	350	6.0	24.0	67.1	2.9	(30.0)
		自営業・家族従業	77	2.6	20.8	67.5	9.1	(23.4)
		無職	128	8.6	30.5	54.7	6.3	(39.1)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (e) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)

【年代別】

周知度は、女性では50代 (24.3%) で最も高くなっている。男性では18~29歳で (37.4%) で最も高くなっている。

図25-10 用語の周知度 (e) ポジティブ・アクション (積極的改善措置) (年代別)

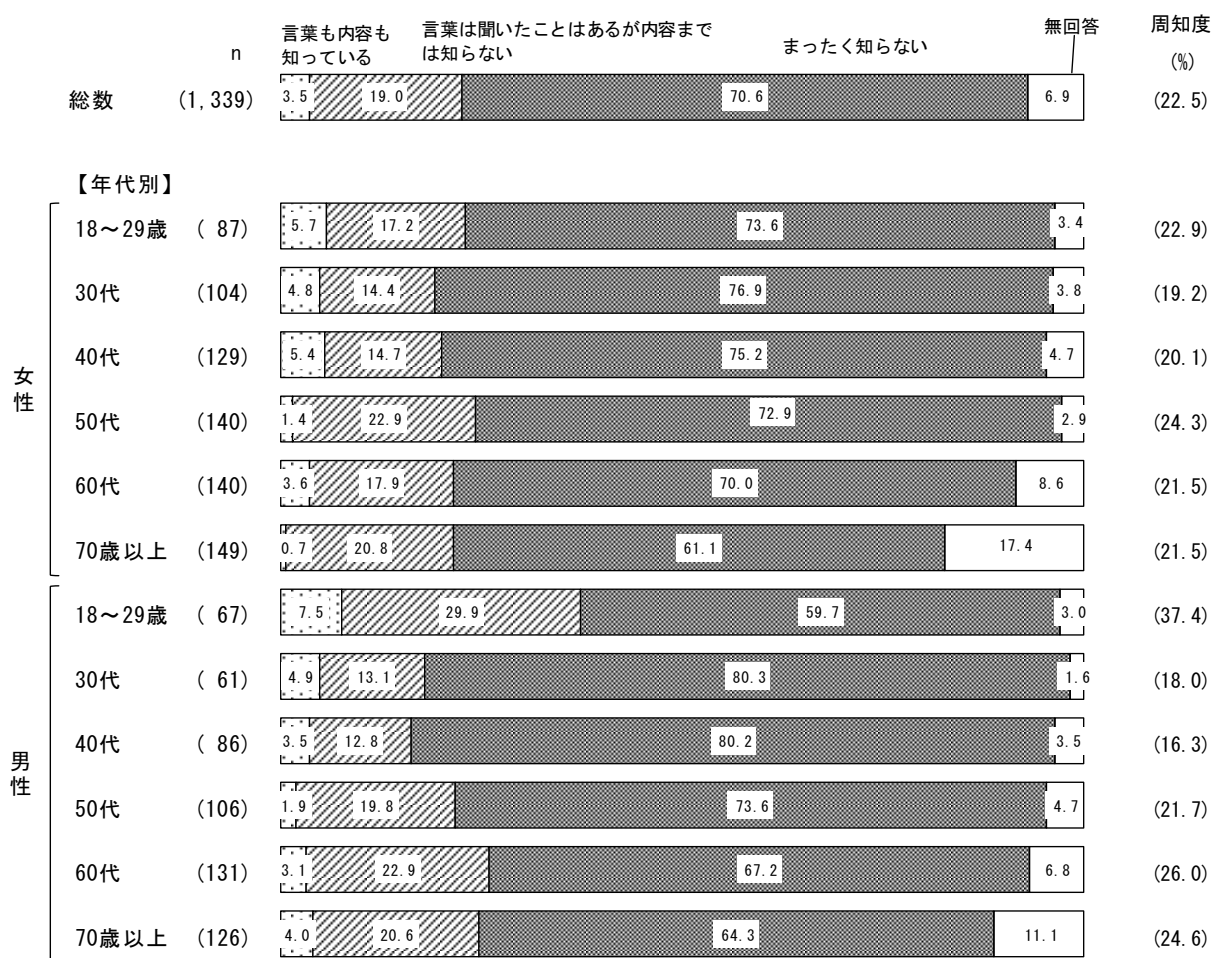


図25-11 用語の周知度 (e) ポジティブ・アクション (積極的改善措置)
(性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

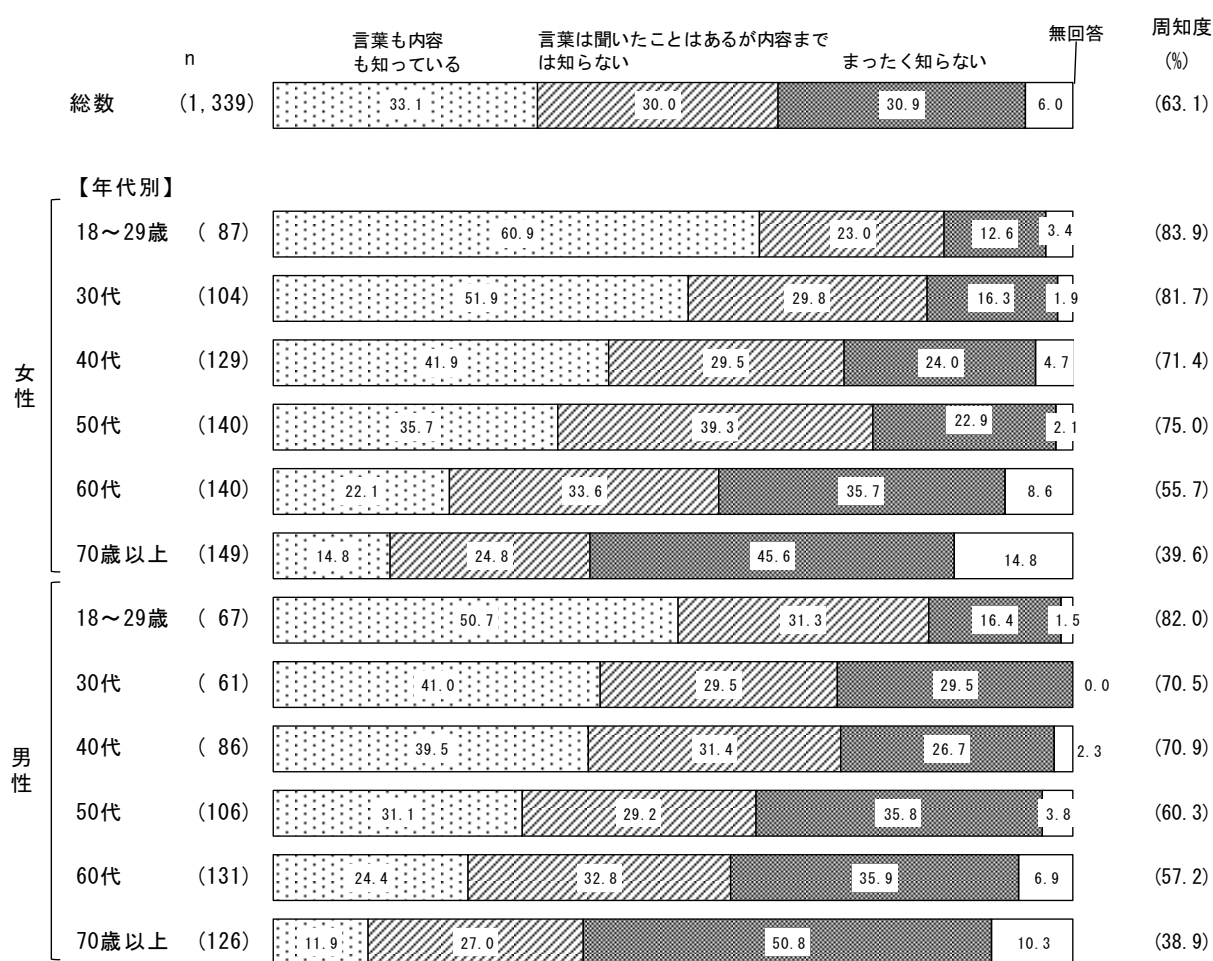
		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	3.5	19.0	70.6	6.9	(22.5)	
性×地域別	女性	能登北部	41	9.8	17.1	61.0	12.2	(26.9)
		能登中部	90	5.6	13.3	70.0	11.1	(18.9)
		石川中央	477	2.7	19.9	71.7	5.7	(22.6)
		南加賀	142	2.1	16.2	72.5	9.2	(18.3)
	男性	能登北部	37	0.0	16.2	81.1	2.7	(16.2)
		能登中部	55	1.8	16.4	70.9	10.9	(18.2)
		石川中央	367	4.9	21.5	68.7	4.9	(26.4)
		南加賀	119	2.5	17.6	71.4	8.4	(20.1)
性×職業別	女性	勤め人	429	4.2	18.6	72.7	4.4	(22.8)
		自営業・家族従業	58	3.4	19.0	69.0	8.6	(22.4)
		無職	243	1.2	18.5	69.1	11.1	(19.7)
	男性	勤め人	350	4.3	18.3	73.4	4.0	(22.6)
		自営業・家族従業	77	0.0	16.9	72.7	10.4	(16.9)
		無職	128	4.7	29.7	58.6	7.0	(34.4)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (f) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別)

【年代別】
 男女とも18～29歳（女性83.9%、男性82.0%）で最も高く、「言葉も内容も知っている」も18～29歳（女性60.9%、男性50.7%）で5～6割台と、最も多くなっている。最も低いのは70歳以上（女性39.6%、男性38.9%）であった。

図25-12 用語の周知度 (f) ジェンダー (社会的・文化的につくられた性別) (年代別)



【地域別】

男女とも石川中央（女性69.8%、男性65.4%）で周知度が最も高く、女性では能登中部（53.4%）、男性では能登北部（48.6%）で最も低くなっている。

【職業別】

男女とも勤め人（女性71.5%、男性65.4%）で周知度が最も高く、女性では無職（56.4%）、男性では自営業等（37.7%）で最も低く、「まったく知らない」という回答も半数以上であった。

図25-13 用語の周知度 (f) ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）
（性・地域別、性・職業別）

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	33.1	30.0	30.9	6.0	(63.1)	
性×地域別	女性	能登北部	41	41.5	19.5	26.8	12.2	(61.0)
		能登中部	90	27.8	25.6	38.9	7.8	(53.4)
		石川中央	477	37.9	31.9	24.9	5.2	(69.8)
		南加賀	142	29.6	31.7	31.0	7.7	(61.3)
	男性	能登北部	37	10.8	37.8	45.9	5.4	(48.6)
		能登中部	55	25.5	27.3	38.2	9.1	(52.8)
		石川中央	367	34.6	30.8	30.8	3.8	(65.4)
		南加賀	119	24.4	26.9	41.2	7.6	(51.3)
性×職業別	女性	勤め人	429	38.9	32.6	24.0	4.4	(71.5)
		自営業・家族従業	58	34.5	27.6	31.0	6.9	(62.1)
		無職	243	28.8	27.6	34.6	9.1	(56.4)
	男性	勤め人	350	34.3	31.1	30.6	4.0	(65.4)
		自営業・家族従業	77	15.6	22.1	54.5	7.8	(37.7)
		無職	128	28.1	32.8	32.8	6.3	(60.9)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (g) 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律

【年代別】

周知度は、男女とも周知度は18～29歳（女性39.0%、男性50.7%）で最も高く、30代（女性26.9%、男性18.0%）で最も低くなっている。

図25-14 用語の周知度 (g) 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律 (年代別)

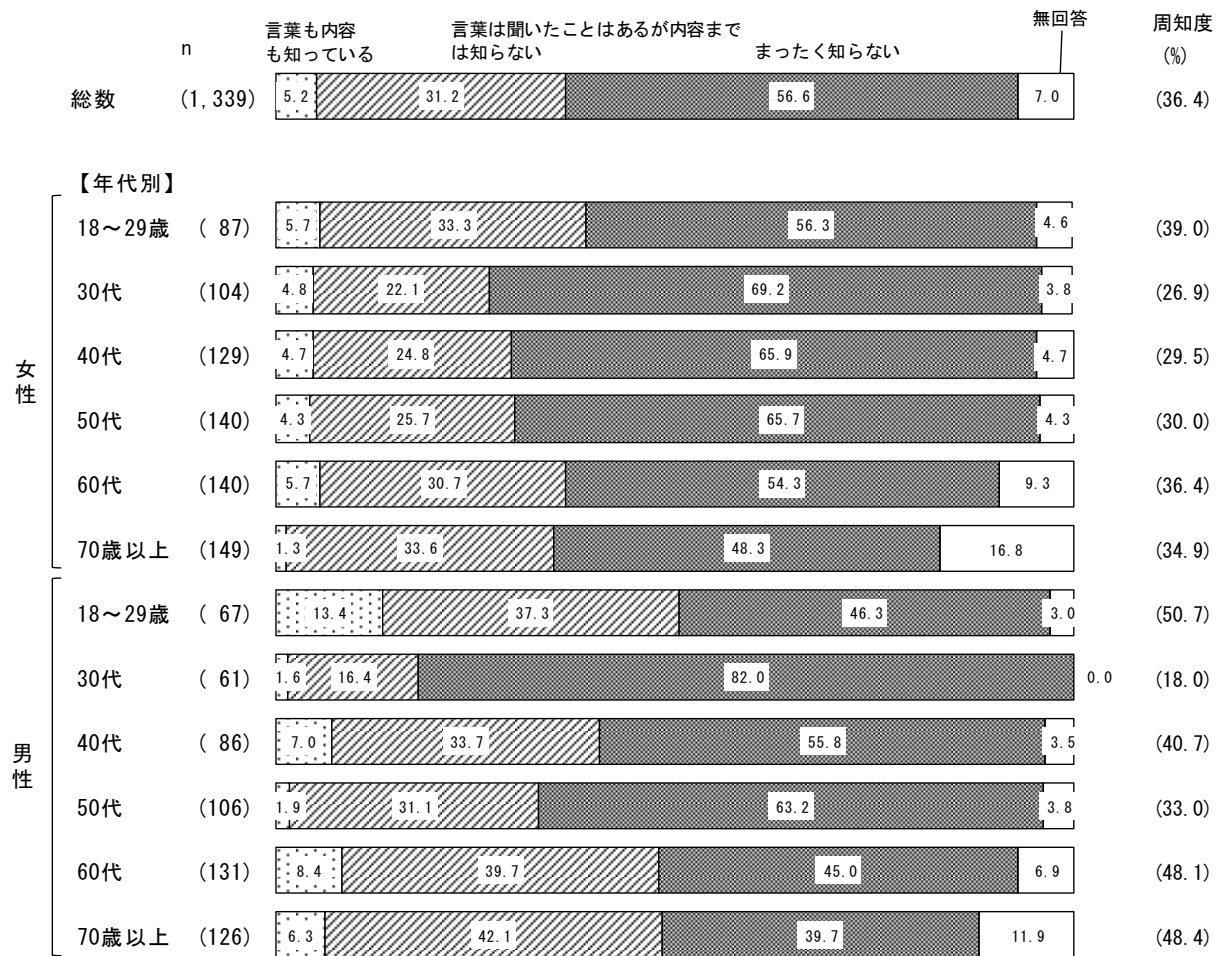


図25-15 用語の周知度 (g) 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律
(性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	5.2	31.2	56.6	7.0	(36.4)	
性×地域別	女性	能登北部	41	9.8	22.0	58.5	9.8	(31.8)
		能登中部	90	3.3	28.9	58.9	8.9	(32.2)
		石川中央	477	3.6	28.7	61.2	6.5	(32.3)
		南加賀	142	5.6	28.9	54.9	10.6	(34.5)
	男性	能登北部	37	10.8	32.4	48.6	8.1	(43.2)
		能登中部	55	3.6	21.8	63.6	10.9	(25.4)
		石川中央	367	7.4	39.5	48.5	4.6	(46.9)
		南加賀	119	3.4	27.7	62.2	6.7	(31.1)
性×職業別	女性	勤め人	429	5.1	26.6	62.9	5.4	(31.7)
		自営業・家族従業	58	6.9	29.3	53.4	10.3	(36.2)
		無職	243	1.6	32.9	55.1	10.3	(34.5)
	男性	勤め人	350	6.6	34.6	55.1	3.7	(41.2)
		自営業・家族従業	77	3.9	28.6	54.5	13.0	(32.5)
		無職	128	7.0	43.8	43.0	6.3	(50.8)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (h) 男女雇用機会均等法

【年代別】

女性では70歳以上（75.8%）を除いて、8割を超えており、50代（93.6%）で最も高い。
 男性ではいずれの年代でも8割を超えており、18～29歳（89.5%）で最も高い。

図25-16 用語の周知度 (h) 男女雇用機会均等法 (年代別)

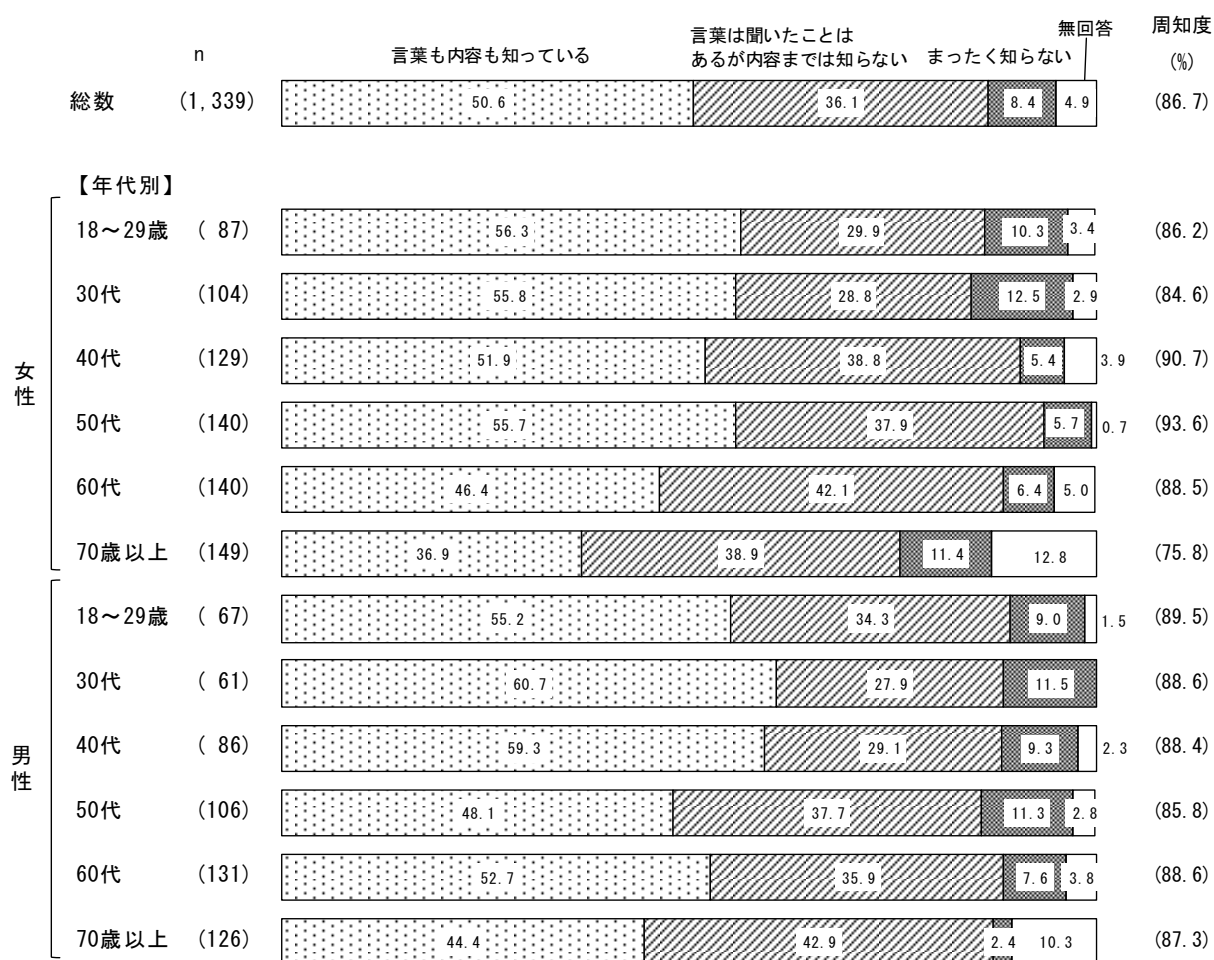


図25-17 用語の周知度 (h) 男女雇用機会均等法 (性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	50.6	36.1	8.4	4.9	(86.7)	
性×地域別	女性	能登北部	41	56.1	31.7	7.3	4.9	(87.8)
		能登中部	90	56.7	27.8	8.9	6.7	(84.5)
		石川中央	477	49.7	38.6	7.8	4.0	(88.3)
		南加賀	142	43.7	38.0	10.6	7.7	(81.7)
	男性	能登北部	37	35.1	43.2	18.9	2.7	(78.3)
		能登中部	55	49.1	38.2	5.5	7.3	(87.3)
		石川中央	367	55.6	34.3	6.5	3.5	(89.9)
		南加賀	119	47.9	36.1	10.1	5.9	(84.0)
性×職業別	女性	勤め人	429	51.3	36.1	8.9	3.7	(87.4)
		自営業・家族従業	58	51.7	37.9	3.4	6.9	(89.6)
		無職	243	47.7	36.6	9.5	6.2	(84.3)
	男性	勤め人	350	56.3	32.9	8.0	2.9	(89.2)
		自営業・家族従業	77	37.7	39.0	15.6	7.8	(76.7)
		無職	128	50.0	43.0	1.6	5.5	(93.0)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (i) 女性活躍推進法 (女性の職業生活における活躍の推進に関する法律)

【年代別】

女性では40代 (27.2%) を除いて3割を超えており、50代 (37.9%) で最も高い。
男性では18~29歳 (56.7%) が最も多く、唯一5割を超えている。

図25-18 用語の周知度 (i) 女性活躍推進法 (年代別)

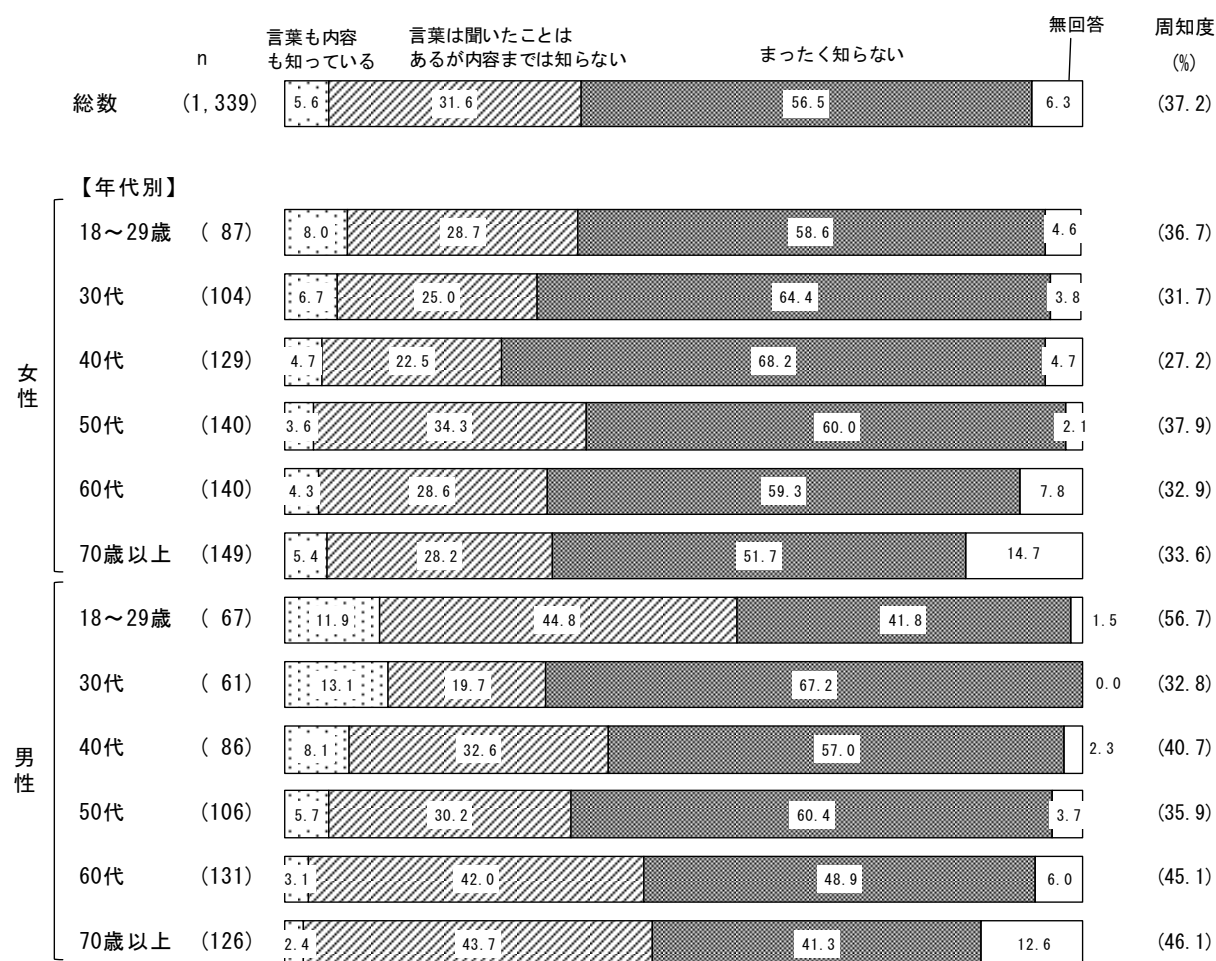


図25-19 用語の周知度

(i) 女性活躍推進法（女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）

(性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

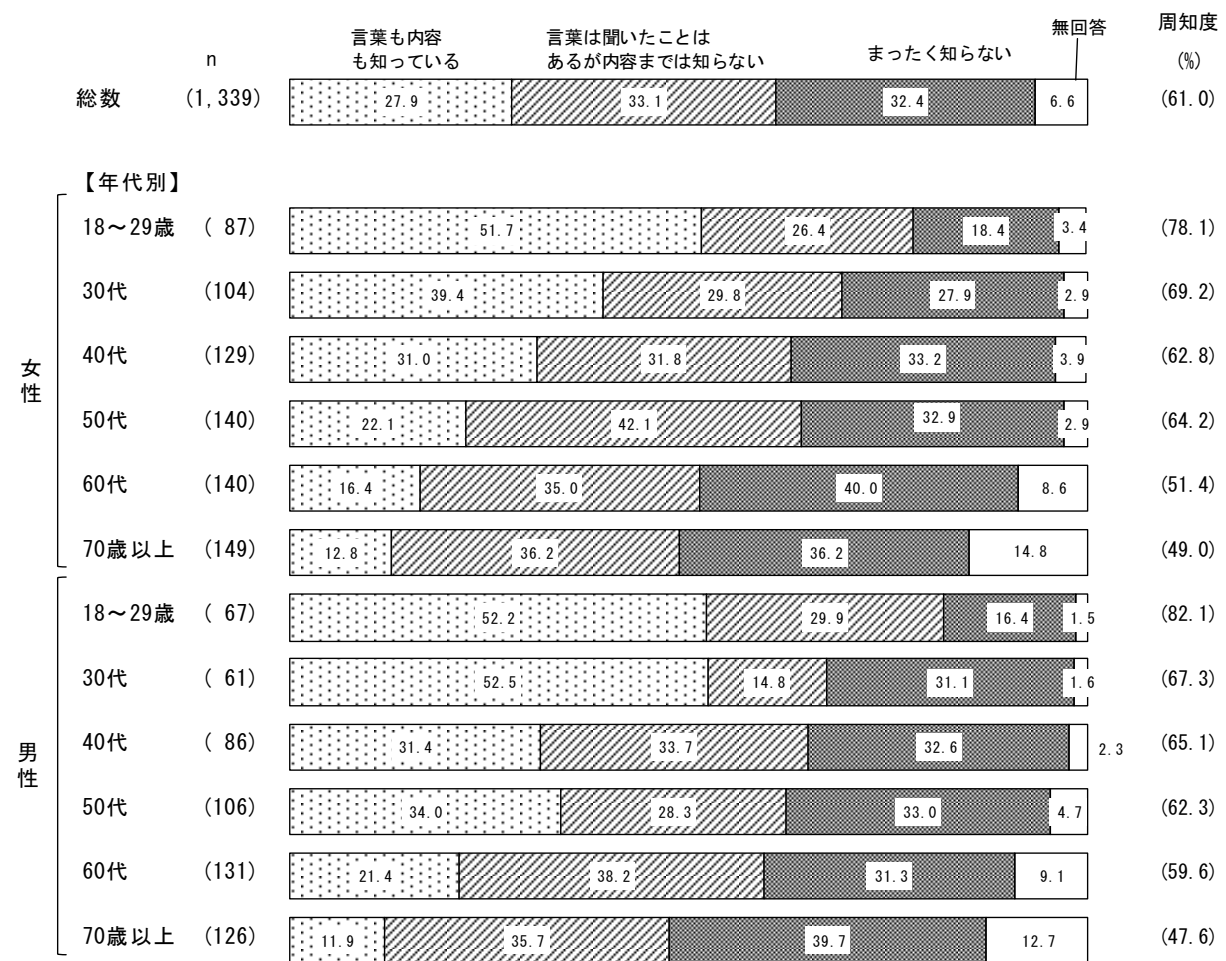
		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	5.6	31.6	56.5	6.3	(37.2)	
性×地域別	女性	能登北部	41	7.3	29.3	53.7	9.8	(36.6)
		能登中部	90	8.9	28.9	55.6	6.7	(37.8)
		石川中央	477	4.8	28.5	60.8	5.9	(33.3)
		南加賀	142	3.5	25.4	62.7	8.5	(28.9)
	男性	能登北部	37	2.7	40.5	54.1	2.7	(43.2)
		能登中部	55	3.6	29.1	56.4	10.9	(32.7)
		石川中央	367	7.1	40.1	48.2	4.6	(47.2)
		南加賀	119	5.9	28.6	58.8	6.7	(34.5)
性×職業別	女性	勤め人	429	5.6	27.7	62.0	4.7	(33.3)
		自営業・家族従業	58	5.2	34.5	51.7	8.6	(39.7)
		無職	243	4.1	26.3	60.5	9.1	(30.4)
	男性	勤め人	350	8.6	34.3	54.0	3.1	(42.9)
		自営業・家族従業	77	1.3	35.1	53.2	10.4	(36.4)
		無職	128	3.1	44.5	43.8	8.6	(47.6)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (j) 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス)

【年代別】
 男女とも18～29歳（女性78.1%、男性82.1%）で最も高く、70歳以上（女性49.0%、男性47.6%）で最も低くなっており、年代とともに低くなる傾向がある。

図25-20 用語の周知度 (j) 仕事と生活の調和 (ワーク・ライフ・バランス) (年代別)



【地域別】

女性では能登北部（68.2%）が、男性では石川中央（64.1%）が最も高くなっている。
男性では、能登北部（43.2%）で「まったく知らない」と回答している割合が最も多い。

【職業別】

男女とも勤め人（女性64.8%、男性67.7%）が最も高くなっている。

図25-21 用語の周知度 (j) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）
（性・地域別、性・職業別）

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	27.9	33.1	32.4	6.6	(61.0)	
性×地域別	女性	能登北部	41	34.1	34.1	24.4	7.3	(68.2)
		能登中部	90	25.6	36.7	31.1	6.7	(62.3)
		石川中央	477	25.4	35.6	32.9	6.1	(61.0)
		南加賀	142	28.9	28.9	34.5	7.7	(57.8)
	男性	能登北部	37	16.2	32.4	43.2	8.1	(48.6)
		能登中部	55	25.5	32.7	29.1	12.7	(58.2)
		石川中央	367	32.2	31.9	30.8	5.2	(64.1)
		南加賀	119	29.4	29.4	33.6	7.6	(58.8)
性×職業別	女性	勤め人	429	31.0	33.8	30.3	4.9	(64.8)
		自営業・家族従業	58	22.4	34.5	37.9	5.2	(56.9)
		無職	243	18.9	36.6	35.4	9.1	(55.5)
	男性	勤め人	350	38.0	29.7	28.0	4.3	(67.7)
		自営業・家族従業	77	11.7	32.5	44.2	11.7	(44.2)
		無職	128	23.4	37.5	29.7	9.4	(60.9)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (k) DV (配偶者や交際相手からの暴力)

【年代別】

男女とも70歳以上（女性79.8%、男性84.9%）で他の年代と比較して、9割を下回っている。

図25-22 用語の周知度 (k) DV (配偶者や交際相手からの暴力) (年代別)

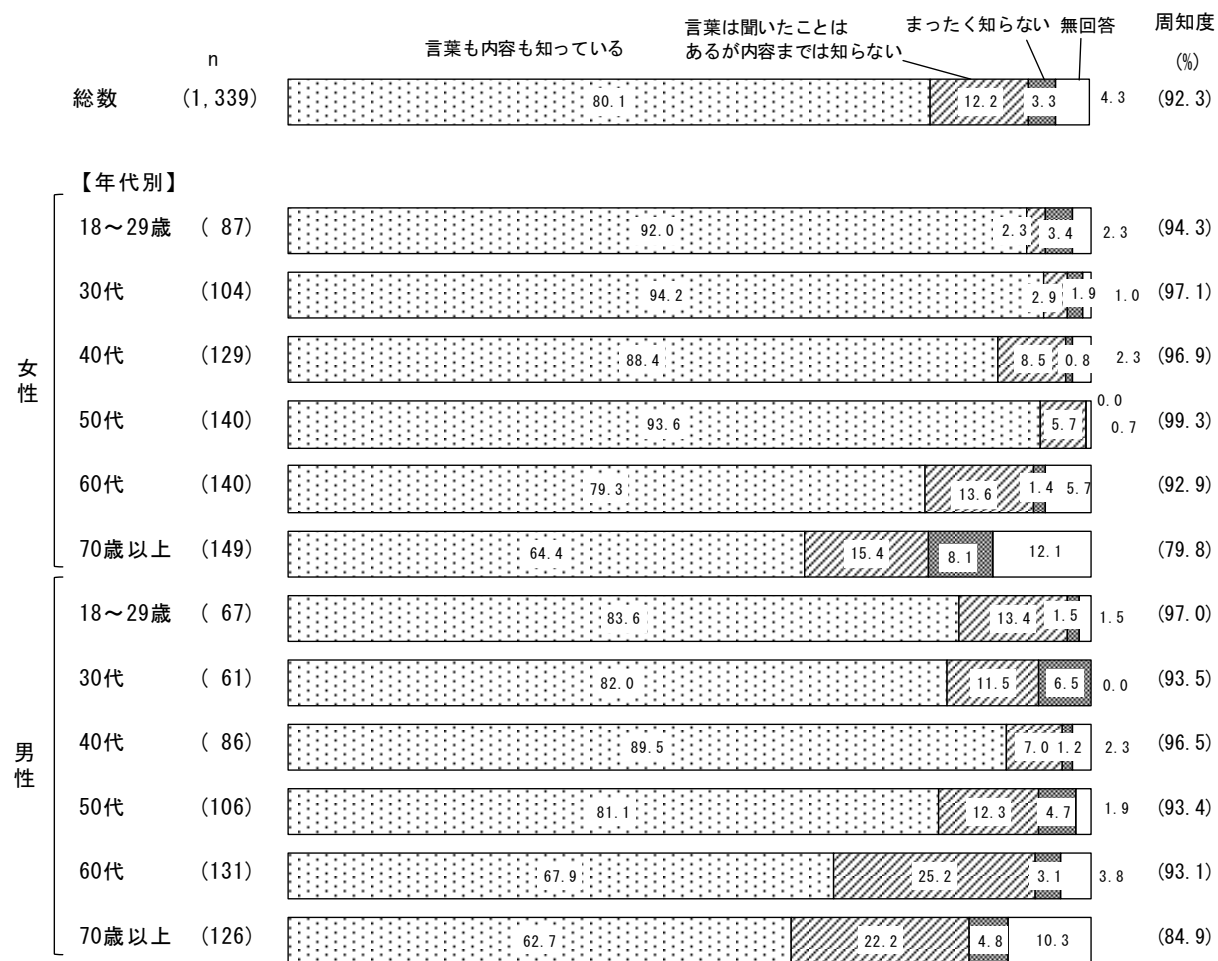


図25-23 用語の周知度 (k) DV (配偶者や交際相手からの暴力)

(性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	80.1	12.2	3.3	4.3	(92.3)	
性×地域別	女性	能登北部	41	87.8	4.9	2.4	4.9	(92.7)
		能登中部	90	76.7	13.3	5.6	4.4	(90.0)
		石川中央	477	86.2	7.5	2.1	4.2	(93.7)
		南加賀	142	81.0	11.3	2.8	4.9	(92.3)
	男性	能登北部	37	54.1	35.1	10.8	0.0	(89.2)
		能登中部	55	67.3	25.5	0.0	7.3	(92.8)
		石川中央	367	79.8	14.2	2.7	3.3	(94.0)
		南加賀	119	73.1	15.1	5.9	5.9	(88.2)
性×職業別	女性	勤め人	429	88.6	6.8	1.9	2.8	(95.4)
		自営業・家族従業	58	79.3	15.5	3.4	1.7	(94.8)
		無職	243	78.2	11.1	3.7	7.0	(89.3)
	男性	勤め人	350	82.0	12.0	3.7	2.3	(94.0)
		自営業・家族従業	77	53.2	35.1	5.2	6.5	(88.3)
		無職	128	71.1	19.5	3.1	6.3	(90.6)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (I) パープルリボン (女性に対する暴力根絶のシンボル)

【年代別】

女性では18～29歳 (35.6%)、70歳以上 (31.6%) を除いて4割を超えている。

男性では30代 (26.3%)、70歳以上 (26.1%) を除いて3割を超えている。

図25-24 用語の周知度 (I) パープルリボン (女性に対する暴力根絶のシンボル) (年代別)

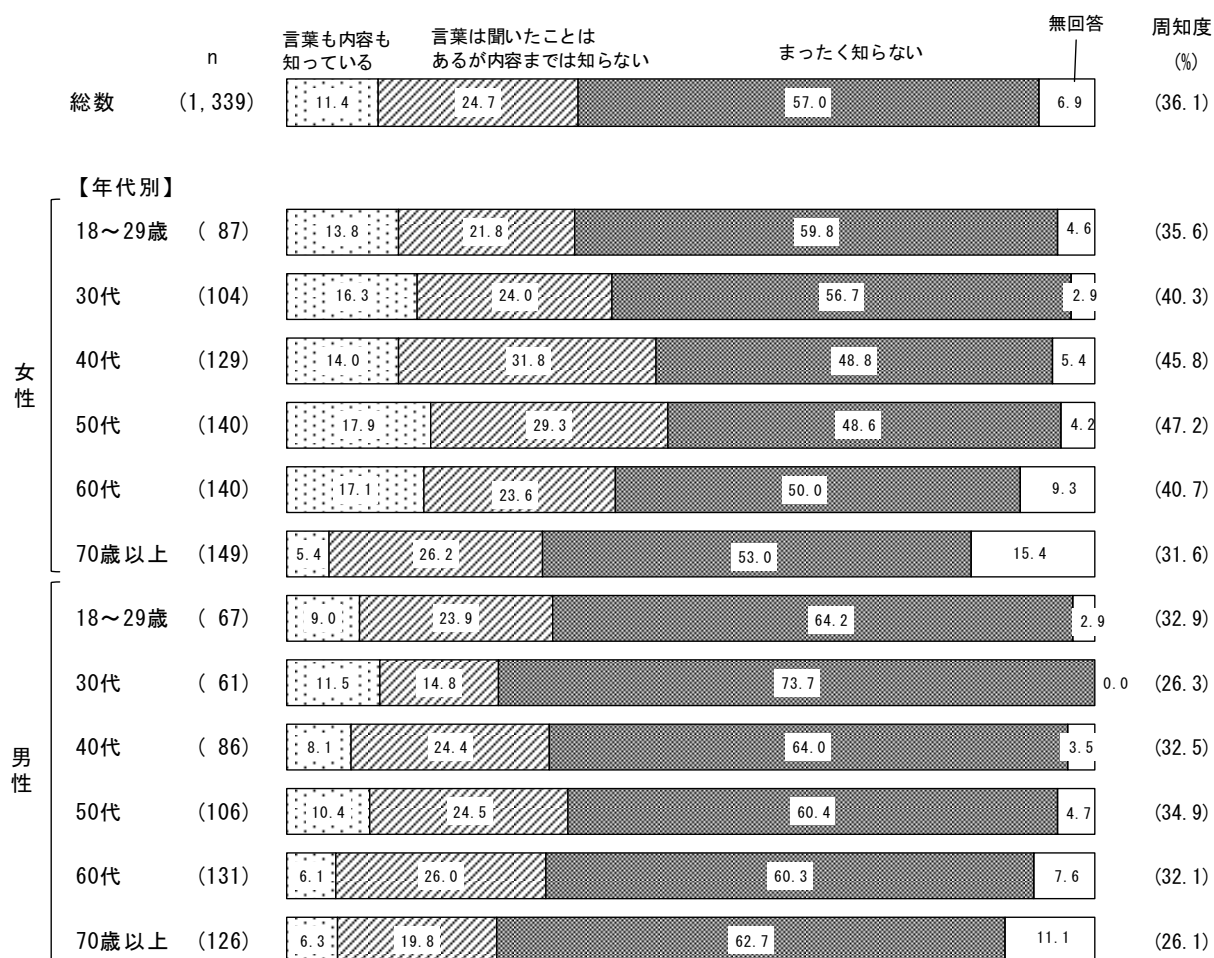


図25-25 用語の周知度 (I) パープルリボン (女性に対する暴力根絶のシンボル)
(性・地域別、性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	11.4	24.7	57.0	6.9	(36.1)	
性×地域別	女性	能登北部	41	17.1	17.1	51.2	14.6	(34.2)
		能登中部	90	12.2	26.7	51.1	10.0	(38.9)
		石川中央	477	13.2	28.1	52.6	6.1	(41.3)
		南加賀	142	16.2	23.2	52.1	8.5	(39.4)
	男性	能登北部	37	5.4	21.6	67.6	5.4	(27.0)
		能登中部	55	10.9	16.4	61.8	10.9	(27.3)
		石川中央	367	8.4	23.2	63.5	4.9	(31.6)
		南加賀	119	6.7	23.5	62.2	7.6	(30.2)
性×職業別	女性	勤め人	429	15.4	26.8	52.4	5.4	(42.2)
		自営業・家族従業	58	10.3	29.3	53.4	6.9	(39.6)
		無職	243	11.9	25.1	52.7	10.3	(37.0)
	男性	勤め人	350	9.1	21.4	65.1	4.3	(30.5)
		自営業・家族従業	77	6.5	22.1	59.7	11.7	(28.6)
		無職	128	7.0	28.9	57.8	6.3	(35.9)

※グレーのセルは属性中トップの項目

用語の周知度 (m) マタニティ・ハラスメント

【年代別】
 女性では30～50代で9割を超えている。
 男性ではいずれの年代でも8割を超えている。

図25-26 用語の周知度 (m) マタニティ・ハラスメント (年代別)

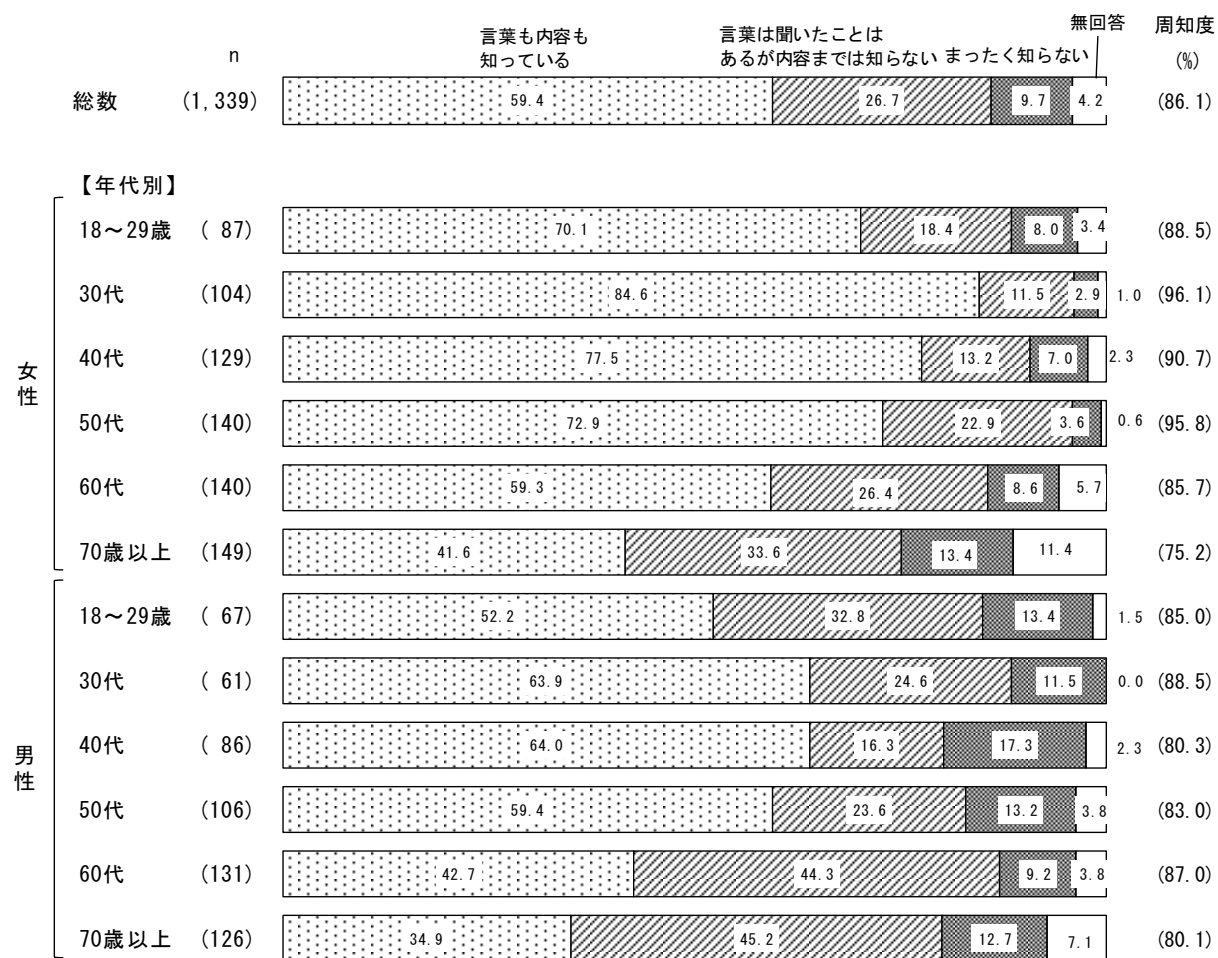


図25-27 用語の周知度 (m) マタニティ・ハラスメント (性・地域別、性・職業別)

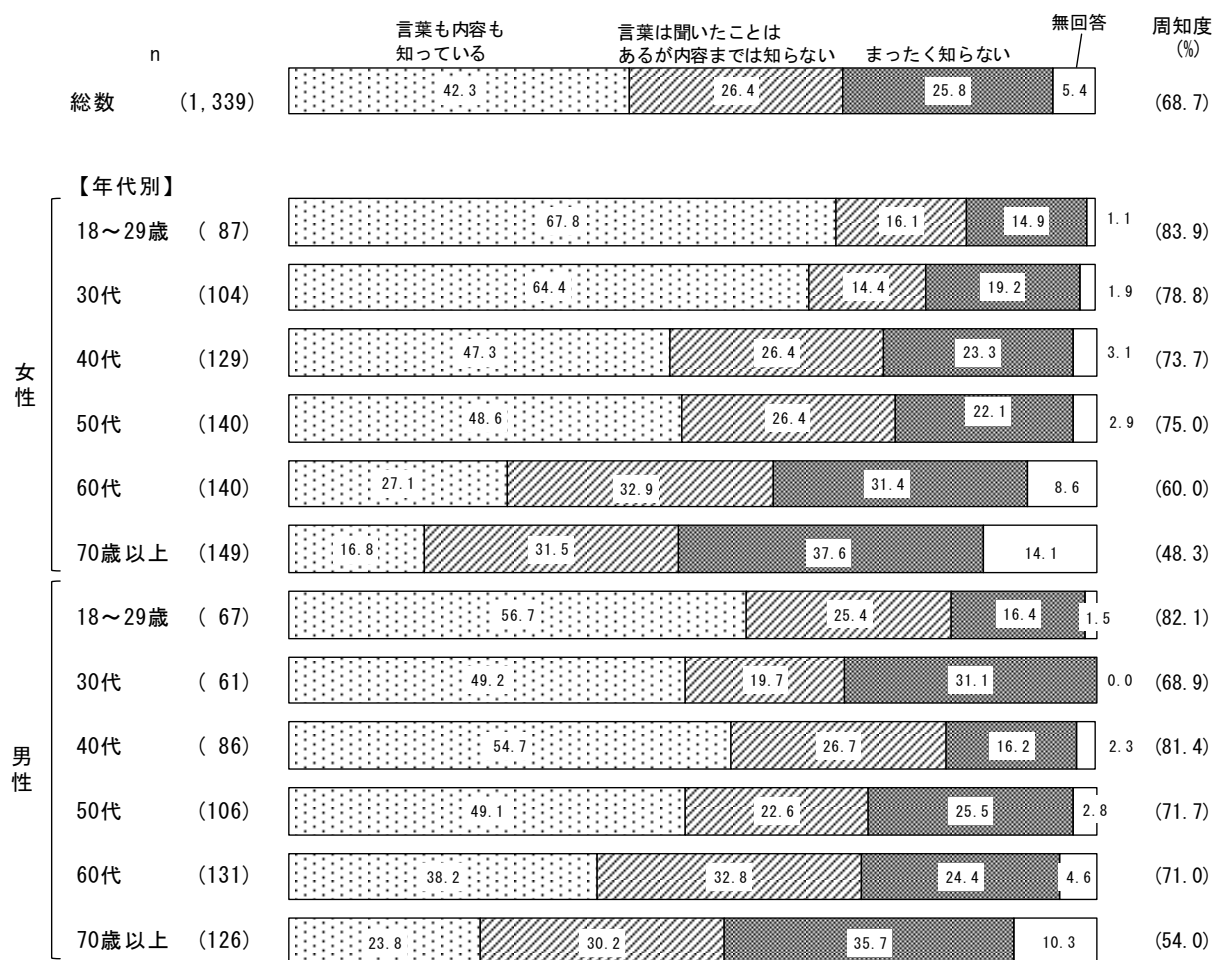
(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	59.4	26.7	9.7	4.2	(86.1)	
性×地域別	女性	能登北部	41	70.7	17.1	7.3	4.9	(87.8)
		能登中部	90	60.0	24.4	10.0	5.6	(84.4)
		石川中央	477	68.3	20.5	6.9	4.2	(88.8)
		南加賀	142	62.0	26.1	7.7	4.2	(88.1)
	男性	能登北部	37	35.1	37.8	24.3	2.7	(72.9)
		能登中部	55	41.8	36.4	18.2	3.6	(78.2)
		石川中央	367	54.0	32.2	10.6	3.3	(86.2)
		南加賀	119	48.7	32.8	12.6	5.9	(81.5)
性×職業別	女性	勤め人	429	72.3	18.2	6.5	3.0	(90.5)
		自営業・家族従業	58	70.7	20.7	6.9	1.7	(91.4)
		無職	243	56.0	28.0	9.5	6.6	(84.0)
	男性	勤め人	350	58.3	26.6	12.9	2.3	(84.9)
		自営業・家族従業	77	39.0	36.4	16.9	7.8	(75.4)
		無職	128	37.5	48.4	9.4	4.7	(85.9)

用語の周知度 (n) 性的少数者 (LGBTなど)

【年代別】
 男女とも70歳以上（女性48.3%、男性54.0%）が最も低く、他の年代では6割を超えている。

図25-28 用語の周知度 (n) 性的少数者 (LGBTなど) (年代別)



【地域別】

男女とも石川中央（女性70.3%、男性74.4%）で周知度が最も高くなっている。また、男性では「まったく知らない」は能登中部（36.4%）と能登北部（35.1%）で最も多くなっている。

【職業別】

女性では勤め人（73.7%）、自営業等（72.5%）で7割を超えている。男性では勤め人（74.6%）のみ7割を超えている。

図25-29 用語の周知度 (n) 性的少数者（LGBTなど）（性・地域別、性・職業別）

(単位：%)

		サンプル数	言葉も内容も知っている	言葉は聞いたことはあるが内容までは知らない	まったく知らない	無回答	周知度	
全体		1,339	42.3	26.4	25.8	5.4	(68.7)	
性×地域別	女性	能登北部	41	41.5	19.5	26.8	12.2	(61.0)
		能登中部	90	34.4	27.8	32.2	5.6	(62.2)
		石川中央	477	44.9	25.4	24.7	5.0	(70.3)
		南加賀	142	39.4	27.5	26.1	7.0	(66.9)
	男性	能登北部	37	32.4	29.7	35.1	2.7	(62.1)
		能登中部	55	32.7	25.5	36.4	5.5	(58.2)
		石川中央	367	47.4	27.0	21.5	4.1	(74.4)
		南加賀	119	36.1	26.9	31.1	5.9	(63.0)
性×職業別	女性	勤め人	429	47.6	26.1	22.4	4.0	(73.7)
		自営業・家族従業	58	39.7	32.8	20.7	6.9	(72.5)
		無職	243	32.9	24.7	34.2	8.2	(57.6)
	男性	勤め人	350	48.9	25.7	22.0	3.4	(74.6)
		自営業・家族従業	77	26.0	32.5	35.1	6.5	(58.5)
		無職	128	35.2	30.5	28.9	5.5	(65.7)

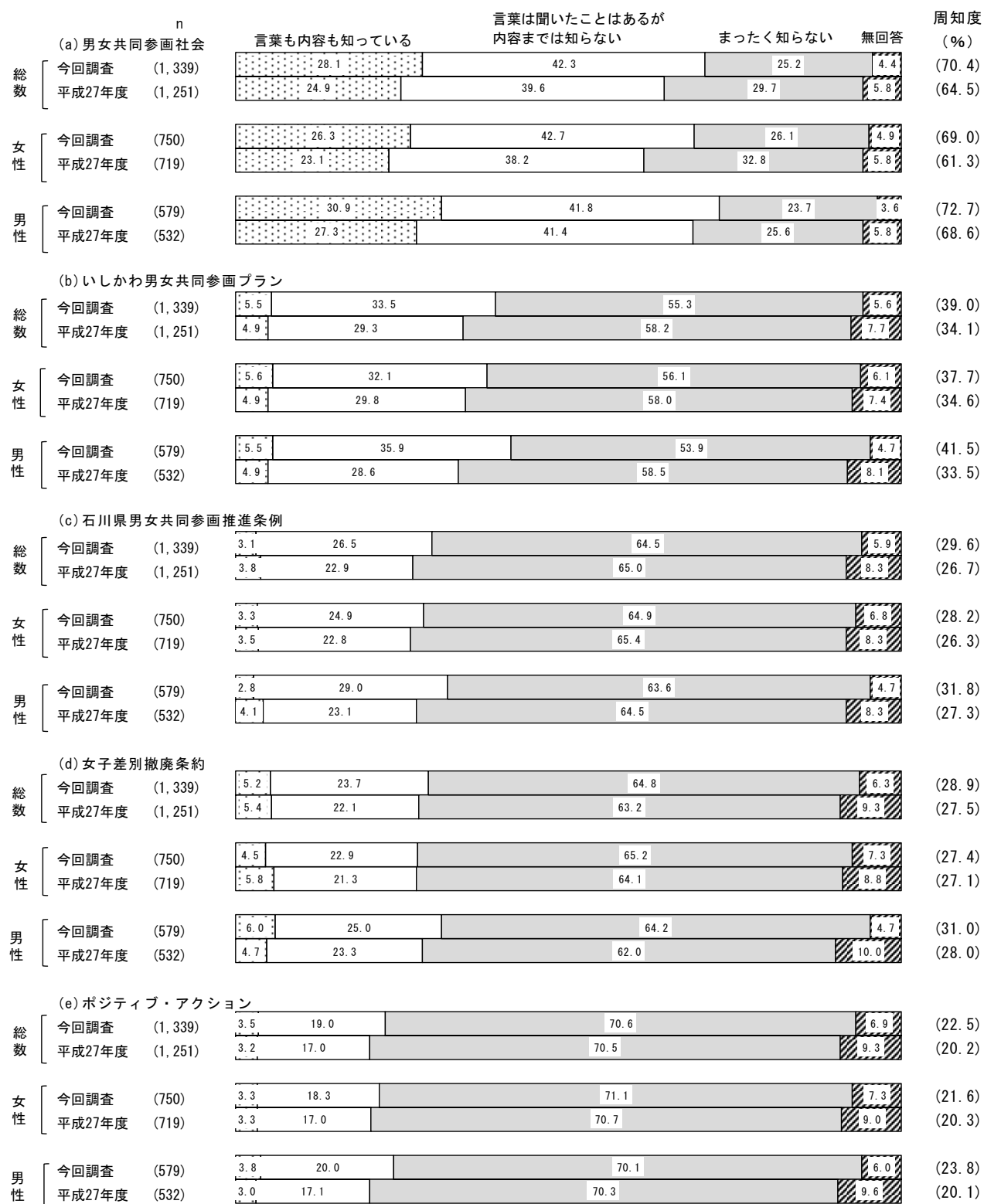
※グレーのセルは属性中トップの項目

【平成27年度調査との比較】

前回調査と比較して、全項目で周知度が上がっている。

特に“(f)ジェンダー”の周知度は25.3ポイント増加し、“(k)DV”の周知度は92.3%と最も高くなり、前回調査よりも6ポイント以上増加している。

図25-30 用語の周知度 (平成27年度調査との比較)



		言葉は聞いたことはあるが 内容までは知らない				言葉も内容も 知っている		まったく知らない		無回答 (%)		周知度 (%)
(f) ジェンダー												
総数	今回調査	(1,339)	33.1	30.0	30.9	6.0					(63.1)	
	平成27年度	(1,251)	16.5	21.3	53.1	9.1					(37.8)	
女性	今回調査	(750)	35.3	30.4	27.9	6.4					(65.7)	
	平成27年度	(719)	19.5	20.6	51.2	8.8					(40.1)	
男性	今回調査	(579)	30.1	30.1	34.7	5.2					(60.2)	
	平成27年度	(532)	12.6	22.2	55.6	9.6					(34.8)	
(h) 男女雇用機会均等法												
総数	今回調査	(1,339)	50.6	36.1	8.4	4.9					(86.7)	
	平成27年度	(1,251)	55.6	28.7	9.4	6.2					(84.3)	
女性	今回調査	(750)	49.7	36.8	8.4	5.1					(86.5)	
	平成27年度	(719)	53.4	31.2	9.3	6.1					(84.6)	
男性	今回調査	(579)	52.0	35.8	7.9	4.3					(87.8)	
	平成27年度	(532)	58.6	25.4	9.6	6.4					(84.0)	
(j) 仕事と生活の調和												
総数	今回調査	(1,339)	27.9	33.1	32.4	6.6					(61.0)	
	平成27年度	(1,251)	25.3	27.1	38.0	9.7					(52.4)	
女性	今回調査	(750)	26.5	34.4	32.5	6.5					(60.9)	
	平成27年度	(719)	25.2	27.1	37.8	9.9					(52.3)	
男性	今回調査	(579)	29.9	31.6	32.0	6.6					(61.5)	
	平成27年度	(532)	25.4	27.1	38.2	9.4					(52.4)	
(k) DV												
総数	今回調査	(1,339)	80.1	12.2	3.3	4.3					(92.3)	
	平成27年度	(1,251)	75.5	10.6	6.9	7.0					(86.2)	
女性	今回調査	(750)	84.1	8.8	2.7	4.4					(92.9)	
	平成27年度	(719)	77.6	8.9	7.1	6.4					(86.5)	
男性	今回調査	(579)	75.6	16.8	3.6	4.0					(92.4)	
	平成27年度	(532)	72.7	13.0	6.6	7.7					(85.7)	

※ただし、(g)政治分野における男女共同参画の推進に関する法律、(i)女性活躍推進法、(1)パープルリボン、(m)マタニティ・ハラスメント、(n)性的少数者については今回調査での新規項目であり、比較できないため、表記していない。

2 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

問26 男女共同参画社会の実現のために、行政に対して望むことはどのようなことですか。(〇は3つまで)

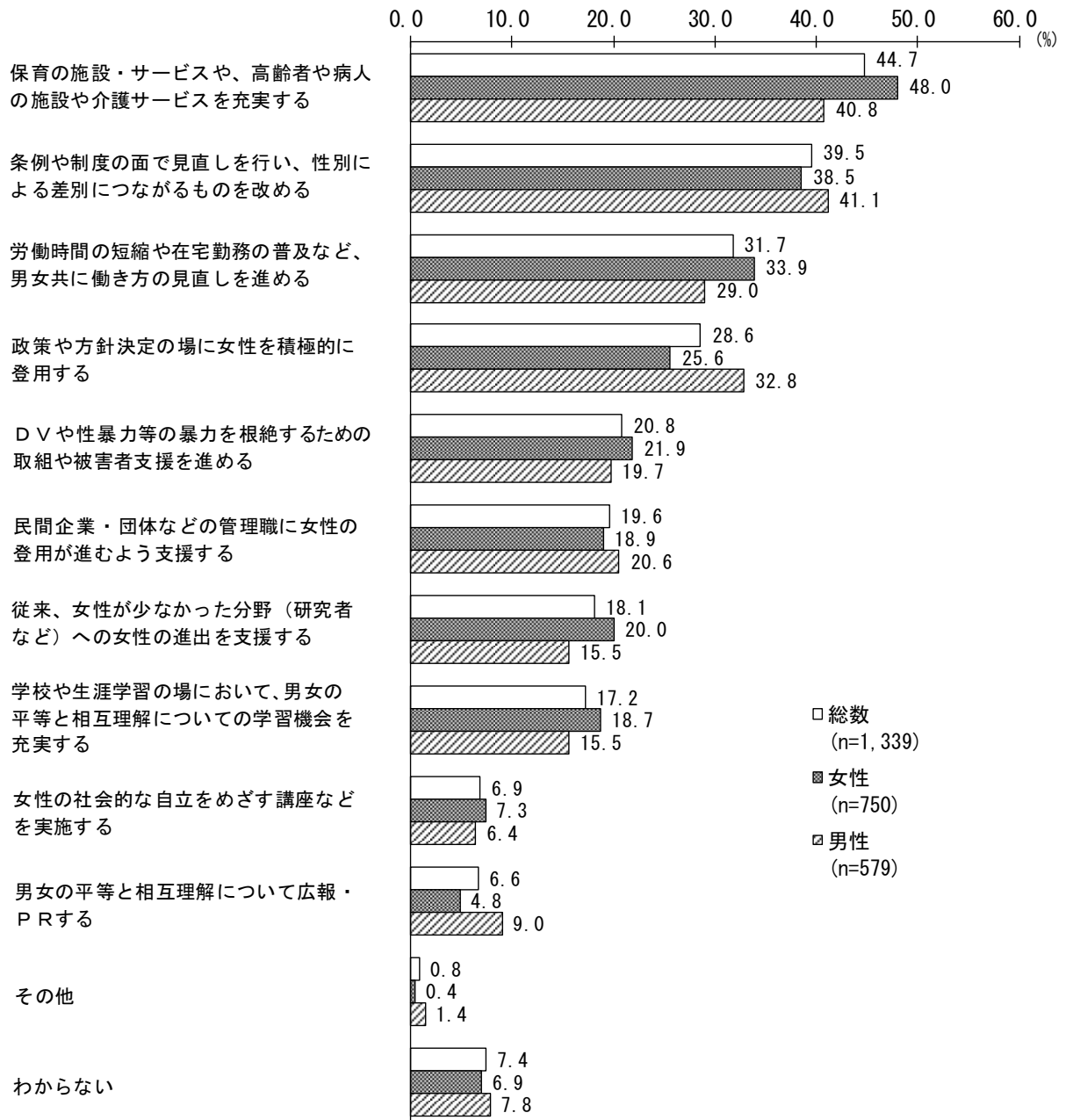
全体では「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(44.7%)が最も多く、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」(39.5%)が続いている。

女性で最も多かったのは「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(48.0%)、次いで「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」(38.5%)となっている。

男性では「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」(41.1%)が最も多く、次いで「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」(40.8%)となっている。

男女の差があるものについては、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」は女性が7.2ポイント、「政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する」は男性が7.2ポイント多くなっている。

図26-1 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと 項目別一覧（性別）



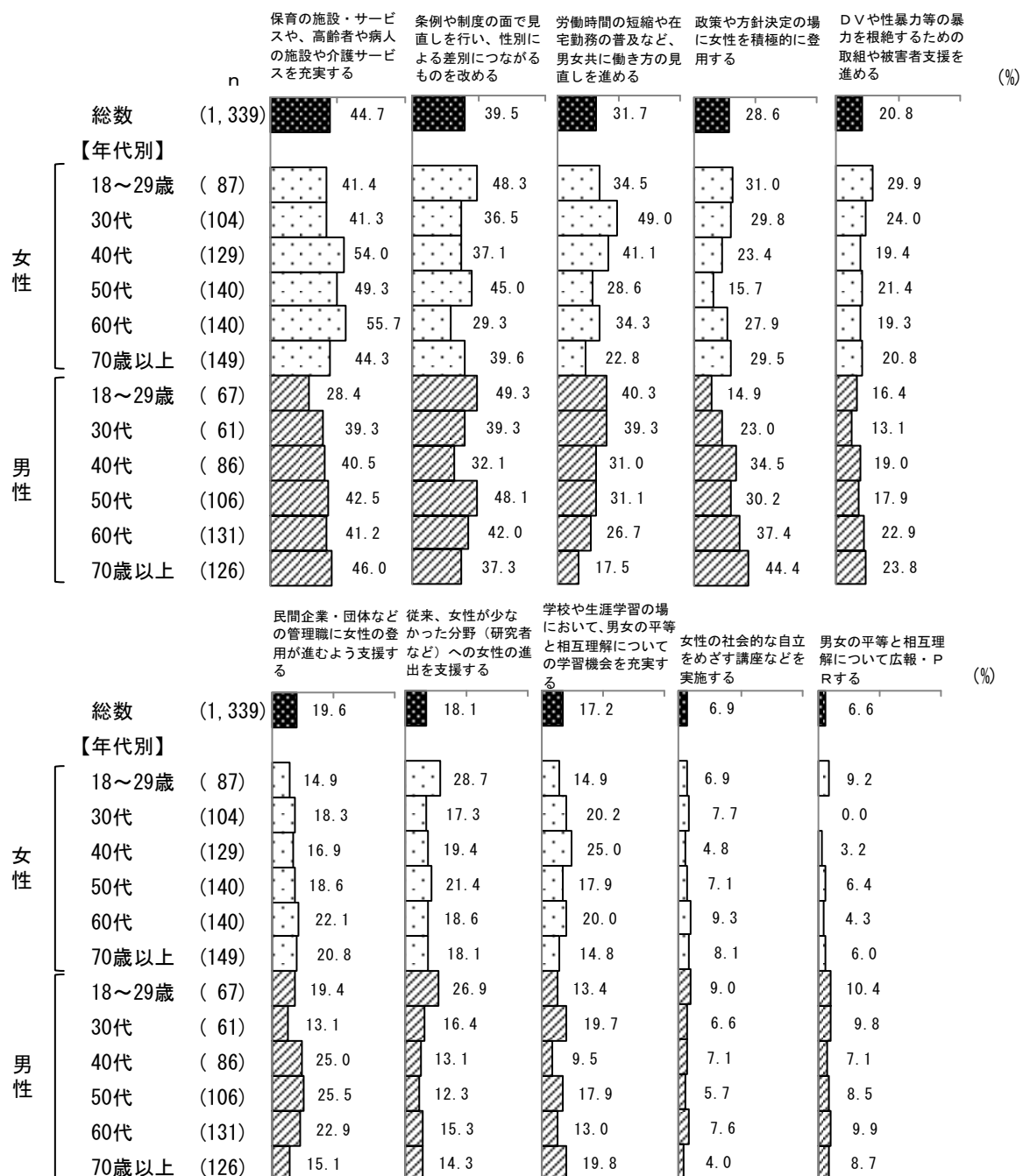
男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

【年代別】

女性では、40代以上で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最も多くなっている。

男性では、「労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める」は年齢が若いほど多い傾向にあり、「政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する」は年齢が上がるにつれて、多くなる傾向がある。

図 26-2 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと（年代別）



男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

【地域別】

女性では、能登北部以外で「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最も多くなっている。

男性では、「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」は能登北部（45.9%）と南加賀（41.2%）で、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」は石川中央（43.1%）で、「政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する」は能登中部（43.6%）で、最も多くなっている。

【未既婚別】

男性の未婚を除いた全ての層で、「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最も多くなっており、特に男性の離死別が65.4%と最も多くなっている。

【職業別】

女性では、いずれの層でも「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」が最も多くなっている。

男性では、勤め人（44.6%）で「条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める」が最も多くなっている。「保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する」は自営業等（41.6%）、無職（44.5%）で最も多くなっている。自営業等には同率（41.6%）で「政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する」が並んでいる。

図 26-3 男女共同参画社会の実現のために行政に対して望むこと

(性・地域別、性・未既婚別、性・職業別)

(単位：%)

		サンプル数	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する	条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別に関するものを改める	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める	政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する	DVや性暴力等を根絶する取組や被害者支援を進める	民間企業・団体などの管に女性性が進むよう支援する	従来、女性が少ない分野（研究者など）への女性の進出を支援する	学校や生涯学習の場において、男女の平等と相互理解についての学習機会を充実する	女性の社会的自立をめざす講座などを実施する	男女の平等と相互理解について広報・PRする	その他	わからない	
全体		1,339	44.7	39.5	31.7	28.6	20.8	19.6	18.1	17.2	6.9	6.6	0.8	7.4	
性×地域別	女性	能登北部	41	36.6	43.9	29.3	29.3	29.3	24.4	22.0	4.9	9.8	2.4	0.0	7.3
		能登中部	90	38.9	37.8	24.4	24.4	25.6	17.8	17.8	20.0	6.7	5.6	0.0	10.0
		石川中央	477	49.3	39.0	36.3	27.7	21.4	19.9	20.1	18.4	6.3	4.8	0.6	5.2
		南加賀	142	52.8	35.9	33.1	18.3	19.0	14.8	20.4	22.5	10.6	4.9	0.0	10.6
	男性	能登北部	37	32.4	45.9	24.3	32.4	21.6	13.5	13.5	10.8	2.7	10.8	0.0	13.5
		能登中部	55	40.0	29.1	23.6	43.6	16.4	32.7	18.2	20.0	14.5	16.4	1.8	1.8
		石川中央	367	43.1	42.5	31.1	32.2	19.6	18.5	15.5	13.9	4.9	7.6	1.9	7.9
		南加賀	119	37.0	41.2	26.1	29.4	20.2	23.5	15.1	20.2	8.4	9.2	0.0	8.4
性×未既婚別	女性	有配偶者	553	49.0	39.2	33.5	26.0	20.6	20.4	18.4	19.0	7.8	4.0	0.5	6.1
		離死別	61	42.6	27.9	29.5	23.0	26.2	13.1	23.0	24.6	3.3	6.6	0.0	14.8
		未婚	134	46.3	40.3	38.1	25.4	25.4	14.2	25.4	14.9	7.5	7.5	0.0	6.7
	男性	有配偶者	428	42.1	40.2	27.1	37.4	21.0	20.3	14.5	17.5	6.1	8.6	1.4	6.8
		離死別	26	65.4	42.3	19.2	19.2	30.8	15.4	7.7	3.8	7.7	15.4	0.0	3.8
		未婚	124	30.6	44.4	37.1	20.2	12.9	22.6	20.2	11.3	7.3	8.9	1.6	12.1
性×職業別	女性	勤め人	429	49.9	37.8	35.2	24.7	20.5	20.5	19.1	19.6	7.5	4.2	0.5	7.2
		自営業・家族従業	58	44.8	37.9	39.7	22.4	29.3	15.5	27.6	15.5	8.6	3.4	0.0	6.9
		無職	243	44.0	39.5	31.3	27.6	22.2	17.7	19.8	18.5	6.6	6.2	0.4	6.6
	男性	勤め人	350	38.9	44.6	30.6	29.4	20.0	21.7	16.0	15.7	7.4	8.3	1.1	7.7
		自営業・家族従業	77	41.6	31.2	19.5	41.6	16.9	16.9	10.4	19.5	6.5	16.9	0.0	7.8
		無職	128	44.5	39.1	30.5	36.7	22.7	20.3	18.0	14.1	3.9	6.3	2.3	7.0

※グレーのセルは属性中トップの項目

男女共同参画に関する県民意識調査 調 査 票

皆様には、日ごろから県政の発展のため、ご協力いただきありがとうございます。
このたび、石川県では、県内にお住まいの方を対象に、男女共同参画に関するアンケート調査を実施することとなりました。
この調査は、これまでの施策の現状を調査するとともに、今後の施策方針の参考とさせていただきますため、県民の皆様のご意見をお聞きするものです。
調査の趣旨をご理解いただき、お忙しいところ恐縮ですが、ご協力をお願いいたします。

ご回答にあたってのお願い

- この調査は、無作為に選ばせていただいた県内にお住まいの18歳以上の方2,500人を対象に実施しています。
- この調査は個人を対象にしていますので、お送りした封筒に書かれているあて名の方
ご自身がご記入ください。
- この調査は無記名でお願いします。また、この調査票に記入された内容は、統計的に処理され、他の目的に個人情報を利用することはありません。
内容が外部にもれたりしてご迷惑をおかけすることは決してございません。
どうぞありのままをお答えください。
- 回答は、各質問の指示に従い、あてはまる番号を選び、その番号に○をつけてください。
- ご記入いただきました調査票は、同封の返信用封筒に入れて、
令和2年6月3日（水）までにご投函くださいますようお願いいたします。

お問い合わせ先

石川県 県民文化スポーツ部 男女共同参画課

金沢市鞍月1丁目1番地

電話 076-225-1378

男女共同参画に関する県民意識調査 調査票

はじめに、お答えいただいた回答を統計的に分析するため、あなたとあなたのご家族についてお伺いします。該当する番号に○をつけてください。

A あなたの性別は。

56.0	女性	43.2	男性	0.6	どちらともいえないまたは 答えたくない
0.1	無回答				

B あなたの年齢は。

2.0	20歳未満	12.5	30～39歳	18.5	50～59歳	20.6	70歳以上
9.6	20～29歳	16.1	40～49歳	20.4	60～69歳	0.3	無回答

C あなたのお住まいはどちらですか。

5.8	能登北部（輪島市、珠洲市、穴水町、能登町）
10.9	能登中部（七尾市、羽咋市、志賀町、宝達志水町、中能登町）
63.5	石川中央（金沢市、かほく市、白山市、野々市市、津幡町、内灘町）
19.6	南加賀（小松市、加賀市、能美市、川北町）
0.1	無回答

D あなたは結婚をしていますか。（○は1つだけ）

73.1	結婚(入籍)していて、配偶者がいる	0.4	事実婚していたが、現在は離・死別
6.1	結婚(入籍)していたが、現在は離・死別	19.3	未婚（事実婚はのぞく）
0.7	事実婚している	0.3	その他（具体的に）
0.1	無回答		

既婚 有配偶者 離死別
(計) (計) (計)
79.2 73.8 6.5

E あなたの主たる職業は何ですか。（○は1つだけ）

41.8	会社、団体、官公庁などの常勤の勤め人		
16.7	パートタイマーやアルバイトの勤め人（学生のバイトを除く）		
3.2	農林漁業の自営業主または家族従業員		
6.9	商工業などの自営業主または家族従業員		
27.9	無職（主婦・主夫・学生を含む）		
3.1	その他（）		
0.4	無回答		

自営・
勤め人 家族従業員 無職
(計) (計) (計)
58.5 10.1 27.9

F (→Dで1または3に○をつけた方にお聞きします。)

あなたは共働きですか。

55.3	共働きである	29.1	共働きではない	15.6	無回答
------	--------	------	---------	------	-----

G あなたには、お子さんがいらっしゃいますか。

74.3	いる	20.8	いない	4.9	無回答
------	----	------	-----	-----	-----

H (→Gで1に○をつけた方にお聞きします。)

一番下のお子さんの成長段階は、どの段階ですか。（○は1つだけ）

6.2	3歳未満の乳幼児	4.8	中学生
5.3	3歳以上の未就学児	10.5	高校生以上の学生
9.1	小学生	63.1	社会人（学校教育終了）
0.9	無回答		

I あなたの家族構成は次のどれですか。（○は1つだけ）

5.5	単身世帯（ひとり暮らし）	51.3	二世帯世帯（親と子）
24.2	一世帯世帯（夫婦だけ）	15.7	三世帯世帯（親と子と孫）
1.7	その他世帯（具体的に）	1.6	無回答

I 男女の地位の平等についておたずねします

問1 現在の日本の社会において、次にあげる分野で、男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (a)～(g)の各分野について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。
 (○はそれぞれ1つ)

	優男 遇性が れている	優いど 遇えち さばら れ男か て性とい がる	平等 である	優いど 遇えち さばら れ女か て性とい がる	優女 遇性が れている	いど えちな いとも	わ から ない	無 回 答
(a) 家庭の中では	13.1	35.1	32.7	5.0	1.4	8.4	3.1	1.2
(b) 職場の中では	16.9	36.5	22.9	4.7	2.2	6.1	6.8	3.9
(c) 地域活動の中では	10.8	30.5	29.4	3.9	0.4	10.1	12.5	2.5
(d) 学校教育の場では	4.0	13.6	45.8	2.4	0.8	8.8	20.1	4.6
(e) 政治の場では	34.9	38.6	9.3	0.7	0.4	4.9	9.0	2.2
(f) 法律や制度の上では	15.2	28.1	27.8	3.4	1.2	8.2	13.4	2.8
(g) 社会全体では	16.6	49.6	11.6	4.0	0.8	8.7	6.5	2.2

II 家庭生活等についておたずねします

問2 次にあげる(a)～(k)の家庭の仕事は誰の役割だと思えますか。あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。配偶者のいない方もお答えください。(○はそれぞれ1つ)

	夫主 のと 役し 割て	夫いど のえち 役ばら 割か と	役程夫 割度婦 の同 じ	妻いど のえち 役ばら 割か と	妻主 のと 役し 割て	家 族 で 分 担	(そ の 具 体 的 に)	無 回 答
(a) 日々の家計の管理は	4.6	6.2	27.7	25.3	24.3	8.2	1.8	1.9
(b) 食事の支度は	0.8	0.5	13.8	28.2	45.1	9.2	1.5	1.0
(c) 食後の後かたづけは	1.6	3.3	23.2	22.2	33.7	13.4	1.3	1.4
(d) 洗濯は	1.1	1.7	16.6	24.5	42.6	11.3	1.1	1.1
(e) 掃除は	1.4	1.8	26.5	21.2	32.5	14.3	1.3	1.0
(f) ごみ出しは	13.4	15.5	23.2	11.7	19.4	14.3	1.4	1.0
(g) 日常の買い物は	1.3	1.3	24.6	27.7	33.2	9.4	1.2	1.3
(h) 高額商品の購入の決定は	11.3	17.5	47.3	6.0	5.9	8.7	1.4	1.9
(i) 高齢者や病身者の介護や看護は	0.9	1.7	32.6	20.5	16.5	18.3	5.5	4.0
(j) 育児・しつけは	0.3	0.7	42.3	22.5	17.2	9.9	2.9	4.3
(k) PTAや地域活動への参加は	3.7	8.2	38.3	18.0	15.8	9.5	2.3	4.2

問3 「男は仕事、女は家庭」という考え方について、どう思えますか。(○は1つだけ)

3.0	賛成	}	→	「1. 賛成」「2. やや賛成」と答えた方は、問3-1へ
15.5	やや賛成			
33.5	どちらともいえない	}	→	「4. あまり賛成しない」「5. 賛成しない」と答えた方は、問3-2へ
26.8	あまり賛成しない			
19.4	賛成しない			
1.1	わからない			
0.7	無回答			

(問3で1または2に○をつけた方にお聞きします。)

問3-1 そう思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

18.5	日本の伝統的な家族の在り方だから
18.5	自分の両親も役割分担をしていたから
49.6	男性(夫)が外で働いた方が、多くの収入を得られるから
46.4	女性(妻)が家庭を守った方が、子どもの成長などにとって良いから
43.1	家事・育児・介護と両立しながら、女性(妻)が働き続けることは大変だから
9.3	その他(具体的に)
0.8	わからない

(問3で4または5に○をつけた方にお聞きします。)

問3-2 そう思うのはなぜですか。(○はいくつでも)

31.0	男女平等に反するから
23.3	自分の両親も共働きをしていたから
42.5	男性(夫)も女性(妻)も働いた方が、多くの収入を得られるから
24.4	女性(妻)が働いて能力を発揮した方が、個人や社会にとって良いから
15.5	家事・育児・介護と両立しながら、女性(妻)が働き続けることは可能だから
65.3	固定的な男性(夫)と女性(妻)の役割分担の意識を押しつけるべきではないから
7.6	その他(具体的に)
0.0	わからない

問4 あなたは、男性が家事・育児を行うことについて、どのようなイメージをお持ちですか。

(○はいくつでも)

58.5	男性も家事・育児を行うことは、当然である
23.3	家事・育児を行う男性は、時間の使い方が効率的で、仕事もできる
25.5	男性自身にとっても充実感が得られる
55.2	子どもにいい影響を与える
23.7	仕事と両立させることは、現実として難しい
21.4	家事・育児は、男性よりも女性の方が向いている
4.5	妻が家事・育児をしていないと誤解される
1.1	周囲から冷たい目で見られる
0.8	男性は、家事・育児を行うべきではない
4.1	その他(具体的に)
1.9	特にない
1.7	わからない

問5 男性が、仕事以外の生活も重視した働き方を選択することについて、あなたが受け入れられるものはどれですか。(○はいくつでも)

56.5	育児・介護のための休暇を取得する
58.3	リフレッシュのための休暇を取得する
42.3	育児・介護のための短時間勤務制度を活用する
31.8	仕事と育児・介護を両立するため、仕事の負担を軽減してもらう
7.3	仕事と育児・介護を両立するため、たとえ賃金が下がっても、転職する
5.0	育児・介護のためにいったん退職する
13.1	主夫として、家事・育児・介護を行う
2.2	その他(具体的に)
7.3	特にない
6.6	わからない

問6 今後、男性が家事、子育て、介護、地域活動に積極的に参加していくためにはどのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

56.8	男性が家事・育児などに参加することに対する男性自身の抵抗感をなくすこと
23.3	男性が家事・育児などに参加することに対する女性の抵抗感をなくすこと
59.1	夫婦や家族間で家事・育児などの分担について、十分に話し合うこと
43.3	年配者やまわりの人が、夫婦の役割分担などについての当事者の考え方を尊重すること
31.6	男性が家事・育児などを行うことについて、社会的に高く評価すること
58.2	育児・介護のための休暇を取得しやすい職場環境が整備されること
37.9	労働時間の短縮や休暇制度により、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること
39.4	在宅勤務やフレックスタイム制度により、柔軟な働き方が可能となること
14.9	男性の家事・育児などについて、啓発や情報提供、相談窓口の設置、技能の研修を行うこと
14.9	男性が家事・育児などを行うための、仲間（ネットワーク）づくりをすすめること
2.2	その他（具体的に)
4.0	特に必要なことはない

問7 お子さんをどのように育てたい（育ててほしかった）と思いますか。お子さんのいない方もいたと仮定して、それぞれ〇を3つまで選んでください。

(a) 女の子の場合 (〇は3つまで)		(b) 男の子の場合 (〇は3つまで)	
24.5	活発で行動力がある子	45.3	活発で行動力がある子
75.7	思いやりがある子	59.6	思いやりがある子
22.9	責任心の強い子	46.2	責任心の強い子
53.1	気配りができる子	29.6	気配りができる子
17.1	自立心の旺盛な子	25.0	自立心の旺盛な子
15.5	家事能力のある子	5.9	家事能力のある子
8.4	職業能力のある子	18.5	職業能力のある子
2.2	リーダーシップのある子	11.1	リーダーシップのある子
30.3	誰にでも好かれる子	19.6	誰にでも好かれる子
1.6	その他（具体的に)	1.3	その他（具体的に)

問8 あなたは、もし親が介護を要する状態となった場合、あなたと配偶者でどのように分担したい（したかった）と思いますか。訪問介護など外部サービスの利用も含め、自分の親の介護、配偶者の親の介護、それぞれについて、あなたの考えに最も近いものの番号に1つずつ〇をつけてください。なお、配偶者のいない方も、配偶者がいることを想定してお答えください。(〇はそれぞれ1つ)

	(a) 親の介護 自分の	(b) 親の介護 配偶者の
外部サービスを利用しながら、自分と配偶者で半分ずつ分担	29.6	42.0
外部サービスを利用しながら、自分の方が配偶者より多く分担	50.3	9.7
外部サービスを利用しながら、配偶者の方が自分より多く分担	4.9	31.0
自分と配偶者で半分ずつ分担 (外部サービスを利用しない)	0.8	1.0
自分の方が配偶者より多く分担 (外部サービスを利用しない)	2.6	0.6
配偶者の方が自分より多く分担 (外部サービスを利用しない)	0.1	1.3
わからない	7.4	8.8
無回答	4.3	5.5

問9 もし介護をする役割を担う場合、どのようなことに困ると思いますか。(〇はいくつでも)

76.4	自分の精神的・肉体的な負担が大きいこと
47.9	自分の自由に使える時間が減ること
48.8	労働時間の短縮、休暇取得など、働き方を変えざるを得ないこと
26.7	自分の育児や家事への影響が生じること
56.6	介護に要する経済的な負担が大きいこと
43.0	適切な介護の仕方がわからないなど、必要な知識がないこと
15.8	介護をする上で協力・相談できる人がいないこと
1.4	その他(具体的に)
1.1	特に困らない
1.7	わからない

III 職業についておたずねします

現在、仕事(収入を得る仕事)をしている方にお聞きします。

問10 あなたの職場では、次にあげる(a)~(g)それぞれの面で男女平等になっていると思いますか。あなたの考えに近いものの番号に1つずつ〇をつけてください。(〇はそれぞれ1つ)

	男性が優遇されている	優どちらさらかていえるは男性が	平等である	優どちらさらかていえるは女性が	女性が優遇されている	どちらともいえない	わからない	無回答
(a) 募集や採用の条件では	8.4	21.4	43.0	3.4	2.7	7.4	7.4	6.3
(b) 昇進・昇格は	11.6	27.5	31.4	1.7	1.0	7.3	12.8	6.7
(c) 人事配置は	8.3	24.5	34.2	3.5	1.8	8.6	12.2	6.8
(d) 教育や研修制度は	3.1	10.4	57.1	1.5	0.8	7.1	12.2	7.8
(e) 賃金は	11.0	22.0	41.6	0.4	0.6	6.5	11.4	6.5
(f) 仕事の内容は	5.4	14.5	42.7	8.5	3.3	11.6	7.4	6.7
(g) 全体的には	7.9	24.1	38.1	4.0	1.5	8.9	8.9	6.5

問11 女性が管理職に昇進することについて、どう思いますか。(〇は1つだけ)

59.7	賛成	3.5	あまり賛成しない
15.4	やや賛成	0.7	賛成しない
15.2	どちらともいえない	1.0	その他(具体的に)
4.4	無回答		

問12 あなたは、職場において管理職に昇進することについてどのようなイメージをもっていますか。
 (a)、(b) どちらにもお答えください。

(a) 女性が昇進することについての一般的なイメージ (〇はいくつでも)		(b) あなた自身が昇進することについてのイメージ (〇はいくつでも)	
39.0	やりがいのある仕事ができる	36.5	やりがいのある仕事ができる
44.8	賃金が上がる	53.2	賃金が上がる
70.3	能力が認められた結果である	57.8	能力が認められた結果である
8.6	家族から評価される	14.9	家族から評価される
19.8	自分自身で決められる事柄が多くなる	27.5	自分自身で決められる事柄が多くなる
37.0	やるべき仕事が増える	49.1	やるべき仕事が増える
59.4	責任が重くなる	72.6	責任が重くなる
10.9	やっかみが出て足を引っぱられる	8.9	やっかみが出て足を引っぱられる
36.8	仕事と家庭の両立が困難になる	25.2	仕事と家庭の両立が困難になる
1.0	その他(具体的に)	0.6	その他(具体的に)
1.2	特にない	1.2	特にない
2.3	わからない	1.7	わからない

問13 あなたは、就業分野で女性のリーダーを増やすときに障害となるものは何だと思いますか。
 (〇はいくつでも)

39.5	企業などにおいては、管理職になると転勤などの広域異動が増えること
42.2	長時間労働の改善が十分ではないこと
24.9	上司・同僚・部下となる男性や顧客が女性リーダーを希望しないこと
48.6	家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと
28.1	保育・介護の支援などの公的サービスが十分ではないこと
13.8	現時点では、必要な知識や経験などを持つ女性が少ないこと
16.0	女性自身がリーダーとなることを希望しないこと
2.1	その他(具体的に)
3.4	特にない
5.4	わからない

全員の方にお聞きします。

問14 女性が仕事を続けていく上では、どんな障害があると思いますか。(〇は3つまで)

38.8	結婚や出産の際退職しなければならない慣行が今でも残っていること
64.7	家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力が十分ではないこと
15.8	働き続けることについて家族の理解が得られないこと
34.0	給与、昇進・昇格の機会が男女間格差があること
23.0	女性の能力が正当に評価されないこと
9.3	中高年の女性に退職を促すような周りの圧力があること
3.4	その他(具体的に)
7.5	特に障害はない

問15 出産や育児、介護などで仕事から遠ざかっていた女性が再就職しやすくするには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

66.7	家事・育児・介護などにおける家庭内の相互の協力
62.6	保育・介護サービスの充実(施設の充実、時間の延長など)
16.1	相談・情報提供機関の充実
18.4	再就職のための自己啓発セミナーや技術、技能の習得機会の充実
40.2	退職者の再雇用制度の普及
33.6	在宅勤務やフレックスタイム制度の導入
1.4	その他(具体的に)

問16 男性も女性も共に仕事と家庭の両立をしていくためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇は3つまで)

47.0	労働時間の短縮や休暇制度の充実
60.8	育児休業・介護休業制度を利用しやすい職場環境づくり
19.0	育児や介護等による退職者の再雇用制度の導入
26.2	在宅勤務やフレックスタイム制度の導入
35.0	保育・介護サービスの充実
13.5	給与や昇進・昇格の機会等の男女間格差の解消
4.9	職業上必要な知識・技術等の職業訓練の充実
22.7	女性が働くことについての家族や周囲の理解と協力
21.7	男性が家事・育児などを行うことについての職場や周囲の理解と協力
1.2	その他(具体的に)
1.7	わからない

IV 女性の社会参画についておたずねします

問17 あなたは、社会の各分野で、女性の参加が進み、女性のリーダーが増えるとどのような影響があると思いますか。(〇はいくつでも)

59.7	多様な視点が加わることにより、新たな価値や商品・サービスが創造される
37.7	人材・労働力の確保につながり、社会全体に活力を与えることができる
58.6	女性が持つ意見や発想が反映される
14.0	国際社会から好評価を得ることができる
69.8	男女問わず優秀な人材が活躍できるようになる
37.8	男女問わず仕事と家庭の両方を優先しやすい社会になる
22.6	労働時間の短縮など働き方の見直しが進む
27.0	男性の家事・育児などへの参加が増える
3.8	今より仕事以外のことが優先され、業務に支障を来すことが多くなる
7.1	男性の役職のポストが減る
12.2	保育・介護などの公的サービスの必要性が増大し、家計負担及び公的負担が増大する
1.3	その他(具体的に)
1.2	特にない
2.9	わからない

問18 あなたは、自治会やPTA、自主防災組織などの地域活動において、女性が方針決定の場に参画するためには、どのようなことが必要だと思いますか。(〇はいくつでも)

42.8	地域活動のリーダーは男性が務めるという性別による役割分担意識を改めること
27.5	女性が地域活動でリーダーを務めることについて、社会的に高く評価すること
13.3	女性自身の参画意識を高めるため、リーダーを養成する研修を行うこと
31.1	男女が交代でリーダーを務める、役員の男女比を設定するなど、女性がリーダーとなる仕組みを普及させること
50.9	さまざまな立場の人が参加しやすいよう活動時間帯を工夫すること
1.8	その他(具体的に)
3.9	特になし
9.4	わからない

V ドメスティック・バイオレンス(DV)等についておたずねします

【「DV」とは、配偶者や交際相手など、親密な関係にある者からの暴力のことをいいます。また、「性暴力」とは、同意のない、対等でない、強要された、性的な行為のことをいい、性犯罪、性的虐待を含むものです。この項目ではDVや性暴力についておたずねします。】

問19 次の(a)~(o)のようなことが配偶者や交際相手など、親密な関係にある者の間で行われた場合、それを暴力だと思いますか。(〇はそれぞれ1つずつ)

	暴力にあたる	場暴力にもあたらぬ	思暴力にあらぬとは	無回答
(a) 骨折や打ち身、切り傷などのケガをさせる	93.6	3.2	0.1	3.1
(b) 刃物などを突きつけて、おどす	94.7	2.2	0.0	3.1
(c) なぐったり、けったり、物を投げつけたりする	94.2	2.6	0.1	3.0
(d) 壁にものを投げたり、なぐるふりをしておどす	77.3	17.3	2.2	3.1
(e) 大声でどなる	59.0	34.0	4.0	3.1
(f) 馬鹿にしたり、見下したような言動をする	59.8	32.1	4.7	3.4
(g) 他の異性や親しい人との会話を許さない	51.7	33.5	11.4	3.4
(h) 家族や友人との関わりを持たせない	63.9	23.7	8.7	3.7
(i) 交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する	61.0	28.5	7.2	3.3
(j) 職場に行くことを妨害したり、外出先を制限する	75.7	16.2	4.6	3.5
(k) 何を言っても長期間無視し続ける	67.1	23.6	6.1	3.2
(l) 「誰のおかげで生活できるんだ」や「甲斐性なし」などと言う	76.7	16.4	3.9	3.1
(m) 家計に必要な生活費を渡さない	77.3	14.6	4.5	3.6
(n) 嫌がっているのに、性的な行為を強要する	87.5	8.4	1.0	3.1
(o) 避妊に協力しない	73.7	19.3	3.6	3.4

問 20 これまでに結婚したことがある人にお聞きします。

【ここでの「結婚」には、事実婚や別居中の夫婦を含みます。】

(該当されない場合は問 21 へお進みください。)

あなたは、これまでにあなたの配偶者から次のようなことをされたことがありますか。

【ここでの「配偶者」には、事実婚や別居中の夫婦、元配偶者を含みます。】

「①これまで」(a)～(d) のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。

(○はそれぞれ1つずつ)

	①これまで				②この1年間			
	まったく ない	あ っ た 1、 2 度	あ 何 っ 度 も	無 回 答	ま っ た く な い	あ っ た 1、 2 度	あ 何 っ 度 も	無 回 答
(a) 身体的暴行 ・なぐる、ける ・物を投げつける ・突き飛ばす など	74.7	16.0	4.0	5.3	67.0	15.3	2.3	15.3
(b) 心理的攻撃 ・人格を否定するような暴言 ・交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ ・自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫 など	75.1	12.8	6.8	5.3	47.9	28.9	10.4	12.8
(c) 経済的圧迫 ・給料や貯金を勝手に使われる ・デート代や生活費を無理やり払わされる など	86.2	4.5	4.0	5.3	59.3	12.1	12.1	16.5
(d) 性的強要 ・嫌がっているのに性的な行為を強要される ・見たくないポルノ映像等を見せられる	85.4	6.3	3.0	5.3	70.0	8.0	6.0	16.0

「①これまで」で「2. 1、2度あった」、「3. 何度もあった」と答えた方は、「②この1年間」へ

(a)～(d) のすべてで「1. まったくない」と答えた方は問 21 へ

問 20-1 あなたはこれまでに、あなたの配偶者から受けたそのような行為について、どこ（だれ）かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

1.8	警察	0.3	石川県こころの健康センター （精神保健福祉センター）
0.0	石川県女性相談支援センター （配偶者暴力相談支援センター）	2.1	医療関係者（医師、看護師など）
0.9	石川県女性センター	0.0	学校関係者（教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど）
0.9	市役所、町役場に設置されている 女性相談支援室など	2.1	職場・アルバイトの関係者 （上司、同僚、部下、取引先など）
0.3	福祉事務所、保健所	20.7	家族や親戚
0.3	法務局、人権擁護委員	19.2	知人、友人
1.8	法テラス（日本司法支援センター）、 弁護士会	0.9	その他（具体的に ）
0.6	民間支援団体	47.1	<u>どこ（だれ）にも相談しなかった</u>

↓

「16 どこ（だれ）にも相談しなかった」と答えた方は問 20-2 へ

問 20-2 どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。（○はいくつでも）

5.7	どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
12.1	恥ずかしくてだれにも言えなかったから
26.8	相談してもむだだと思ったから
53.5	相談するほどのことではないと思ったから
5.1	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
22.3	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
32.5	自分にも悪いところがあると思ったから
5.7	そのことについて思い出したくなかったから
0.6	仕返しが怖かったから（もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど）
6.4	世間体が悪いと思ったから
5.1	他人を巻き込みたくなかったから
1.9	他人に知られると、これまで通りのつき合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
10.8	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
2.5	相手の行為は愛情の表現だと思ったから
17.2	別れるつもりがなかったから
7.0	その他（具体的に ）

問 21 これまでに交際相手がいたことのある方にお聞きします。

複数の交際相手がいたことのある方については、経験の1つについてお答えください。

【ここでいう「交際相手」には、事実婚は含みません。】(該当されない場合は、問 22 へ。)

あなたは、交際相手から次のようなことをされたことがありますか。
 「①交際相手」の (a)~(d) のそれぞれについて、あてはまる番号に○をつけてください。
 (○はそれぞれいくつでも)

	①交際相手				②同居期間中		
	まったく ない	10 ～ 20 歳代に あった	30 歳代 以上 にあっ た	無回 答	ま た く な い	10 ～ 20 歳代 にあっ た	30 歳代 以上 にあっ た
(a) 身体的暴行 ・なぐる、ける ・物を投げつける ・突き飛ばす など	93.6	6.2	1.5	0.1	84.6	14.4	5.8
(b) 心理的攻撃 ・人格を否定するような暴言 ・交友関係や行き先、電話・メールなどを細かく監視する、長期間無視するなどの精神的な嫌がらせ ・自分もしくは自分の家族に危害が加えられるのではないかと恐怖を感じるような脅迫 など	91.2	7.6	2.2	0.2	82.1	16.0	5.7
(c) 経済的圧迫 ・給料や貯金を勝手に使われる ・デート代や生活費を無理やり払わされる など	95.5	3.5	1.3	0.4	87.5	9.6	4.8
(d) 性的強要 ・嫌がっているのに性的な行為を強要される ・見たくないポルノ映像等を見せられる	94.7	4.4	1.0	0.7	90.3	7.8	2.9

「①交際相手」と同居した経験（いわゆる「同棲経験」）がある方は、「②同居期間中」へ

(a)~(d)のうち1つでも「2. 10歳代にあった」、「3. 20歳代にあった」、「4. 30歳代以上にあった」と答えた方は、問 21-1 へ

(a)~(d)のすべてで「1. まったくない」と答えた方は問 22 へ

(問 21 で(a)～(d)のうち 1 つでも 2、3 または 4 に○をつけた方にお聞きします。)

問 21-1 あなたは交際相手から受けたそのような行為について、どこ(だれ)かに打ち明けたり、相談したりしましたか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

3.8	警察	1.0	石川県こころの健康センター (精神保健福祉センター)
0.0	石川県女性相談支援センター (配偶者暴力相談支援センター)	1.0	医療関係者(医師、看護師など)
0.0	石川県女性センター	1.0	学校関係者(教員、養護教諭、スクールカウンセラーなど)
0.0	市役所、町役場に設置されている 女性相談支援室など	3.8	職場・アルバイトの関係者 (上司、同僚、部下、取引先など)
0.0	福祉事務所、保健所	19.2	家族や親戚
1.0	法務局、人権擁護委員	42.3	知人、友人
1.0	法テラス(日本司法支援センター)、 弁護士会	0.0	その他(具体的に)
0.0	民間支援団体	43.3	どこ(だれ)にも相談しなかった

↓
「16 どこ(だれ)にも相談しなかった」と答えた方は問 21-2 へ

(問 21-1 で 16 に○をつけた方にお聞きします。)

問 21-2 どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

15.6	どこ(だれ)に相談してよいのかわからなかったから
26.7	恥ずかしくてだれにも言えなかったから
24.4	相談してもむだだと思ったから
37.8	相談するほどのことではないと思ったから
6.7	相談相手の言動によって不快な思いをさせられると思ったから
17.8	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
24.4	自分にも悪いところがあると思ったから
8.9	そのことについて思い出したくなかったから
11.1	仕返しが怖かったから(もっとひどい暴力や、性的な画像のばらまきなど)
6.7	世間体が悪いと思ったから
15.6	他人を巻き込みたくなかったから
2.2	他人に知られると、これまで通りの付き合い(仕事や学校などの人間関係)ができなくなる と思ったから
13.3	自分が受けている行為がDVとは認識していなかったから
6.7	相手の行為は愛情の表現だと思ったから
11.1	別れるつもりがなかったから
0.0	その他(具体的に)

問 22 次の (a)～(g) について、あなたの考えに近いものの番号に1つずつ○をつけてください。

(○はそれぞれ1つ)

	そう 思う	そど ちら か とい え ば	そど ちら わ か た い え ば	そ う 思 わ な い	ど ち ら と も い え な い	わ か ら な い	無 回 答
(a) 性暴力にあうのは、若い女性である	9.1	31.2	3.4	20.2	9.3	4.0	22.8
(b) 挑発的な服装や行動が被害をまねいている	7.2	25.0	6.9	18.6	15.0	4.5	22.9
(c) 被害にあうのはたいてい暗い夜道やひと気のない場所である	13.4	29.7	4.5	14.0	9.3	6.0	23.0
(d) 本気で抵抗すれば被害は防げる	3.3	6.3	5.7	48.5	7.0	6.4	22.8
(e) 性暴力は衝動的なものである	8.7	12.8	5.4	28.4	9.0	12.7	22.9
(f) 加害者のほとんどは見ず知らずの人である	4.7	11.1	6.3	27.0	13.1	15.1	22.6
(g) 性暴力は、加害者の性欲が強すぎて、コントロールできずに起こっている	13.7	17.7	3.1	16.5	8.0	18.4	22.6

全員の方にお聞きします。

問 23 DV や性暴力を受けたとき、相談できる機関や関係者であなたが既に知っていたものすべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

82.4	警察	11.6	法テラス（日本司法支援センター）、 弁護士会
22.0	石川県女性相談支援センター （配偶者暴力相談支援センター）	3.5	民間支援団体
9.1	いしかわ性暴力被害者支援センター （パープルサポートいしかわ）	10.2	石川県こころの健康センター （精神保健福祉センター）
16.4	石川県女性センター	11.9	医療関係者（医師、看護師など）
18.5	市役所、町役場に設置されている 女性相談支援室など	0.5	その他（具体的に ）
9.3	福祉事務所、保健所	6.9	知っているところはない
6.9	法務局、人権擁護委員		

問 24 DV や性暴力等の暴力を防止するためには、どのようなことが必要だと考えますか。
 あてはまる番号すべてに○をつけてください。(○はいくつでも)

68.7	被害者が早期に相談できるよう、相談窓口や保護施設を充実させる
49.4	家庭で保護者が子どもに対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う
53.6	学校または大学で、児童・生徒・学生に対し、暴力の被害者にも加害者にもならないよう教育を行う
17.4	地域で、暴力を許さない社会づくりのための研修会、イベントなどを行う
35.8	メディアを活用して、暴力の防止や相談窓口の周知について広報・啓発活動を積極的に行う
24.6	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者、民生委員、教員などに対し、研修や啓発を行う
38.5	暴力を振るったことのある者に対し、繰り返さないための教育を行う
58.6	加害者への罰則を強化する
33.5	暴力を助長するおそれのある情報（雑誌、インターネットなど）を取り締まる
2.9	その他（具体的に
0.4	特に対策の必要はない

VI 男女共同参画社会の実現についておたずねします

問 25 あなたは (a)～(n) それぞれの言葉についてどの程度ご存知ですか。該当する番号に1つずつ○をつけてください。(○はそれぞれ1つ)

	知言 つ葉 ても い内 る容 も	はは言 知あ葉 らるは なが聞 い内い 容た まこ でと	ま た た く 知 ら な い	無 回 答
(a) 男女共同参画社会	28.1	42.3	25.2	4.4
(b) いしかわ男女共同参画プラン	5.5	33.5	55.3	5.6
(c) 石川県男女共同参画推進条例	3.1	26.5	64.5	5.9
(d) 女子差別撤廃条約	5.2	23.7	64.8	6.3
(e) ポジティブ・アクション（積極的改善措置）	3.5	19.0	70.6	6.9
(f) ジェンダー（社会的・文化的につくられた性別）	33.1	30.0	30.9	6.0
(g) 政治分野における男女共同参画の推進に関する法律	5.2	31.2	56.6	7.0
(h) 男女雇用機会均等法	50.6	36.1	8.4	4.9
(i) 女性活躍推進法 （女性の職業生活における活躍の推進に関する法律）	5.6	31.6	56.5	6.3
(j) 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）	27.9	33.1	32.4	6.6
(k) DV（配偶者や交際相手からの暴力）	80.1	12.2	3.3	4.3
(l) パープルリボン （女性に対する暴力根絶のシンボル）	11.4	24.7	57.0	6.9
(m) マタニティ・ハラスメント	59.4	26.7	9.7	4.2
(n) 性的少数者（LGBTなど）	42.3	26.4	25.8	5.4

問 26 男女共同参画社会の実現のために、行政に対して望むことはどのようなことですか。

(○は3つまで)

39.5	条例や制度の面で見直しを行い、性別による差別につながるものを改める
28.6	政策や方針決定の場に女性を積極的に登用する
19.6	民間企業・団体などの管理職に女性の登用が進むよう支援する
18.1	従来、女性が少なかった分野（研究者など）への女性の進出を支援する
6.9	女性の社会的な自立をめざす講座などを実施する
44.7	保育の施設・サービスや、高齢者や病人の施設や介護サービスを充実する
31.7	労働時間の短縮や在宅勤務の普及など、男女共に働き方の見直しを進める
17.2	学校や生涯学習の場において、男女の平等と相互理解についての学習機会を充実する
6.6	男女の平等と相互理解について広報・PRする
20.8	DVや性暴力等の暴力を根絶するための取組や被害者支援を進める
0.8	その他（具体的に _____ ）
7.4	わからない

○ご意見欄 その他ご意見がありましたらお聞かせください。

ご協力、誠にありがとうございました。

ご記入いただきました調査票は、無記名のまま

同封の返信用封筒に入れて、

令和2年6月3日（水）までにご投函ください。

(令和2年度)

男女共同参画に関する県民意識調査

石川県県民文化スポーツ部 男女共同参画課

〒920-8580 石川県金沢市鞍月1-1

TEL 076-225-1378

